



令和 5 年 度
県 政 世 論 調 査

2 0 2 3



静 岡 県

目 次

I	調査の概要	1
II	標本設計	2
III	回答者の属性	7
IV	調査結果	11
	この冊子の読みかた	11
	令和5年度 県政世論調査 調査結果の概要	13
	第1章 生活についての意識	15 (数表)
	1 暮らし向き	15
	(1) 暮らし向きの去年との比較	16 (1)
	(2) 暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由	20 (3)
	2 日常生活の悩みや不安	26
	(1) 日常生活の悩みや不安の有無	26 (5)
	(2) 悩みや不安の内容	29 (7)
	3 静岡県の住みよさ	34
	(1) 静岡県の住みよさ	35 (9)
	(2) 静岡県が住みよいところだと思う理由	37 (11)
	第2章 県の仕事に対する関心	44
	1 県政への関心度	44
	(1) 県政への関心の有無	45 (13)
	(2) 関心がある理由	49 (15)
	(3) 関心がない理由	52 (17)
	2 行政機関への意見や要望、不満	55
	(1) 意見や要望、不満の有無	58 (19)
	(2) 意見等を持った仕事の担当行政機関	60 (21)
	(3) 伝達の必要性	62 (23)
	(4) 伝達の有無	63 (25)
	(5) 伝達方法	64 (27)
	(6) 伝達しなかった理由	64 (29)
	(7) 伝えても無駄だと思った理由	64 (31)
	3 広報媒体の浸透度	65 (33)
	4 日常の課題や生活における意識	80
	(1) 有徳の人づくり	80 (57)
	(2) 地域コミュニティの活性化	83 (59)
	(3) 富士山の世界文化遺産としての価値の理解	85 (61)
	(4) 男女共同参画に関する意識	88 (63)
	(5) 子どもをはぐくむ活動	90 (65)

(6)	住宅・住環境の満足度	92 (67)
(7)	心のユニバーサルデザインの実践	95 (69)
(8)	食品の安全性	97 (71)
(9)	環境保全活動の実践	99 (73)
(10)	県民の地域活動への参加	101 (75)
(11)	文化・芸術の鑑賞又は活動	107 (77)
(12)	中山間地域での生活意向	110 (79)
(13)	人権尊重の意識	112 (81)
(14)	生物多様性への理解	115 (83)
第3章	静岡県の魅力に対する意識	118
1	静岡県の魅力に対する意識	118
(1)	静岡県の魅力の有無	119 (85)
(2)	静岡県で魅力に感じるもの	120 (87)
第4章	自動運転に関する意識	123
1	自動運転に関する意識	123
(1)	自動運転車への関心	123 (89)
(2)	自動運転車の乗車有無	125 (91)
(3)	自動運転実証実験の認知	126 (93)
(4)	自動運転車の乗車意向	128 (95)
V	数表	131
VI	調査票	227

- I 調査の概要
- II 標本設計
- III 回答者の属性

I 調査の概要

1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2 調査の内容

- (1) 生活についての意識
- (2) 県の仕事に対する関心
- (3) 静岡県の魅力に対する意識
- (4) 自動運転に関する意識

3 調査の設計

- (1) 調査地域 静岡県全域
- (2) 調査対象 県内の市町に居住する満18歳以上の県民
- (3) 標本数 3,500
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送配布（郵送及びWEB回収）
- (6) 調査時期 令和5年6月9日～7月4日
- (7) 調査機関 株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所

4 回収結果

- (1) 調査数(率) 3,500 (100.0%)
- (2) 回収数(率) 1,693 (48.4%)
 - 郵送回収数(率) 1,098 (31.4%)
 - WEB回収数(率) 595 (17.0%)
- (3) 有効回収数(率) 1,692 (48.3%)
 - 郵送有効回収数(率) 1,097 (31.3%)
 - WEB有効回収数(率) 595 (17.0%)
- (4) 未回収数(率) 1,807 (51.6%)
うち宛先不明等での戻り21票

II 標本設計

1 母集団

県内の市町に居住する満18歳以上の県民

2 標本数

3,500

3 地点数

23市	12町	計	35市町
262地点	18地点	計	280地点

4 抽出方法

層化二段無作為抽出法

(1) 層化

ア 県内の市町を、市又は郡を単位とし、次の3地域に分類した。

地域名		該当市名又は郡名
東部地域	(富士川以東)	沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、御殿場市、下田市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、賀茂郡、田方郡、駿東郡
中部地域	(静岡市以西) (榛原郡以東)	静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、榛原郡
西部地域	(菊川市以西)	浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、周智郡

イ 各地域については更に「人口30万人以上の市」「その他の市」「郡部」に分類し、それぞれを層とした。

(注) ここでいう市とは、令和5年4月1日現在市制施行の地域を指す。

(2) 標本数の配分

各層における満18歳以上人口数(令和5年4月17日現在選挙人名簿登録者総数)により、3,500の標本数を比例配分した。

(3) 抽出

- ア 第1次抽出単位となる調査地点として、県内各市町で設定されている「投票区」を使用し、抽出に用いる選挙人名簿と整合性を確保した。
- イ 調査地点（投票区）の抽出数は、1調査地点当たりの標本数が13件程度で、拠点により10件から15件と多少前後する標本数もあるが、第一次抽出単位でばらつきが小さいため影響はない。
- ウ 調査地点（投票区）の抽出は、層内での抽出地点数が2地点以上割り当てられた層については、

$$\left[\frac{\text{層における調査区数（計）}}{\text{層での抽出調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right]$$

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。

- エ 抽出に際して各層内における市町の配列順序は、総務省が設定する「市区町村コード一覧」の配列順序に従った。
- オ 抽出調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲（町・丁目・街区・番地・集落などを指定）内により、選挙人名簿から等間隔抽出法によって抽出した。
- カ 以上の作業の結果得られた地域別の標本数及び地点数は、次のとおりである。

市郡別 地域別	人口30万人 以上の市	その他の市	郡部	計
東部		853,005 982 (80)	142,509 188 (14)	995,514 1,170 (94)
中部	580,347 663 (53)	348,516 399 (32)	28,561 40 (3)	957,424 1,102 (88)
西部	649,658 746 (60)	406,445 467 (37)	14,666 15 (1)	1,070,769 1,228 (98)
計	1,230,005 1,409 (113)	1,607,966 1,848 (149)	185,736 243 (18)	3,023,707 3,500 (280)

(注) 上段：令和5年4月17日現在の母集団
下段：標本数、()内は地点数

(4) 調査地点一覧

東部

地域	調査地点	対象者数
沼津市	三園町	13
	五月町	13
	神田町	13
	井出	13
	西熊堂	13
	平沼	12
	駿河台	12
	足高	12
	米山町	12
	三枚橋町	12
	江原町	12
	柳町	12
	北高島町	12
	東沢田	12
	高砂町	12
熱海市	紅葉ガ丘町	12
	昭和町	12
	和田町	12
三島市	徳倉三丁目	13
	東本町二丁目	13
	旭ヶ丘	13
	中	13
	大宮町三丁目	13
	文教町一丁目	13
	寿町	13
	多呂	13
富士宮市	青木	13
	淀川町	13
	矢立町	13
	粟倉	12
	中島町	12
	朝日町	12
	泉町	12
	西小泉町	12
	東町	12
	安居山	12
伊東市	大原一丁目	12
	馬場町一丁目	12
	南町一丁目	11
	末広町	11
	広野一丁目	11
	和田一丁目	11

地域	調査地点	対象者数
富士市	横割一丁目	13
	水戸島二丁目	13
	国久保二丁目	13
	中柏原新田	13
	瓜島町	13
	鈴川西町	13
	広見東本町	13
	今泉二丁目	13
	中野台一丁目	13
	米之宮町	12
	吉原五丁目	12
	久沢二丁目	12
	中央町一丁目	12
	富士見台五丁目	12
	さんどまき	12
御殿場市	鈴川東町	12
	長通	12
	柳島	12
	横割本町	12
	東山	12
	深沢	12
	東田中	12
	永塚	12
	萩原	11
	中清水	11
杉名沢	11	
下田市	一丁目	12
	蓮台寺	11
裾野市	石脇	12
	金沢	12
	二ツ屋	12
	葛山	12
伊豆市	熊坂	15
	上白岩	15
伊豆の国市	中	12
	大仁	12
	天野	12
	守木	11
賀茂郡東伊豆町	片瀬	13
賀茂郡河津町	峰	13
賀茂郡南伊豆町	手石	13
賀茂郡松崎町	伏倉	13
賀茂郡西伊豆町	安良里天坂	13
田方郡函南町	肥田	13
	丹那	12
	畑	12
駿東郡清水町	堂庭	15
	新宿	15
駿東郡長泉町	下長窪	14
	上土狩	14
	中土狩	13
駿東郡小山町	棚頭	15

中部

地域	調査地点	対象者数		
静岡市	葵区	瀬名二丁目	13	
		北安東二丁目	13	
		大岩四丁目	13	
		瀬名中央一丁目	13	
		上足洗二丁目	13	
		川合三丁目	13	
		古庄五丁目	13	
		昭府二丁目	13	
		南瀬名町	13	
		羽鳥七丁目	13	
		桜町一丁目	13	
		東千代田二丁目	13	
		西草深町	12	
		鷹匠三丁目	12	
		千代田六丁目	12	
		あさはた一丁目	12	
		田町二丁目	12	
		上土二丁目	12	
	城北二丁目	12		
	駿河区	小鹿二丁目	13	
		馬淵四丁目	13	
		中田三丁目	13	
		曲金四丁目	13	
		敷地一丁目	13	
		丸子二丁目	13	
		泉町	13	
		下川原三丁目	12	
		栗原	12	
		中野新田	12	
		登呂二丁目	12	
		豊田一丁目	12	
		石田一丁目	12	
		有東一丁目	12	
		津島町	12	
		中村町	12	
		清水区	草薙二丁目	13
			高橋四丁目	13
	折戸四丁目		13	
	草薙一里山		13	
	南矢部		13	
	下野北		13	
	石川		13	
西高町	13			
下野町	12			
有東坂二丁目	12			
木の下町	12			
神田町	12			
八坂北一丁目	12			
横砂中町	12			
宮下町	12			
追分四丁目	12			
横砂東町	12			
緑が丘町	12			

地域	調査地点	対象者数
島田市	旭二丁目	12
	道悦四丁目	12
	向島町	12
	三ツ合町	12
	向谷元町	12
	中河	11
	横井三丁目	11
中央町	11	
焼津市	北新田	13
	惣右衛門	13
	三和	13
	西小川五丁目	13
	下江留	13
	大村二丁目	13
	大村新田	13
	与惣次	13
	保福島	13
	小屋敷	12
藤枝市	田沼二丁目	13
	高柳二丁目	13
	前島二丁目	13
	高岡三丁目	13
	横内	12
	下之郷	12
	上当間	12
	光洋台	12
	茶町二丁目	12
	小石川町三丁目	12
駅前二丁目	12	
牧之原市	須々木	14
	片浜	14
	相良	13
榛原郡吉田町	住吉	14
	神戸	13
榛原郡川根本町	千頭	13

西部

地域	調査地点	対象者数	
浜松市	中区	鴨江一丁目	13
		海老塚二丁目	13
		佐鳴台二丁目	13
		高丘東四丁目	13
		高丘北三丁目	13
		葵西二丁目	12
		高丘西一丁目	12
		布橋二丁目	12
		和合北四丁目	12
		蜷塚二丁目	12
		泉一丁目	12
		曳馬三丁目	12
		住吉二丁目	12
		常盤町	12
		幸一丁目	12
		中島三丁目	12
		小豆餅一丁目	12
		上島五丁目	12
	東区	半田山四丁目	13
		子安町	12
		神立町	12
		上新屋町	12
		半田町	12
		薬師町	12
		有玉台二丁目	12
		恒武町	12
		宮竹町	12
		有玉西町	12
	西区	大平台四丁目	13
		神原町	13
		雄踏二丁目	13
		和地町	13
		大山町	13
		志都呂二丁目	12
		桜台三丁目	12
		呉松町	12
	南区	米津町	12
		頭陀寺町	12
		恩地町	12
		中田島町	12
		遠州浜三丁目	12
		参野町	12
倉松町		12	
北区	鶴見町	11	
	新都田二丁目	13	
	神宮寺町	13	
	大原町	13	
	三ヶ日町下尾奈	13	
	三ヶ日町岡本	12	
	三ヶ日町宇志	12	
三ヶ日町鶴代	12		

地域	調査地点	対象者数	
浜松市	浜北区	高畑	14
		染地台三丁目	14
		上島	13
		内野台二丁目	13
		善地	13
		永島	13
	天竜区	西中瀬一丁目	13
		二俣町南鹿島	14
		青谷	13
		安久路二丁目	13
磐田市	水堀	13	
	上大之郷	13	
	三ヶ野台	13	
	国府台	13	
	前野	13	
	東新町一丁目	13	
	老貫地	13	
	駒場	13	
	白羽	13	
	大泉町	12	
	竜洋中島	12	
	掛川市	和光二丁目	12
杉谷南二丁目		12	
天王町		12	
沖之須		12	
城西一丁目		12	
宮脇一丁目		12	
七日町		12	
亀の甲一丁目		12	
上垂木		11	
袋井市		宇刈	14
	湊	14	
	可睡の杜	13	
	新池	13	
	山科	13	
湖西市	村松	13	
	南台四丁目	14	
	吉美	14	
	梅田	13	
御前崎市	駅南二丁目	13	
	比木下比木	15	
菊川市	宮内	14	
	大石	11	
	仲島二丁目	11	
	西横地	11	
周智郡森町	奈良野	10	
	大鳥居	15	

Ⅲ 回答者の属性

項目	特性		回答者 (人)	構成比 (%)
地域	東部		572	33.8
	中部		525	31.0
	西部		588	34.8
	無回答		7	0.4
市・郡	静岡市		307	18.1
	浜松市		359	21.2
	その他の市部		893	52.8
	郡部		126	7.4
	無回答		7	0.4
	地域圏	伊豆半島地域		122
東部地域		450	26.6	
中部地域		307	18.1	
志太榛原・中東遠地域		409	24.2	
西部地域		397	23.5	
無回答		7	0.4	
性別		男性		797
	女性		881	52.1
	その他		1	0.1
	無回答		13	0.8
年代	10代		18	1.1
	20代		97	5.7
	30代		145	8.6
	40代		235	13.9
	50代		292	17.3
	60代		370	21.9
	70歳以上		522	30.9
	無回答		13	0.8
性・年代	男性	10代	9	1.1
		20代	44	5.5
		30代	59	7.4
		40代	123	15.4
		50代	132	16.6
		60代	191	24.0
		70歳以上	239	30.0
		無回答	0	0.0
	女性	10代	9	1.0
		20代	53	6.0
		30代	86	9.8
		40代	111	12.6
		50代	160	18.2
		60代	178	20.2
70歳以上	282	32.0		
無回答	2	0.2		
未既婚	未婚		302	17.8
	既婚		1,173	69.3
	結婚後に離別		198	11.7
	無回答		19	1.1
子どもの年代	子どもはいない		404	23.9
	未就学児		58	3.4
	小学生		81	4.8
	中学生		51	3.0
	高校生・予備校生・ 大学受験生		40	2.4
	短大・高専・大学・ 大学院・専門学校生		62	3.7
	社会人（未就業を含む）		953	56.3
	無回答		43	2.5

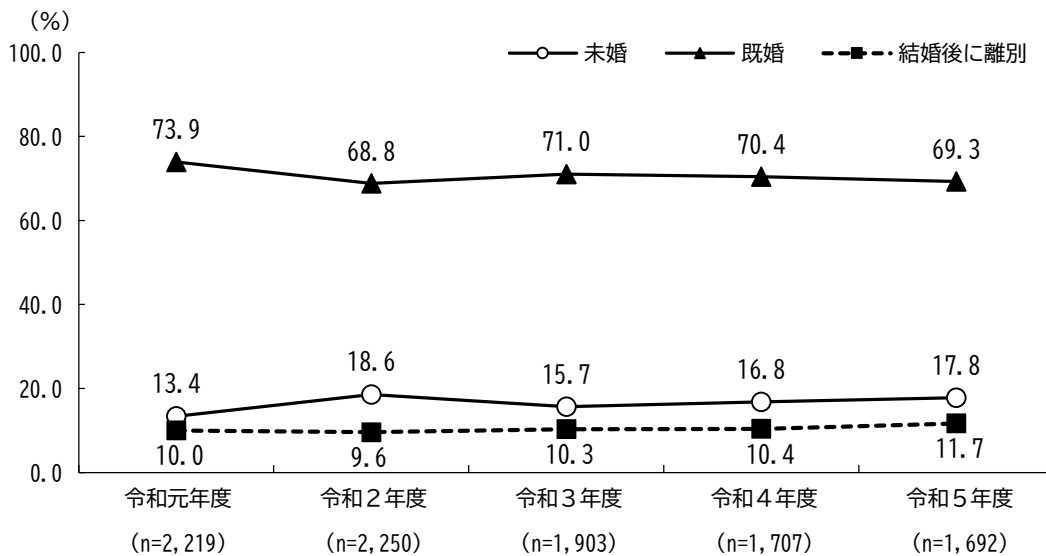
項目	特性		回答者 (人)	構成比 (%)
ライフステージ※	独身期		143	8.5
	家族形成期		79	4.7
	家族成長前期		129	7.6
	家族成長後期		96	5.7
	家族成熟期		176	10.4
	老齢期		892	52.7
	その他		149	8.8
	無回答		28	1.7
	本人具体的職業	農林漁業		60
商工サービス・自由業		137	8.1	
管理・専門技術・事務職		426	25.2	
労務作業		147	8.7	
無職		825	48.8	
学生・その他		73	4.3	
無回答		24	1.4	
自営・家族従業 小計		197	11.6	
給与所得者 小計		573	33.9	
その他 小計		898	53.1	
居住年数	10年未満		71	4.2
	10年～20年未満		66	3.9
	20年～30年未満		127	7.5
	30年以上		509	30.1
	生まれてからずっと		915	54.1
	無回答		4	0.2
居住形態	持家		1,424	84.2
	持家以外		260	15.4
	無回答		8	0.5
	一戸建		1,391	82.2
	一戸建以外		284	16.8
	その他		9	0.5
インターネット利用	利用する		1,229	72.6
	利用しない		450	26.6
	無回答		13	0.8
住宅環境	住宅地域		1,271	75.1
	商業地域		72	4.3
	工業地域		44	2.6
	農漁業地域		174	10.3
	山間地域		109	6.4
	その他		7	0.4
	無回答		15	0.9

※ライフステージの分類基準は「この冊子の読み方」を参照

※性別について「その他」の回答が少数であったため、性・年代別ではクロス集計を省略した

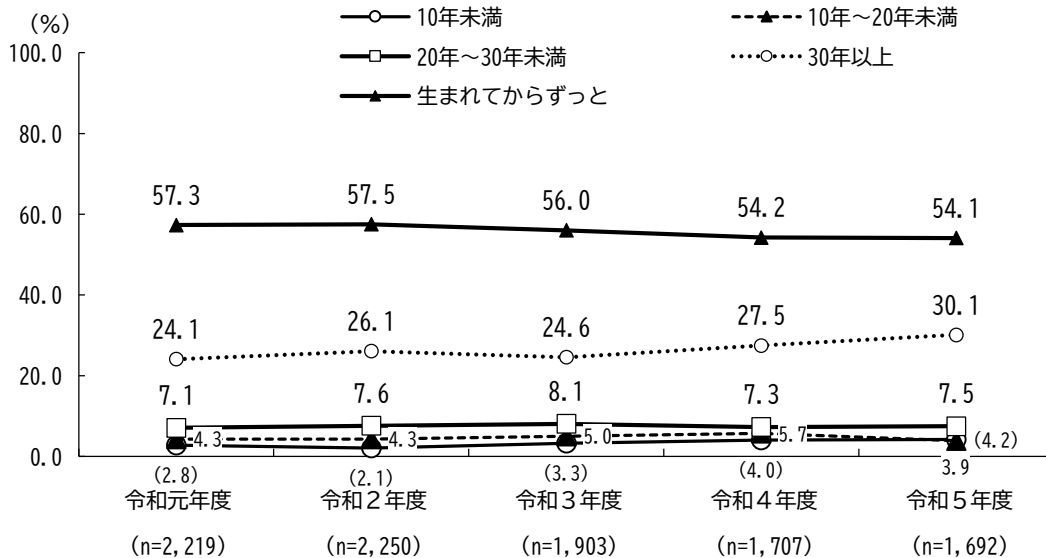
属性別経年比較

【 未既婚 】



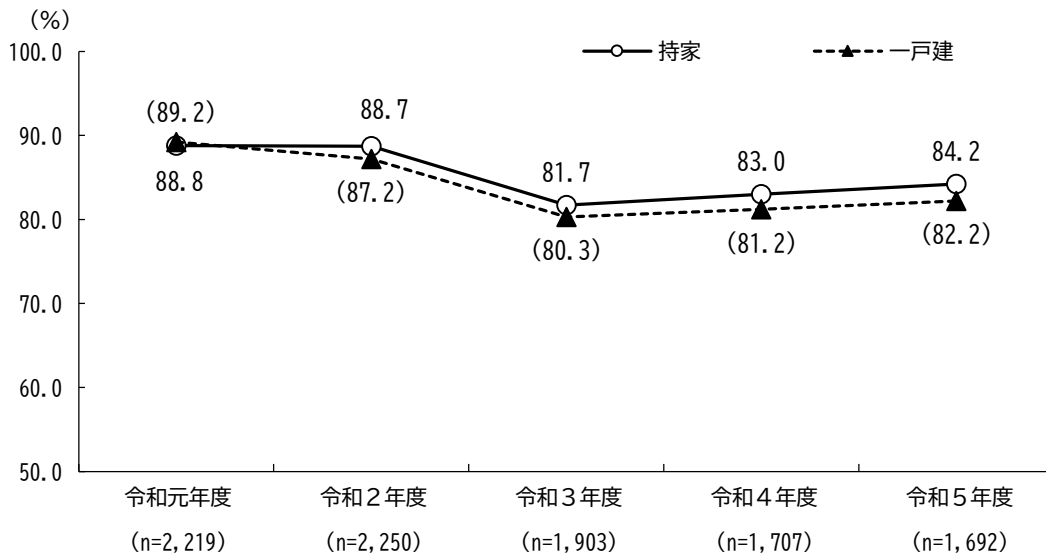
未既婚を令和元年度以降の推移で見ると、前年度との比較では各項目の割合はほぼ同程度で推移している。

【 居住年数 】



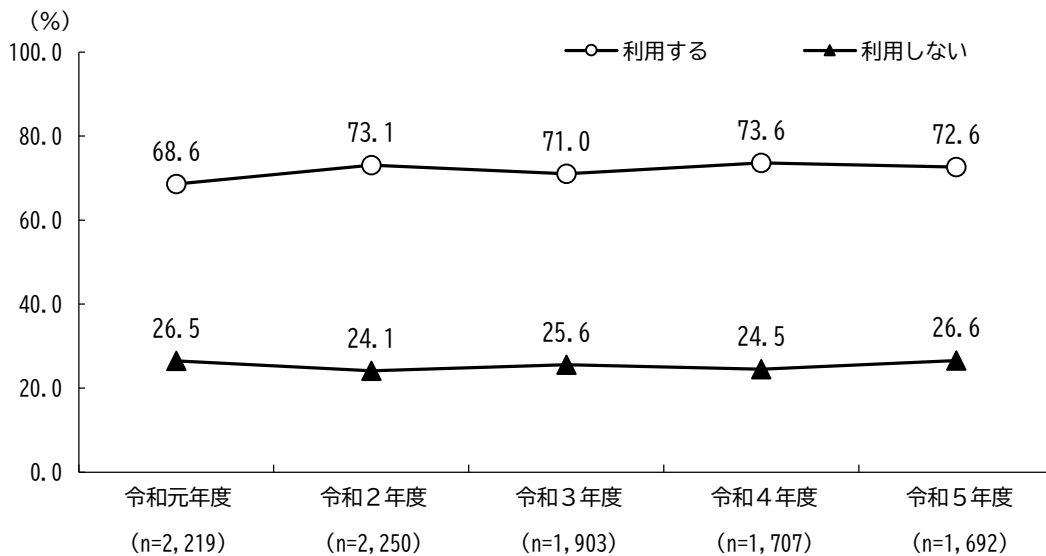
居住年数を令和元年度以降の推移で見ると、前年度との比較では各項目の割合はほぼ同程度で推移している。

【 居住形態 】



居住形態を令和元年度以降の推移で見ると、『持家』、『一戸建』はほぼ同程度で推移しており、前年度との比較では各項目の割合はほぼ同程度で推移している。

【 インターネットの利用 】



インターネットの利用（利用率）を令和元年度以降の推移で見ると、前年度との比較では各項目の割合はほぼ同程度で推移している。

IV 調 査 結 果

IV 調査結果

この冊子の読みかた

- 1 結果は百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 数値やグラフの中の「件数」、「n」（number of cases の略）は回答者総数（あるいは分類別の該当者数）を示し、回答比率はこれを100%で表した。「SQ」（Sub-Question の略）は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに続けて行った質問を示す。
- 3 下表のとおり、標本誤差に応じて集計値を補正している。そのため、各設問・選択肢の回答状況が本来の有効回答数（n=1,692）に占める割合と一致しない部分があり、混乱を避けるため報告書のグラフ等においては回答者数（n）を表記していない。

カイ2乗値の算出

年代	実測度数	期待度数	統計量
10代	18	36.22	9.163
20代	97	157.98	23.537
30代	145	198.10	14.234
40代	235	267.32	3.907
50代	292	276.71	0.845
60代	370	251.81	55.479
70歳以上	522	490.87	1.974
			109.138

カイ2乗分布表：有意差5%

自由度	確率 (0.05)
1	3.841
2	5.991
3	7.814
4	9.487
5	11.071
6	12.591
…以下続く	

- 4 標本誤差は回答者数（n）と得られた結果の比率によって異なるが、層化二段無作為抽出法による場合の誤差（95%は信頼できる誤差の範囲）は下表のとおりである。

回答の比率 回答者数（n）	10% または 90%前後	20% または 80%前後	30% または 70%前後	40% または 60%前後	50%前後
2,250	±1.2	±1.7	±1.9	±2.0	±2.1
2,000	±1.3	±1.8	±2.0	±2.1	±2.2
1,800	±1.4	±1.8	±2.1	±2.3	±2.3
1,600	±1.5	±2.0	±2.2	±2.4	±2.4
1,400	±1.6	±2.1	±2.4	±2.6	±2.6
1,200	±1.7	±2.3	±2.6	±2.8	±2.8
1,000	±1.9	±2.5	±2.8	±3.0	±3.1

- 5 10代は18歳、19歳のみを対象としており、回答数が少ないため、分析時は20代以下とし、10代、20代の合計を分析対象としている。
- 6 質問の末尾に（○は3つまで） および（○はいくつでも）とあるのは、1人の対象者に2つ以上の回答を認めたもので、その百分率の合計は100%を超える場合がある。
- 7 回答者の属性に無回答があるため、各図表の内訳の合計が全体の回答者数と異なる場合がある。無回答は全体の比率計算に含めている。
- 8 分析の軸として「ライフステージ」は以下の基準で分類した。

ライフステージ	基準
独身期	10代・20代・30代の未婚者かつ子どもはいない
家族形成期	第一子が未就学児、または40歳未満の夫婦のみ
家族成長前期	第一子が小・中学生
家族成長後期	第一子が高校・大学生（短大・専門学校・大学受験生を含む）
家族成熟期	第一子が学校教育終了
老齢期	60歳以上の人
その他	上記以外の人

（注1） 家族形成期～家族成熟期の子どものある人は、いずれも60歳未満の人とした。

（注2） 結婚後に離別の人は未婚とした。

- 9 「地域圏」は、県内の市町を次の6地域に分類した。

地域圏	市 町
伊豆半島地域	熱海市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町
東部地域	沼津市、三島市、富士宮市、富士市、御殿場市、裾野市、函南町、清水町、長泉町、小山町
中部地域	静岡市
志太榛原・中東遠地域	島田市、磐田市、焼津市、掛川市、藤枝市、袋井市、御前崎市、菊川市、牧之原市、吉田町、川根本町、森町
西部地域	浜松市、湖西市
伊豆半島地域 （沼津市、三島市、 函南町を含む）	沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町

調査結果の概要

暮らし向きが「苦しくなっている」52.7%

日常生活に「悩みや不安を感じている」75.2%

【調査時点での社会情勢】

新型コロナウイルス感染症による経済社会活動へのマイナス効果は徐々に薄れ始めており、企業活動や雇用、個人消費等の様々な分野で上向きに推移している。

加えて訪日外国人客数も感染拡大前の7割程度まで回復し、景気の持ち直しを後押ししているように見受けられる。

一方で、緊迫する国際情勢の影響は未だに大きく、原材料高騰に加え電気料金・燃料価格の高止まり等、企業活動や家計への負担は今後も続くことが見込まれる。

なお、感染症対策の緩和により、地域活動やイベントの再開に向けた動きも活発である。地域の繋がりや友人・知人との交流の再開が悩みや不安の解消へつながることに期待したい。

1 生活についての意識

(1) 暮らし向き

- ・暮らし向きが「苦しくなっている」と答えた人の割合は、前年度に45.1%と4割台だったが、今年度は52.7%と7.6ポイント増加し、昭和55年の設問開始以来、初めて5割を超える結果となっている。年代別では『60代』が55.7%と最も高く、『20代以下』が47.5%と最も低い。子どもの年代別では『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』が64.6%と最も高くなっている。
- ・「苦しくなっている」理由は「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」と答えた人の割合が74.5%と最も高く、次いで「給料や収益が増えない、又は減ったから」が47.2%、「預貯金が増えない、又は減ったから」が38.4%となっている。

(2) 日常生活の悩みや不安

- ・日常生活に悩みや不安を感じている人の割合は75.2%と、平成26年度から10年連続で7割を超えている。なお、『20代以下』では58.6%と、他の世代よりも不安を感じている人が少なくなっている。
- ・悩みや不安の内容は、「自分や家族の健康」と答えた人の割合は67.3%と最も高く、次いで「今後の生活費の見通し」が55.3%、「老後の生活設計」が55.0%と続き、健康や生活に関することが中心となっている。

(3) 静岡県の住みよさ

- ・静岡県は住みよいところだと「思う」人の割合は48.3%で、「どちらかといえばそう思う」人を合わせた割合は90.4%となり、前年度の89.2%より1.2ポイント上回っており、毎年度9割前後で推移している。

2 県の仕事に対する関心

(1) 県政への関心度

- ・県の政治や行政に「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた「関心がある」は63.6%で、毎年度6割前後で推移している。

(2) 行政機関への意見や要望、不満

- ・行政機関の仕事について意見や要望、不満がある人のうち、県が担当する仕事について意見や要望、不満がある人は49.4%で、前年度の55.7%より6.3ポイント低くなっている。
- ・県が担当する仕事について意見や要望、不満がある人のうち、県に実際に伝えた人の割合は12.9%で、前年度の13.9%より1.0ポイント低くなっている。

(3) 広報媒体の浸透度

- ・県民だより(47.4% 前年度比-1.6ポイント)、県議会だより(30.4% 前年度比-0.1ポイント)、ラジオ広報(23.1% 前年度比+0.9ポイント)、県のホームページ(30.6% 前年度比-2.5ポイント)、SNS(13.7% 前年度比-2.3ポイント)、YouTube(3.7% 前年度比-0.1ポイント)となっており、ラジオ広報では浸透度が高くなっているものの、その他の広報媒体では浸透度が低くなっている。その中でも、YouTubeはその他の広報媒体よりも10%以上低くなっている。

第1章 生活についての意識

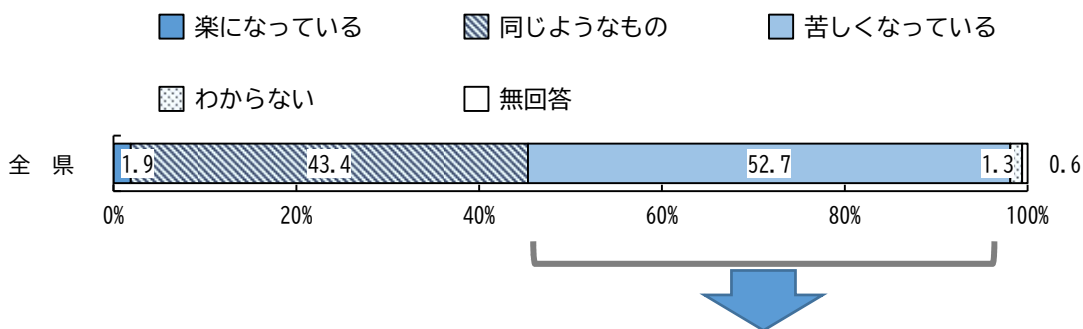
1 暮らし向き

— 「苦しくなっている」が52.7%

その理由は、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」が高い —

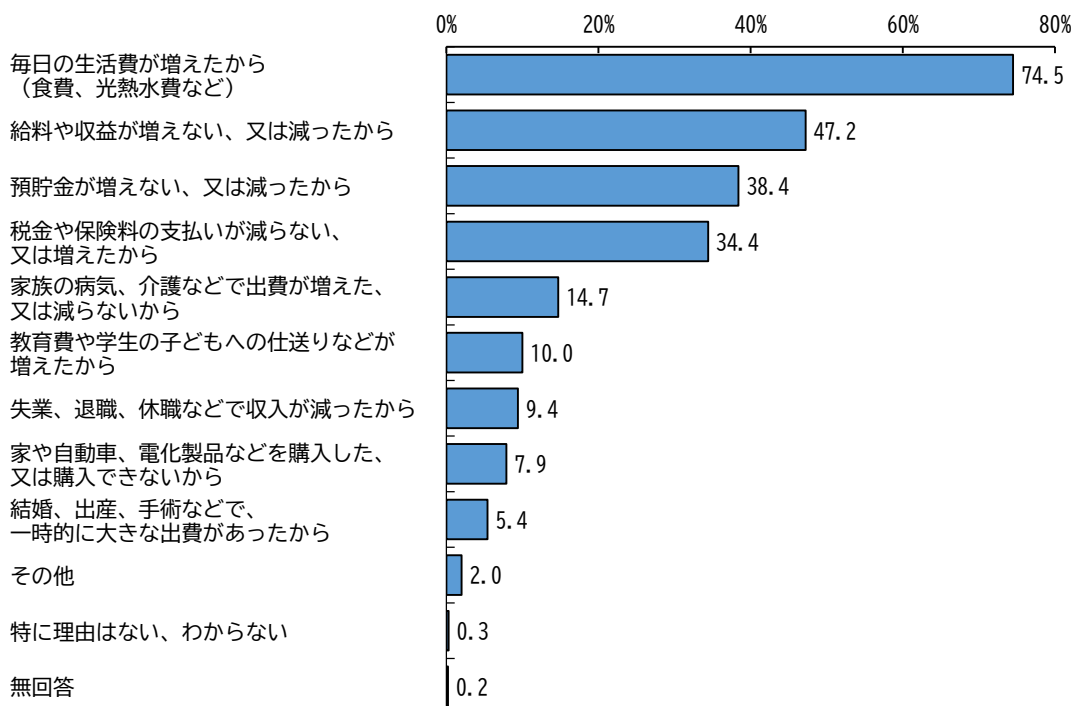
Q 1 お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべて楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。（〇は1つ）

【 暮らし向きの去年との比較 】



S Q お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由はなんですか。（〇は3つまで）

【 暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由 】



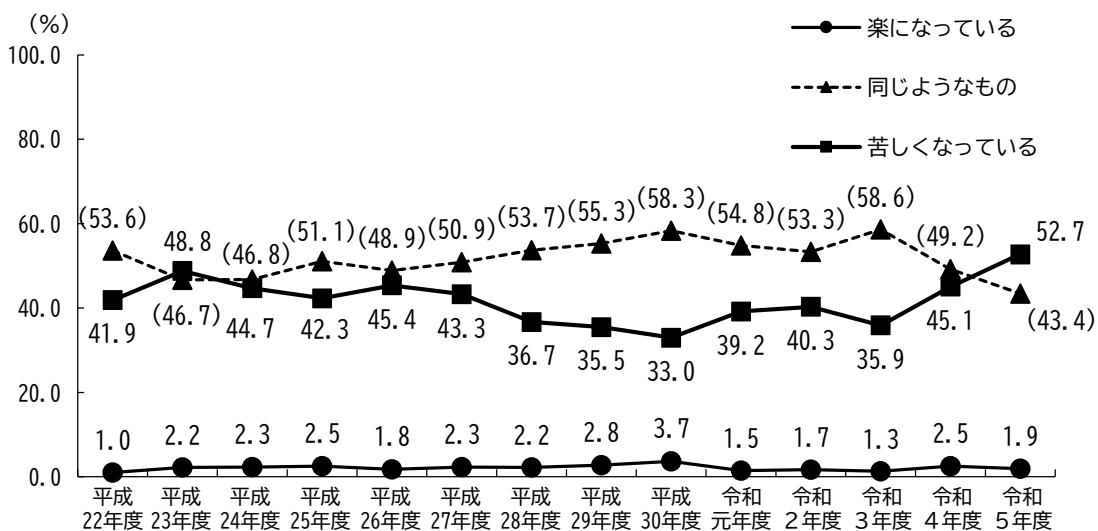
(1) 暮らし向き较去年との比較

暮らし向きについては、「苦しくなっている」と回答した人の割合が52.7%と最も高く、「同じようなもの」の43.4%を上回っている。一方、「楽になっている」は1.9%にとどまっている。

[過去の調査との比較] (図1-1)

平成22年度以降の推移でみると、暮らし向きが「苦しくなっている」人の割合は、平成22年度から6年連続で4割を超えていたが、平成28年度以降は4年連続で3割台であった。令和3年度以降、「苦しくなっている」は増加傾向となっており、今年度は52.7%（前年度比+7.6ポイント）と、昭和55年の設問開始以来、初めて5割台となった。一方「同じようなもの」は減少して43.4%（前年度比-5.8ポイント）となった。

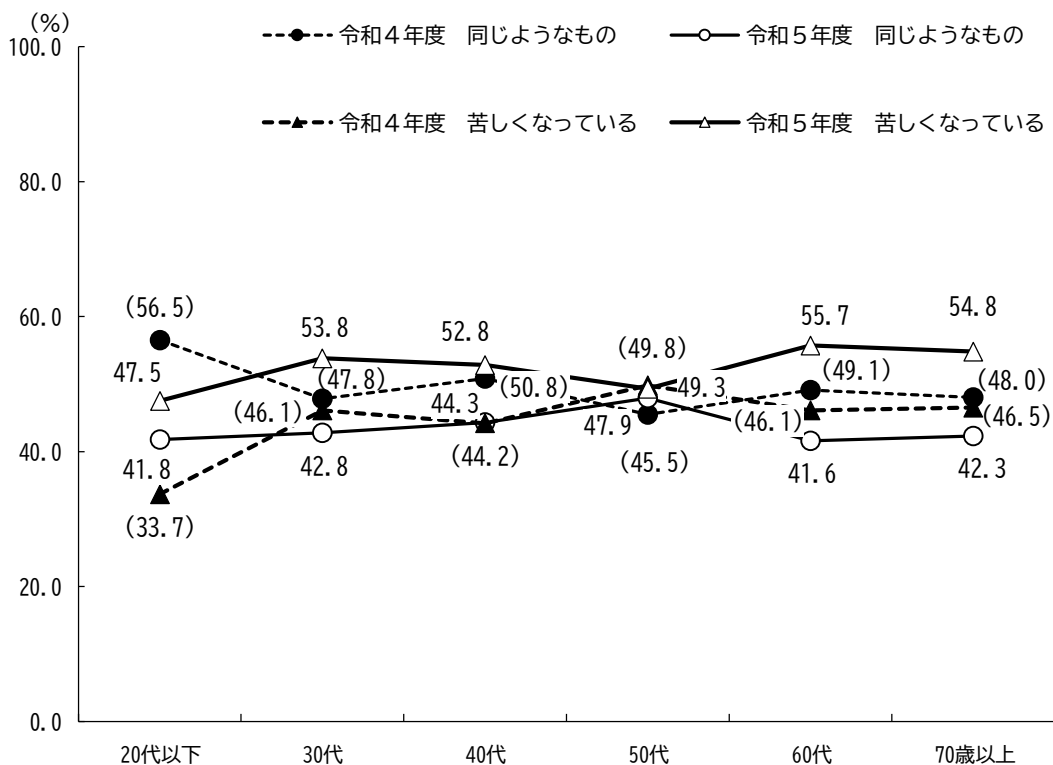
【 図1-1 暮らし向き 経年比較 】



【属性による比較】（図1-2、図1-3）

年代別に前年度と比較してみると、「同じようなもの」と回答した人の割合は『20代以下』で前年度を14.7ポイント下回るなど、『50代』以外の年代では前年度を下回っている。一方、「苦しくなっている」と回答した人の割合は『20代以下』で前年度を13.8ポイント上回るなど、『50代』以外の年代では前年度を上回っている。

【 図1-2 暮らし向き 年代別 前年度比較 】

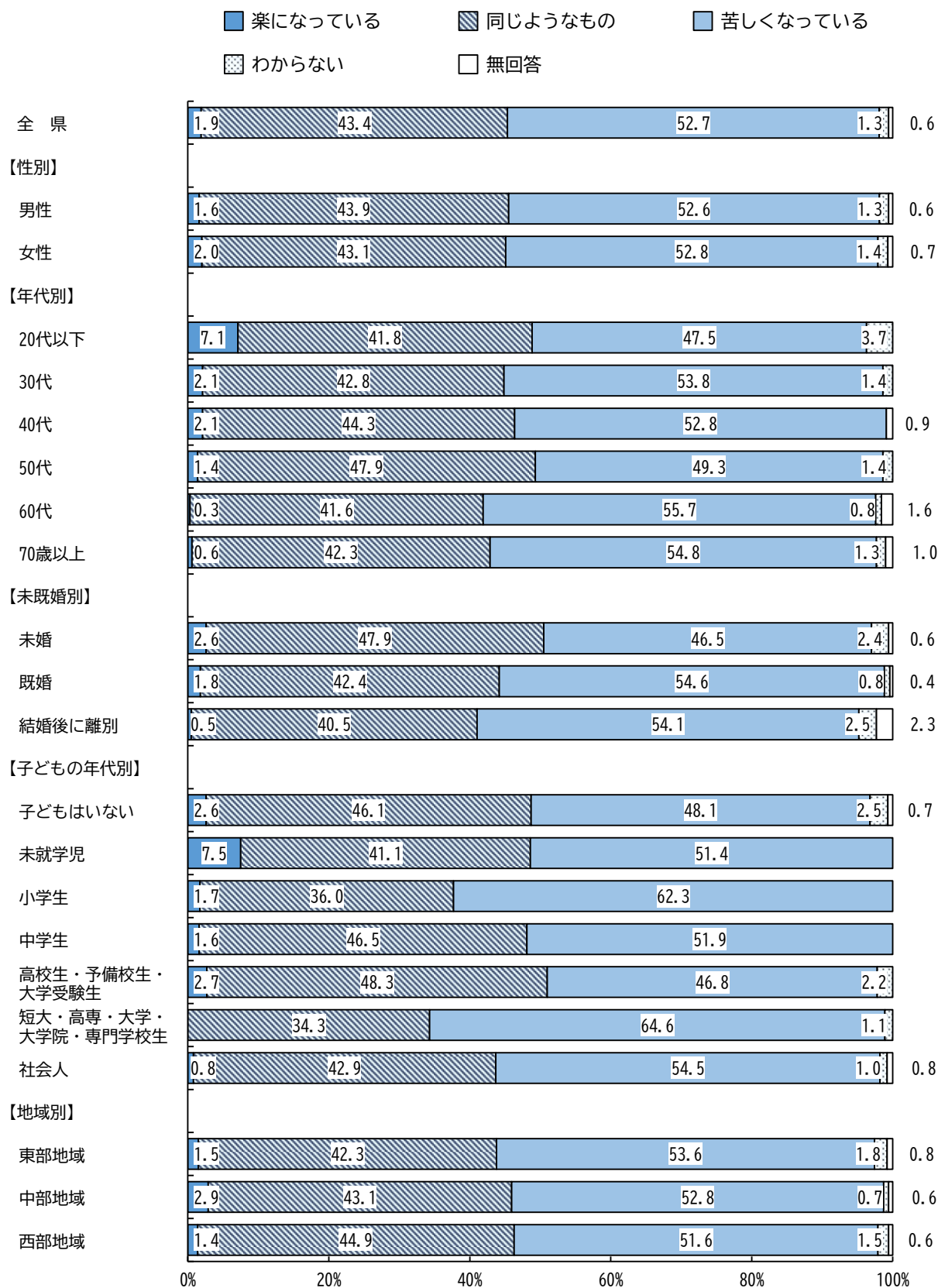


性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別で見ると、『20代以下』は、「楽になっている」(7.1%)が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別で見ると、『未就学児』は、「楽になっている」(7.5%)が全体と比較して高くなっている。また、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「苦しくなっている」(64.6%)が全体と比較して高くなっている。

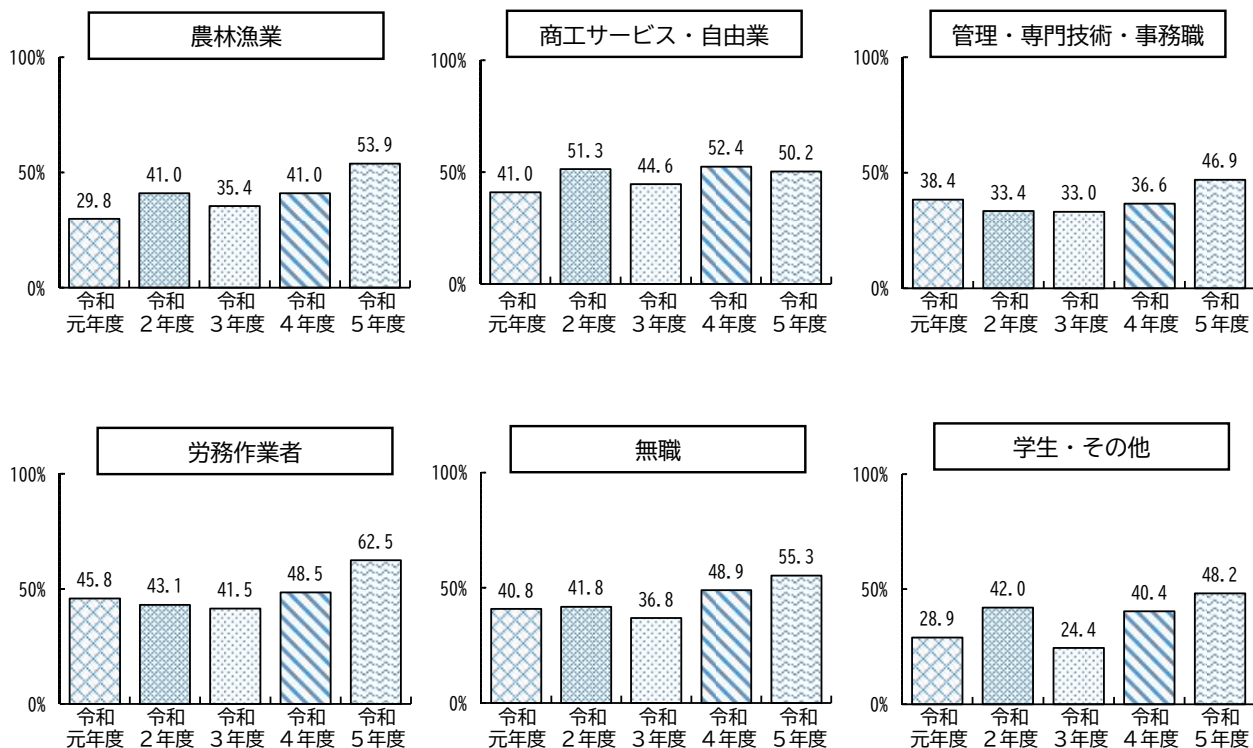
【 図 1-3 暮らし向き 性別、年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域別 】



[本人具体的職業別 経年比較] (図1-4)

「苦しくなっている」と回答した人の割合を本人具体的職業別に令和元年度以降の推移をみると、『労務作業者』は前年度と比較して14.0ポイント高くなっている。

【 図1-4 暮らし向き 本人具体的職業別 経年比較 】



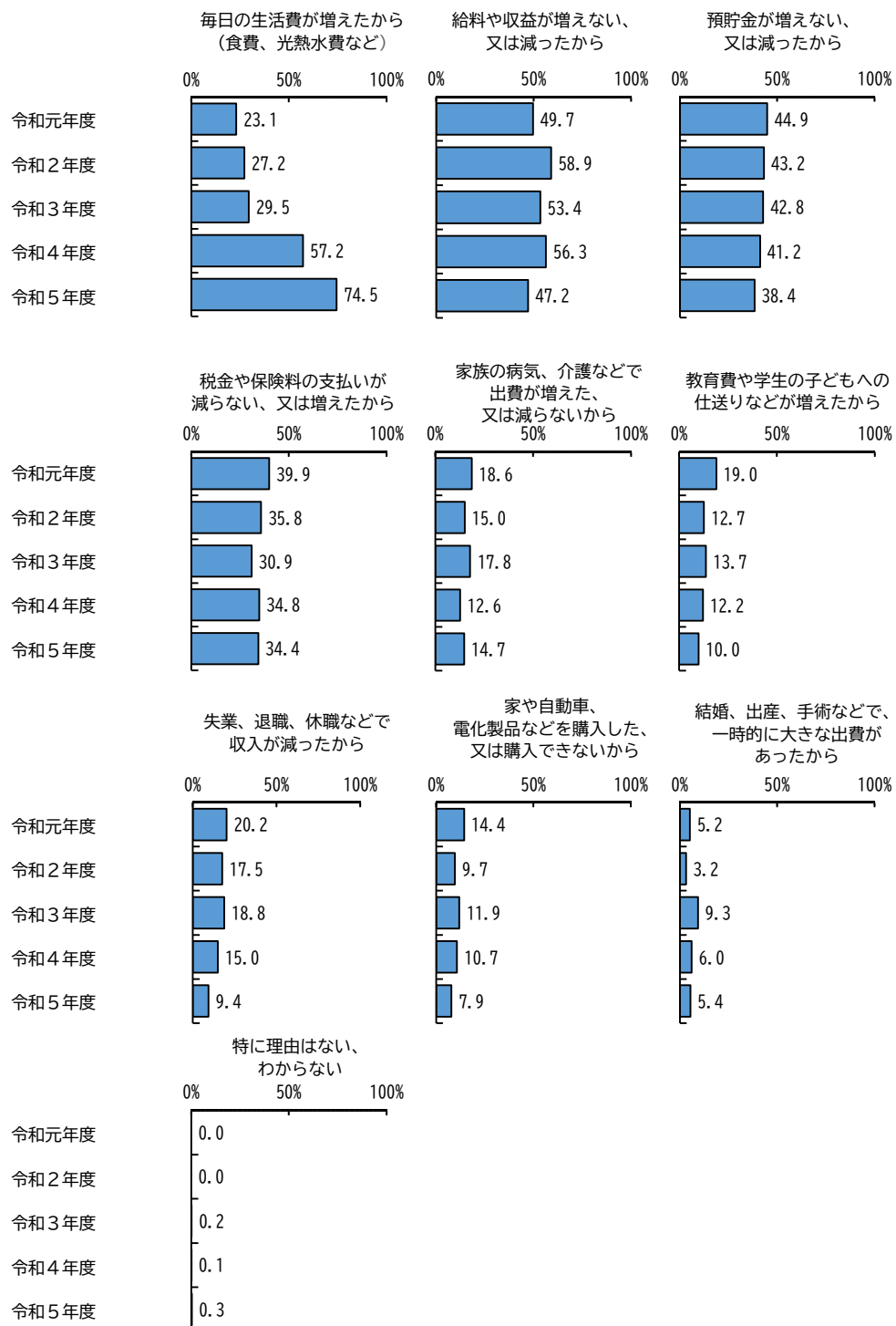
(2) 暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由

暮らし向きが苦しくなっていると感じる理由については、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」(74.5%)が最も高く、以下「給料や収益が増えない、又は減ったから」(47.2%)、「預貯金が増えない、又は減ったから」(38.4%)、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」(34.4%)、「家族の病気、介護などで出費が増えた、又は減らないから」(14.7%) などとなっている。

[過去の調査との比較] (図1-5)

令和元年度以降の推移でみると、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」が、今年度は74.5%と前年度より17.3ポイント上回り、過去4回調査に比べ最も高くなっている。

【 図1-5 暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由 経年比較 】



【属性による比較】（図1-6、表1-1、表1-2）

性別でみると、『男性』は、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」（40.2%）が全体と比較して高くなっている。

性・年代別でみると、『男性20代以下』は、「家族の病気、介護などで出費が増えた、又は減らないから」（20.1%）が全体と比較して高くなっている。

また、『男性30代』、『女性20代以下』は、「給料や収益が増えない、又は減ったから」、「結婚、出産、手術などで、一時的に大きな出費があったから」、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性40代』、『男性50代』、『女性50代』は、「給料や収益が増えない、又は減ったから」、「教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性60代』、『女性60代』は、「失業、退職、休職などで収入が減ったから」、「預貯金が増えない、又は減ったから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性70歳以上』は、「家族の病気、介護などで出費が増えた、又は減らないから」（21.2%）、
「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」（43.8%）、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」（83.9%）が全体と比較して高くなっている。

また、『女性30代』は、「給料や収益が増えない、又は減ったから」（60.9%）、「結婚、出産、手術などで、一時的に大きな出費があったから」（17.4%）が全体と比較して高くなっている。

また、『女性40代』は、「教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから」（36.7%）、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」（83.3%）が全体と比較して高くなっている。

また、『女性70歳以上』は、「預貯金が増えない、又は減ったから」（47.3%）、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」（85.8%）が全体と比較して高くなっている。

未婚別でみると、『未婚』は、「給料や収益が増えない、又は減ったから」（56.1%）が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『未就学児』は、「結婚、出産、手術などで、一時的に大きな出費があったから」（35.7%）、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」（83.5%）が全体と比較して高くなっている。

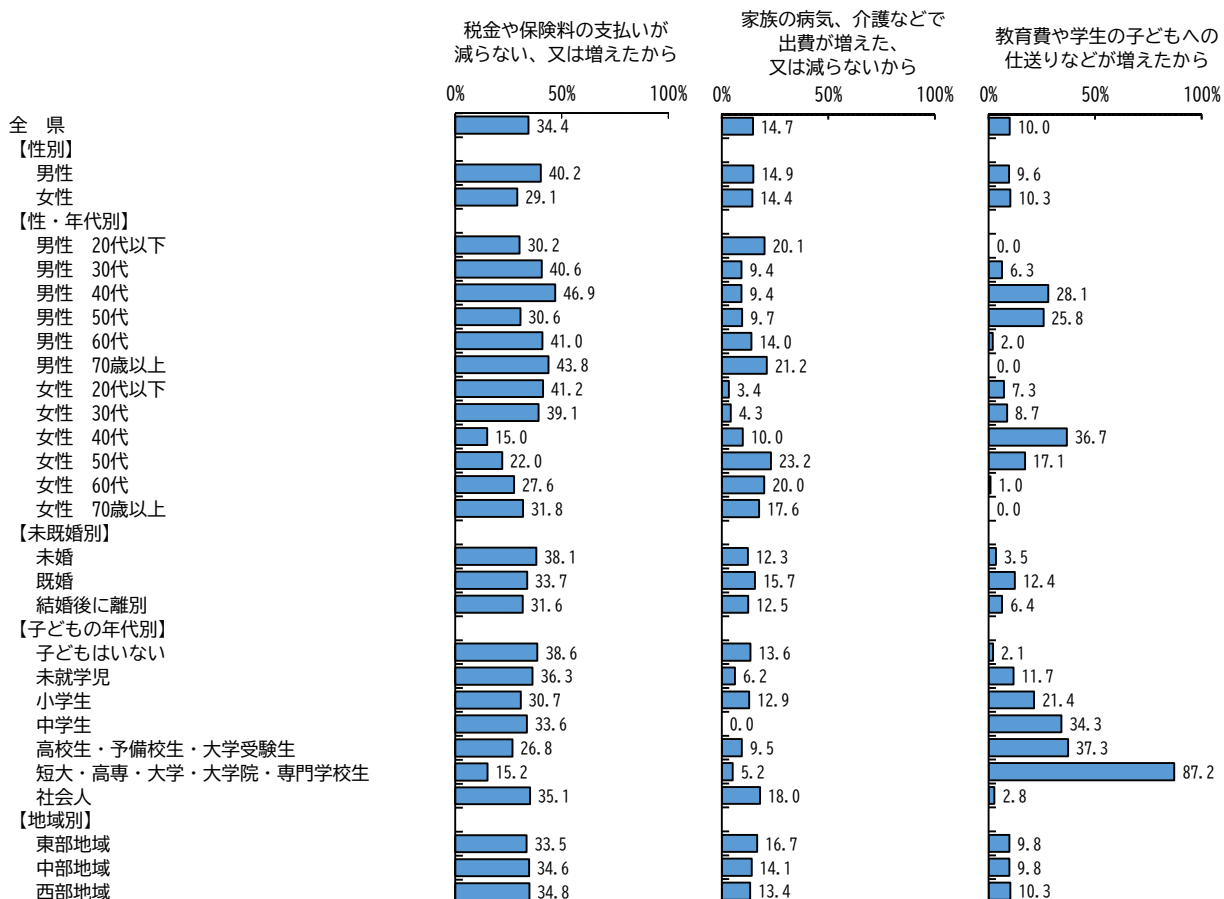
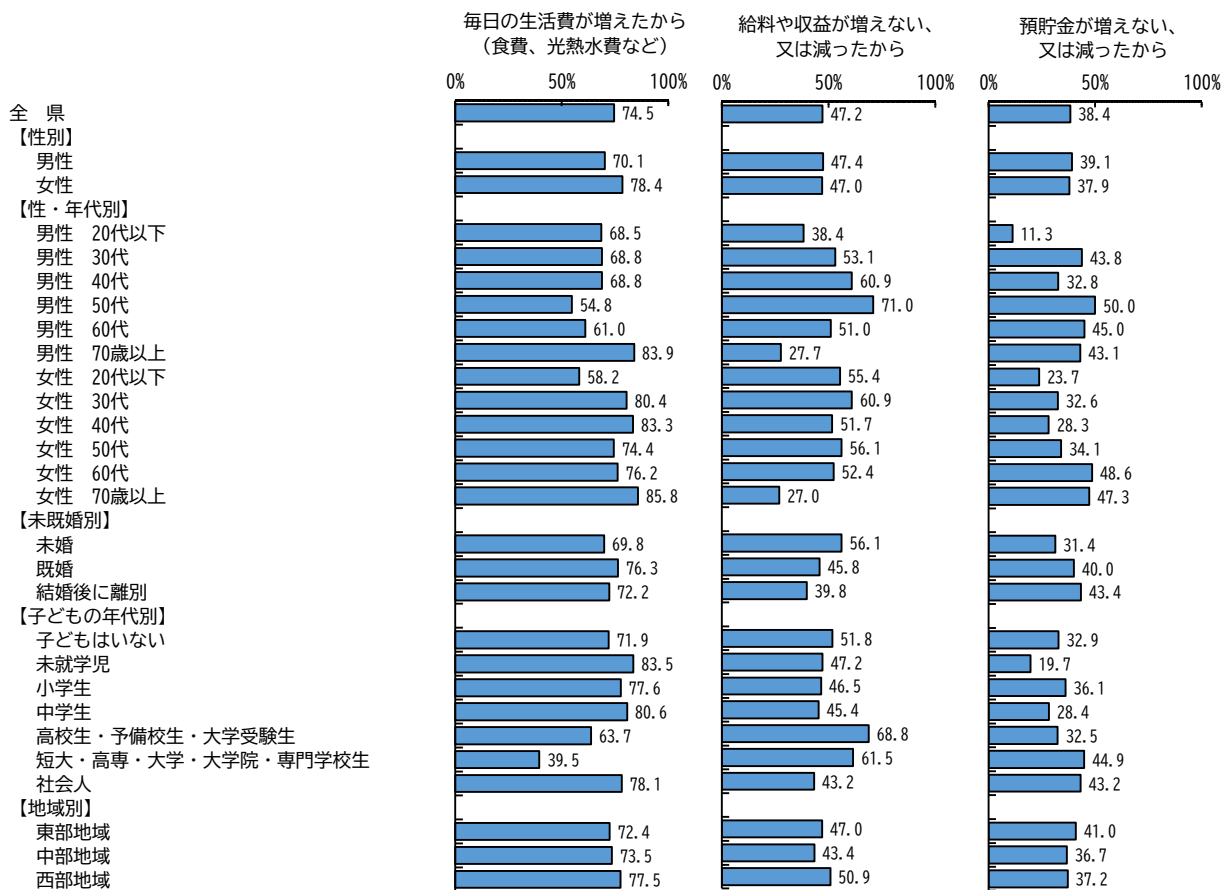
また、『小学生』は、「教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから」（21.4%）が全体と比較して高くなっている。

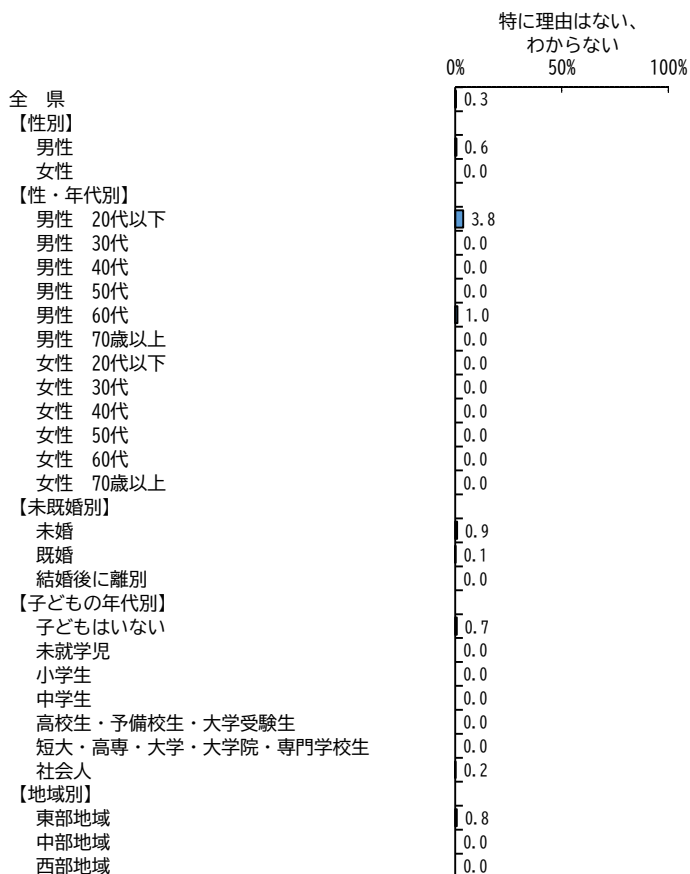
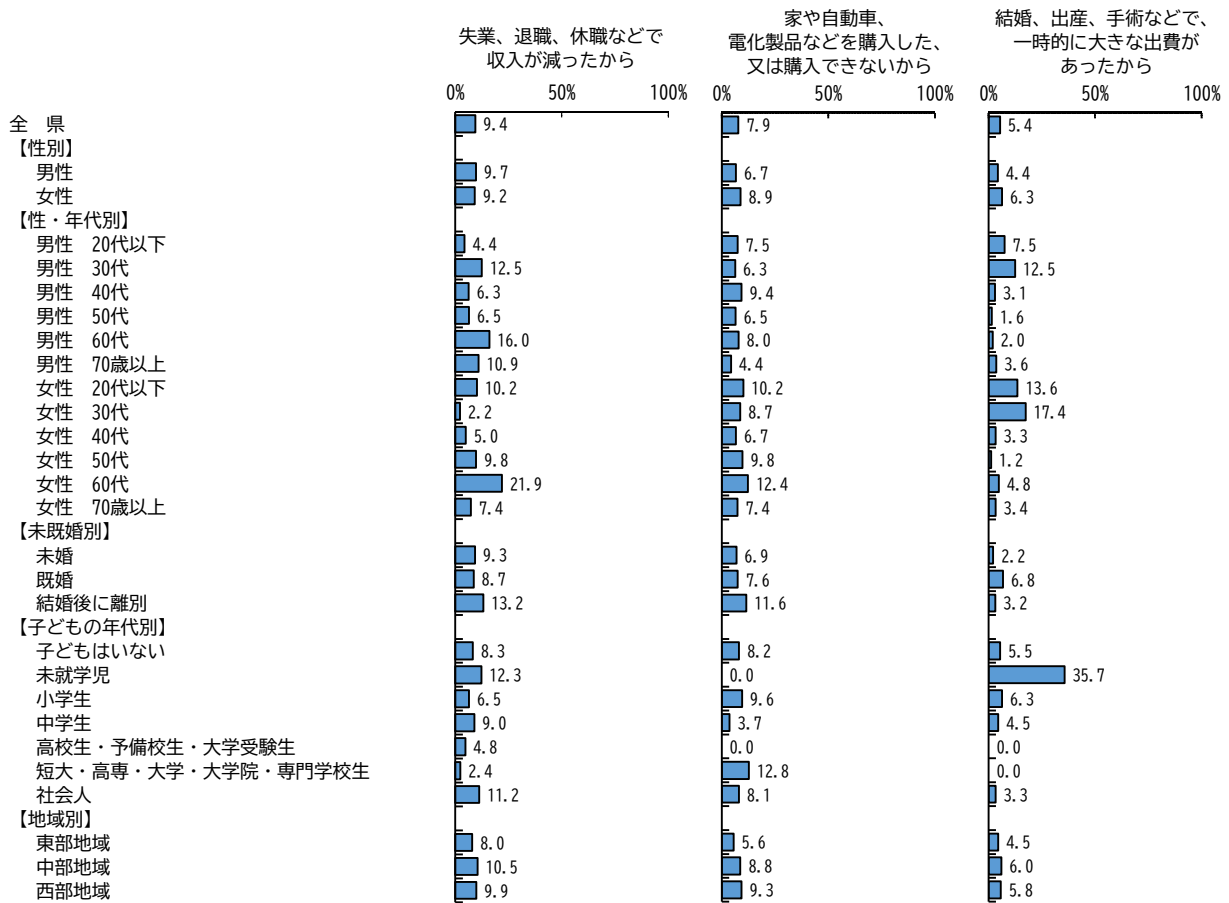
また、『中学生』は、「教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから」（34.3%）、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」（80.6%）が全体と比較して高くなっている。

『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「給料や収益が増えない、又は減ったから」、「教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから」が全体と比較して高くなっている。

地域別では、大きな差はみられない。

【 図1-6 暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由 性別、性・年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域別 】





【 表 1-1 暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由 性別、性・年代別 】

		1位	2位	3位	4位	5位
全県		毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 74.5	給料や収益が増えない、 又は減ったから 47.2	預貯金が増えない、 又は減ったから 38.4	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 34.4	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 14.7
性別	男性	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 70.1	給料や収益が増えない、 又は減ったから 47.4	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 40.2	預貯金が増えない、 又は減ったから 39.1	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 14.9
	女性	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 78.4	給料や収益が増えない、 又は減ったから 47.0	預貯金が増えない、 又は減ったから 37.9	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 29.1	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 14.4
性・年代別 (男性)	20代以下	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 68.5	給料や収益が増えない、 又は減ったから 38.4	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 30.2	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 20.1	預貯金が増えない、 又は減ったから 11.3
	30代	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 68.8	給料や収益が増えない、 又は減ったから 53.1	預貯金が増えない、 又は減ったから 43.8	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 40.6	結婚、出産、手術などで、 一時的に大きな出費が あったから 失業、退職、休職などで 収入が減ったから 12.5
	40代	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 68.8	給料や収益が増えない、 又は減ったから 60.9	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 46.9	預貯金が増えない、 又は減ったから 32.8	教育費や学生の子どもへの 仕送りなどが増えたから 28.1
	50代	給料や収益が増えない、 又は減ったから 71.0	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 54.8	預貯金が増えない、 又は減ったから 50.0	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 30.6	教育費や学生の子どもへの 仕送りなどが増えたから 25.8
	60代	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 61.0	給料や収益が増えない、 又は減ったから 51.0	預貯金が増えない、 又は減ったから 45.0	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 41.0	失業、退職、休職などで 収入が減ったから 16.0
	70歳以上	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 83.9	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 43.8	預貯金が増えない、 又は減ったから 43.1	給料や収益が増えない、 又は減ったから 27.7	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 21.2
	70歳以上	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 85.8	預貯金が増えない、 又は減ったから 47.3	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 31.8	給料や収益が増えない、 又は減ったから 27.0	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 17.6
性・年代別 (女性)	20代以下	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 58.2	給料や収益が増えない、 又は減ったから 55.4	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 41.2	預貯金が増えない、 又は減ったから 23.7	結婚、出産、手術などで、 一時的に大きな出費が あったから 13.6
	30代	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 80.4	給料や収益が増えない、 又は減ったから 60.9	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 39.1	預貯金が増えない、 又は減ったから 32.6	結婚、出産、手術などで、 一時的に大きな出費が あったから 17.4
	40代	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 83.3	給料や収益が増えない、 又は減ったから 51.7	教育費や学生の子どもへの 仕送りなどが増えたから 36.7	預貯金が増えない、 又は減ったから 28.3	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 15.0
	50代	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 74.4	給料や収益が増えない、 又は減ったから 56.1	預貯金が増えない、 又は減ったから 34.1	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 23.2	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 22.0
	60代	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 76.2	給料や収益が増えない、 又は減ったから 52.4	預貯金が増えない、 又は減ったから 48.6	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 27.6	失業、退職、休職などで 収入が減ったから 21.9
	70歳以上	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 85.8	預貯金が増えない、 又は減ったから 47.3	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 31.8	給料や収益が増えない、 又は減ったから 27.0	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 17.6

(注1) は全県よりも10ポイント以上高いものである。

【 表 1-2 暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由 子どもの年代別、周辺地域別、地域別 】

		1位	2位	3位	4位	5位
全県		毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 74.5	給料や収益が増えない、 又は減ったから 47.2	預貯金が増えない、 又は減ったから 38.4	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 34.4	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 14.7
子どもの年代 (長子年代)	子どもはいない	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 71.9	給料や収益が増えない、 又は減ったから 51.8	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 38.6	預貯金が増えない、 又は減ったから 32.9	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 13.6
	未就学児 (小学校入学前)	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 83.5	給料や収益が増えない、 又は減ったから 47.2	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 36.3	結婚、出産、手術などで、 一時的に大きな出費が あったから 35.7	預貯金が増えない、 又は減ったから 19.7
	小学生	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 77.6	給料や収益が増えない、 又は減ったから 46.5	預貯金が増えない、 又は減ったから 36.1	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 30.7	教育費や学生の子どもへの 仕送りなどが増えたから 21.4
	中学生	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 80.6	給料や収益が増えない、 又は減ったから 45.4	教育費や学生の子どもへの 仕送りなどが増えたから 34.3	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 33.6	預貯金が増えない、 又は減ったから 28.4
	高校生・ 予備校生・ 大学受験生	給料や収益が増えない、 又は減ったから 68.8	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 63.7	教育費や学生の子どもへの 仕送りなどが増えたから 37.3	預貯金が増えない、 又は減ったから 32.5	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 26.8
	短大・高専・ 大学・大学院・ 専門学校生	教育費や学生の子どもへの 仕送りなどが増えたから 87.2	給料や収益が増えない、 又は減ったから 61.5	預貯金が増えない、 又は減ったから 44.9	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 39.5	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 15.2
	社会人 (未就業を含む)	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 78.1	給料や収益が増えない、 又は減ったから 43.2	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 35.1	家族の病気、介護などで 出費が増えた、又は減らない から 18.0	失業、退職、休職などで 収入が減ったから 11.2
周辺地域	住宅地域	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 73.5	給料や収益が増えない、 又は減ったから 47.5	預貯金が増えない、 又は減ったから 37.5	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 34.2	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 13.5
	商業地域	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 72.2	給料や収益が増えない、 又は減ったから 38.7	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 35.0	失業、退職、休職などで 収入が減ったから 13.4	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 6.7
	工業地域	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 67.1	給料や収益が増えない、 又は減ったから 48.5	預貯金が増えない、 又は減ったから 41.1	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 35.2	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 30.5
	農漁業地域	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 80.3	給料や収益が増えない、 又は減ったから 48.9	預貯金が増えない、 又は減ったから 44.9	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 36.1	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 16.7
	山間地域	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 81.0	給料や収益が増えない、 又は減ったから 45.5	預貯金が増えない、 又は減ったから 38.4	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 32.6	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 20.8
	その他	対象者が1名のため、記載を省略しています				
地域	東部地域	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 72.4	給料や収益が増えない、 又は減ったから 47.0	預貯金が増えない、 又は減ったから 41.0	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 33.5	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 16.7
	中部地域	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 73.5	給料や収益が増えない、 又は減ったから 43.4	預貯金が増えない、 又は減ったから 36.7	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 34.6	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 14.1
	西部地域	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 77.5	給料や収益が増えない、 又は減ったから 50.9	預貯金が増えない、 又は減ったから 37.2	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 34.8	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 13.4
	静岡市	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 76.9	給料や収益が増えない、 又は減ったから 40.2	預貯金が増えない、 又は減ったから 34.3	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 33.8	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 12.5
	浜松市	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 77.3	給料や収益が増えない、 又は減ったから 51.8	預貯金が増えない、 又は減ったから 38.7	税金や保険料の支払いが 減らない、又は増えたから 34.0	家族の病気、介護などで 出費が増えた、 又は減らないから 13.5

(注1) は全県よりも10ポイント以上高いものである。

(注2) 地域内の「中部地域」は静岡市を、「西部地域」は浜松市を、それぞれ含めた数字である。

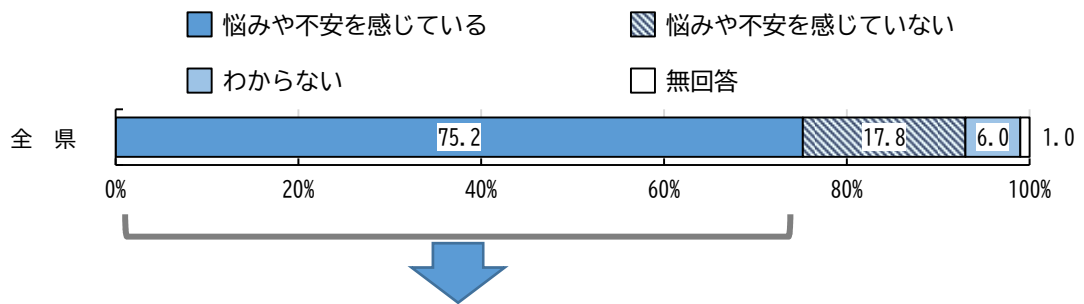
2 日常生活の悩みや不安

—— 「悩みや不安を感じている」人が75.2%

その内容は1位「自分や家族の健康」、2位「今後の生活費の見通し」 ——

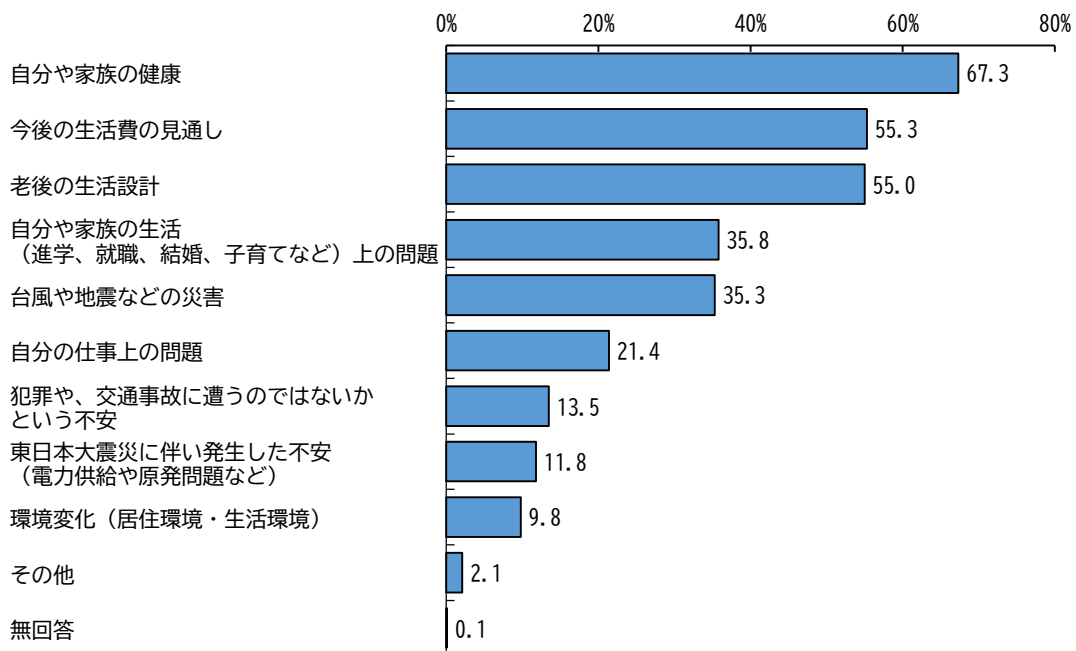
Q2 あなたは、日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも特に悩みや不安を感じていませんか。(○は1つ)

【 日常生活の悩みや不安の有無 】



SQ 悩みや不安を感じていることは、どのようなことですか。(○はいくつでも)

【 悩みや不安の内容 】



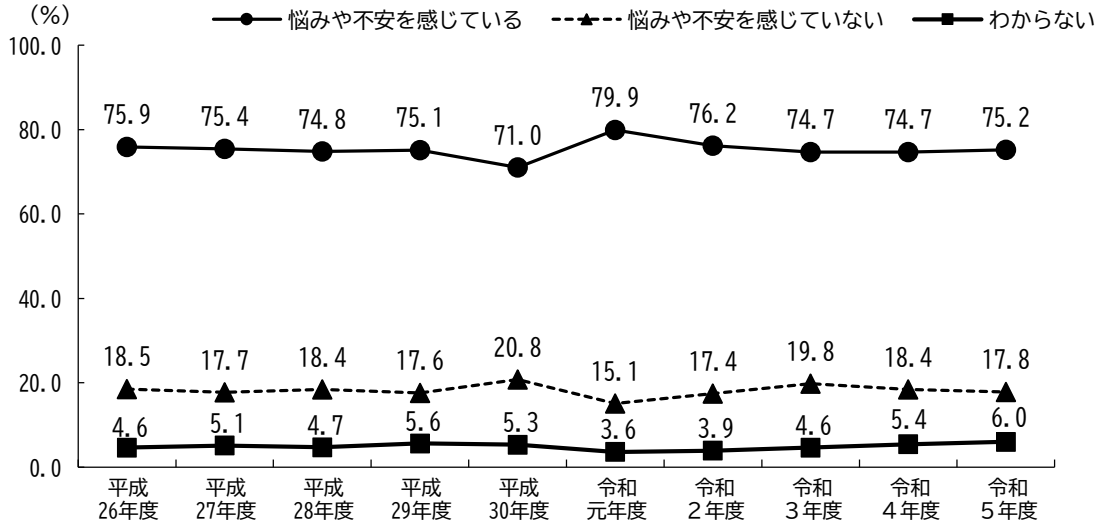
(1) 日常生活の悩みや不安の有無

日常生活の悩みや不安の有無については、「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合が75.2%と最も高く、「悩みや不安を感じていない」は17.8%だった。「わからない」は6.0%となっている。

[過去の調査との比較] (図1-7)

平成26年度以降の推移でみると、「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合は、平成26年度以降においては7割以上で推移している。今年度(75.2%)は前年度(74.7%)より0.5ポイント高くなっている。

【 図1-7 日常生活の悩みや不安の有無 経年比較 】



[属性による比較] (図1-8)

性別、地域別では、大きな差はみられない。

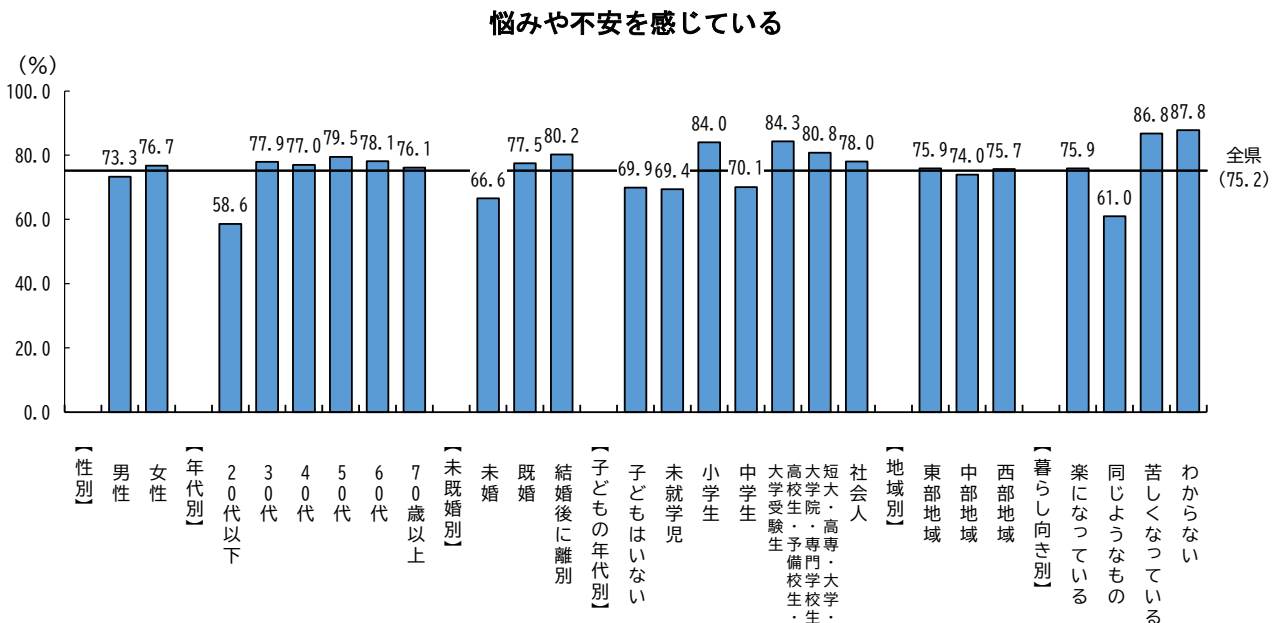
年代別でみると、『20代以下』は、「悩みや不安を感じている」(58.6%)が全体と比較して低くなっている。

未既婚別でみると、『結婚後に離別』は、「悩みや不安を感じている」(80.2%)が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『小学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「悩みや不安を感じている」が全体と比較して高くなっている。

前問の暮らし向き別でみると、「悩みや不安を感じている」は『苦しくなっている』(86.8%)において全体と比較して高くなっている。

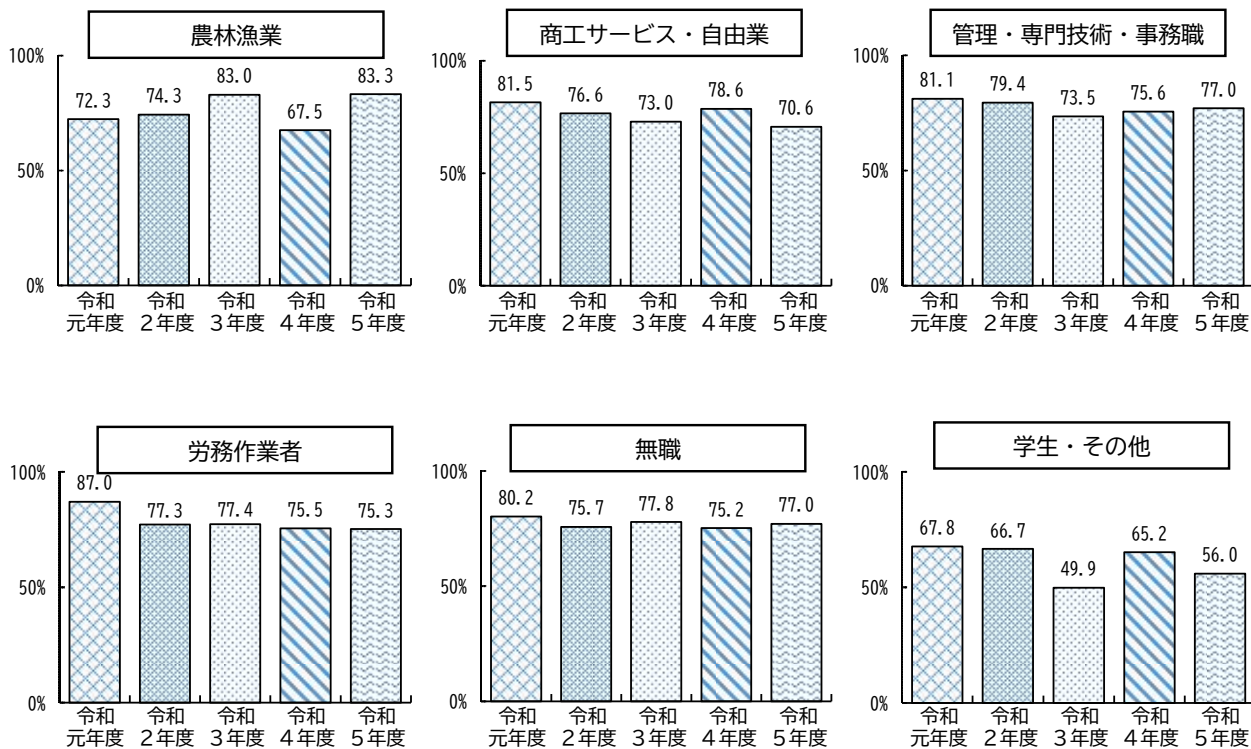
【 図1-8 日常生活の悩みや不安の有無 性別、年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域別、暮らし向き別 】



[本人具体的職業別 経年比較] (図1-9)

「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合について、本人具体的職業別に令和元年度以降の推移をみると、『農林漁業』において83.3%と前年度より15.8ポイント増加し、『学生・その他』において56.0%と前年度より9.2ポイント減少している。

【 図1-9 日常生活の悩みや不安の有無 本人具体的職業別 経年比較 】



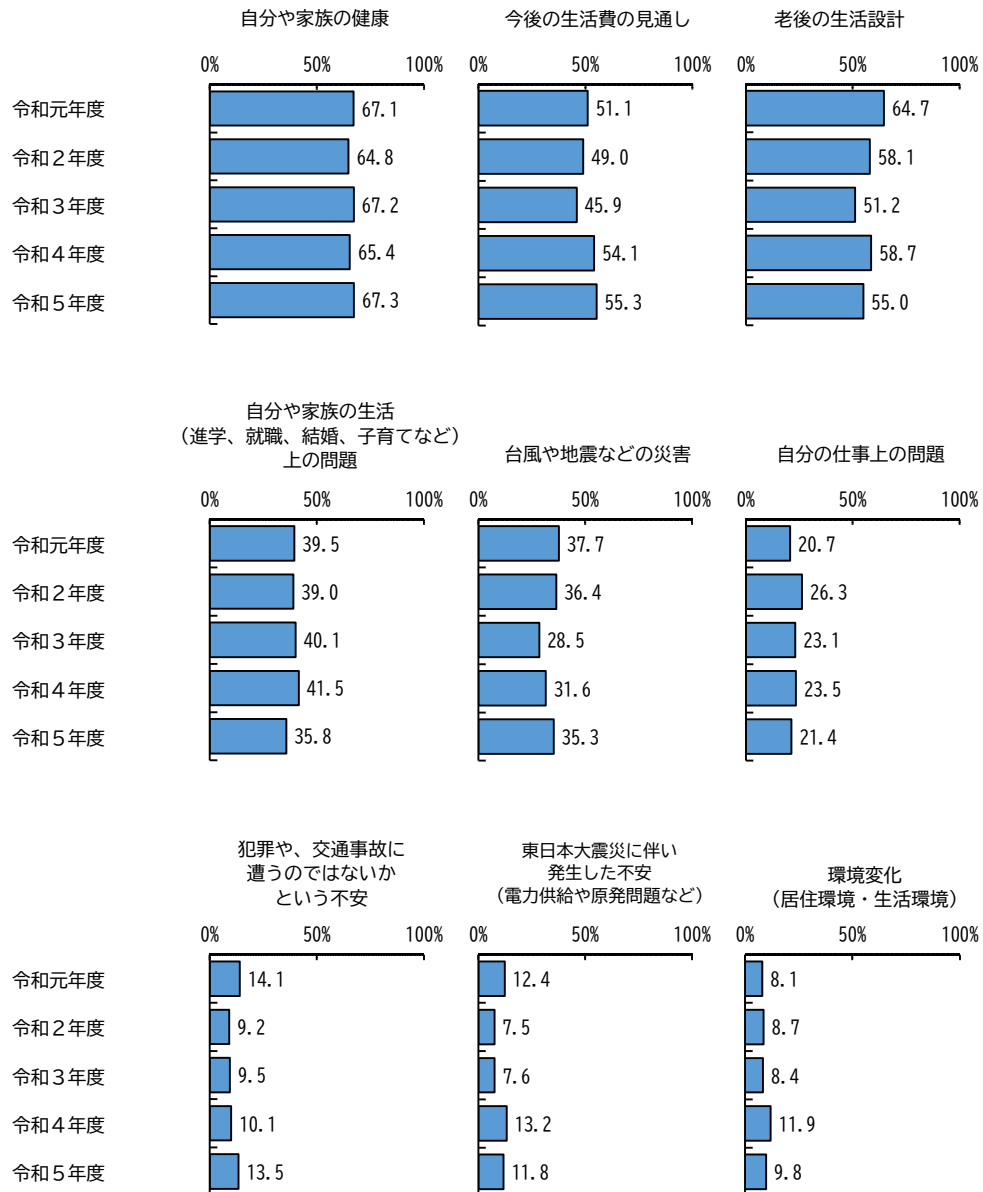
(2) 悩みや不安の内容

悩みや不安の内容では、「自分や家族の健康」(67.3%)が最も多く、以下「今後の生活費の見通し」(55.3%)、「老後の生活設計」(55.0%)、「自分や家族の生活(進学、就職、結婚、子育てなど)上の問題」(35.8%)、「台風や地震などの災害」(35.3%)となっている。

[過去の調査との比較] (図1-10)

令和元年度以降の推移では、大きな差はみられない。

【 図1-10 悩みや不安の内容 経年比較 】



【属性による比較】（図1-11、表1-3）

性別でみると、女性は、「台風や地震などの災害」（40.8%）が全体と比較して高くなっている。
性・年代別でみると、『男性20代以下』は、「自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題」（52.7%）、「環境変化（居住環境・生活環境）」（23.4%）が全体と比較して高くなっている。

また、『男性30代』、『女性40代』は、「自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題」、「自分の仕事上の問題」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性40代』、『男性50代』は、「自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題」、「今後の生活費の見通し」、「老後の生活設計」、「自分の仕事上の問題」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性60代』は、「老後の生活設計」（65.7%）が全体と比較して高くなっている。

また、『男性70歳以上』、『女性70歳以上』は、「自分や家族の健康」が全体と比較して高くなっている。

また、『女性20代以下』は、「自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題」（51.2%）、「自分の仕事上の問題」（50.8%）が全体と比較して高くなっている。

また、『女性30代』は、「自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題」（62.5%）、「犯罪や、交通事故に遭うのではないかという不安」（18.8%）が全体と比較して高くなっている。

また、『女性60代』は、「自分や家族の健康」（77.2%）、「老後の生活設計」（66.2%）、「台風や地震などの災害」（45.5%）、「環境変化（居住環境・生活環境）」（17.2%）が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『子どもはいない』は、「自分の仕事上の問題」（31.1%）が全体と比較して高くなっている。

また、『未就学児』、『中学生』は、「自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題」、「今後の生活費の見通し」、「環境変化（居住環境・生活環境）」が全体と比較して高くなっている。

また、『小学生』は、「自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題」（57.9%）、「今後の生活費の見通し」（62.0%）、「老後の生活設計」（61.5%）、「台風や地震などの災害」（44.6%）、「犯罪や、交通事故に遭うのではないかという不安」（20.1%）が全体と比較して高くなっている。

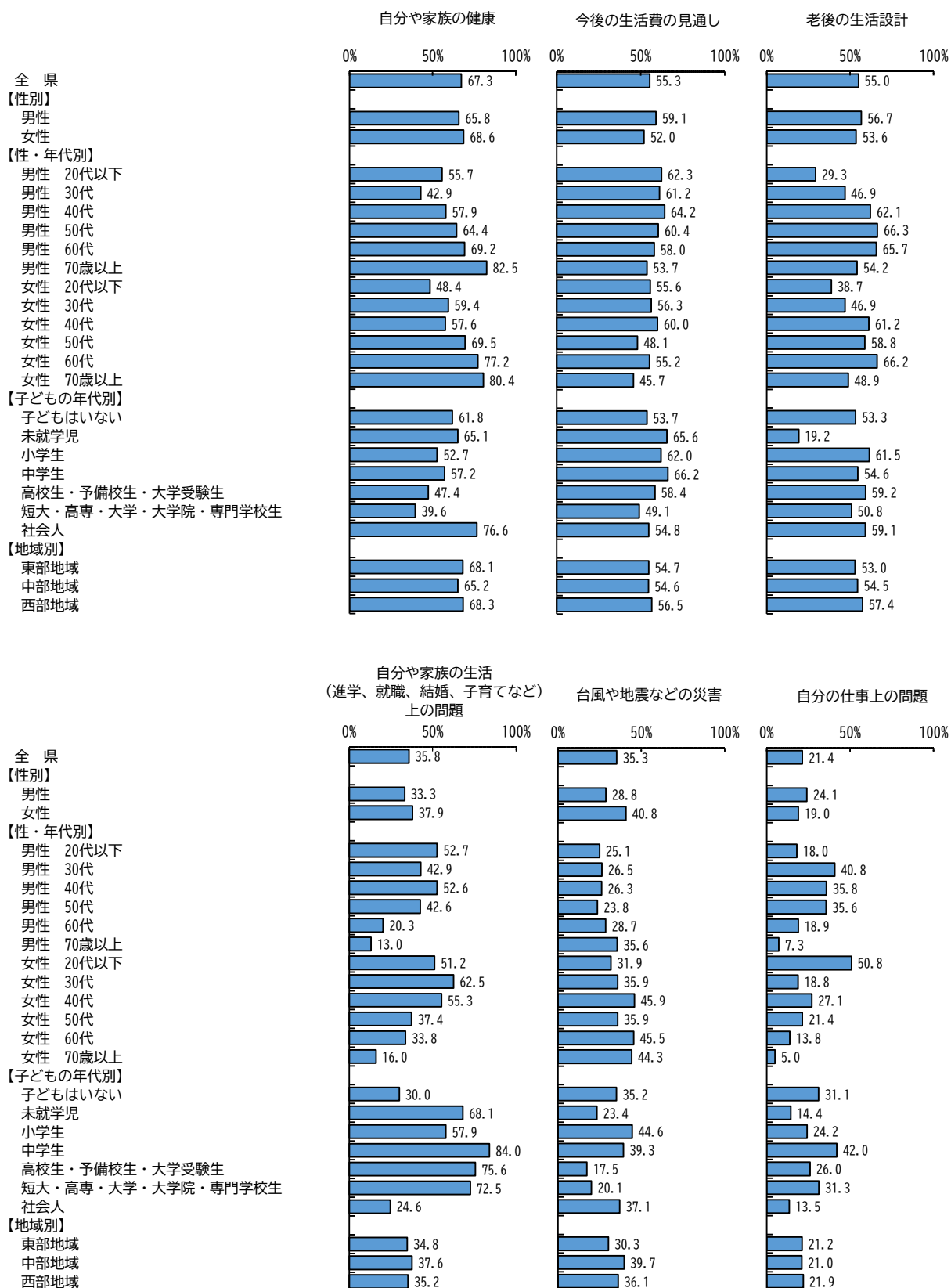
また、『高校生・予備校生・大学受験生』は、「自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題」（75.6%）が全体と比較して高くなっている。

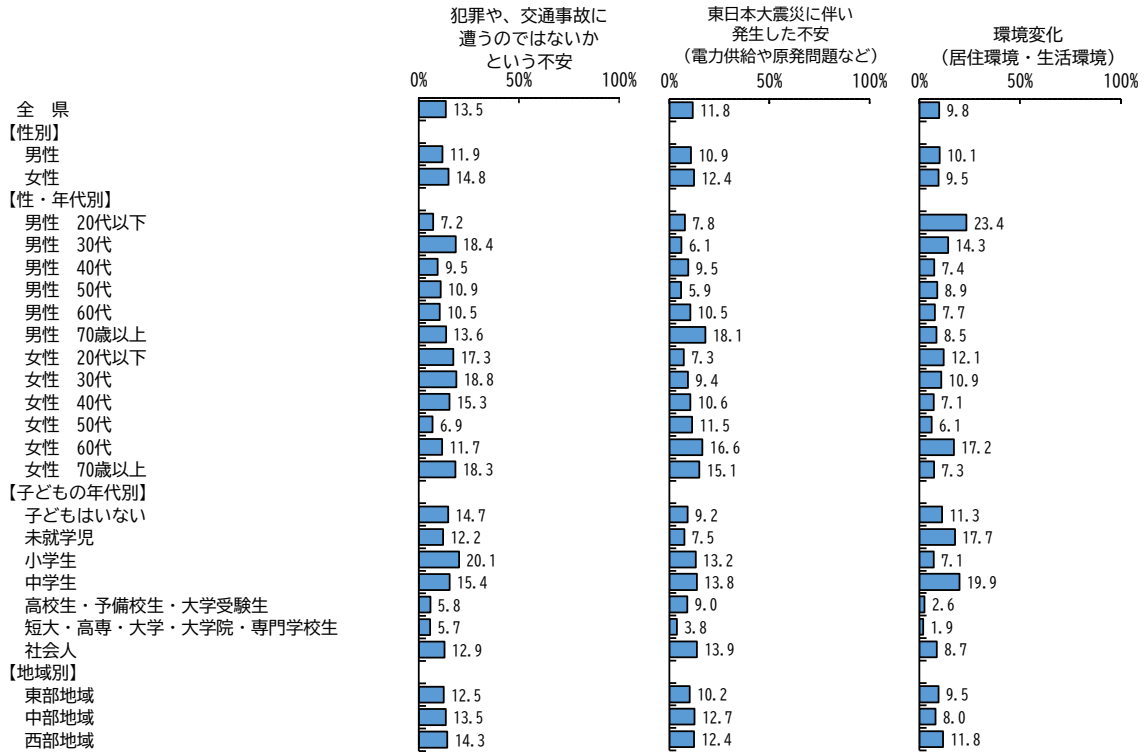
また、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題」（72.5%）、「自分の仕事上の問題」（31.3%）が全体と比較して高くなっている。

また、『社会人』は、「自分や家族の健康」（76.6%）が全体と比較して高くなっている。

地域別では、大きな差はみられない。

【 図 1-11 悩みや不安の内容 性別、性・年代別、子どもの年代別、地域別 】





【 表 1-3 悩みや不安の内容 性別、性・年代別、地域別 】

		1位	2位	3位	4位	5位
全県		自分や家族の健康 67.3	今後の生活費の見通し 55.3	老後の生活設計 55.0	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 35.8	台風や地震などの災害 35.3
性別	男性	自分や家族の健康 65.8	今後の生活費の見通し 59.1	老後の生活設計 56.7	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 33.3	台風や地震などの災害 28.8
	女性	自分や家族の健康 68.6	老後の生活設計 53.6	今後の生活費の見通し 52.0	台風や地震などの災害 40.8	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 37.9
性・年代別 (男性)	20代以下	今後の生活費の見通し 62.3	自分や家族の健康 55.7	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 52.7	老後の生活設計 29.3	台風や地震などの災害 25.1
	30代	今後の生活費の見通し 61.2	老後の生活設計 46.9	自分や家族の健康 42.9	自分の仕事上の問題 40.8	台風や地震などの災害 26.5
	40代	今後の生活費の見通し 64.2	老後の生活設計 62.1	自分や家族の健康 57.9	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 52.6	自分の仕事上の問題 35.8
	50代	老後の生活設計 66.3	自分や家族の健康 64.4	今後の生活費の見通し 60.4	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 42.6	自分の仕事上の問題 35.6
	60代	自分や家族の健康 69.2	老後の生活設計 65.7	今後の生活費の見通し 58.0	台風や地震などの災害 28.7	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 20.3
	70歳以上	自分や家族の健康 82.5	老後の生活設計 54.2	今後の生活費の見通し 53.7	台風や地震などの災害 35.6	東日本大震災に伴い発生した不安（電力供給や原発問題など） 18.1
	20代以下	今後の生活費の見通し 55.6	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 51.2	自分の仕事上の問題 50.8	自分や家族の健康 48.4	老後の生活設計 38.7
性・年代別 (女性)	30代	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 62.5	自分や家族の健康 59.4	今後の生活費の見通し 56.3	老後の生活設計 46.9	台風や地震などの災害 35.9
	40代	老後の生活設計 61.2	今後の生活費の見通し 60.0	自分や家族の健康 57.6	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 55.3	台風や地震などの災害 45.9
	50代	自分や家族の健康 69.5	老後の生活設計 58.8	今後の生活費の見通し 48.1	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 37.4	台風や地震などの災害 35.9
	60代	自分や家族の健康 77.2	老後の生活設計 66.2	今後の生活費の見通し 55.2	台風や地震などの災害 45.5	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 33.8
	70歳以上	自分や家族の健康 80.4	老後の生活設計 48.9	今後の生活費の見通し 45.7	台風や地震などの災害 44.3	犯罪や、交通事故に遭うのではないかと不安 18.3
	20代以下	自分や家族の健康 68.1	今後の生活費の見通し 54.7	老後の生活設計 53.0	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 34.8	台風や地震などの災害 30.3
地域	中部地域	自分や家族の健康 65.2	今後の生活費の見通し 54.6	老後の生活設計 54.5	台風や地震などの災害 39.7	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 37.6
	西部地域	自分や家族の健康 68.3	老後の生活設計 57.4	今後の生活費の見通し 56.5	台風や地震などの災害 36.1	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 35.2
	静岡市	自分や家族の健康 65.6	老後の生活設計 58.5	今後の生活費の見通し 53.2	台風や地震などの災害 40.4	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 39.2
	浜松市	自分や家族の健康 69.0	老後の生活設計 55.7	今後の生活費の見通し 54.1	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 36.1	台風や地震などの災害 31.8

(注1) は全県よりも10ポイント以上高いものである。

(注2) 地域内の「中部地域」は静岡市を、「西部地域」は浜松市を、それぞれ含めた数字である。

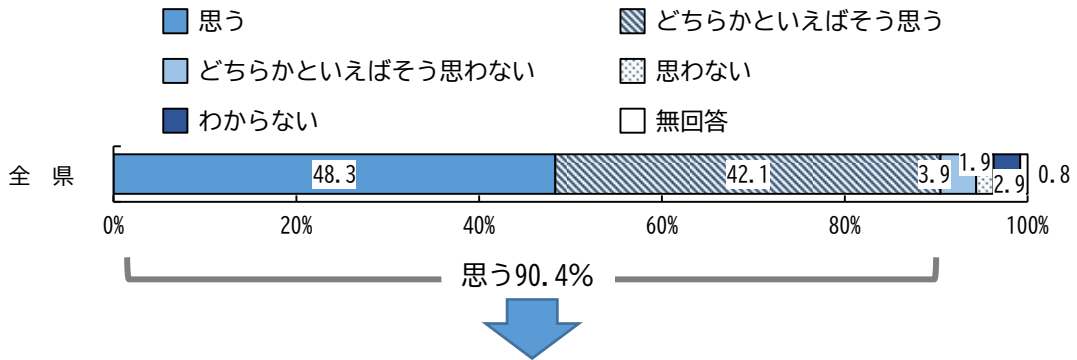
3 静岡県の住みよさ

— 住みよいところだと「思う」人は90.4%

その理由は「気候が温暖で、自然が豊かだから」が86.2%

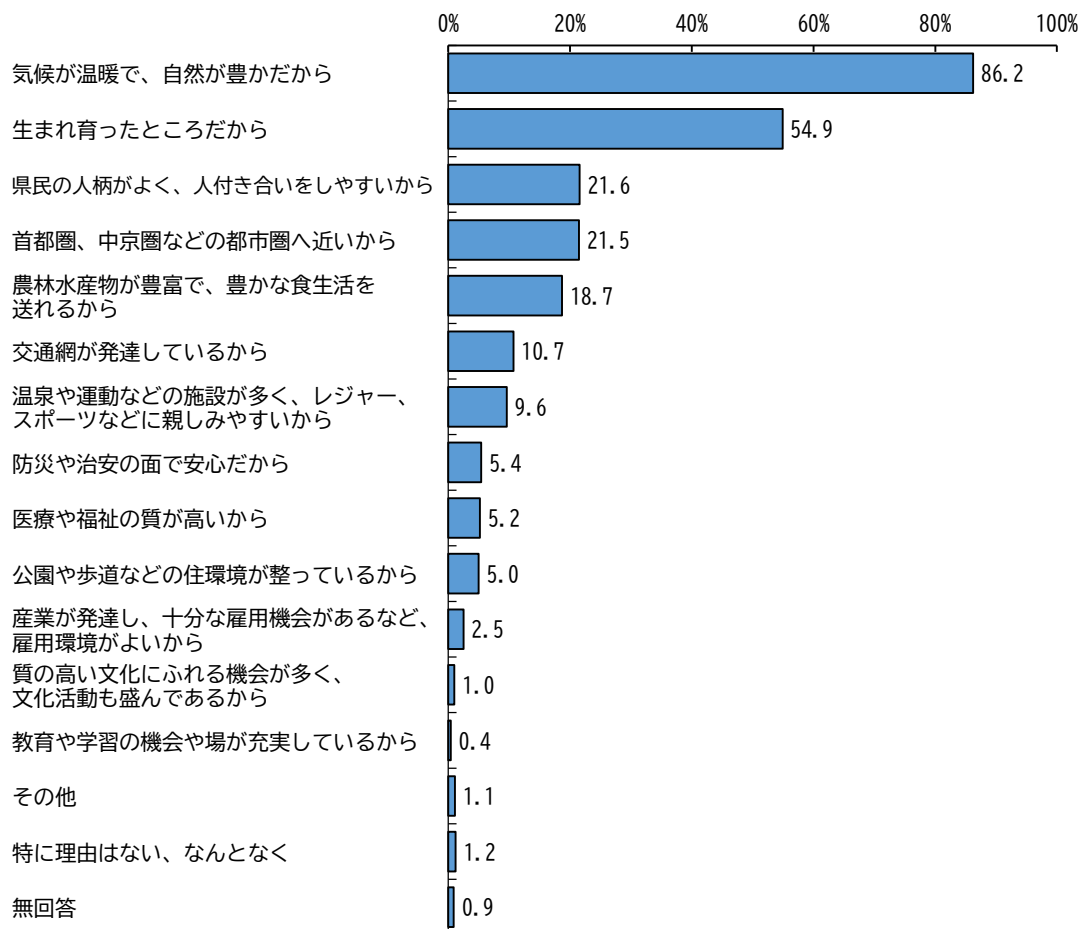
Q3 あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。(〇は1つ)

【 静岡県の住みよさ 】



SQ あなたが、静岡県が住みよいところだと思う理由はなんですか。(〇は3つまで)

【 静岡県が住みよいところだと思う理由 】



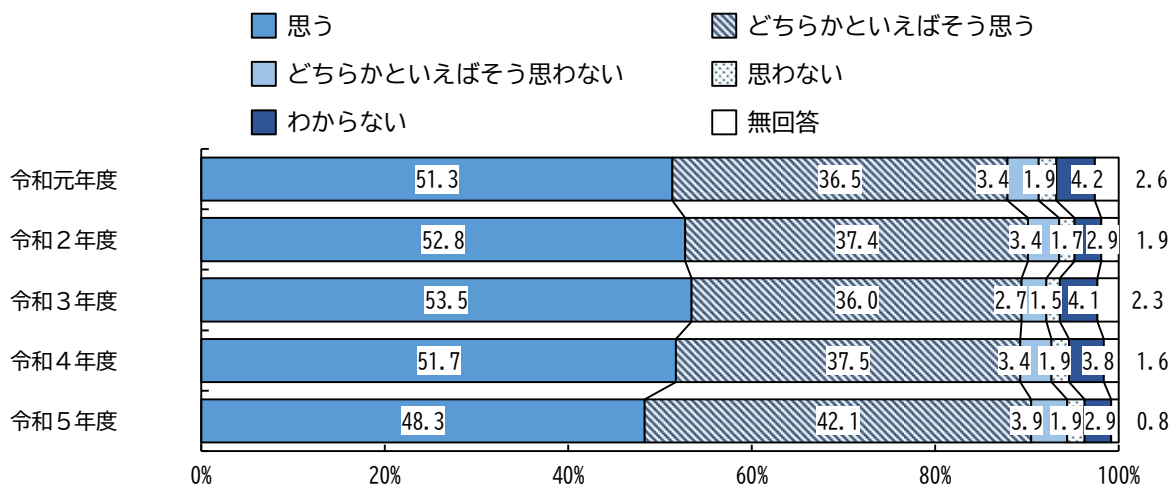
(1) 静岡県の住みよさ

静岡県は住みやすいところだと思うかについては、「思う」(48.3%)と「どちらかといえばそう思う」(42.1%)を合わせた“思う”が90.4%、「どちらかといえばそう思わない」(3.9%)と「思わない」(1.9%)を合わせた“思わない”が5.8%となっており、静岡県は住みよいところだと“思う”の方が圧倒的に高くなっている。

【過去の調査との比較】(図1-12)

令和元年度以降の推移でみると、「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“思う”の割合は毎年度9割前後で推移している。

【 図1-12 静岡県の住みよさ 経年比較 】



【属性による比較】(図1-13)

性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』は、「どちらかといえばそう思う」(53.0%)が全体と比較して高くなっている。

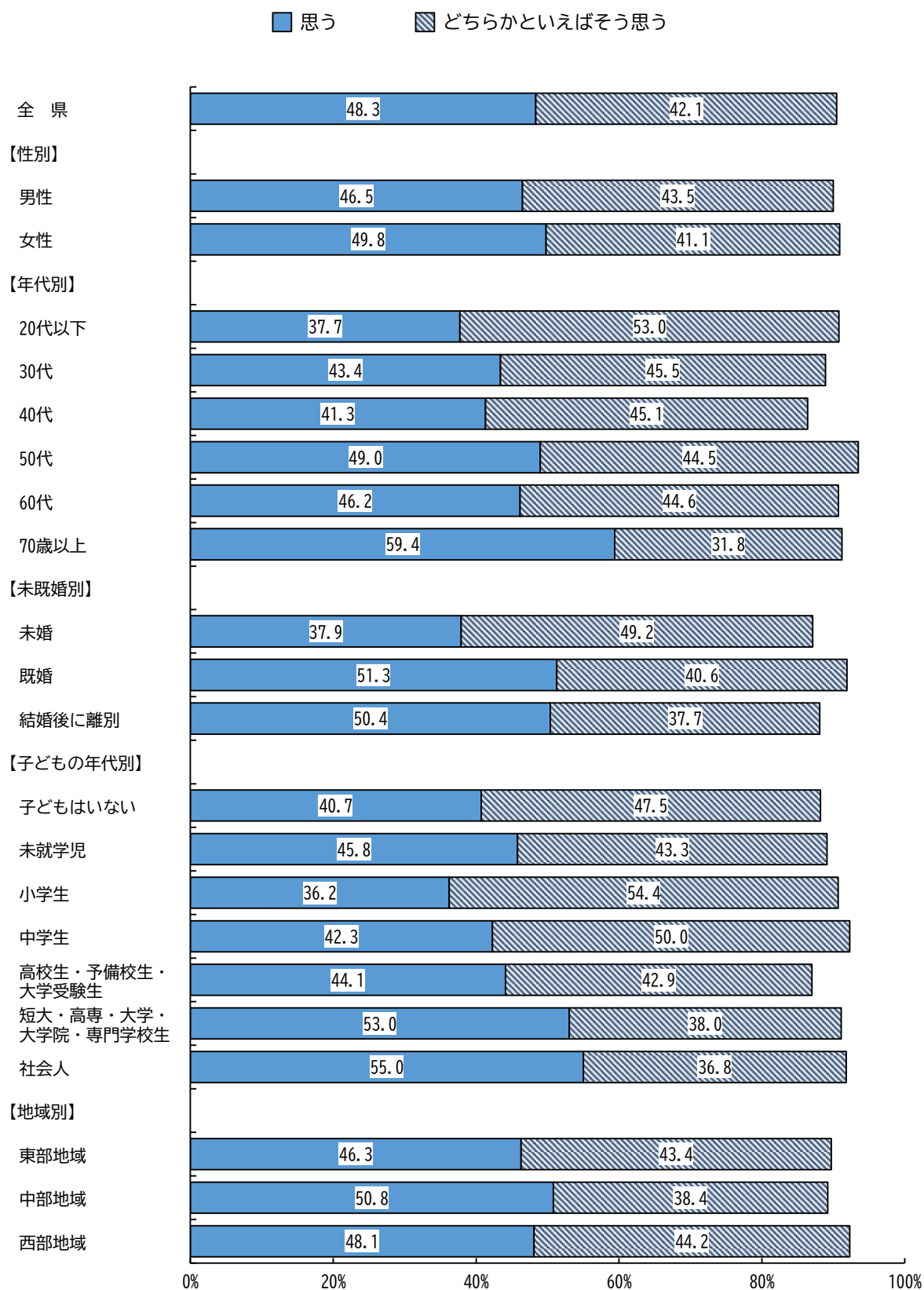
また、『70歳以上』は、「思う」(59.4%)が全体と比較して高くなっている。

未婚別でみると、『未婚』は、「どちらかといえばそう思う」(49.2%)が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『子どもはいない』、『小学生』、『中学生』は、「どちらかといえばそう思う」が全体と比較して高くなっている。

また、『社会人』は、「思う」(55.0%)が全体と比較して高くなっている。

【 図 1-13 静岡県の住みよさ 性別、年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域別 】



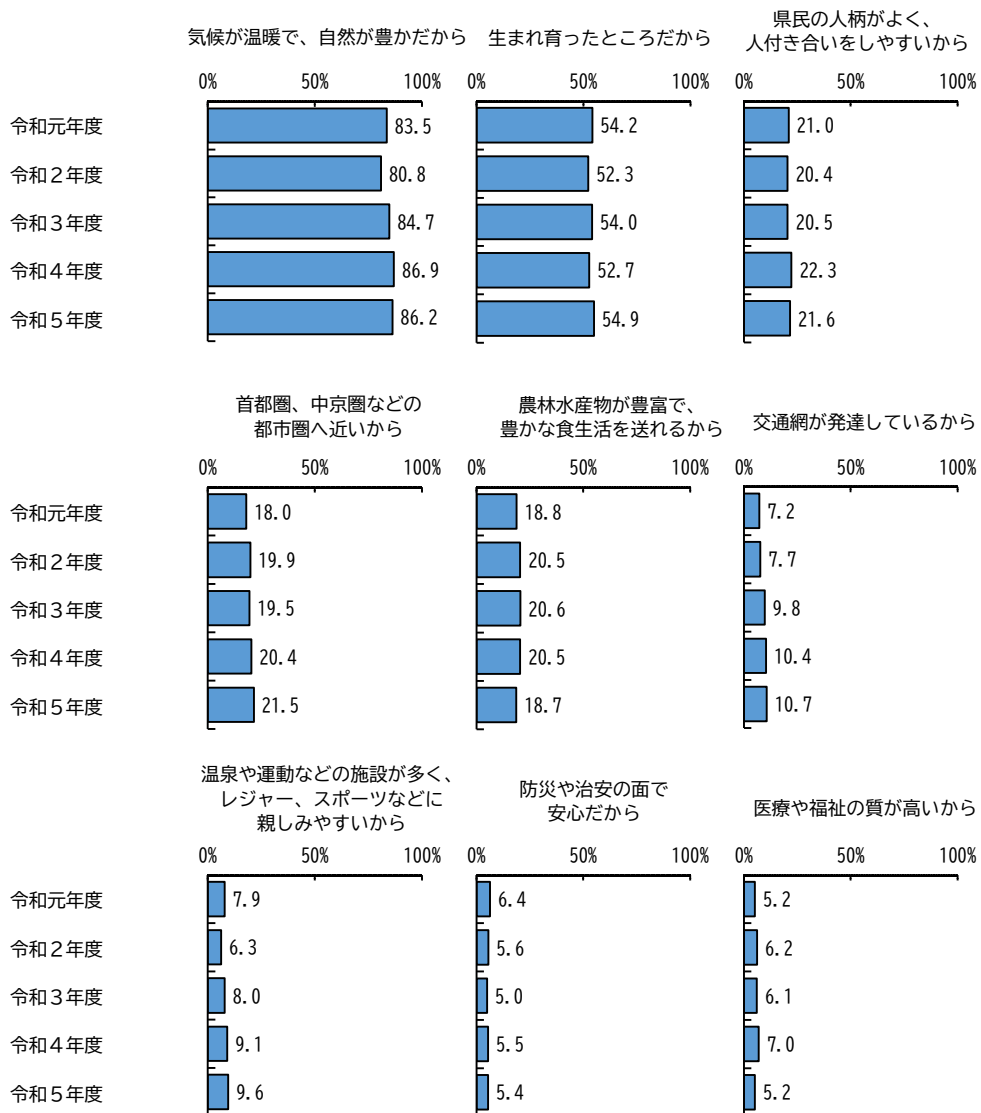
(2) 静岡県が住みよいところだと思う理由

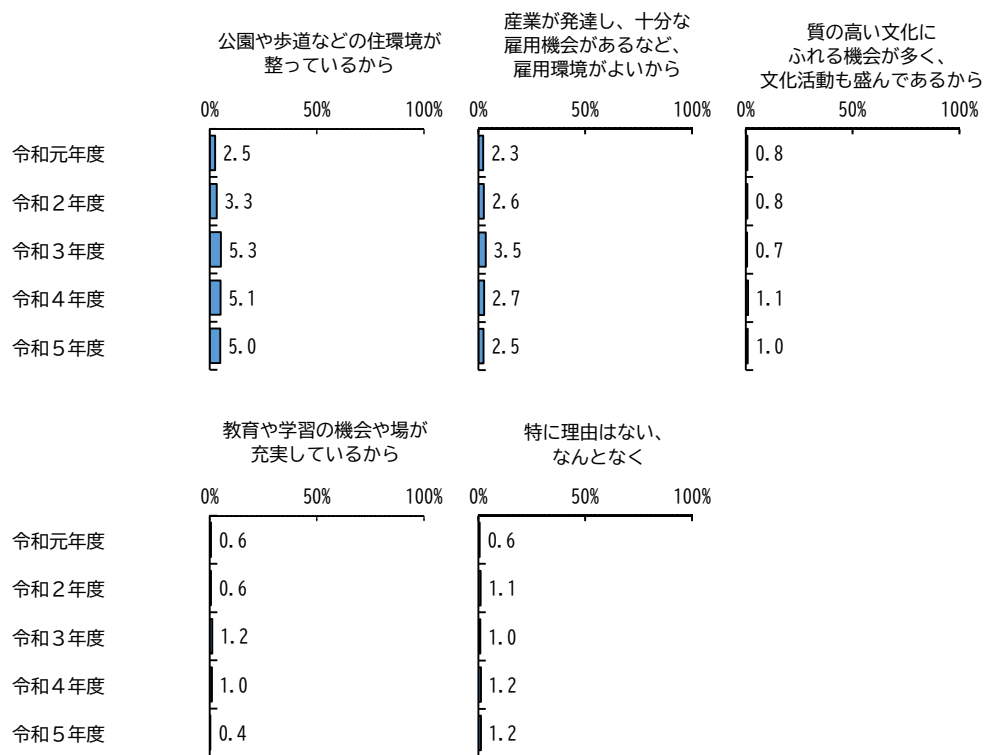
静岡県が住みよいところだと思う理由については、「気候が温暖で、自然が豊かだから」(86.2%)が最も多く、以下「生まれ育ったところだから」(54.9%)、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」(21.6%)、「首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから」(21.5%)、「農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから」(18.7%)となっている。

[過去の調査との比較] (図1-14)

令和元年度以降の推移では、大きな差はみられない。

【 図1-14 静岡県が住みよいところだと思う理由 経年比較 】





【属性による比較】（図1-15、表1-4、表1-5）

性別、地域別では、大きな差はみられない。

性・年代別でみると、『男性20代以下』、『男性30代』、『男性40代』、『女性20代以下』、『女性50代』は、「首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性60代』は、「農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから」（24.3%）が全体と比較して高くなっている。

また、『男性70歳以上』は、「気候が温暖で、自然が豊かだから」（92.6%）、「農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから」（24.0%）、「交通網が発達しているから」（18.4%）が全体と比較して高くなっている。

また、『女性40代』、『女性60代』は、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」が全体と比較して高くなっている。

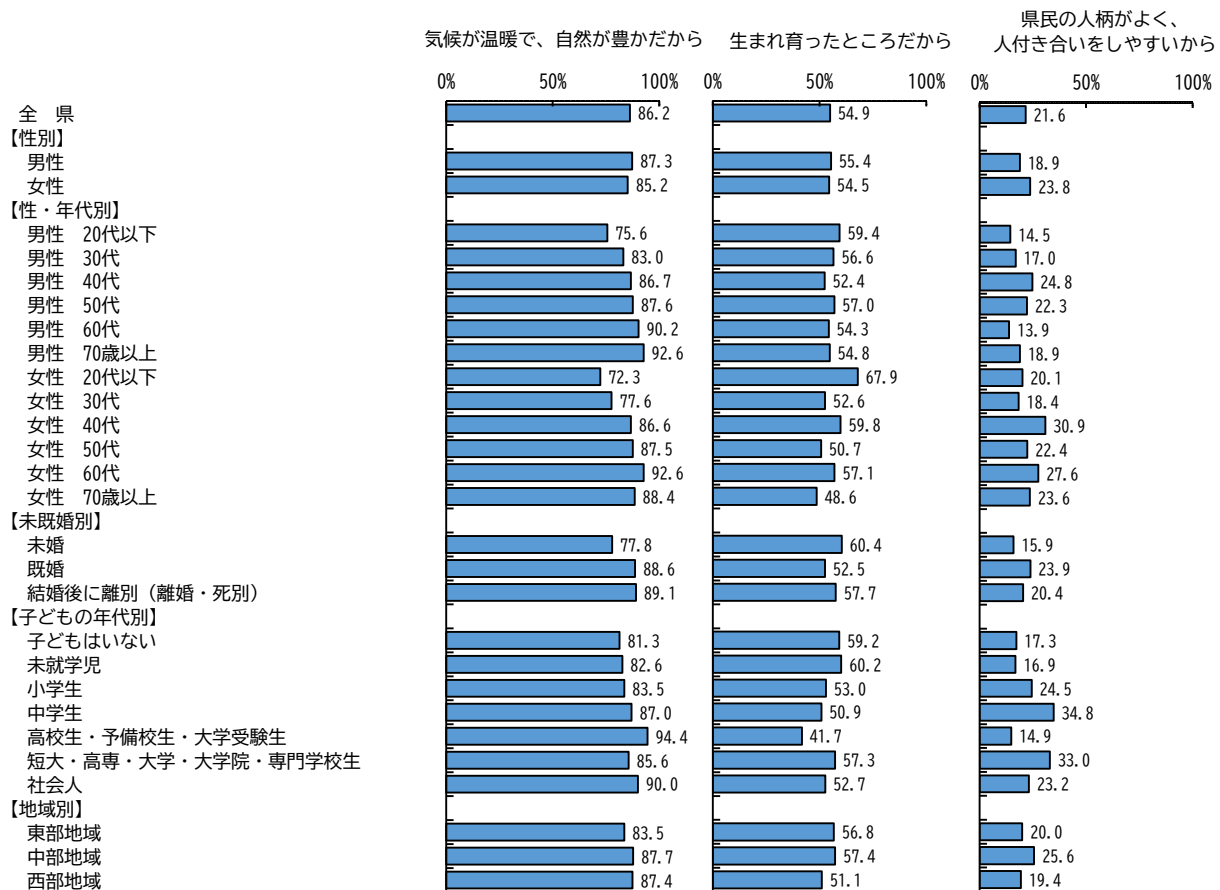
また、『女性70歳以上』は、「医療や福祉の質が高いから」（11.6%）が全体と比較して高くなっている。

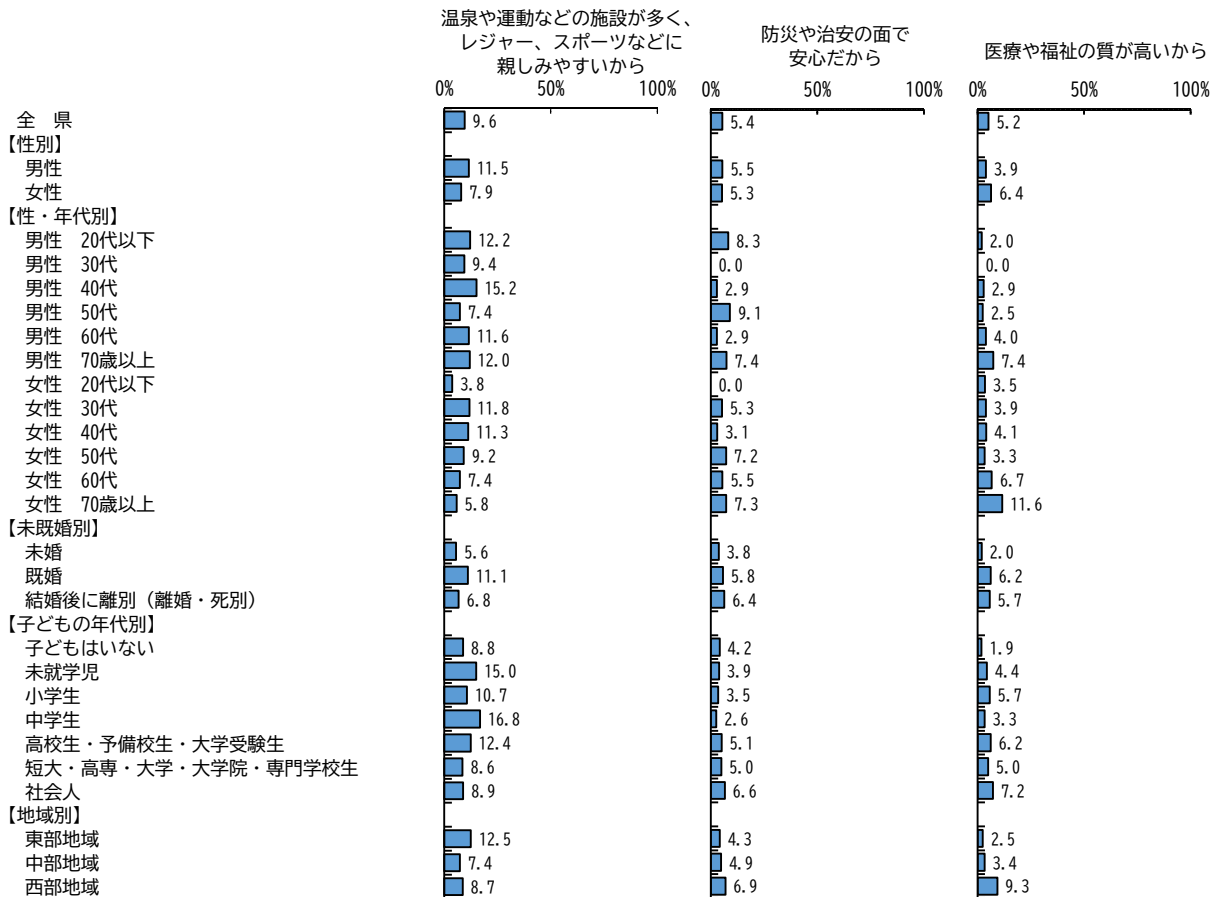
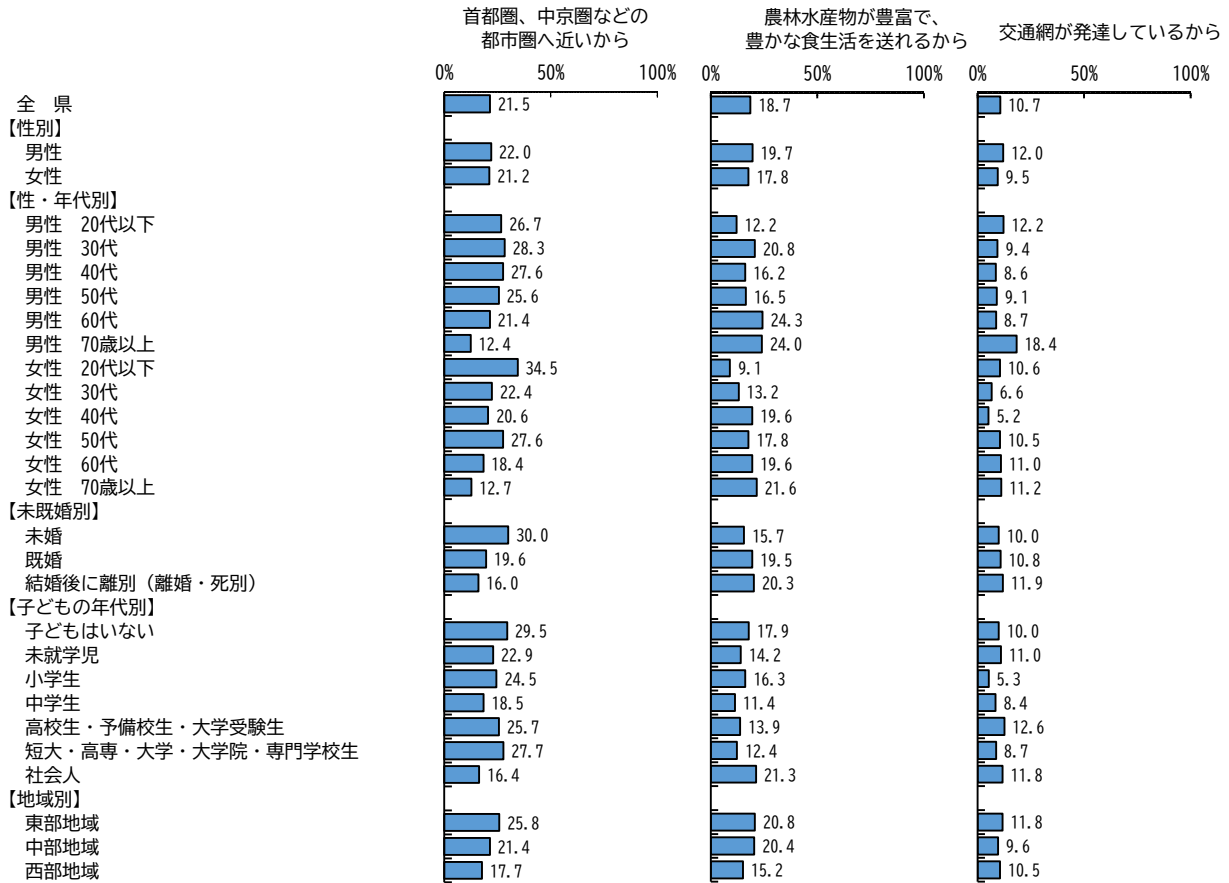
未婚別でみると、『未婚』は、「首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから」（30.0%）、「生まれ育ったところだから」（60.4%）が全体と比較して高くなっている。

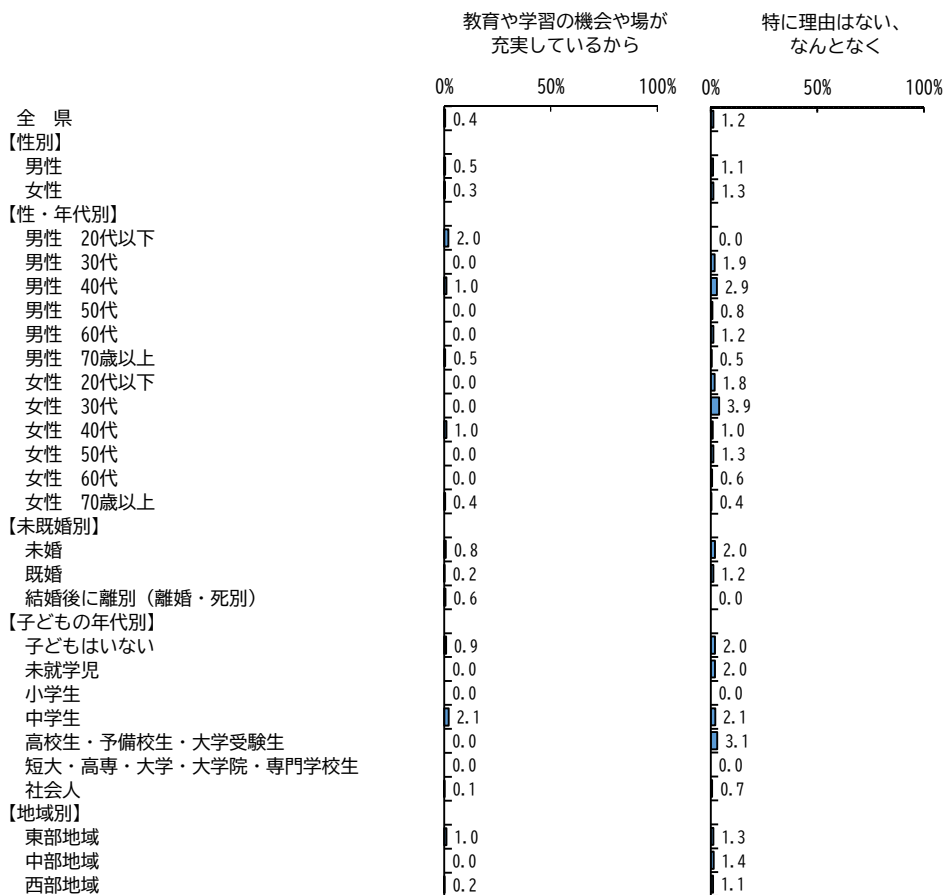
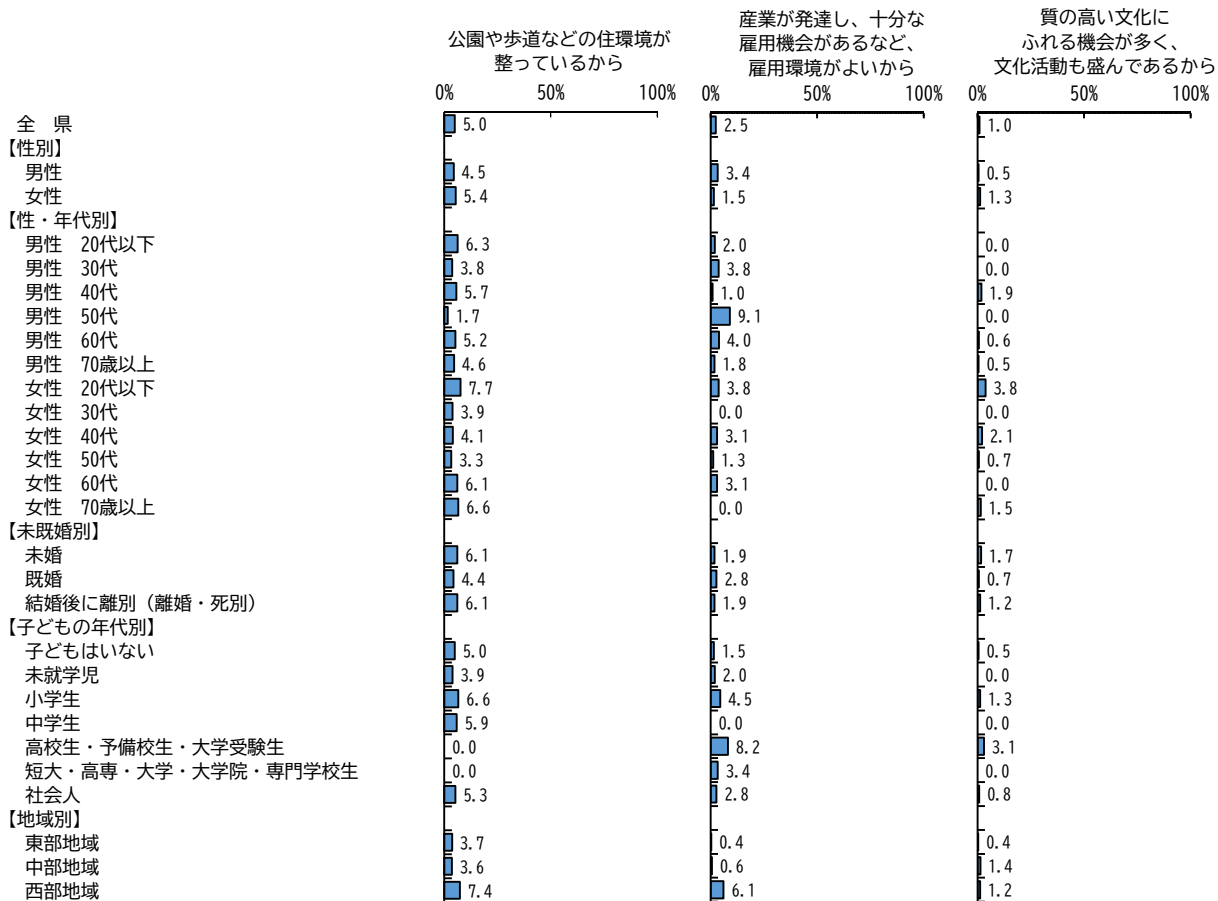
子どもの年代別でみると、『子どもはいない』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから」が全体と比較して高くなっている。

また、『未就学児』、『中学生』は、「温泉や運動などの施設が多く、レジャー、スポーツなどに親しみやすいから」が全体と比較して高くなっている。

【 図1-15 静岡県が住みよいところだと思う理由 性別、性・年代別、未婚別、子どもの年代別、地域別 】







【 表 1-4 静岡県が住みよいところだと思う理由 性別、性・年代別 】

		1位	2位	3位	4位	5位
全県		気候が温暖で、自然が豊かだから 86.2	生まれ育ったところだから 54.9	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 21.6	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 21.5	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 18.7
性別	男性	気候が温暖で、自然が豊かだから 87.3	生まれ育ったところだから 55.4	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 22.0	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 19.7	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 18.9
	女性	気候が温暖で、自然が豊かだから 85.2	生まれ育ったところだから 54.5	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 23.8	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 21.2	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 17.8
性・年代別 (男性)	20代以下	気候が温暖で、自然が豊かだから 75.6	生まれ育ったところだから 59.4	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 26.7	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 14.5	温泉や運動などの施設が多く、レジャー、スポーツなどに親しみやすいから 農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 交通網が発達しているから 12.2
	30代	気候が温暖で、自然が豊かだから 83.0	生まれ育ったところだから 56.6	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 28.3	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 20.8	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 17.0
	40代	気候が温暖で、自然が豊かだから 86.7	生まれ育ったところだから 52.4	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 27.6	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 24.8	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 16.2
	50代	気候が温暖で、自然が豊かだから 87.6	生まれ育ったところだから 57.0	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 25.6	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 22.3	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 16.5
	60代	気候が温暖で、自然が豊かだから 90.2	生まれ育ったところだから 54.3	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 24.3	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 21.4	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 13.9
	70歳以上	気候が温暖で、自然が豊かだから 92.6	生まれ育ったところだから 54.8	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 24.0	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 18.9	交通網が発達しているから 18.4
	20代以下	気候が温暖で、自然が豊かだから 72.3	生まれ育ったところだから 67.9	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 34.5	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 20.1	交通網が発達しているから 10.6
性・年代別 (女性)	30代	気候が温暖で、自然が豊かだから 77.6	生まれ育ったところだから 52.6	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 22.4	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 18.4	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 13.2
	40代	気候が温暖で、自然が豊かだから 86.6	生まれ育ったところだから 59.8	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 30.9	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 20.6	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 19.6
	50代	気候が温暖で、自然が豊かだから 87.5	生まれ育ったところだから 50.7	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 27.6	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 22.4	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 17.8
	60代	気候が温暖で、自然が豊かだから 92.6	生まれ育ったところだから 57.1	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 27.6	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 19.6	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 18.4
	70歳以上	気候が温暖で、自然が豊かだから 88.4	生まれ育ったところだから 48.6	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 23.6	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 21.6	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 12.7

(注1) は全県よりも10ポイント以上高いものである。

【 表 1-5 静岡県が住みよいところだと思う理由 子どもの年代別、周辺地域別、地域別 】

		1位	2位	3位	4位	5位
全県		気候が温暖で、自然が豊かだから 86.2	生まれ育ったところだから 54.9	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 21.6	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 21.5	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 18.7
子どもの年代（長子年代）	子どもはいない	気候が温暖で、自然が豊かだから 81.3	生まれ育ったところだから 59.2	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 29.5	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 17.9	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 17.3
	未就学児（小学校入学前）	気候が温暖で、自然が豊かだから 82.6	生まれ育ったところだから 60.2	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 22.9	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 16.9	温泉や運動などの施設が多く、レジャー、スポーツなどに親しみやすいから 15.0
	小学生	気候が温暖で、自然が豊かだから 83.5	生まれ育ったところだから 53.0	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 24.5	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 16.3	温泉や運動などの施設が多く、レジャー、スポーツなどに親しみやすいから 10.7
	中学生	気候が温暖で、自然が豊かだから 87.0	生まれ育ったところだから 50.9	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 34.8	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 18.5	温泉や運動などの施設が多く、レジャー、スポーツなどに親しみやすいから 16.8
	高校生・予備校生・大学受験生	気候が温暖で、自然が豊かだから 94.4	生まれ育ったところだから 41.7	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 25.7	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 14.9	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 13.9
	短大・高専・大学・大学院・専門学校生	気候が温暖で、自然が豊かだから 85.6	生まれ育ったところだから 57.3	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 33.0	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 27.7	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 12.4
	社会人（未就業を含む）	気候が温暖で、自然が豊かだから 90.0	生まれ育ったところだから 52.7	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 23.2	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 21.3	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 16.4
周辺地域	住宅地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 87.6	生まれ育ったところだから 54.4	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 22.1	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 21.1	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 17.9
	商業地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 88.6	生まれ育ったところだから 45.9	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 27.3	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 26.2	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 23.9
	工業地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 83.0	生まれ育ったところだから 63.8	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 24.5	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 24.2	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 14.8
	農漁業地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 84.4	生まれ育ったところだから 58.9	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 25.3	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 19.2	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 17.9
	山間地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 73.7	生まれ育ったところだから 59.2	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 22.3	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 18.6	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 17.2
	その他	気候が温暖で、自然が豊かだから 68.0	生まれ育ったところだから 35.9	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 交通網が発達しているから 首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 16.0		
地域	東部地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 83.5	生まれ育ったところだから 56.8	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 25.8	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 20.8	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 20.0
	中部地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 87.7	生まれ育ったところだから 57.4	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 25.6	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 21.4	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 20.4
	西部地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 87.4	生まれ育ったところだから 51.1	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 19.4	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 17.7	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 15.2
	静岡市	気候が温暖で、自然が豊かだから 89.6	生まれ育ったところだから 59.2	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 27.5	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 22.9	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 19.6
	浜松市	気候が温暖で、自然が豊かだから 87.4	生まれ育ったところだから 50.7	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 20.6	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 18.3	医療や福祉の質が高いから 13.0

(注1) は全県よりも10ポイント以上高いものである。

(注2) 地域内の「中部地域」は静岡市を、「西部地域」は浜松市を、それぞれ含めた数字である。

第2章 県の仕事に対する関心

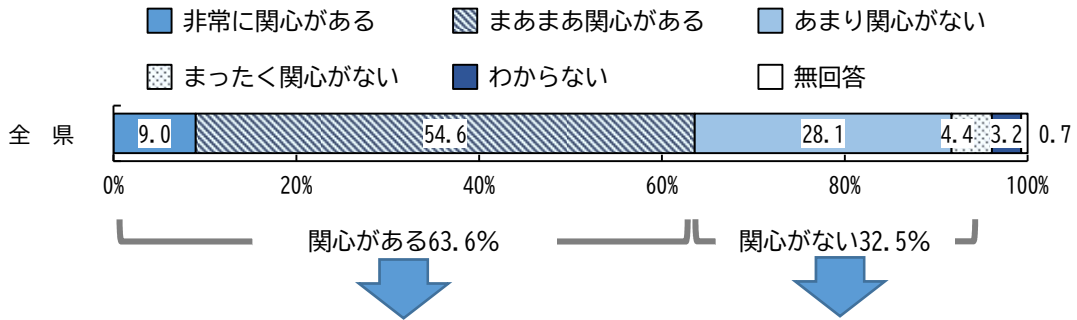
1 県政への関心度

—— 「関心がある」人は63.6% 理由は「自分の生活に関係があるから」52.8%

「関心がない」人は32.5% 理由は「県の政治や行政はわかりにくいから」28.3% ——

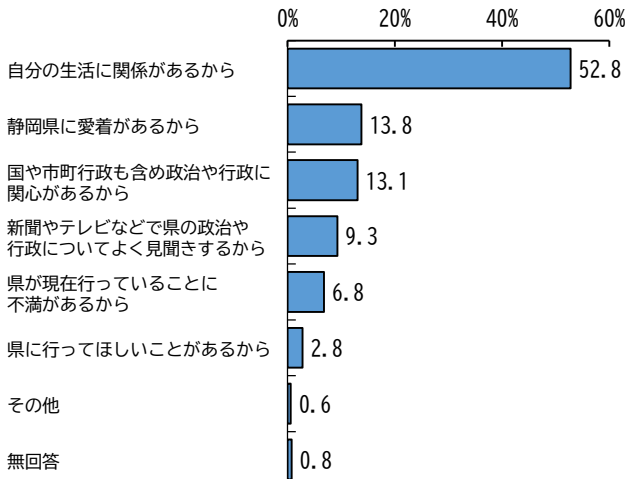
Q 4 あなたは、県の政治や行政にどの程度関心がありますか。(○は1つ)

【県政への関心の有無】



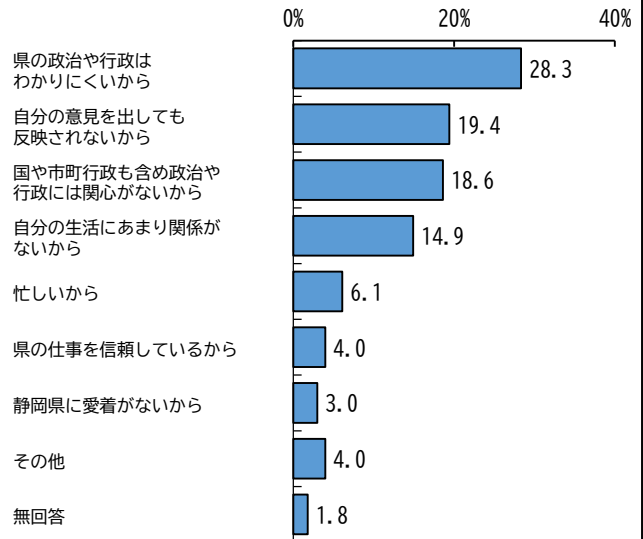
S Q 1 県の政治や行政に関心がある理由は何ですか。(○は1つ)

【 県政に関心がある理由 】



S Q 2 県の政治や行政に関心がない理由は何ですか。(○は1つ)

【 県政に関心がない理由 】



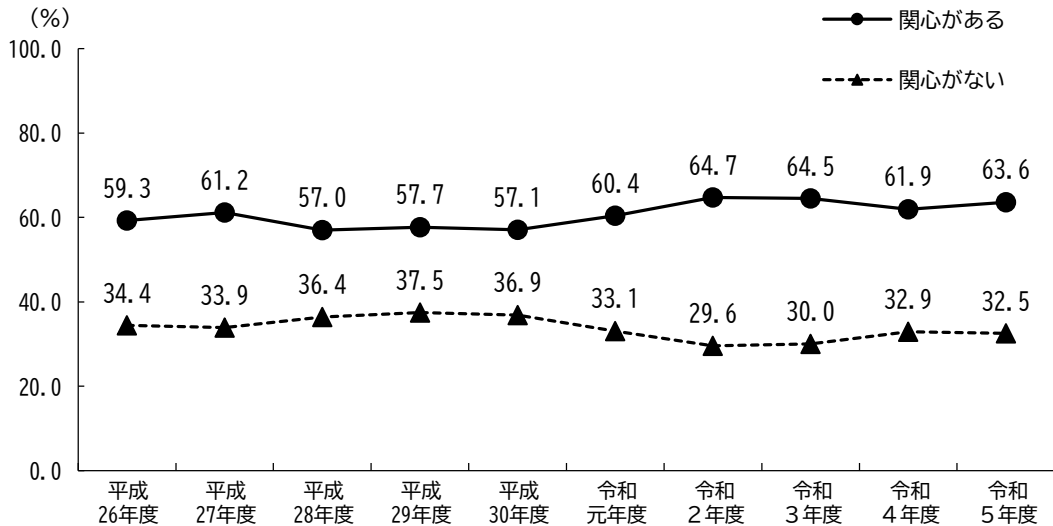
(1) 県政への関心の有無

県政への関心の有無については、「非常に興味がある」(9.0%)と「まあまあ興味がある」(54.6%)を合わせた“興味がある”が63.6%、「あまり興味がない」(28.1%)と「まったく興味がない」(4.4%)を合わせた“興味がない”が32.5%となっている。

【過去の調査との比較】(図2-1)

平成26年度以降の推移でみると、「非常に興味がある」と「まあまあ興味がある」を合わせた“興味がある”の割合は毎年度6割前後で推移している。

【 図2-1 県政への関心の有無 経年比較 】



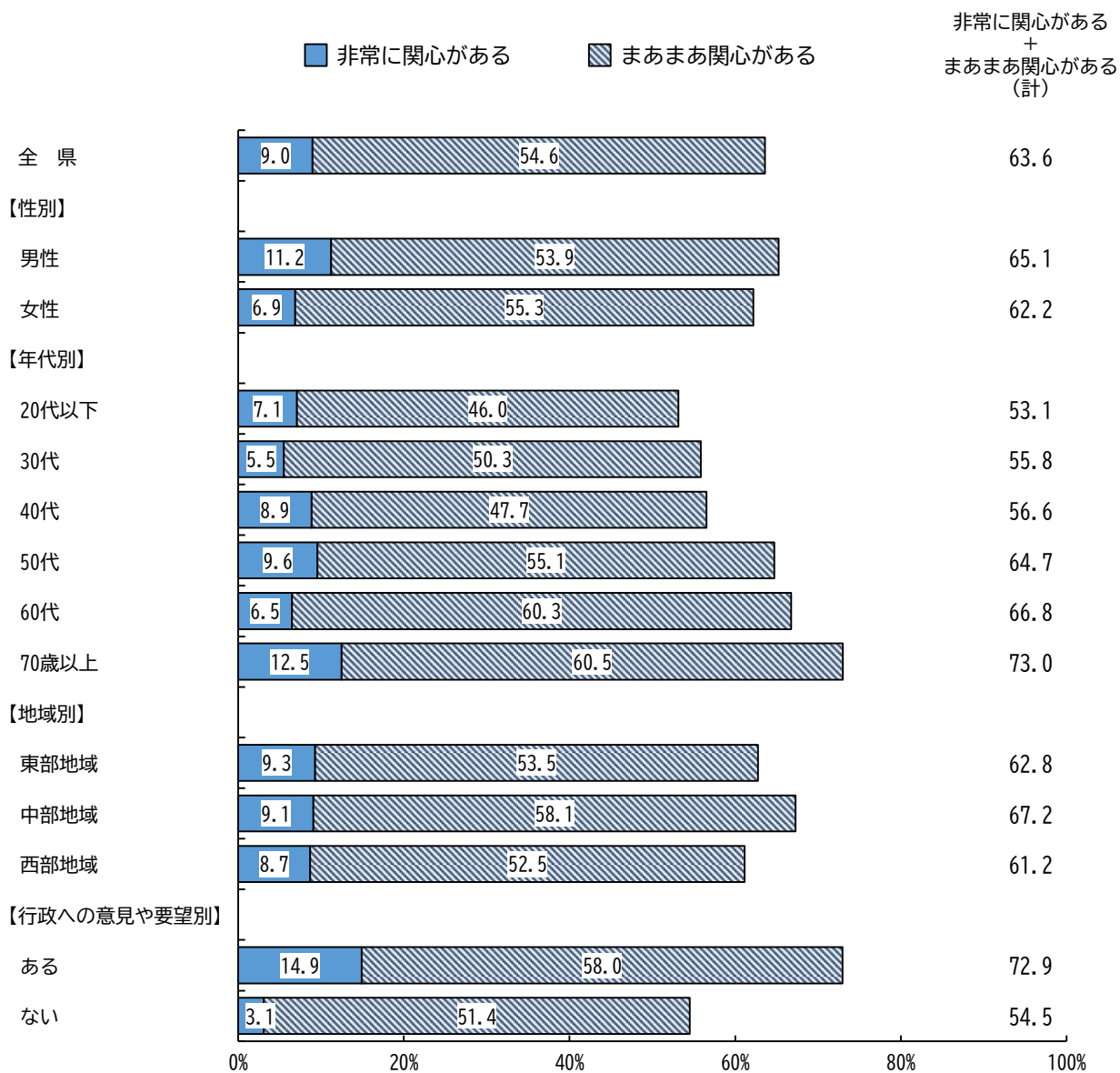
【属性による比較】（図2-2）

性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『70歳以上』は、“関心がある”人の割合が73.0%と全体と比較して高くなっている。

後述する（P55）行政機関への意見や要望の有無別でみると、意見や要望が『ある』人において“関心がある”人の割合が72.9%と7割を超え、『ない』人（54.5%）を18.4ポイント上回っている。

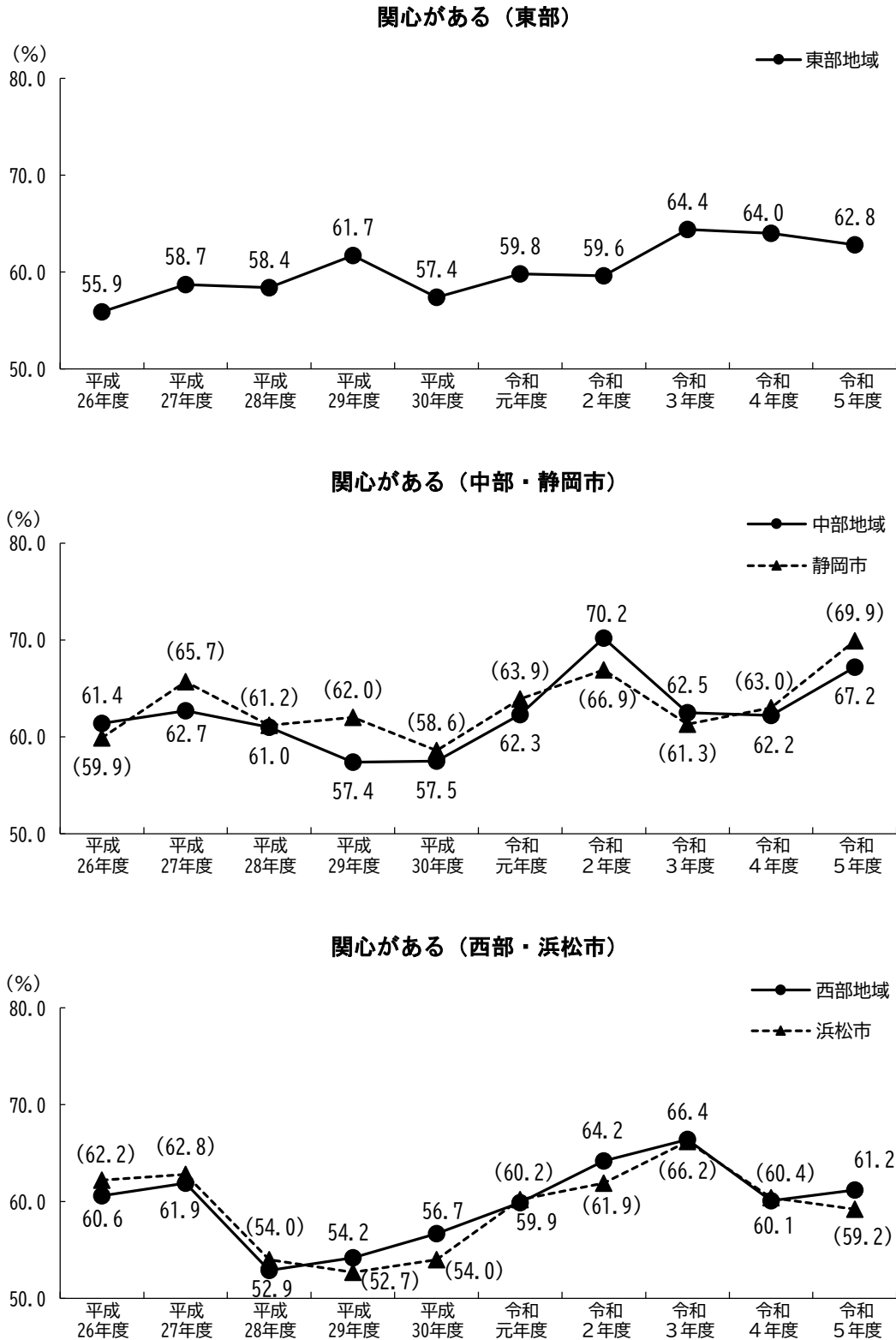
【 図2-2 県政への関心の有無 性別、年代別、地域別、行政機関への意見や要望別 】



[地域別による過去の調査との比較] (図2-3)

平成26年度以降の推移でみると、『中部地域』の令和2年度を除き、“関心がある”人の割合がどの地域も5割から6割台で推移しており、令和3年度以降は『静岡市』では増加傾向となっている。

【 図2-3 県政への関心の有無 地域別 経年比較 】

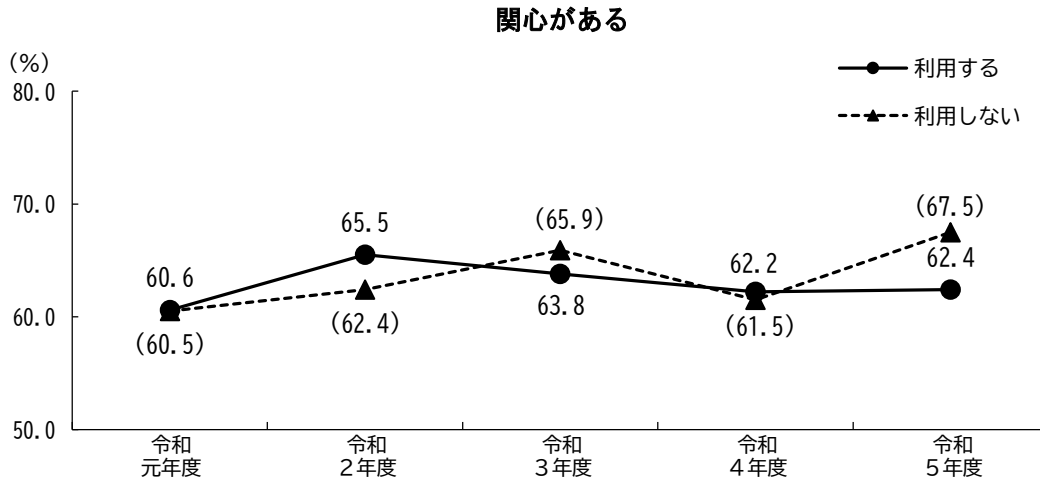


(注) 地域内の「中部」は静岡市を、「西部」は浜松市を、それぞれ含めた数字である

[インターネットの利用別による過去調査との比較] (図2-4)

県政に“関心がある”人の割合をインターネットの利用別で見ると、『利用する』人と『利用しない』人での“関心がある”人の割合は、インターネット利用別による差はほとんどみられない。

【 図2-4 県政への関心の有無 インターネットの利用別 経年比較 】



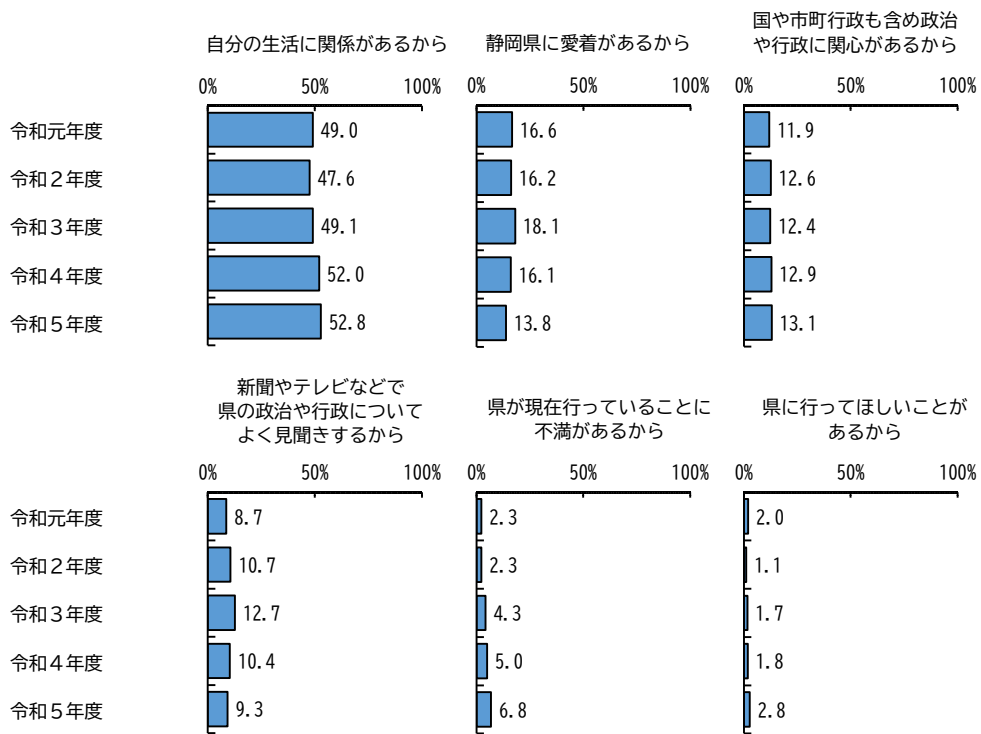
(2) 関心がある理由

関心がある理由については、「自分の生活に関係があるから」(52.8%)が最も多く、以下「静岡県に愛着があるから」(13.8%)、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」(13.1%)、「新聞やテレビなどで県の政治や行政についてよく見聞きするから」(9.3%)、「県が現在行っていることに不満があるから」(6.8%)となっている。

[過去の調査との比較] (図2-5)

令和元年度以降の推移では、大きな差はみられない。

【 図2-5 関心がある理由 経年比較 】



【属性による比較】（図2-6）

性別でみると、女性は、「自分の生活に関係があるから」（59.5%）が全体と比較して高くなっている。

年代別でみると、『20代以下』、『30代』、『40代』、『50代』は、「自分の生活に関係があるから」が全体と比較して高くなっている。

『70歳以上』は、「新聞やテレビなどで県の政治や行政についてよく見聞きするから」（15.2%）が全体と比較して高くなっている。

性・年代別でみると、『男性20代以下』は、「静岡県に愛着があるから」（20.0%）が全体と比較して高くなっている。

また、『男性30代』、『男性60代』は、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」が全体と比較して高くなっている。

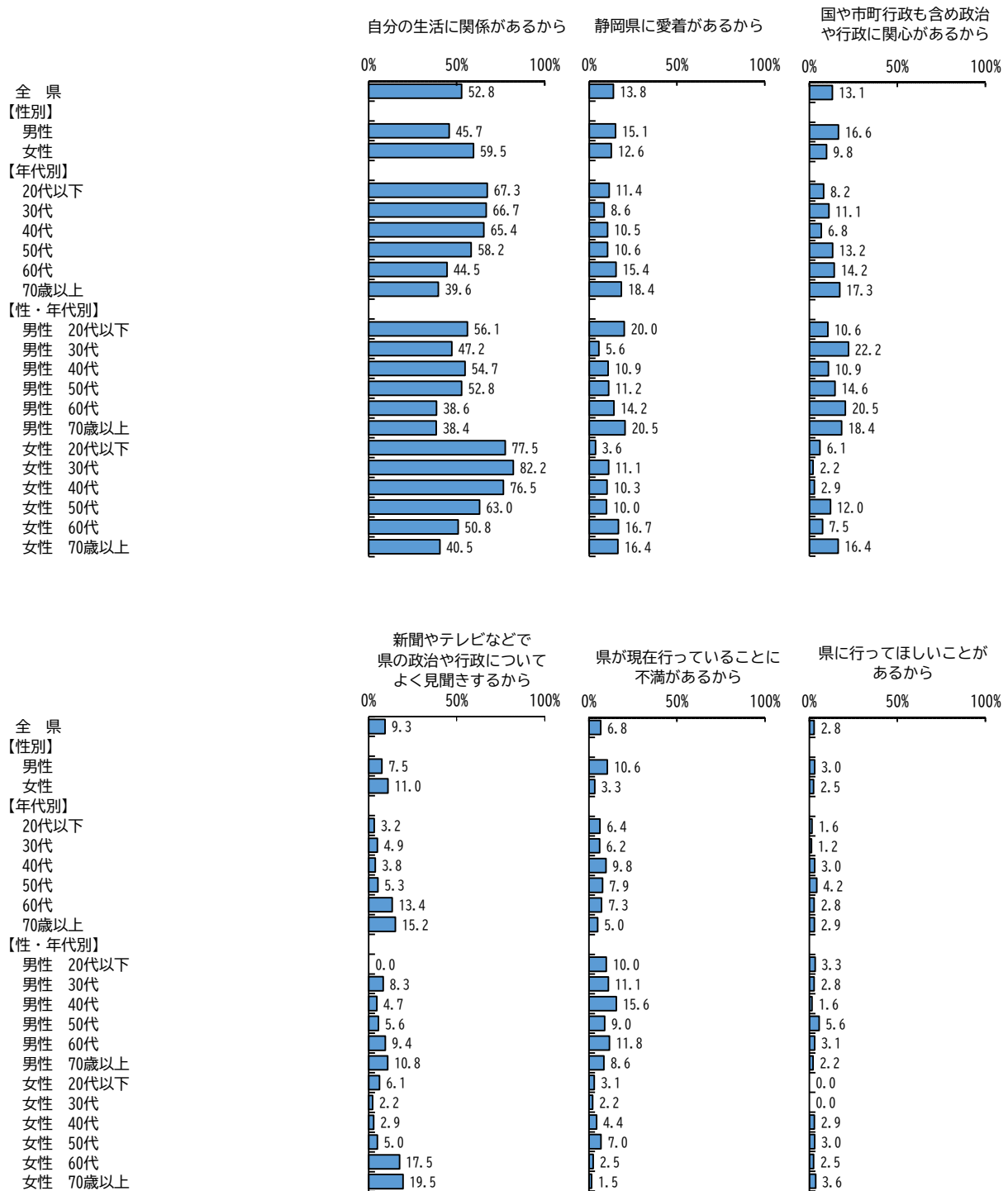
また、『男性40代』は、「県が現在行っていることに不満があるから」（15.6%）が全体と比較して高くなっている。

また、『男性70歳以上』は、「静岡県に愛着があるから」（20.5%）、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」（18.4%）が全体と比較して高くなっている。

また、『女性20代以下』、『女性30代』、『女性40代』、『女性50代』は、「自分の生活に関係があるから」が全体と比較して高くなっている。

また、『女性60代』、『女性70歳以上』は、「新聞やテレビなどで県の政治や行政についてよく見聞きするから」が全体と比較して高くなっている。

【 図2-6 関心がある理由 性別、年代別、性・年代別 】



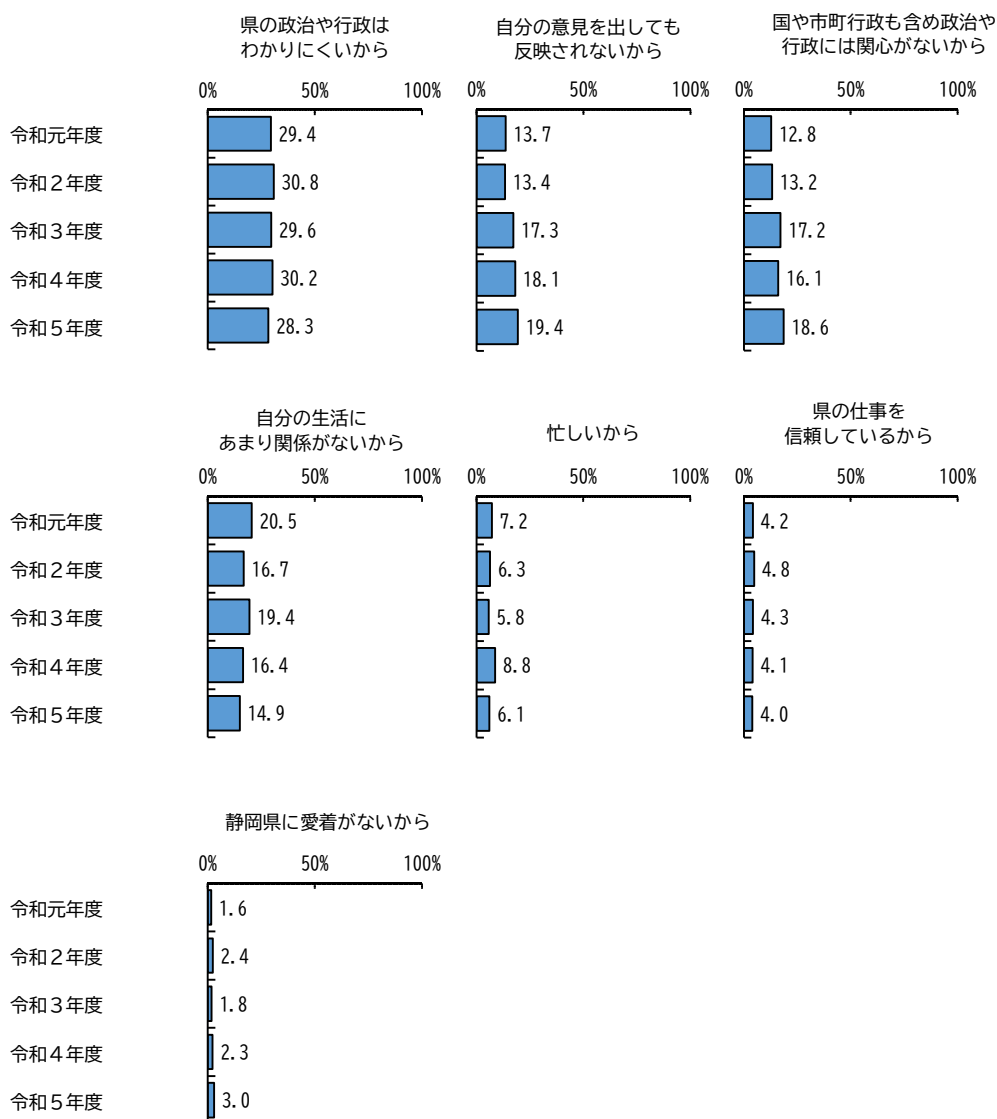
(3) 関心がない理由

関心がない理由については、「県の政治や行政はわかりにくいから」(28.3%)が最も多く、以下「自分の意見を出しても反映されないから」(19.4%)、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」(18.6%)、「自分の生活にあまり関係がないから」(14.9%)、「忙しいから」(6.1%)となっている。

[過去の調査との比較] (図2-7)

令和元年度以降の推移では、大きな差はみられない。

【 図2-7 関心がない理由 経年比較 】



【属性による比較】（図2-8）

性別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』、『30代』は、「自分の意見を出しても反映されないから」が全体と比較して高くなっている。

また、『40代』、『50代』は、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」が全体と比較して高くなっている。

また、『60代』は、「県の政治や行政はわかりにくいから」（40.7%）が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「自分の生活にあまり関係がないから」（24.8%）、「県の政治や行政はわかりにくいから」（35.0%）が全体と比較して高くなっている。

性・年代別でみると、『男性20代以下』、『男性40代』は、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」、「自分の意見を出しても反映されないから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性60代』は、「県の政治や行政はわかりにくいから」（40.3%）が全体と比較して高くなっている。

また、『男性70歳以上』、『女性60代』は、「自分の生活にあまり関係がないから」、「県の政治や行政はわかりにくいから」が全体と比較して高くなっている。

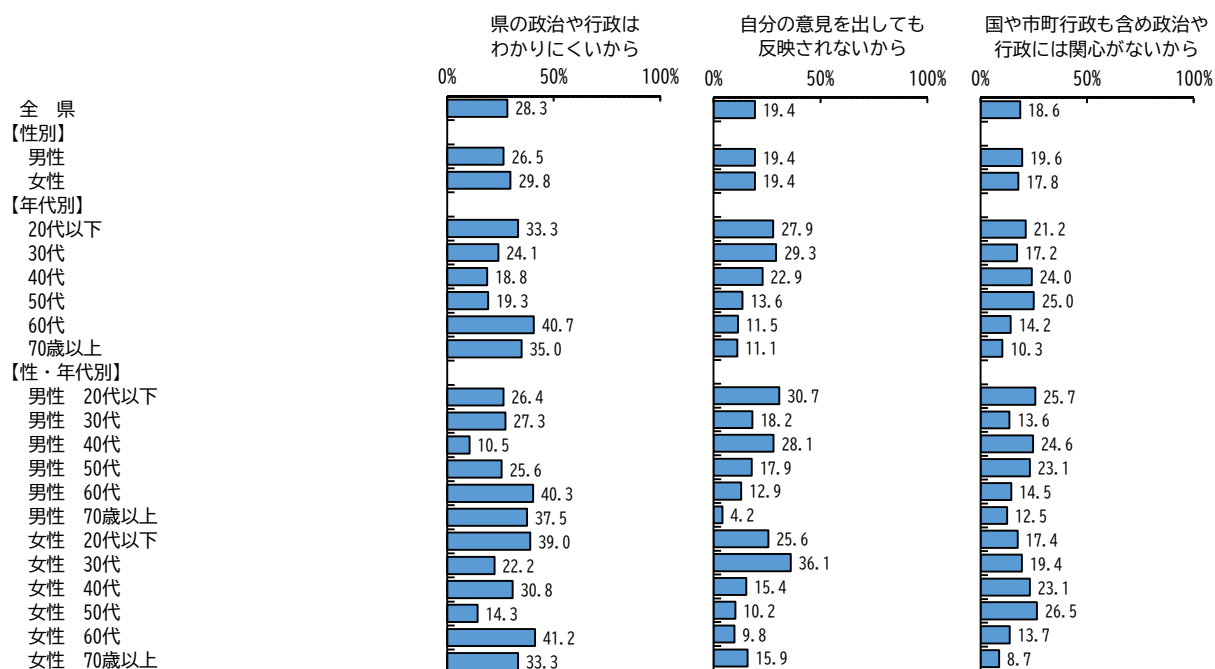
また、『女性20代以下』は、「県の政治や行政はわかりにくいから」（39.0%）、「自分の意見を出しても反映されないから」（25.6%）が全体と比較して高くなっている。

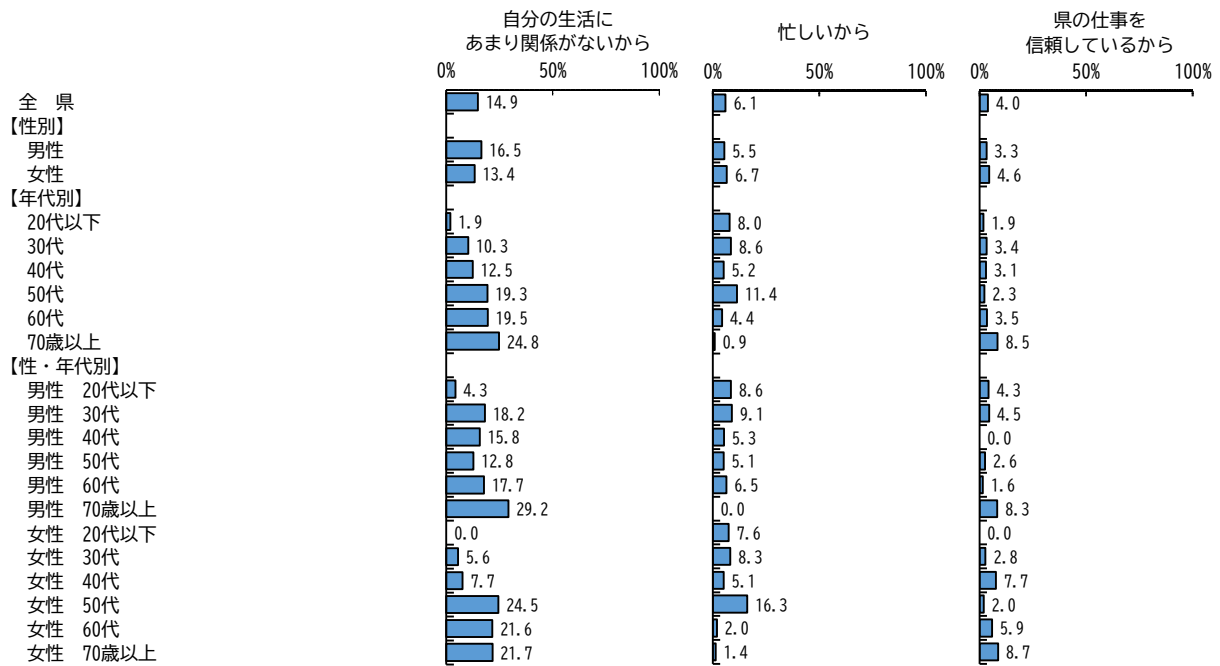
また、『女性30代』は、「自分の意見を出しても反映されないから」（36.1%）が全体と比較して高くなっている。

また、『女性50代』は、「自分の生活にあまり関係がないから」（24.5%）、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」（26.5%）、「忙しいから」（16.3%）が全体と比較して高くなっている。

また、『女性70歳以上』は、「自分の生活にあまり関係がないから」（21.7%）、「県の政治や行政はわかりにくいから」（33.3%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-8 関心がない理由 性別、年代別、性・年代別 】





2 行政機関への意見や要望、不満

— 行政機関に意見や要望、不満が「ある」人の48.4%のうち

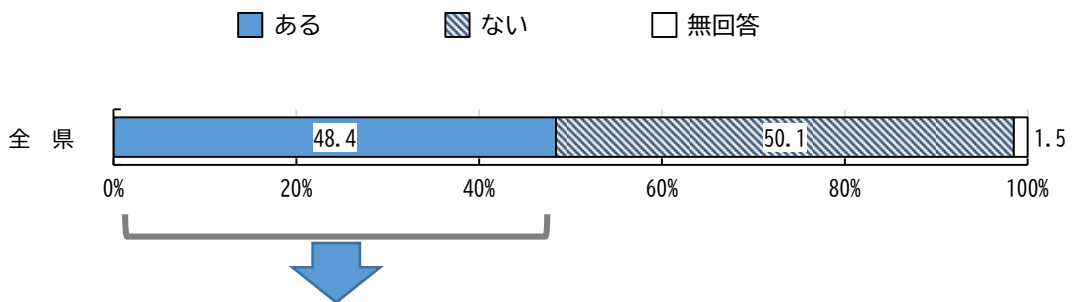
県に意見や要望、不満が「ある」人は49.4%

そのうち県に「伝える必要がある」と思った人は57.2%

そのうち県に「伝えた」人は12.9%、「伝えなかった」人は87.1% —

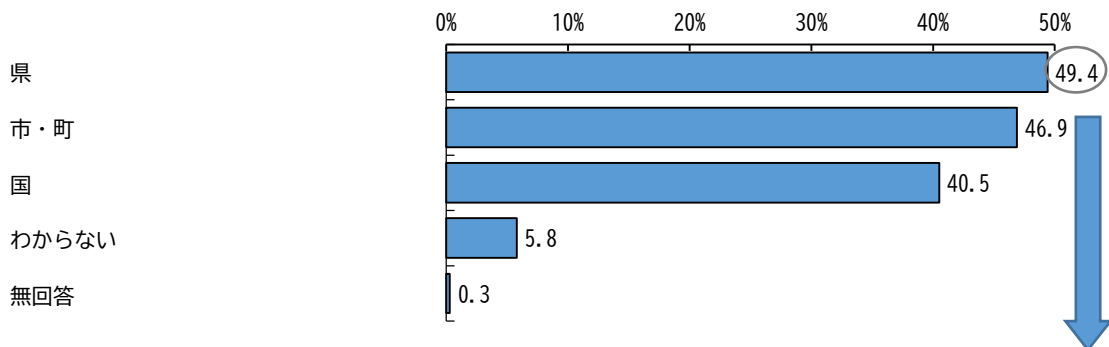
Q5 あなたは、この1年間に行政機関の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたりしたことがありますか。(〇は1つ)

【 行政機関への意見や要望、不満の有無 】



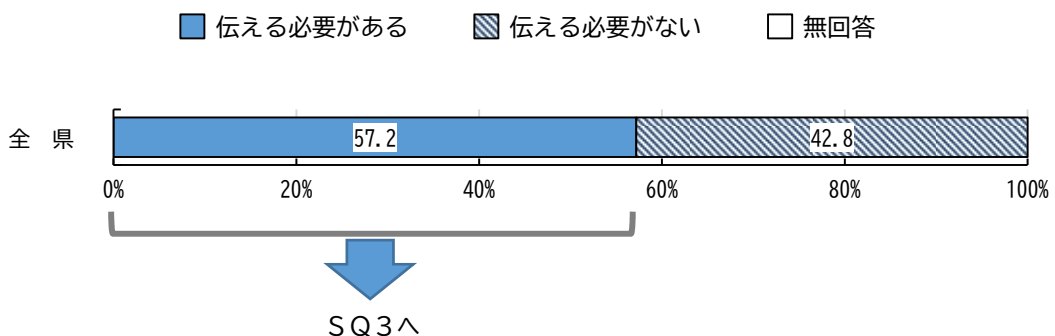
SQ1 それは、どの行政機関が担当する仕事ですか。(〇はいくつでも)

【 意見等を持った仕事の担当行政機関 】



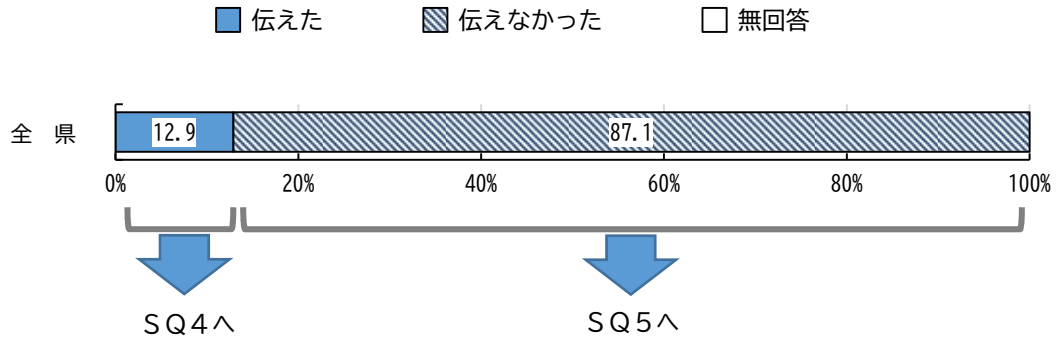
SQ2 その県が担当する仕事についての意見や要望、不満は、県に伝える必要がありましたか。(〇は1つ)

【 伝達の必要性 】



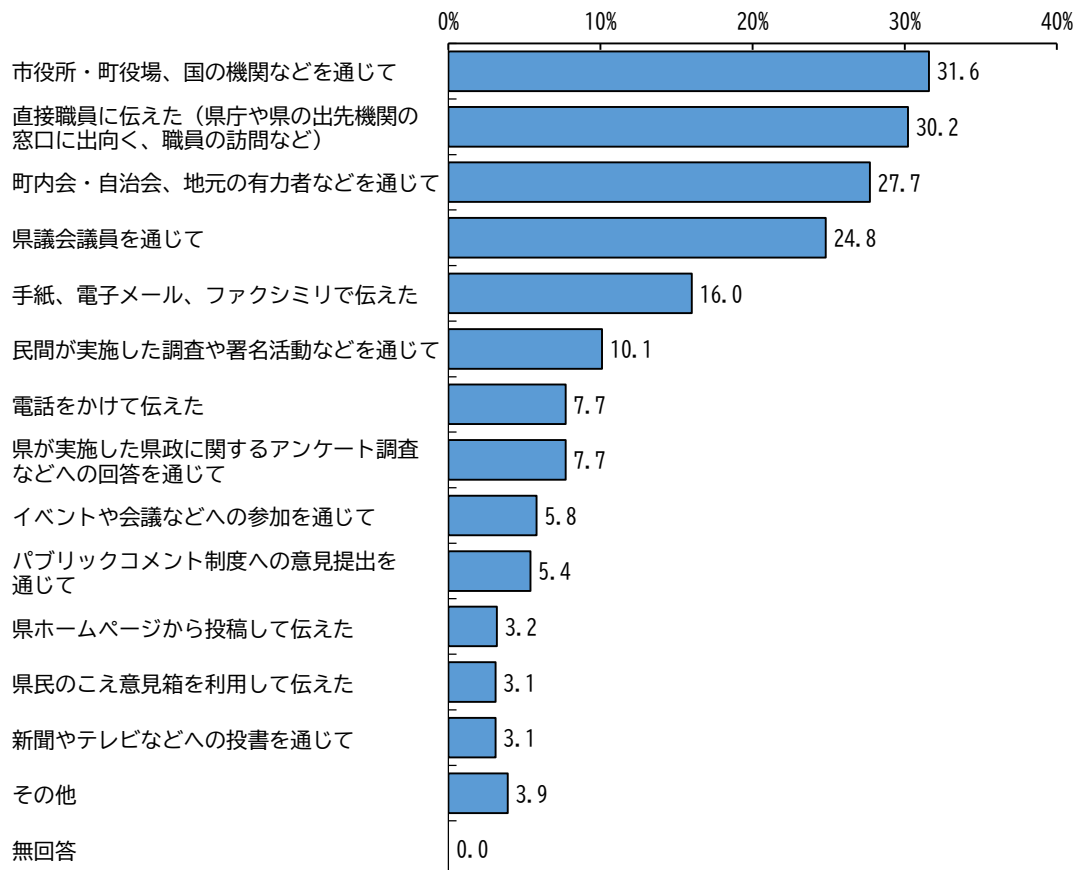
SQ3 それでは、そのことを県に伝えましたか。(〇は1つ)

【 伝達の有無 】



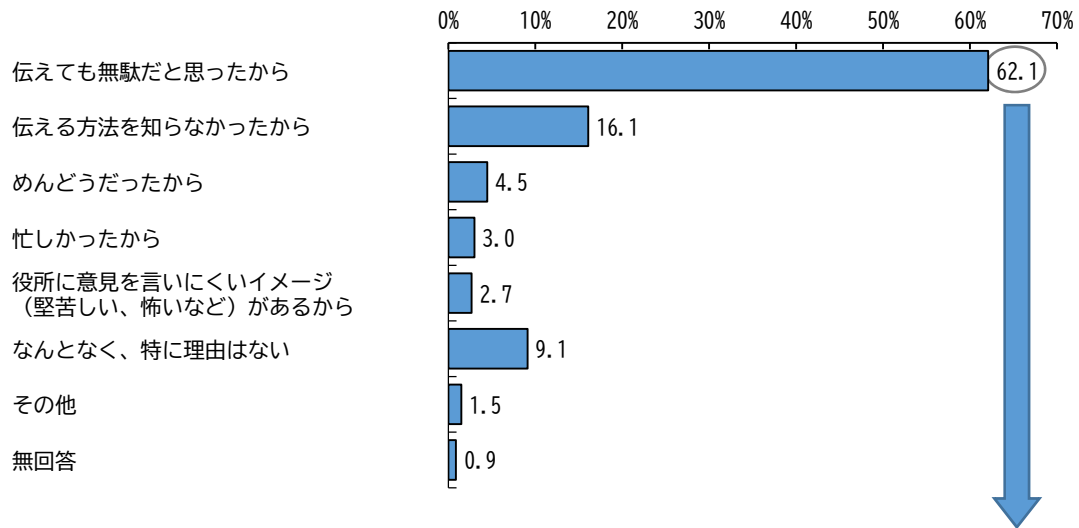
SQ4 どのような手段で伝えましたか。(〇はいくつでも)

【 伝達方法 】



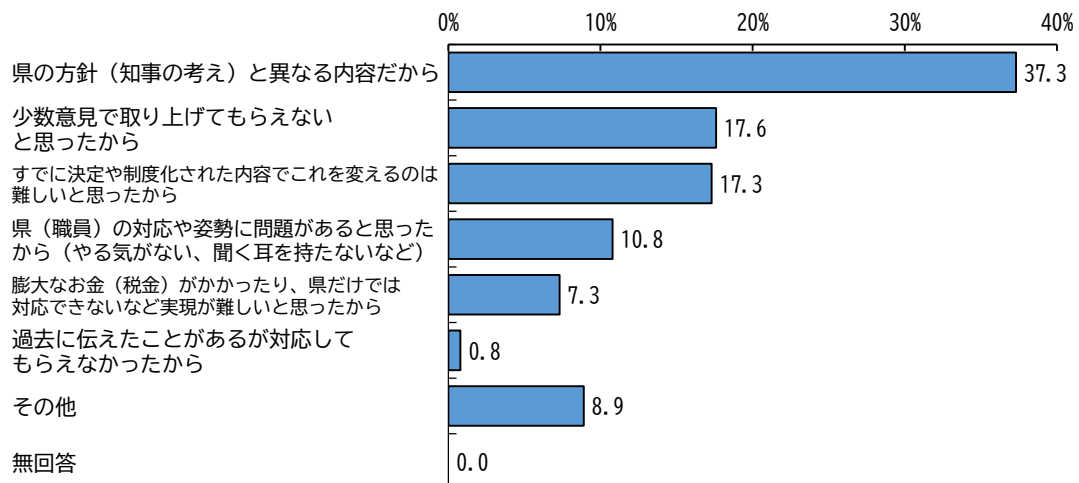
S Q 5 意見や要望不満があっても、県に伝えなかった主な理由は何ですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。(○は1つ)

【 伝達しなかった理由 】



S Q 6 どうしてそのように思ったのですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。(○は1つ)

【 伝えても無駄だと思った理由 】



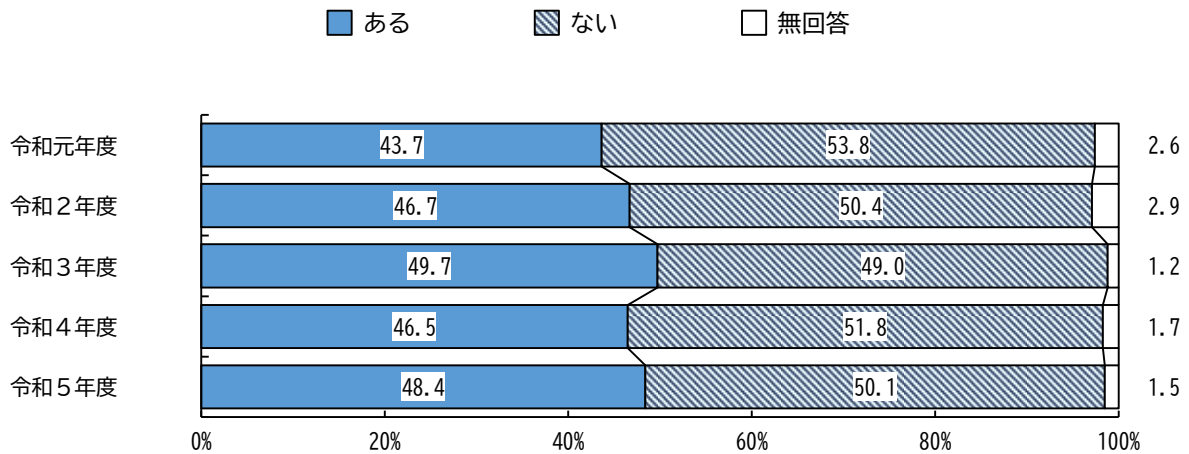
(1) 意見や要望、不満の有無

行政機関への意見や要望、不満の有無については、「意見等がある」と回答した人の割合が48.4%、「意見等がない」は50.1%となっている。

[過去の調査との比較] (図2-9)

令和元年度以降の推移で見ると、「意見等がある」は毎年度4割台で推移している。

【 図2-9 行政機関への意見や要望、不満の有無 経年比較 】



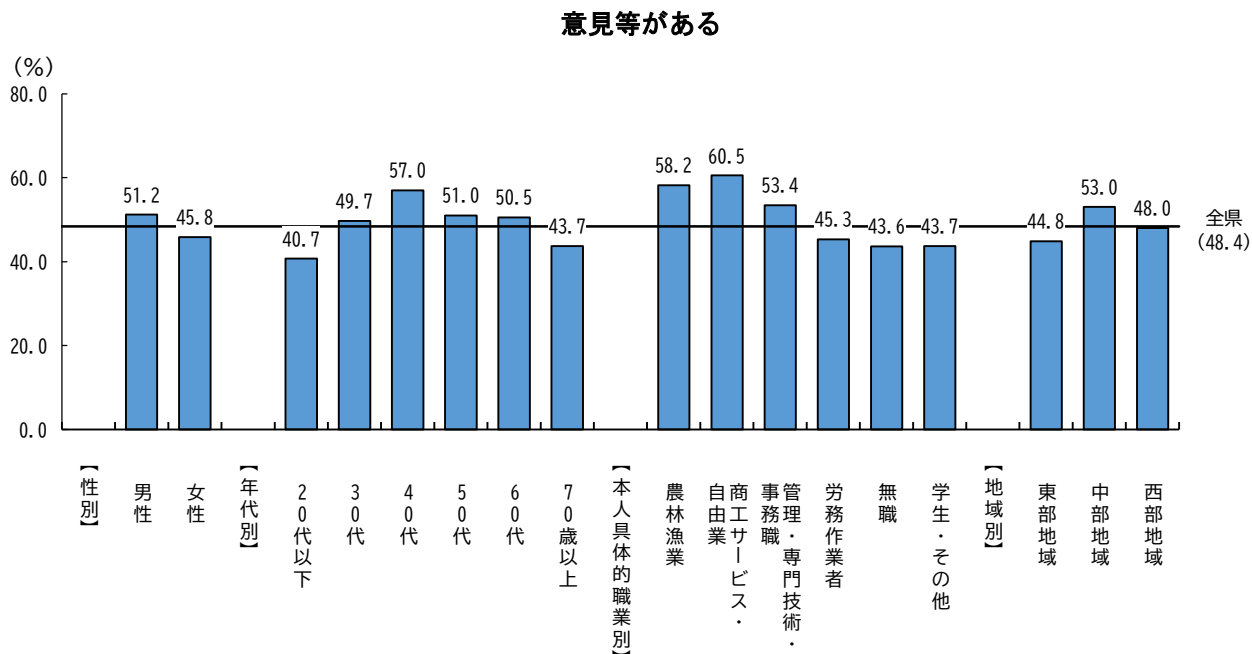
【属性による比較】（図2-10、図2-11）

性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『40代』は、「ある」（57.0%）が全体と比較して高くなっている。

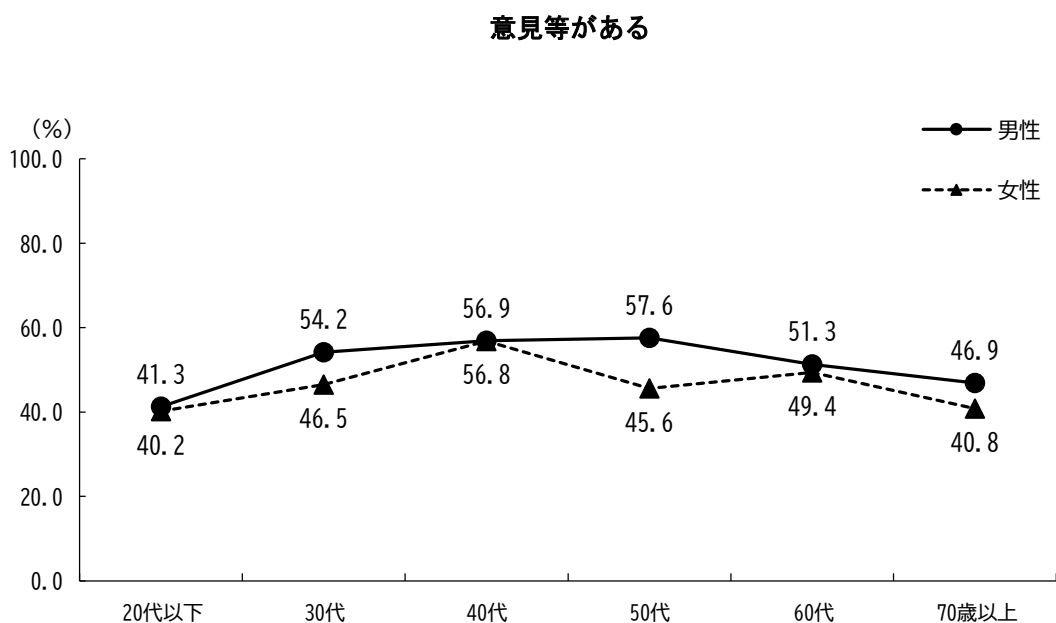
本人具体的職業別でみると、『農林漁業』、『商工サービス・自由業』、『管理・専門技術・事務職』は、「ある」が全体と比較して高くなっている。

【 図2-10 行政機関への意見や要望、不満の有無 性別、年代別、本人具体的職業別、地域別 】



性・年代別でみると、『男性30代』、『男性40代』、『男性50代』、『女性40代』は、「ある」が全体と比較して高くなっている。

【 図2-11 行政機関への意見や要望、不満の有無 性・年代別 】



(2) 意見等を持った仕事の担当行政機関

意見等を持った仕事の担当行政機関については、「県」(49.4%)が最も多く、以下「市・町」(46.9%)、「国」(40.5%)となっている。

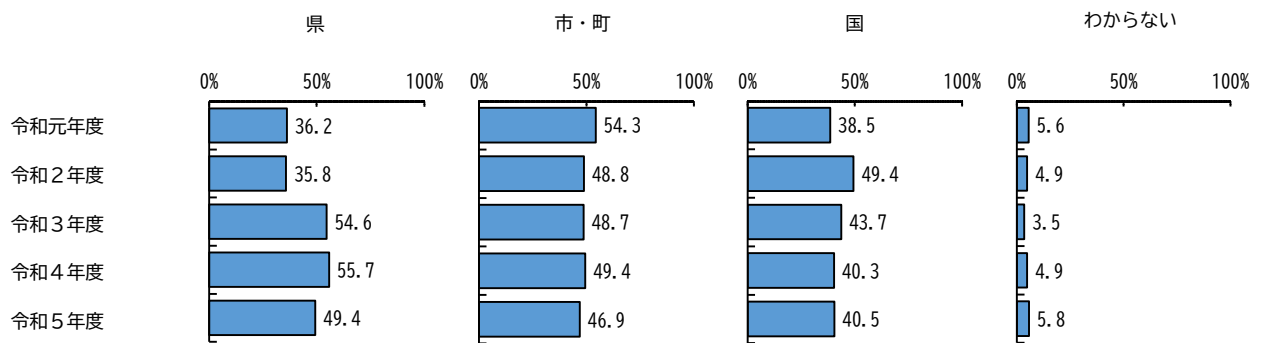
[過去の調査との比較] (図2-12)

令和元年度以降の推移でみると、「県」は、今年度は49.4%と前年度の55.7%より6.3ポイント低くなっている。

「市・町」は、今年度は46.9%と前年度の49.4%より2.5ポイント低くなっている。

「国」は、今年度は40.5%と前年度の40.3%より0.2ポイント高くなっている。

【 図2-12 意見等を持った仕事の担当行政機関 経年比較 】



【属性による比較】（図2-13）

性別でみると、男性は、「県」（57.0%）が全体と比較して高くなっている。

性・年代別でみると、『男性20代以下』、『男性40代』は、「県」、「国」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性30代』は、「県」（68.8%）、「市・町」（56.3%）が全体と比較して高くなっている。

また、『男性50代』、『女性20代以下』は、「国」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性60代』は、「県」（58.2%）が全体と比較して高くなっている。

また、『女性30代』は、「市・町」（55.0%）、「国」（55.0%）が全体と比較して高くなっている。

また、『女性40代』、『女性50代』、『女性60代』は、「市・町」が全体と比較して高くなっている。

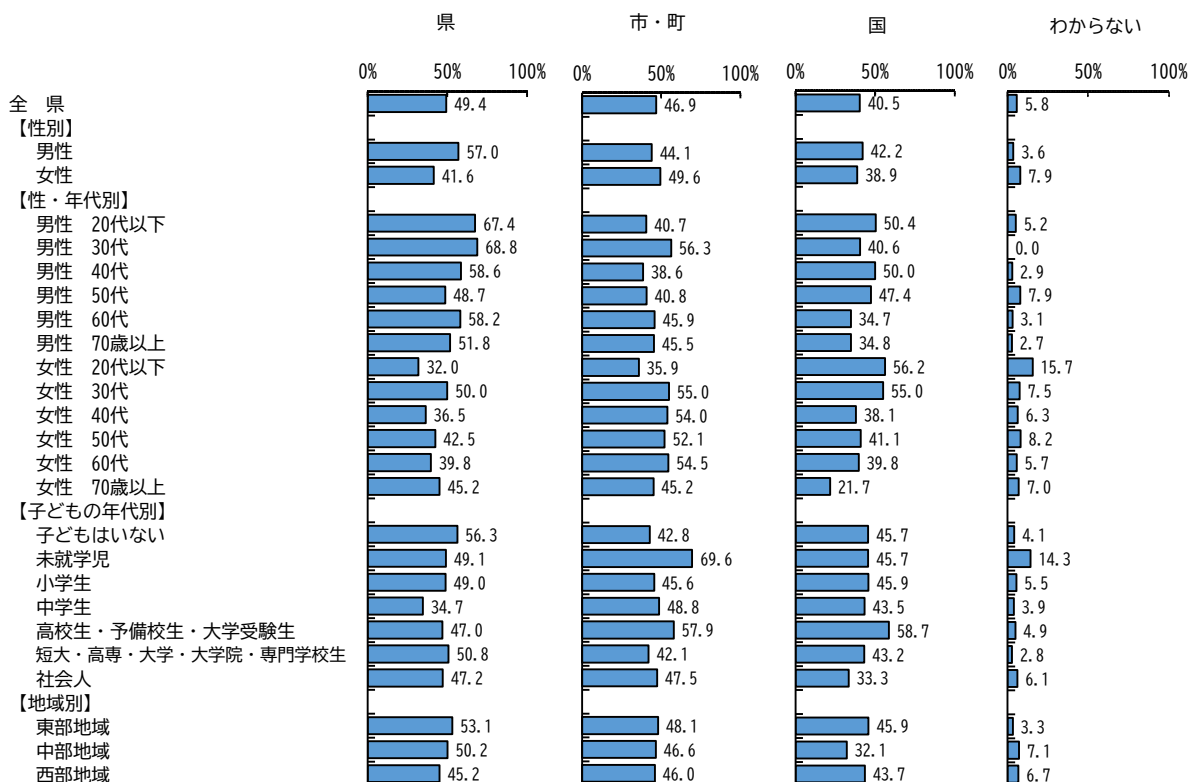
子どもの年代別でみると、『子どもはいない』は、「県」（56.3%）、「国」（45.7%）が全体と比較して高くなっている。

また、『未就学児』、『高校生・予備校生・大学受験生』は、「市・町」、「国」が全体と比較して高くなっている。

また、『小学生』は、「国」（45.9%）が全体と比較して高くなっている。

地域別でみると、『東部地域』は、「国」（45.9%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-13 意見等を持った仕事の担当行政機関 性別、性・年代別、子どもの年代別、地域別 】



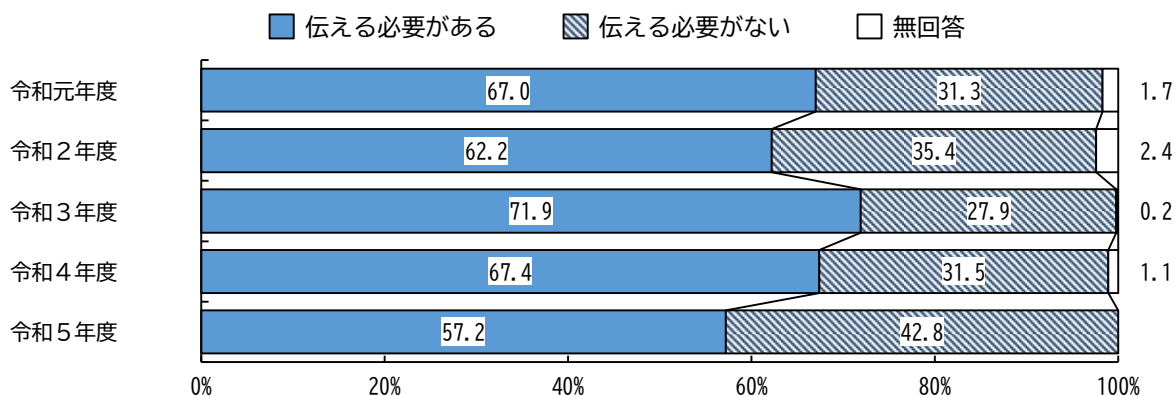
(3) 伝達の必要性

県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝える必要がある」と回答した人の割合は57.2%、「伝える必要がない」は42.8%となっている。

【過去の調査との比較】(図2-14)

令和元年度以降の推移でみると、「伝える必要がない」は令和3年度以降では増加傾向となっている。

【 図2-14 伝達の必要性 経年比較 】



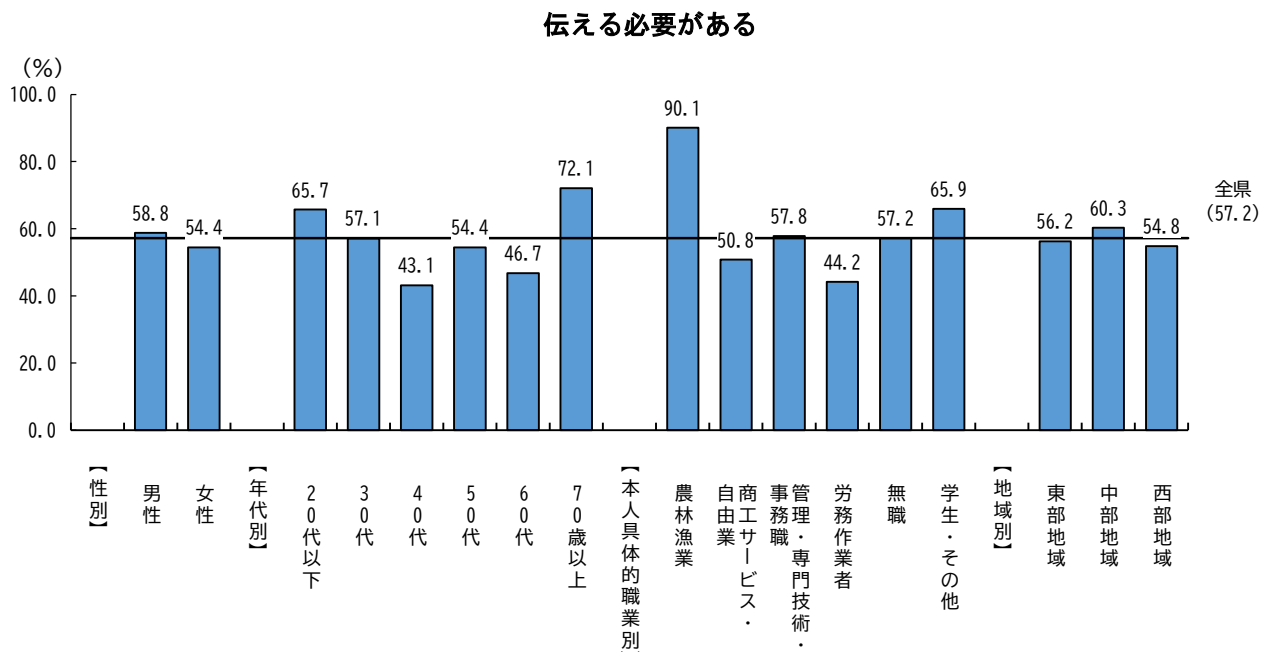
【属性による比較】(図2-15)

県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝える必要がある」と回答した人の割合を、性別、年代別、本人具体的職業別、地域別でみたところ、性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』、『70歳以上』は、「伝える必要がある」が全体と比較して高くなっている。

本人具体的職業別でみると、『農林漁業』、『学生・その他』は、「伝える必要がある」が全体と比較して高くなっている。

【 図2-15 伝達の必要性 性別、年代別、本人具体的職業別、地域別 】



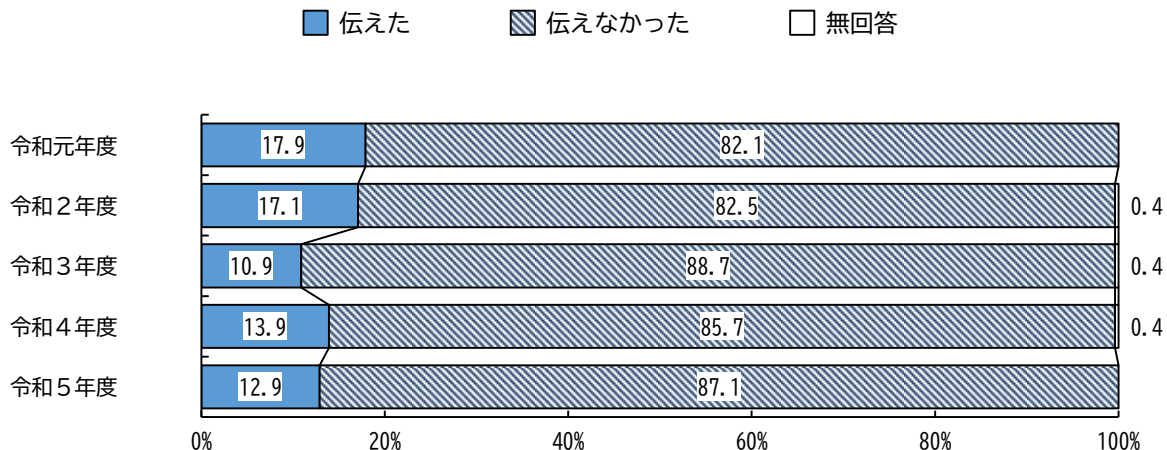
(4) 伝達の有無

県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝えなかった」と回答した人の割合が87.1%と大半を占め、「伝えた」は12.9%にとどまっている。

【過去の調査との比較】(図2-16)

令和元年度以降の推移では、大きな差はみられない。

【 図2-16 伝達の有無 経年比較 】



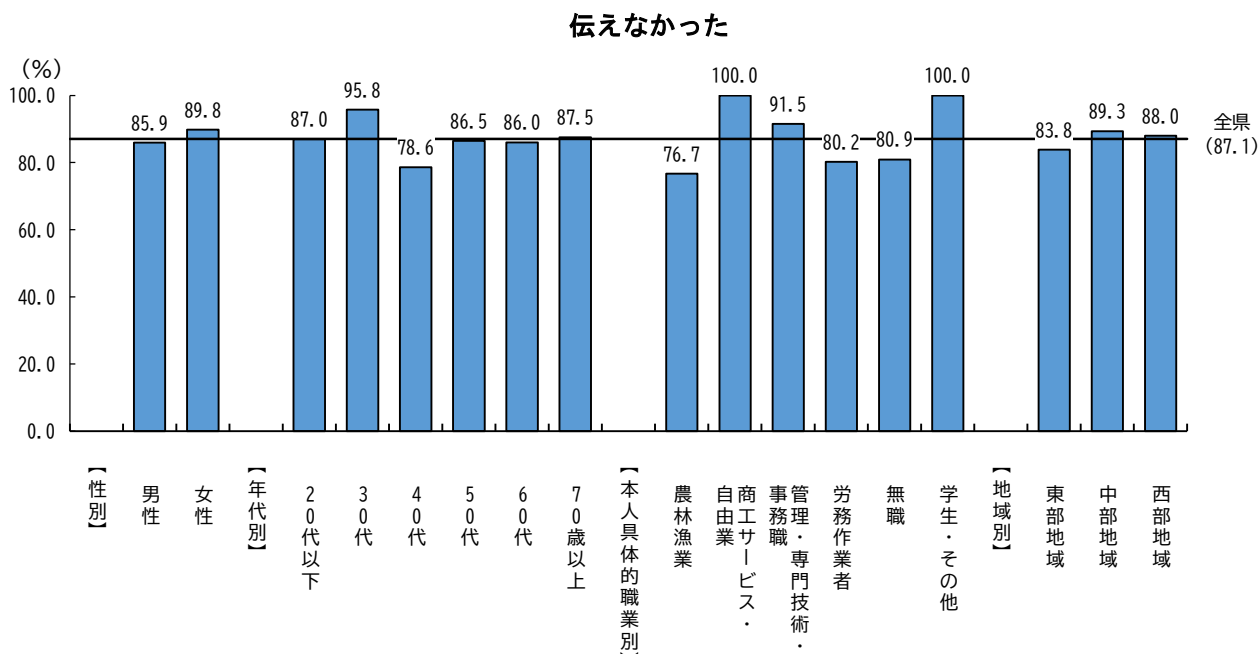
【属性による比較】(図2-17)

県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝えなかった」と回答した人の割合を、性別、年代別、本人具体的職業別、地域別でみたところ、性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『30代』は、「伝えなかった」(95.8%)が全体と比較して高くなっている。

本人具体的職業別でみると、『商工サービス・自由業』、『学生・その他』は、「伝えなかった」が全体と比較して高くなっている。

【 図2-17 伝達の有無 性別、年代別、本人具体的職業別、地域別 】



(5) 伝達方法

県の仕事について意見等がある人が県に伝えた方法は、「市役所・町役場、国の機関などを通じて」(31.6%)が最も多く、以下「直接職員に伝えた(県庁や県の出先機関の窓口に向く、職員の訪問など)」(30.2%)、「町内会・自治会、地元の有力者などを通じて」(27.7%)、「県議会議員を通じて」(24.8%)、「手紙、電子メール、ファクシミリで伝えた」(16.0%)となっている。

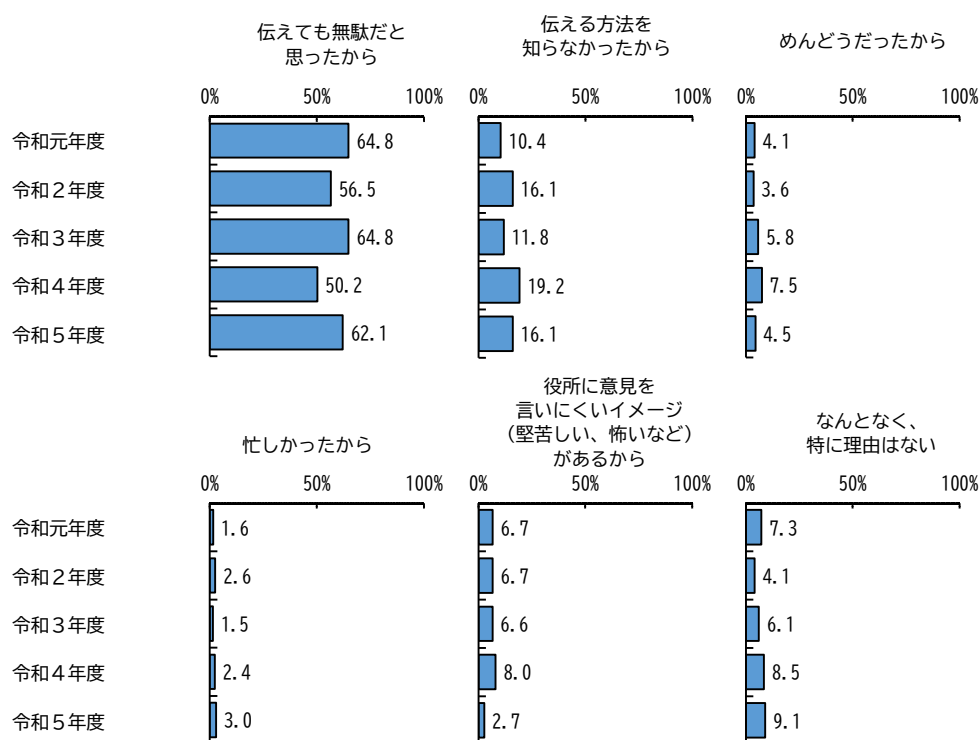
(6) 伝達しなかった理由

意見等があっても県に伝えなかった理由は、「伝えても無駄だと思ったから」(62.1%)が最も多く、以下「伝える方法を知らなかったから」(16.1%)、「なんとなく、特に理由はない」(9.1%)、「めんどろだったから」(4.5%)、「役所に意見を言いにくいイメージ(堅苦しい、怖いなど)があるから」(2.7%)、となっている。

[過去の調査との比較] (図2-18)

令和元年度以降の推移でみると、「伝えても無駄だと思ったから」は、今年度は62.1%と前年度の50.2%より11.9ポイント高くなっている。

【 図2-18 伝達しなかった理由 経年比較 】



(7) 伝えても無駄だと思った理由

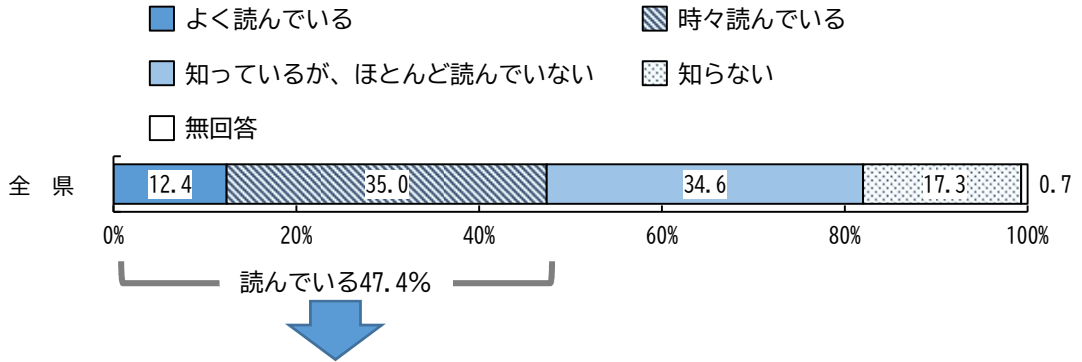
伝えても無駄だと思った理由については、「県の方針(知事の考え)と異なる内容だから」(37.3%)が最も多く、以下「少数意見で取り上げてもらえないと思ったから」(17.6%)、「すでに決定や制度化された内容でこれを変えるのは難しいと思ったから」(17.3%)、「県(職員)の対応や姿勢に問題があると思ったから(やる気がない、聞く耳を持たないなど)」(10.8%)、「膨大なお金(税金)がかかったり、県だけでは対応できないなど実現が難しいと思ったから」(7.3%)となっている。

3 広報媒体の浸透度

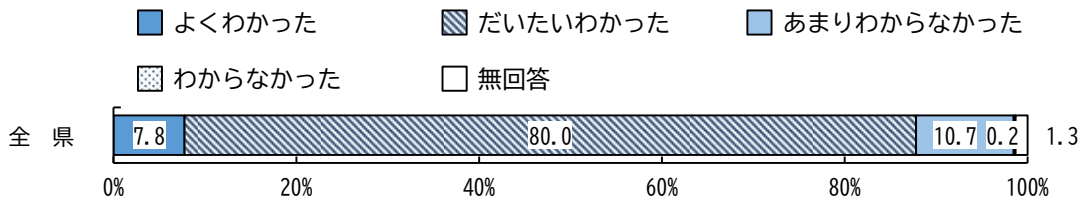
— 「県民だより」を「読んでいる」人は47.4% —

Q6 あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。

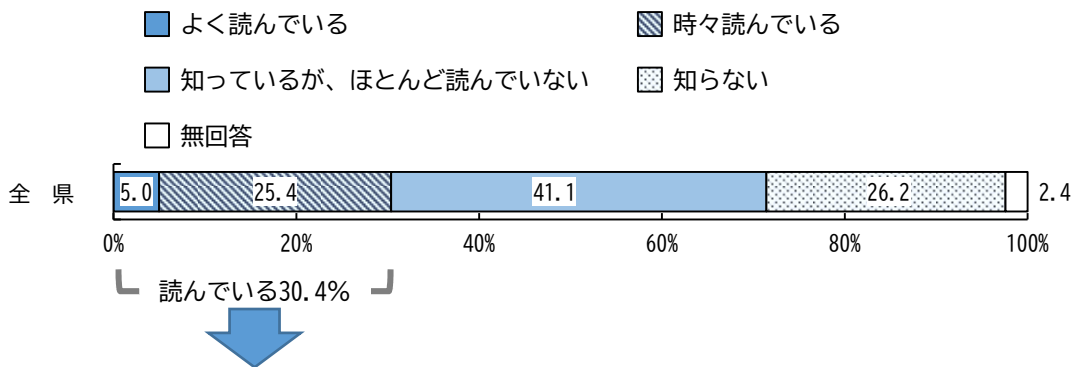
【 県民だより 】



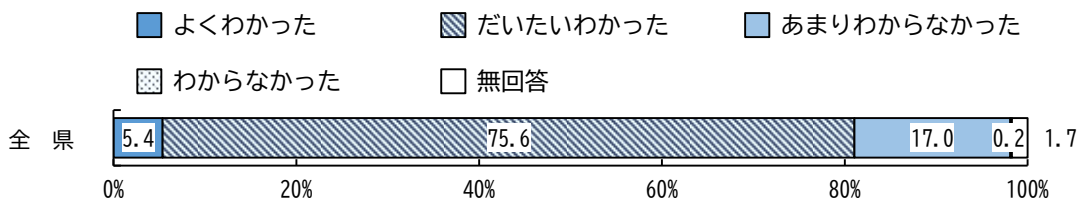
SQ 内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)



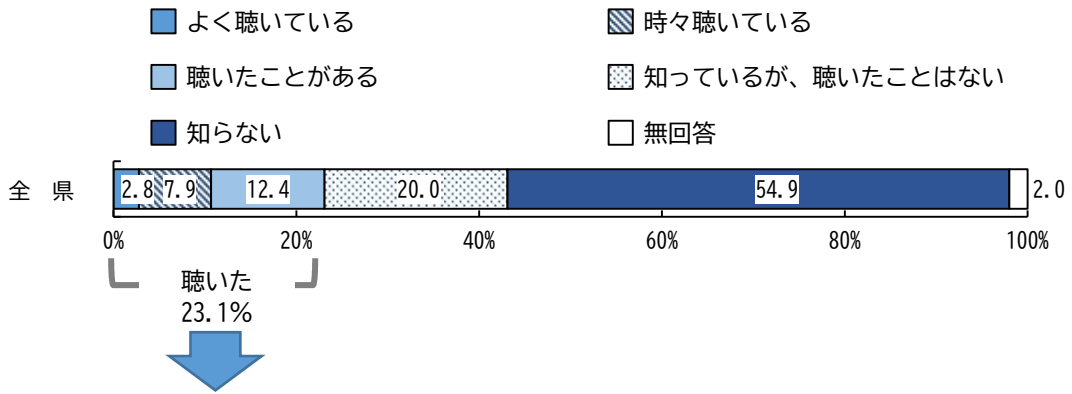
【 静岡県議会だより 】



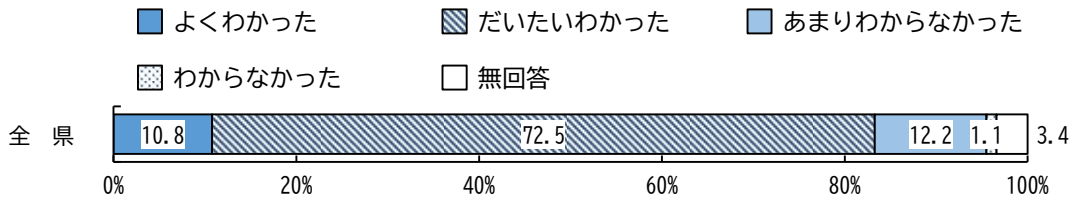
SQ 内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)



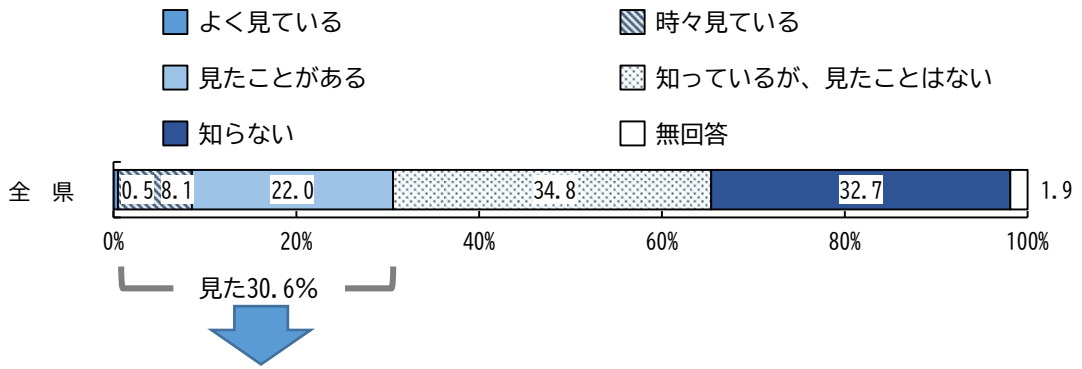
【 ラジオ広報 】



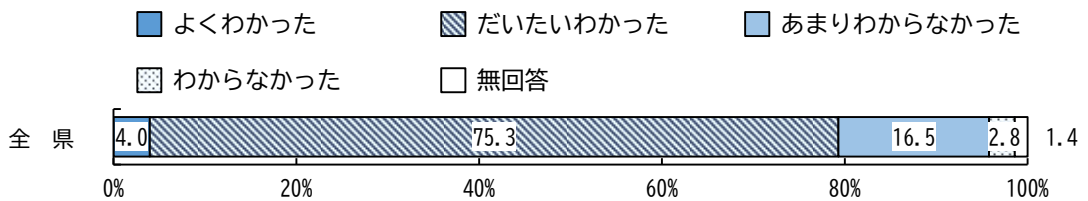
S Q 内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)



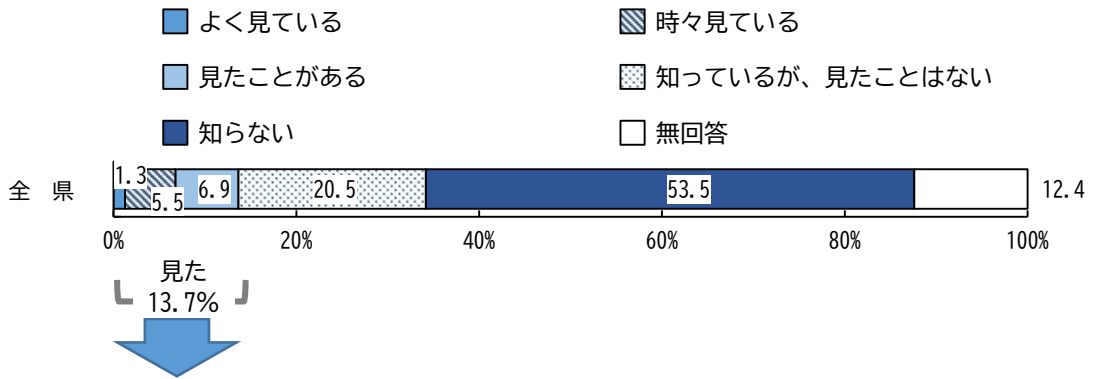
【 県のホームページ 】



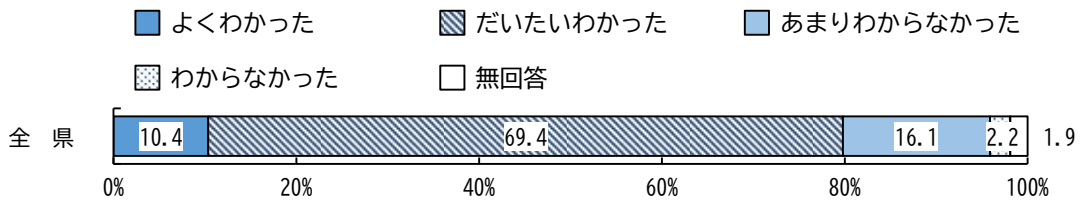
S Q 内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)



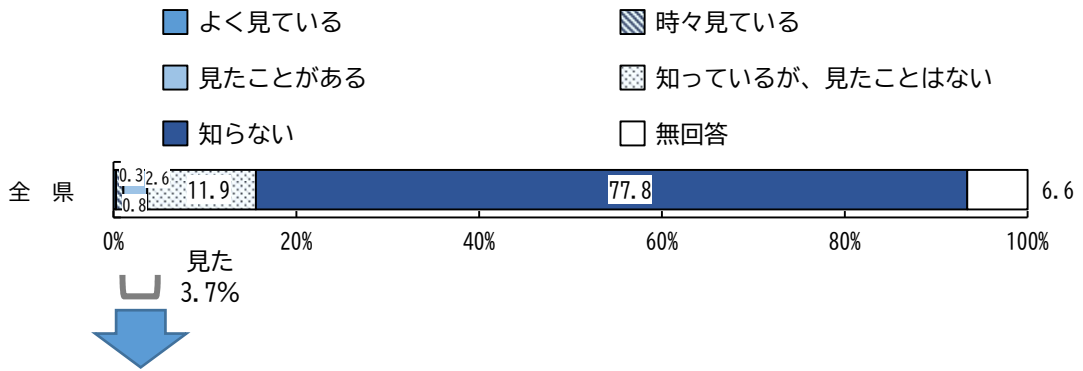
【 SNS 】



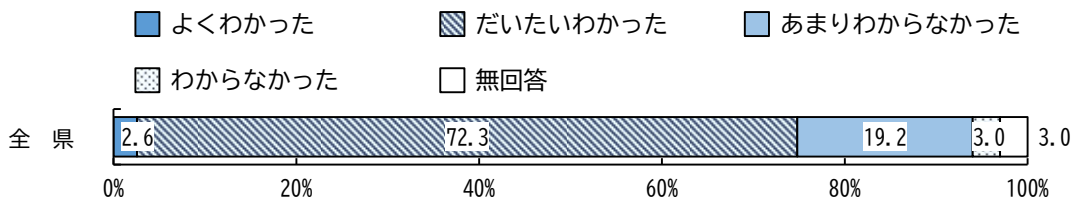
S Q 内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)



【 YouTube 】



S Q 内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)



■ 県民だより

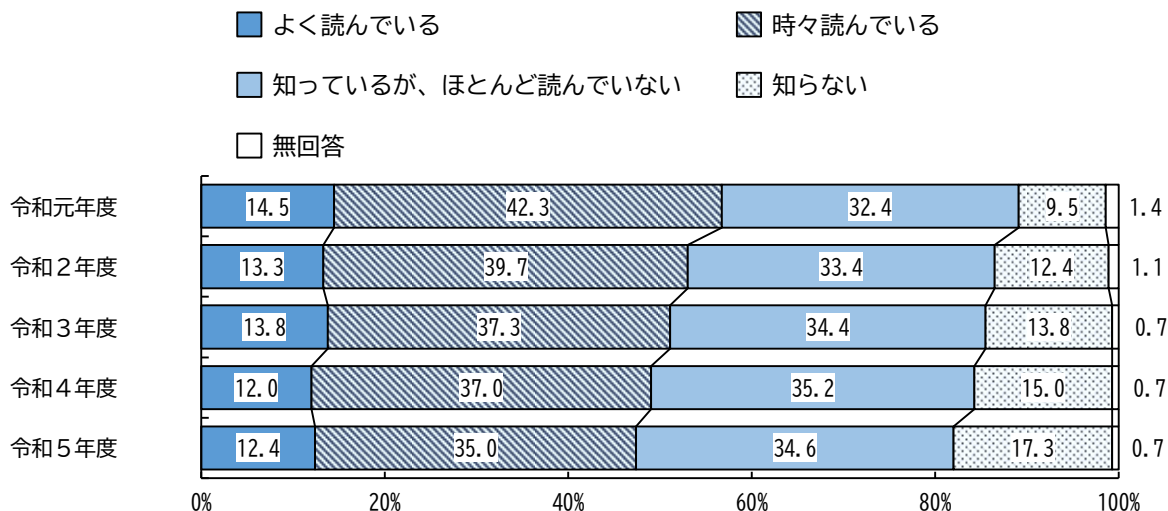
県民だよりの浸透度については、「時々読んでいる」(35.0%)が最も多く、以下「知っているが、ほとんど読んでいない」(34.6%)、「知らない」(17.3%)、「よく読んでいる」(12.4%)となっている。「よく読んでいる」(12.4%)と「時々読んでいる」(35.0%)を合わせた47.4%が県民だよりを読んでおり、それに「知っているが、ほとんど読んでいない」(34.6%)を合わせた82.0%が県民だよりを認知していると考えられる。

県民だよりを読んでいると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「だいたいわかった」(80.0%)が最も多く、以下「あまりわからなかった」(10.7%)、「よくわかった」(7.8%)、「わからなかった」(0.2%)となっている。「よくわかった」(7.8%)と「だいたいわかった」(80.0%)を合わせた87.8%の人がわかりやすかったと回答している。

【過去の調査との比較】(図2-19)

令和元年度以降の推移でみると、県民だよりを読んでいる割合は、令和元年度以降減少傾向にあり、今年度(47.4%)は前年度(49.0%)より1.6ポイント減少した。

【 図2-19 県民だより 経年比較 】



【属性による比較】（図2-20）

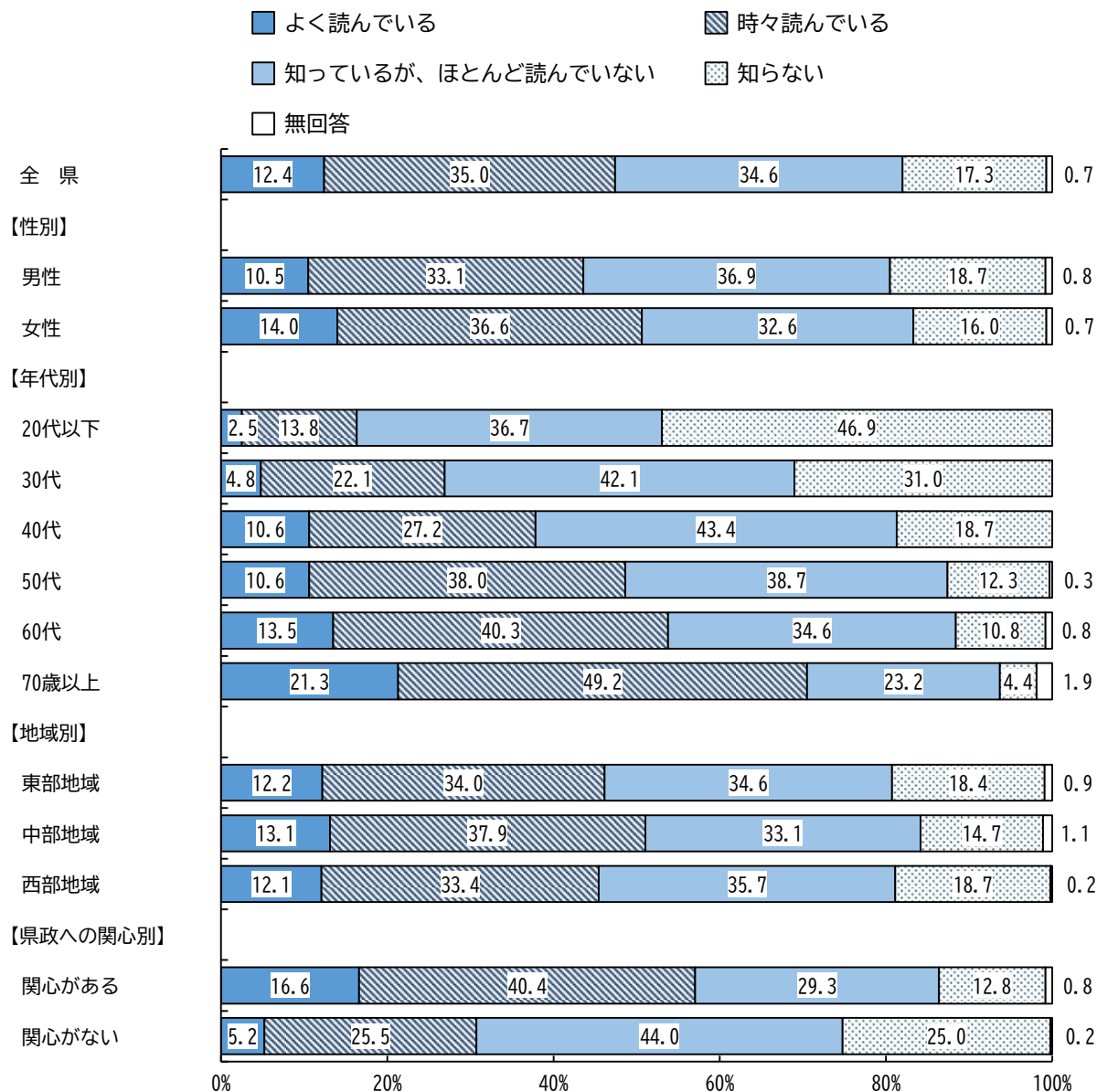
性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『60代』、『70歳以上』は、“読んでいる”が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』、『30代』は、「知らない」が全体と比較して高くなっている。

前問（P44）の県政への関心別でみると、県民だよりを読んでいる割合は、『関心がある』において57.0%となり、『関心がない』（30.7%）を26.3ポイント上回っている。

【 図2-20 県民だより 性別、年代別、地域別、県政への関心別 】



■ 静岡県議会だより

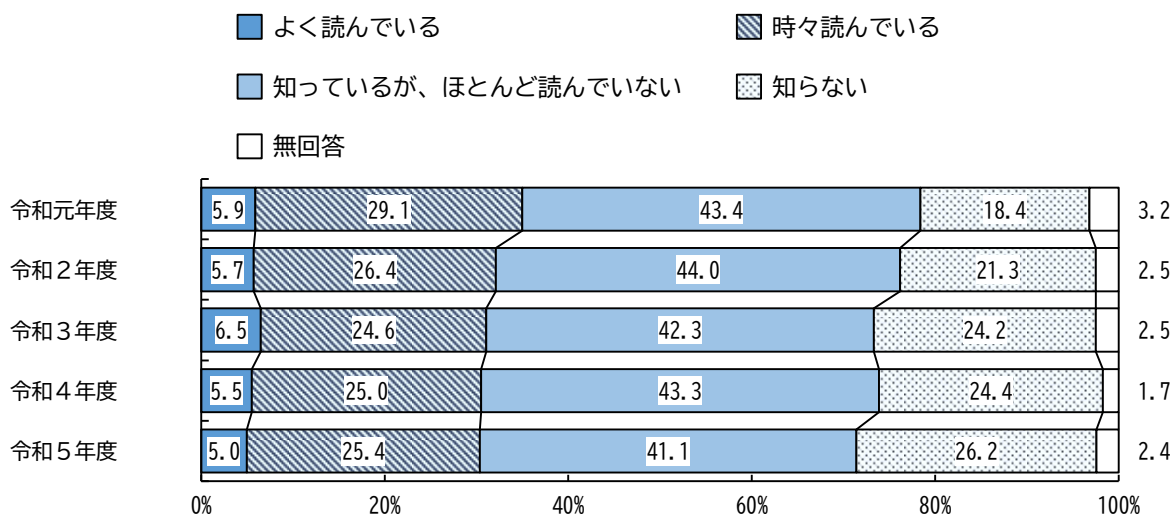
静岡県議会だよりの浸透度については、「知っているが、ほとんど読んでいない」(41.1%)が最も多く、以下「知らない」(26.2%)、「時々読んでいる」(25.4%)、「よく読んでいる」(5.0%)となっている。「よく読んでいる」(5.0%)と「時々読んでいる」(25.4%)を合わせた30.4%が静岡県議会だよりを読んでおり、それに「知っているが、ほとんど読んでいない」(41.1%)を合わせた71.5%が静岡県議会だよりを認知していると考えられる。

静岡県議会だよりを読んでいると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「だいたいわかった」(75.6%)が最も多く、以下「あまりわからなかった」(17.0%)、「よくわかった」(5.4%)、「わからなかった」(0.2%)となっている。「よくわかった」(5.4%)と「だいたいわかった」(75.6%)を合わせた81.0%の人がわかりやすかったと回答している。

【過去の調査との比較】(図2-21)

令和元年度以降の推移でみると、静岡県議会だよりを読んでいる割合は、今年度(30.4%)は前年度(30.5%)に比べ0.1ポイント減少した。なお、静岡県議会だよりを認知している割合は毎年度7割台で推移している。

【 図2-21 静岡県議会だより 経年比較 】



【属性による比較】（図2-22）

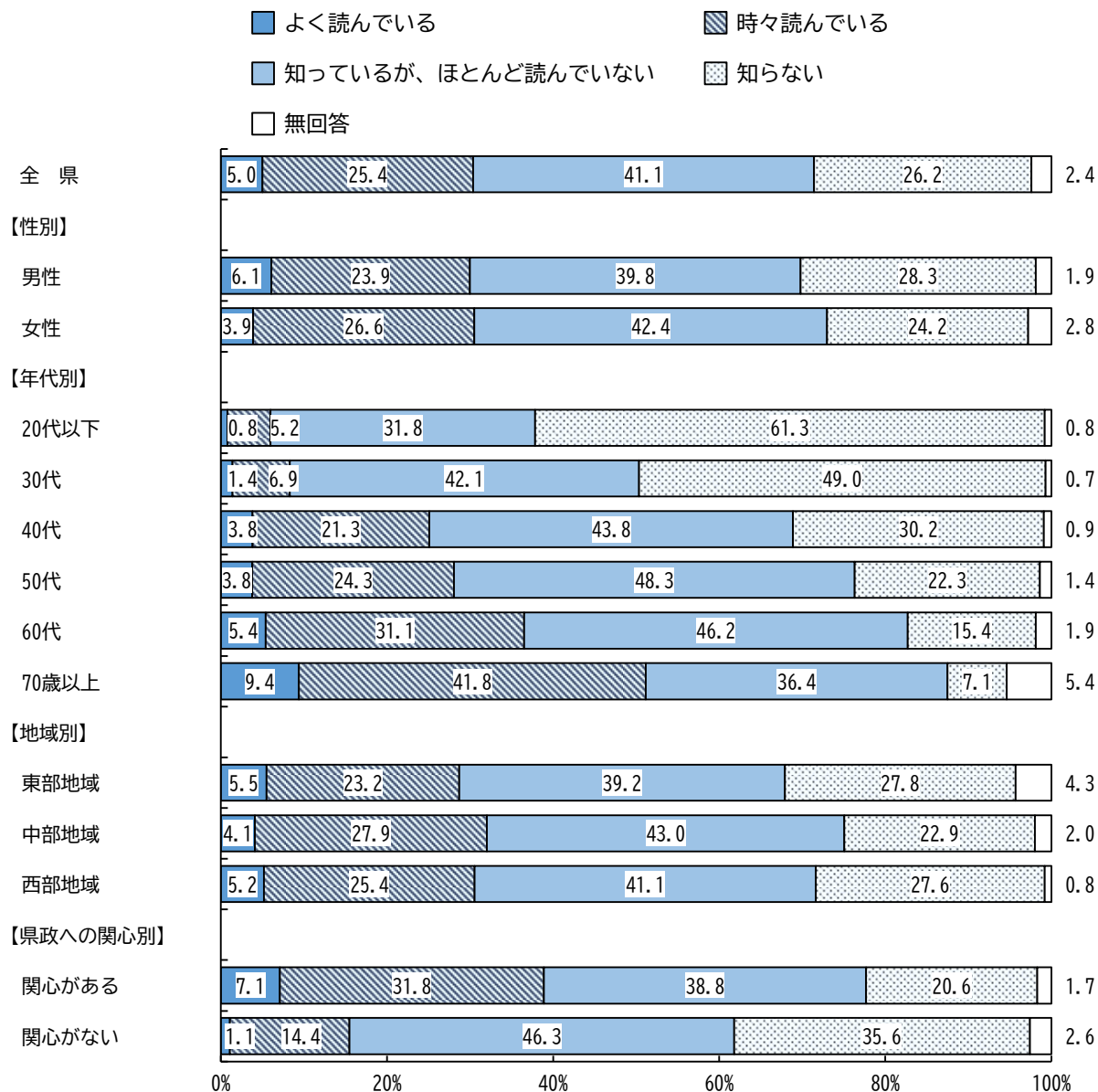
性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『60代』、『70歳以上』は、“読んでいる”が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』、『30代』は、「知らない」が全体と比較して高くなっている。

前問（P44）の県政への関心別でみると、静岡県議会だよりを読んでいる割合は『関心がある』において38.9%となっており、『関心がない』（15.5%）を23.4ポイント上回っている。

【 図2-22 静岡県議会だより 性別、年代別、地域別、県政への関心別 】



■ ラジオ広報

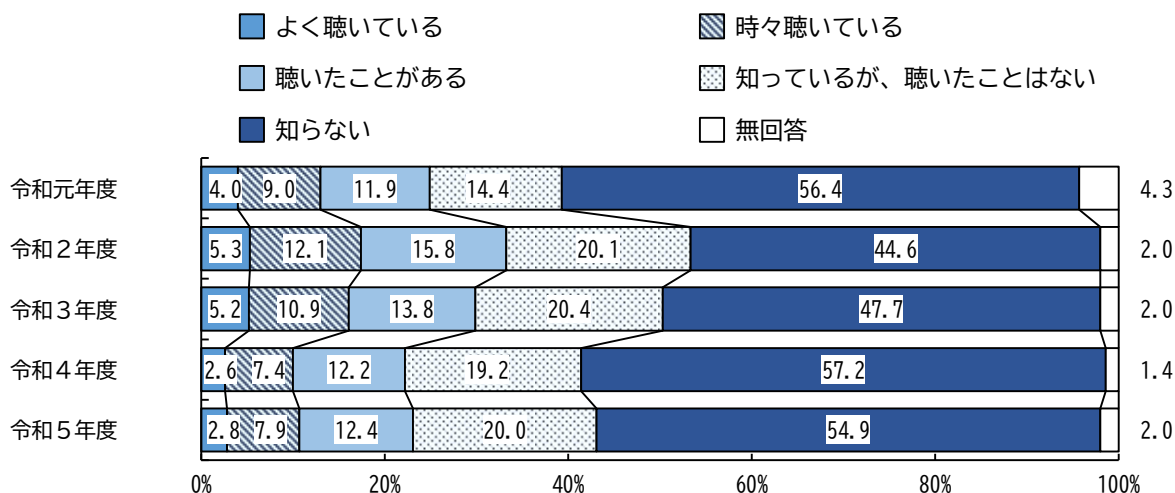
ラジオ広報の浸透度については、「知らない」(54.9%)が最も多く、以下「知っているが、聞いたことはない」(20.0%)、「聞いたことがある」(12.4%)、「時々聴いている」(7.9%)、「よく聴いている」(2.8%)となっている。「よく聴いている」(2.8%)と「時々聴いている」(7.9%)、「聞いたことがある」(12.4%)を合わせた23.1%がラジオ広報を聴いており、それに「知っているが、聞いたことはない」(20.0%)を合わせた43.1%がラジオ広報を認知していると考えられる。

ラジオ広報を聴いていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「だいたいわかった」(72.5%)が最も多く、以下「あまりわからなかった」(12.2%)、「よくわかった」(10.8%)、「わからなかった」(1.1%)となっている。「よくわかった」(10.8%)と「だいたいわかった」(72.5%)を合わせた83.3%の人がわかりやすかったと回答している。

【過去の調査との比較】(図2-23)

令和元年度以降の推移でみると、ラジオ広報を聴いている人の割合は、今年度(23.1%)は前年度(22.2%)と比較して0.9ポイント上回っている。

【 図2-23 ラジオ広報 経年比較 】



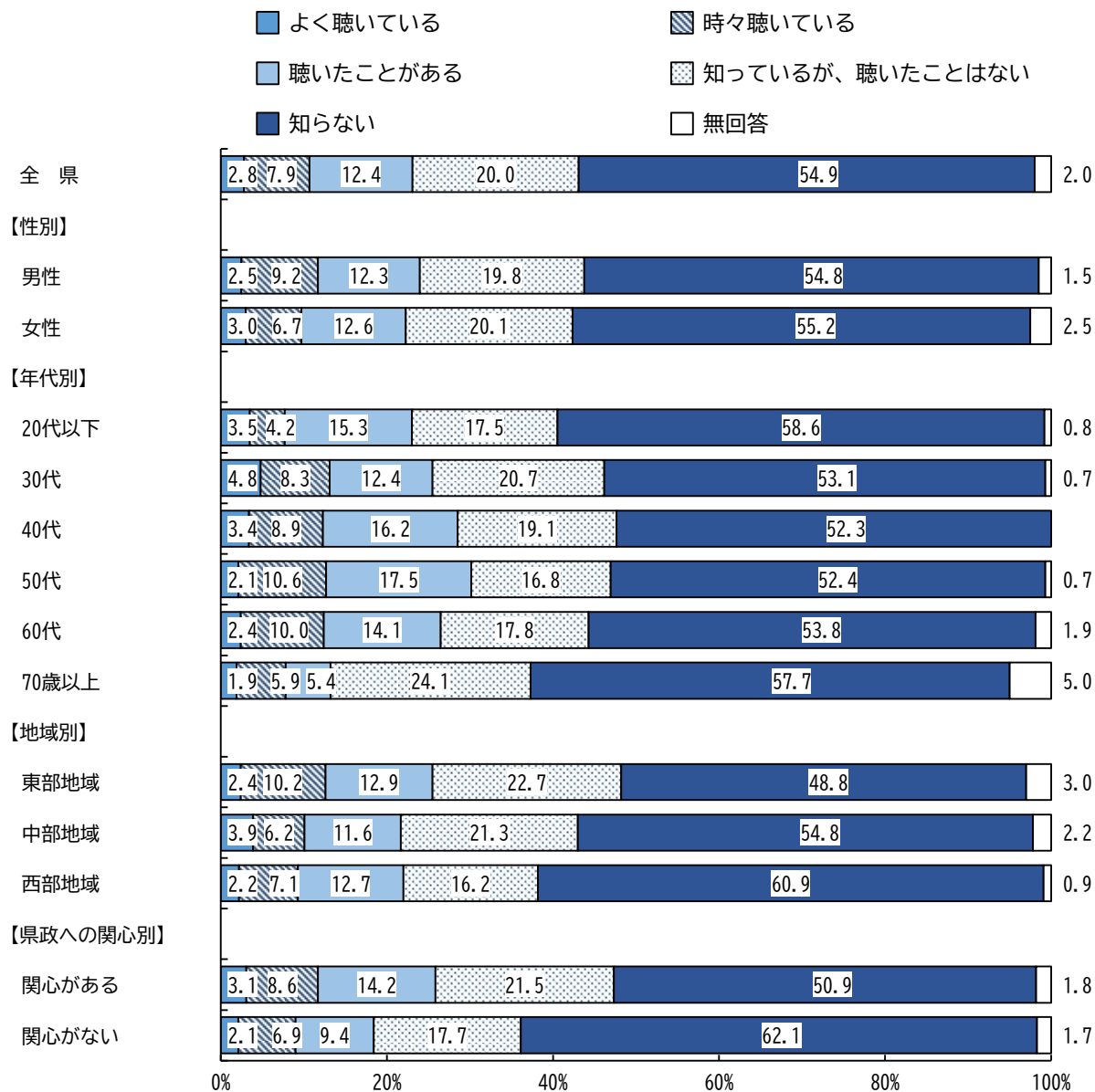
【属性による比較】（図2-24）

性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『40代』、『50代』は、“聴いている”が全体と比較して高くなっている。

前問（P44）の県政への関心別でみると、ラジオ広報を聴いている割合は『関心がある』において25.9%となっており、『関心がない』（18.4%）を7.5ポイント上回っている。

【 図2-24 ラジオ広報 性別、年代別、地域別、県政への関心別 】



■ 県のホームページ

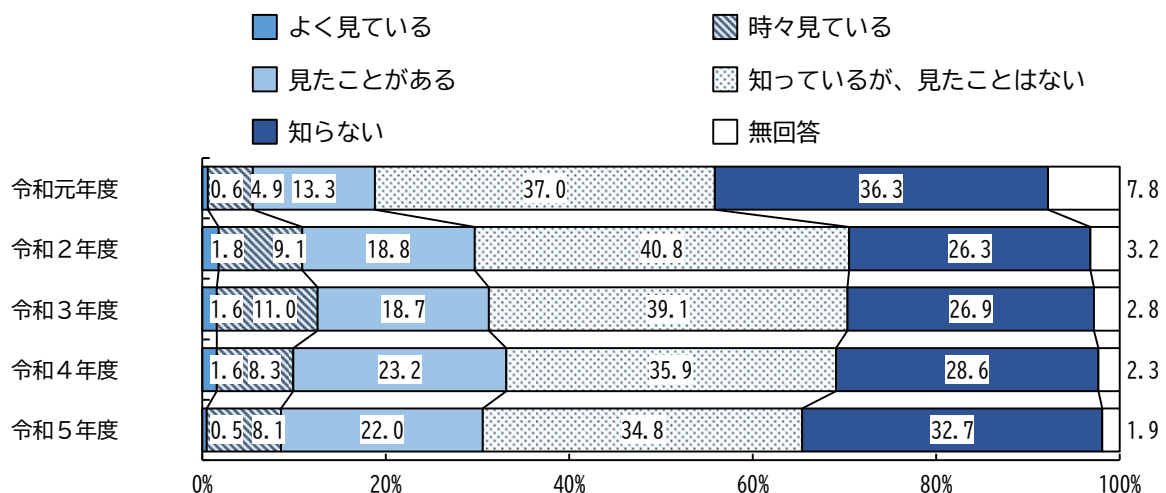
県のホームページの浸透度については、「知っているが、見たことはない」(34.8%)が最も多く、以下「知らない」(32.7%)、「見たことがある」(22.0%)、「時々見ている」(8.1%)、「よく見ている」(0.5%)となっている。「よく見ている」(0.5%)、「時々見ている」(8.1%)「見たことがある」(22.0%)を合わせた30.6%が県のホームページを見ており、それに「知っているが、見たことはない」(34.8%)を合わせた65.4%が県のホームページを認知していると考えられる。

県のホームページを見ていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「だいたいわかった」(75.3%)が最も多く、以下「あまりわからなかった」(16.5%)、「よくわかった」(4.0%)、「わからなかった」(2.8%)となっている。「よくわかった」(4.0%)と「だいたいわかった」(75.3%)を合わせた79.3%の人がわかりやすかったと回答している。

【過去の調査との比較】(図2-25)

令和元年度以降の推移でみると、県のホームページを見ている割合は、今年度(30.6%)は前年度(33.1%)から2.5ポイント下回っている。

【 図2-25 県のホームページ 経年比較 】



【属性による比較】（図2-26）

性別では、大きな差はみられない。

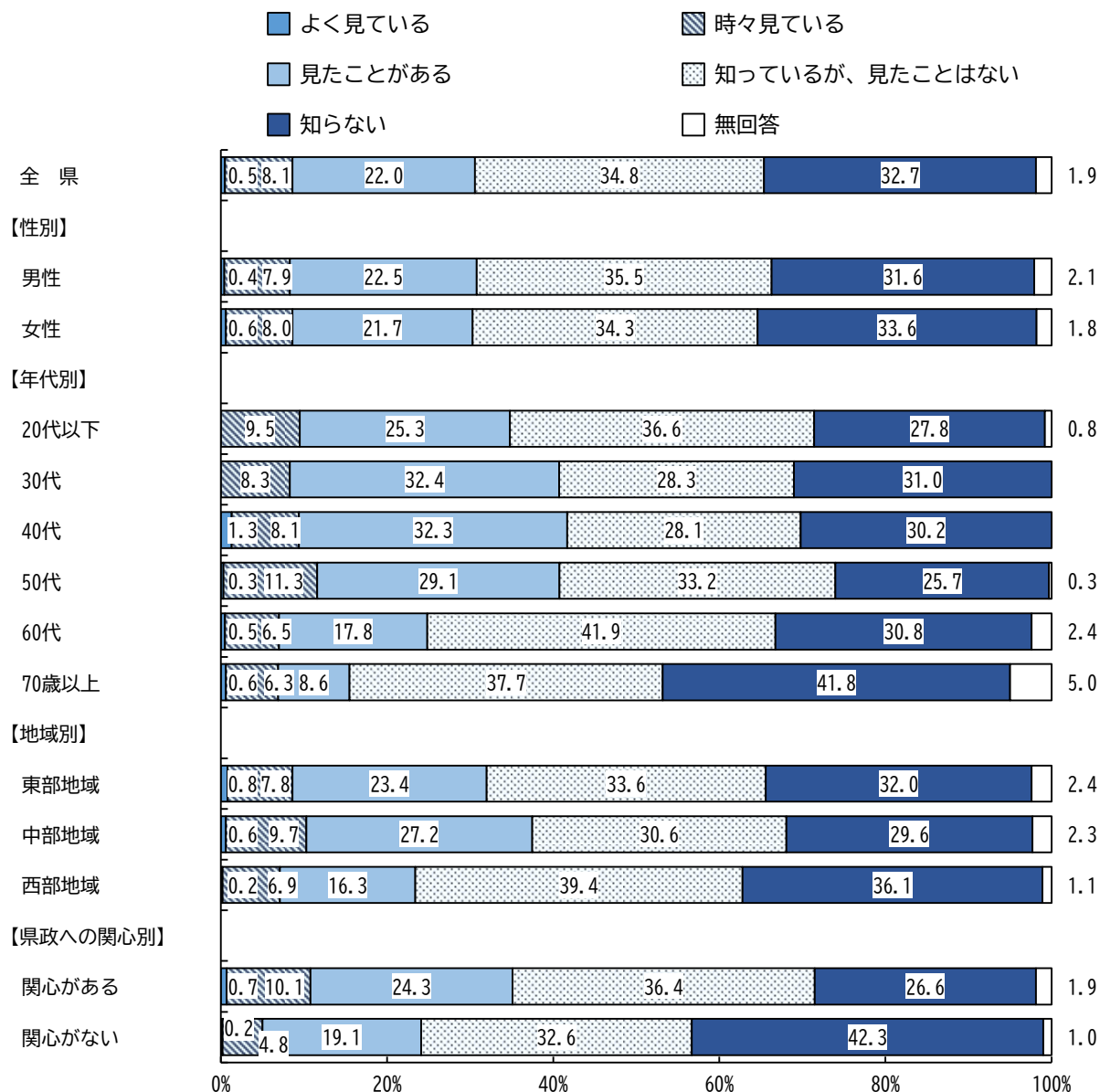
年代別でみると、『30代』、『40代』、『50代』は、“見た”が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「知らない」（41.8%）が全体と比較して高くなっている。

地域別でみると、『中部地域』は、“見た”（37.5%）が全体と比較して高くなっている。

前問（P44）の県政への関心別でみると、県のホームページを見ている割合は『関心がある』において35.1%となっており、『関心がない』（24.1%）を11.0ポイント上回っている。

【 図2-26 県のホームページ 性別、年代別、地域別、県政への関心別 】



■ SNS

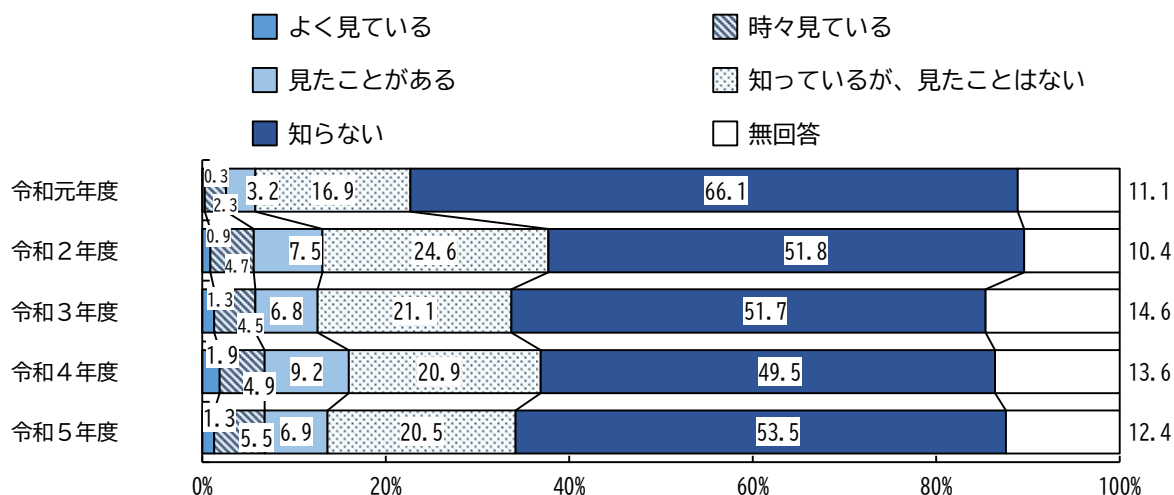
SNSの浸透度については、「知らない」(53.5%)が最も多く、以下「知っているが、見たことはない」(20.5%)、「見たことがある」(6.9%)、「時々見ている」(5.5%)、「よく見ている」(1.3%)となっている。「よく見ている」(1.3%)、「時々見ている」(5.5%)、「見たことがある」(6.9%)を合わせた13.7%がSNSを見ており、それに「知っているが、見たことはない」(20.5%)を合わせた34.2%がSNSを認知していると考えられる。

SNSを見ていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「だいたいわかった」(69.4%)が最も多く、以下「あまりわからなかった」(16.1%)、「よくわかった」(10.4%)となっている。「よくわかった」(10.4%)と「だいたいわかった」(69.4%)を合わせた79.8%の人がわかりやすかったと回答している。

【過去の調査との比較】(図2-27)

令和元年度以降の推移でみると、SNSを見ている割合は、今年度(13.7%)は前年度(16.0%)と比較して2.3ポイント下回っている。

【 図2-27 SNS 経年比較 】

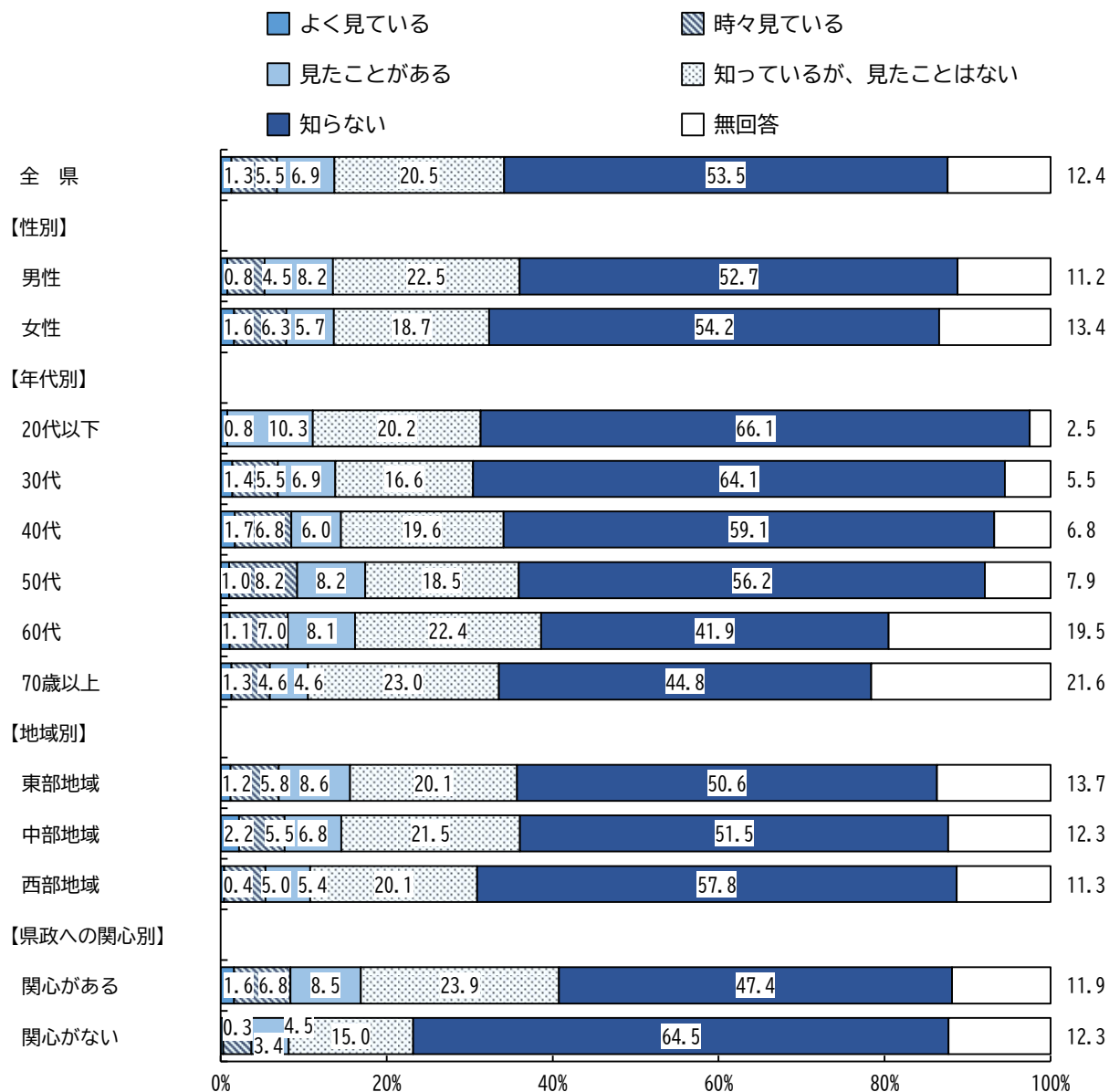


【属性による比較】（図2-28）

性別、年代別、地域別でみると、大きな差はみられない。

前問（P44）の県政への関心別でみると、SNSを見ている割合は『関心がある』において16.9%となっており、『関心がない』（8.2%）を8.7ポイント上回っている。

【 図2-28 SNS 性別、年代別、地域別、県政への関心別 】



■ YouTube

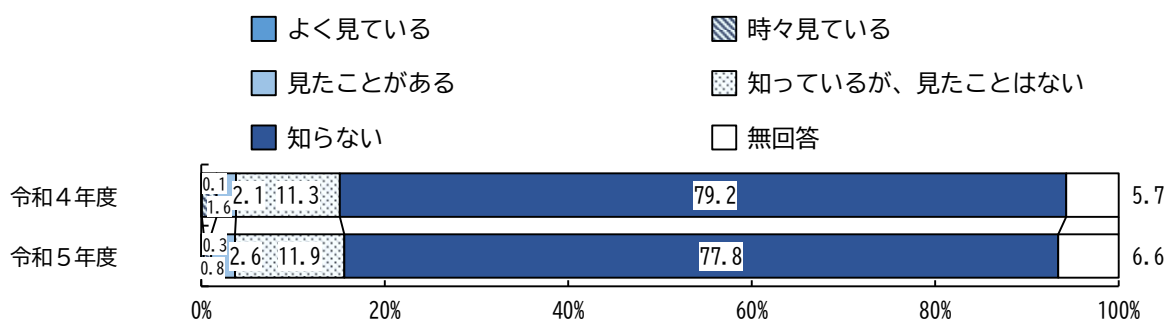
YouTubeの浸透度については、「知らない」(77.8%)が最も多く、以下「知っているが、見たことはない」(11.9%)、「見たことがある」(2.6%)、「時々見ている」(0.8%)、「よく見ている」(0.3%)となっている。「よく見ている」(0.3%)、「時々見ている」(0.8%)、「見たことがある」(2.6%)を合わせた3.7%がYouTubeを見ており、それに「知っているが、見たことはない」(11.9%)を合わせた15.6%がYouTubeを認知していると考えられる。

YouTubeを見ていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「だいたいわかった」(72.3%)が最も多く、以下「あまりわからなかった」(19.2%)、「わからなかった」(3.0%)、「よくわかった」(2.6%)となっている。「よくわかった」(2.6%)と「だいたいわかった」(72.3%)を合わせた74.9%の人がわかりやすかったと回答している。

[過去の調査との比較] (図2-29)

令和4年度以降の推移でみると、YouTubeを見ている割合は、今年度(3.7%)は前年度(3.8%)と比較して0.1ポイント下回っている。

【 図2-29 YouTube 経年比較 】



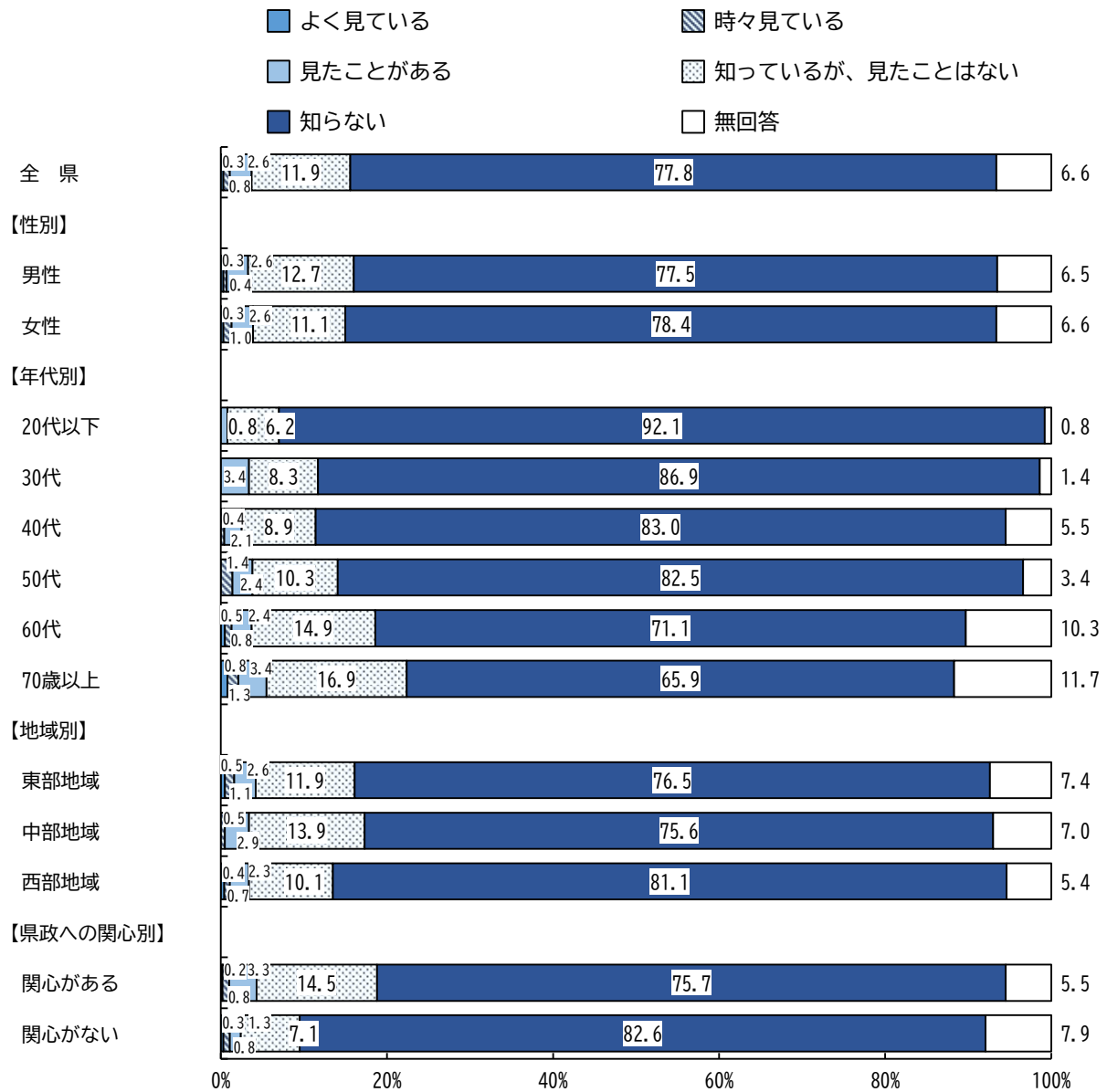
【属性による比較】（図2-30）

性別、地域別で見ると、大きな差はみられない。

年代別で見ると、『70歳以上』は、「知っているが、見たことはない」（16.9%）が全体と比較して高くなっている。

前問（P44）の県政への関心別で見ると、YouTubeを見ている割合は『関心がある』において4.3%となっており、『関心がない』（2.4%）を1.9ポイント上回っている。

【 図2-30 YouTube 性別、年代別、地域別、県政への関心別 】



4 日常の課題や生活における意識

(1) 有徳の人づくり

—— 「有徳の人」としての行動ができていると思う人は29.8%

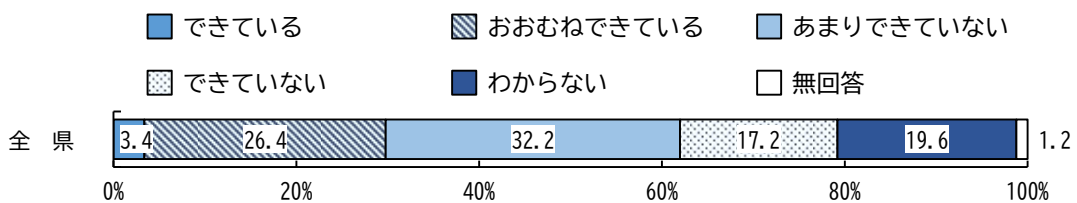
行動ができていると思う人は29.8% ————
行動ができていると思う人は49.4%

Q7 静岡県では、「有徳の人」づくりを進めています。あなたは、ご自身が日頃から「有徳の人」としての行動ができていると思いますか。(○は1つ)

※「有徳の人」の具体例

- ①様々なことに興味・関心を持ちながら、自らの個性を生かし、自らの知性・感性や身体能力等を高めるために努力し続ける人（見識を高める努力をする人、自分なりに勉強やスポーツを頑張る人、興味を持って文化・芸術に接する人、他人の協力を得て自分のやりたいことに打ち込む人 など）
- ②生き方や価値観の違いを認め合い、他人を思いやる気持ちはもとより、自分や自分の住んでいる地域、人だけでなくモノや自然などを大切にする姿勢を磨き続ける人（何事にも感謝の気持ちを大切にする人、社会人としての規律を守る人、他人の立場を尊重し他人のことを思いやる人、困っている人に手を差し伸べる人 など）
- ③自らの個性を生かし、自他を大切にする心を持って、時には助け合いながら、社会や人のために行動する人（科学の才能を社会の発展に生かす人、スポーツ選手として元気を与える人、ボランティア活動を行う人、地域で子どもの見守りをする人 など）

【 有徳の人づくり 】

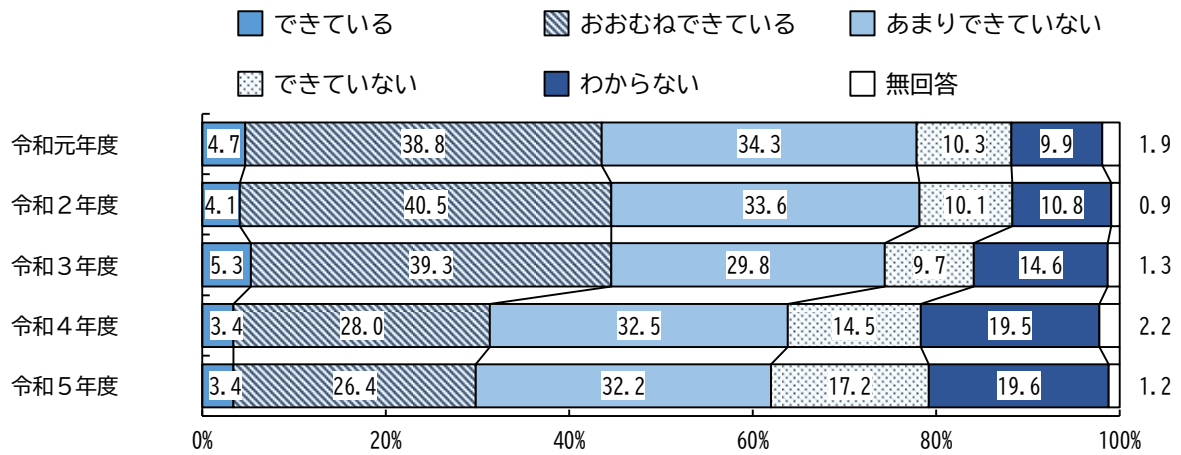


「有徳の人」としての行動については、「あまりできていない」(32.2%)が最も多く、以下「おおむねできている」(26.4%)、「わからない」(19.6%)、「できていない」(17.2%)、「できている」(3.4%)となっている。「できている」(3.4%)と「おおむねできている」(26.4%)を合わせた29.8%が“できている”と回答し、「あまりできていない」(32.2%)と「できていない」(17.2%)を合わせた49.4%は“できていない”と回答している。

【過去の調査との比較】（図2-31）

令和元年度以降の推移でみると、「有徳の人」として行動できていると思う人の割合は、令和3年度以降は減少傾向がみられる。

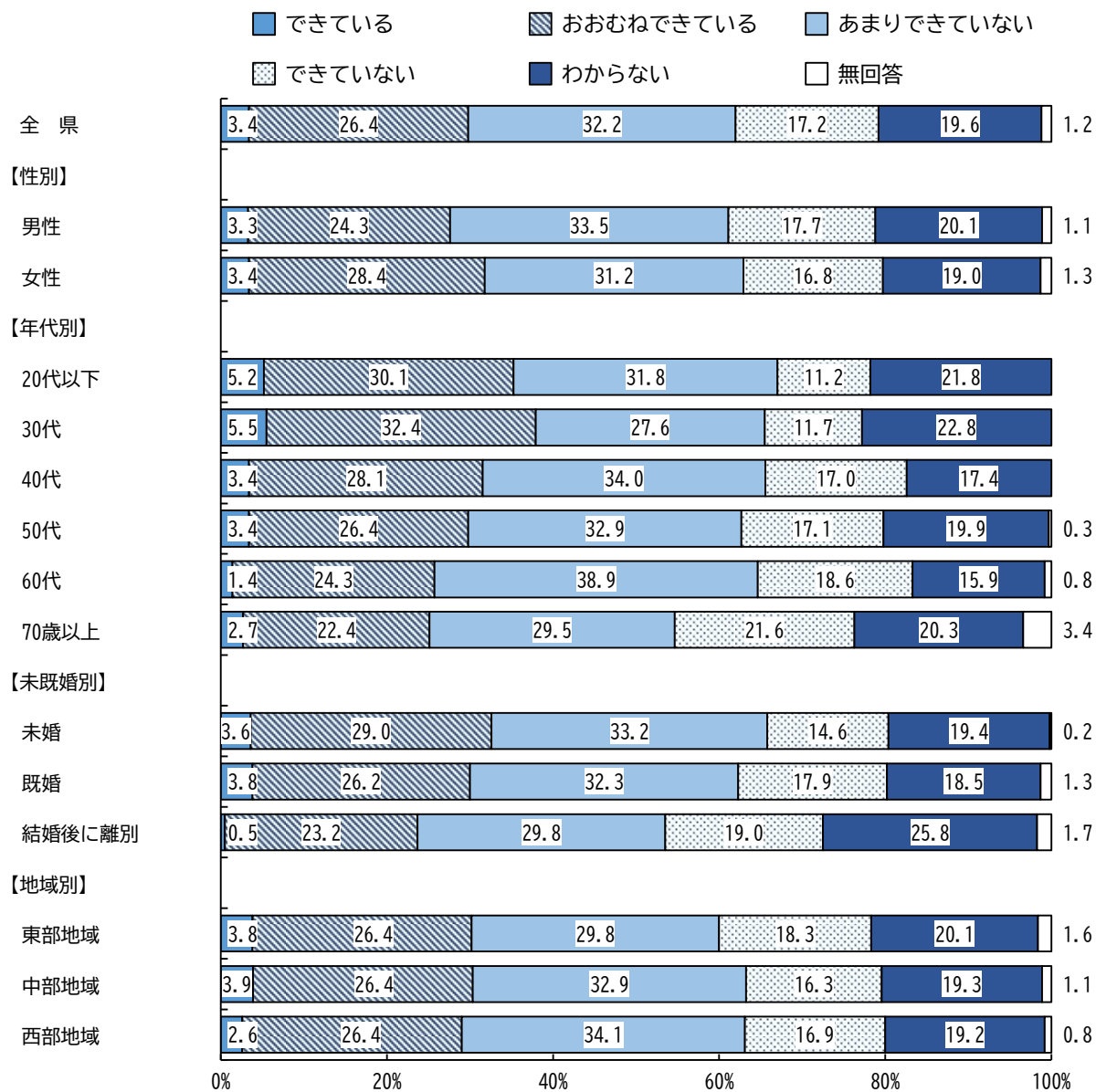
【 図2-31 有徳の人づくり 経年比較 】



【属性による比較】（図2-32）

性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。
 年代別でみると、『20代以下』、『30代』は、“できている”が全体と比較して高くなっている。
 また、『60代』は、“できていない”（57.5%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-32 有徳の人づくり 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



(2) 地域コミュニティの活性化

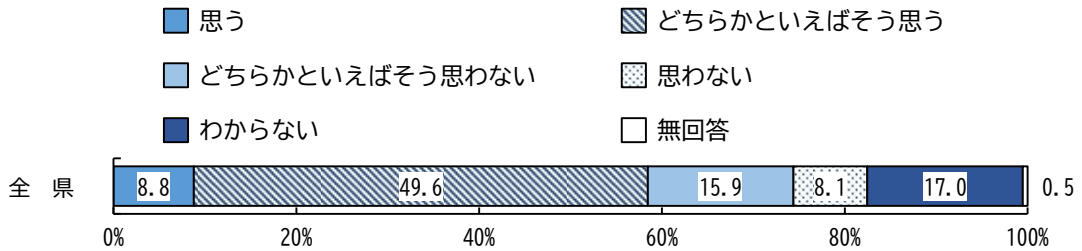
—— 地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると

「思う」人は58.4% 「思わない」人は24.0% ——

Q 8 あなたのお住まいの地域は、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思いますか。(〇は1つ)

※「地域の絆や支え合い」…地域の防災や防犯、環境美化、高齢者の見守り等の福祉などを含む、幅広い住民のふれあいや助け合いの仕組みのことをいいます。

【 地域コミュニティの活性化 】

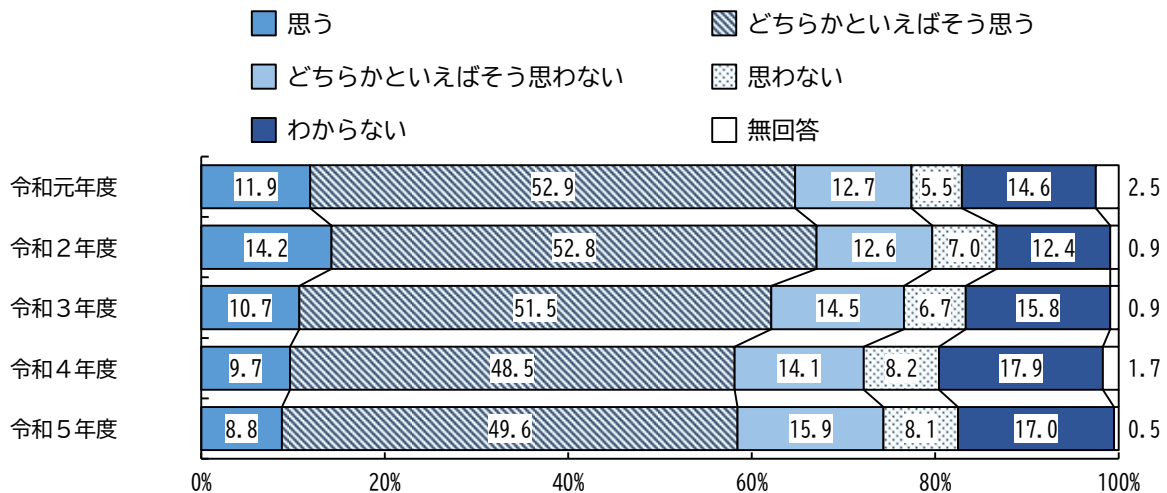


地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思うかについては、「どちらかといえばそう思う」(49.6%)が最も多く、以下「わからない」(17.0%)、「どちらかといえばそう思わない」(15.9%)、「思う」(8.8%)、「思わない」(8.1%)となっている。「思う」(8.8%)と「どちらかといえばそう思う」(49.6%)を合わせた58.4%が、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると“思う”と回答し、「どちらかといえばそう思わない」(15.9%)と「思わない」(8.1%)を合わせた24.0%は、“思わない”と回答している。

【過去の調査との比較】(図2-33)

令和元年度以降の推移でみると、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思う人の割合は、今年度(58.4%)は前年度(58.2%)と比較して0.2ポイント上回っている。

【 図2-33 地域コミュニティの活性化 経年比較 】



【属性による比較】（図2-34）

性別でみると、大きな差はみられない。

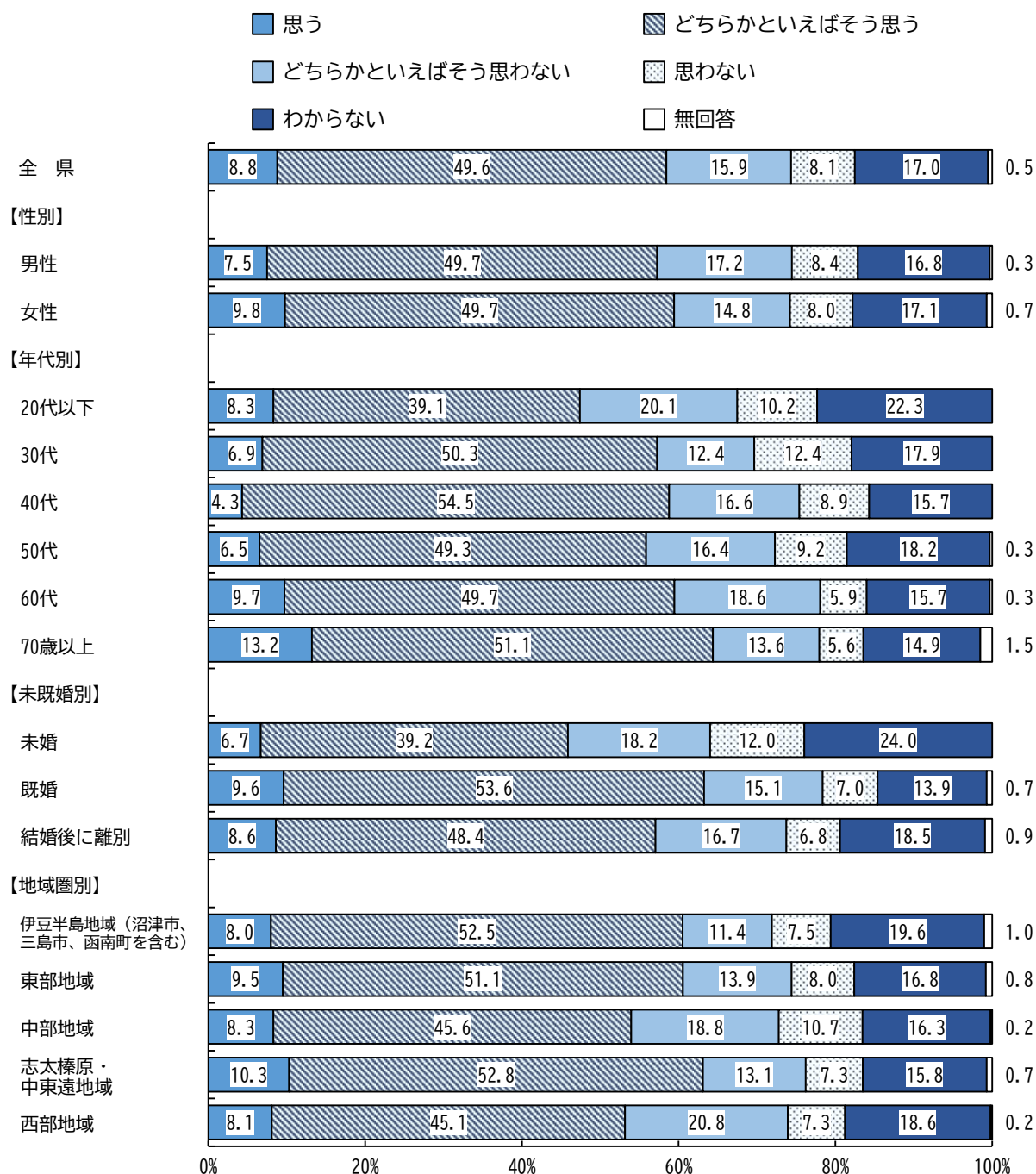
年代別でみると、『70歳以上』は、“思う”（64.3%）が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』は、“思わない”（30.3%）が全体と比較して高くなっている。

未既婚別でみると、『未婚』は、“思わない”（30.2%）が全体と比較して高くなっている。

地域圏別でみると、『中部地域』は、“思わない”（29.5%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-34 地域コミュニティの活性化 性別、年代別、未既婚別、地域圏別 】



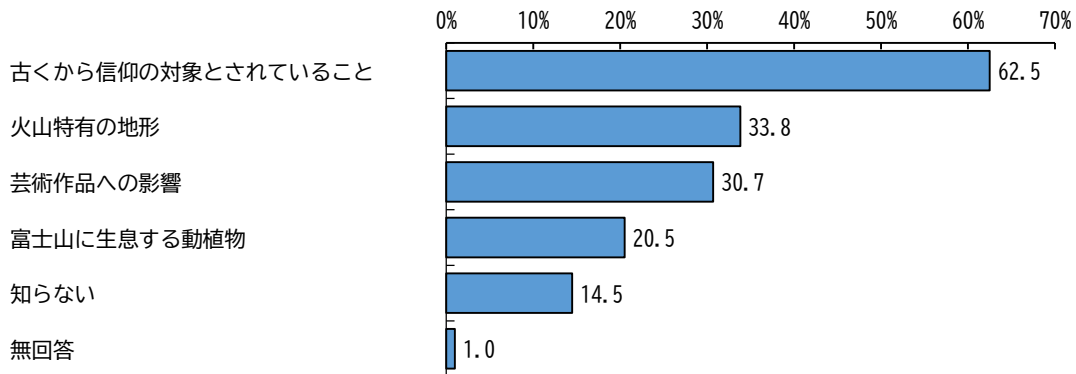
(3) 富士山の世界文化遺産としての価値の理解

— 「古くから信仰の対象とされていること」が62.5%、「火山特有の地形」が33.8%

「知らない」は14.5% —

Q 9 富士山は世界文化遺産として大きく2つの価値が認められました。あなたは、次のうち、どれが認められたと思いますか。(〇は2つ)

【 富士山の世界文化遺産としての価値の理解 】



※令和2年度より回答制限が「〇はいくつでも」から「〇は2つ」に変更。

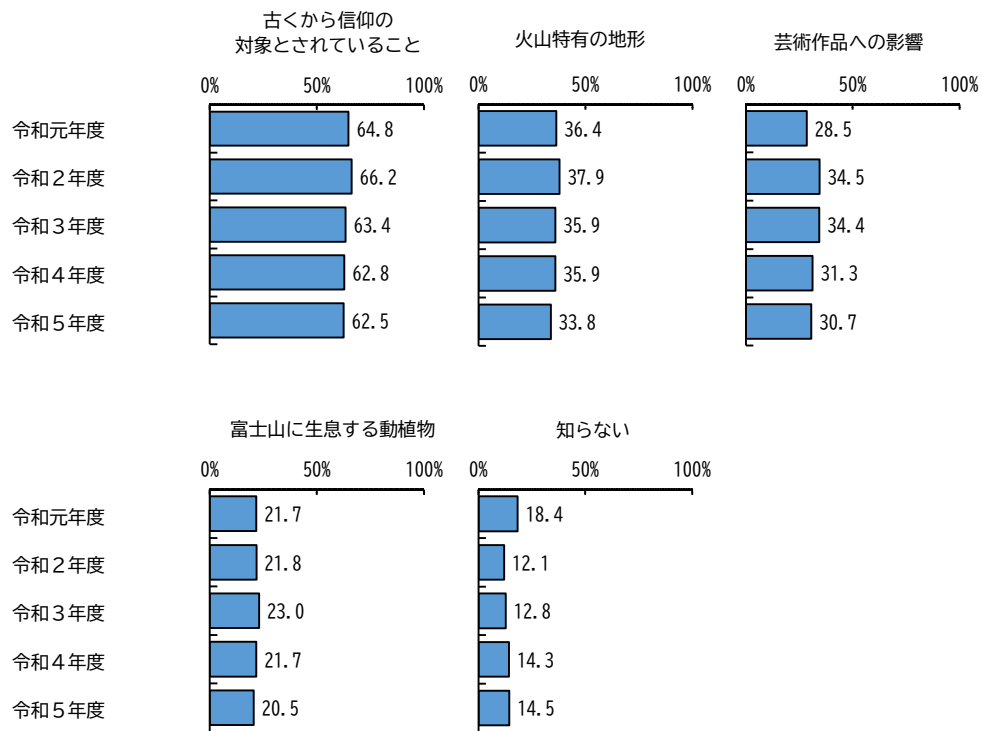
認められた価値は、「古くから信仰の対象とされていること」及び「芸術作品への影響」。

富士山の世界文化遺産としての価値の理解については、「古くから信仰の対象とされていること」(62.5%)が最も多く、以下「火山特有の地形」(33.8%)、「芸術作品への影響」(30.7%)、「富士山に生息する動植物」(20.5%)となっている。また、「知らない」は14.5%となっている。

【過去の調査との比較】（図2-35）

令和元年度以降の推移でみると、大きな差はみられなかった。

【 図2-35 富士山の世界文化遺産としての価値の理解 経年比較 】



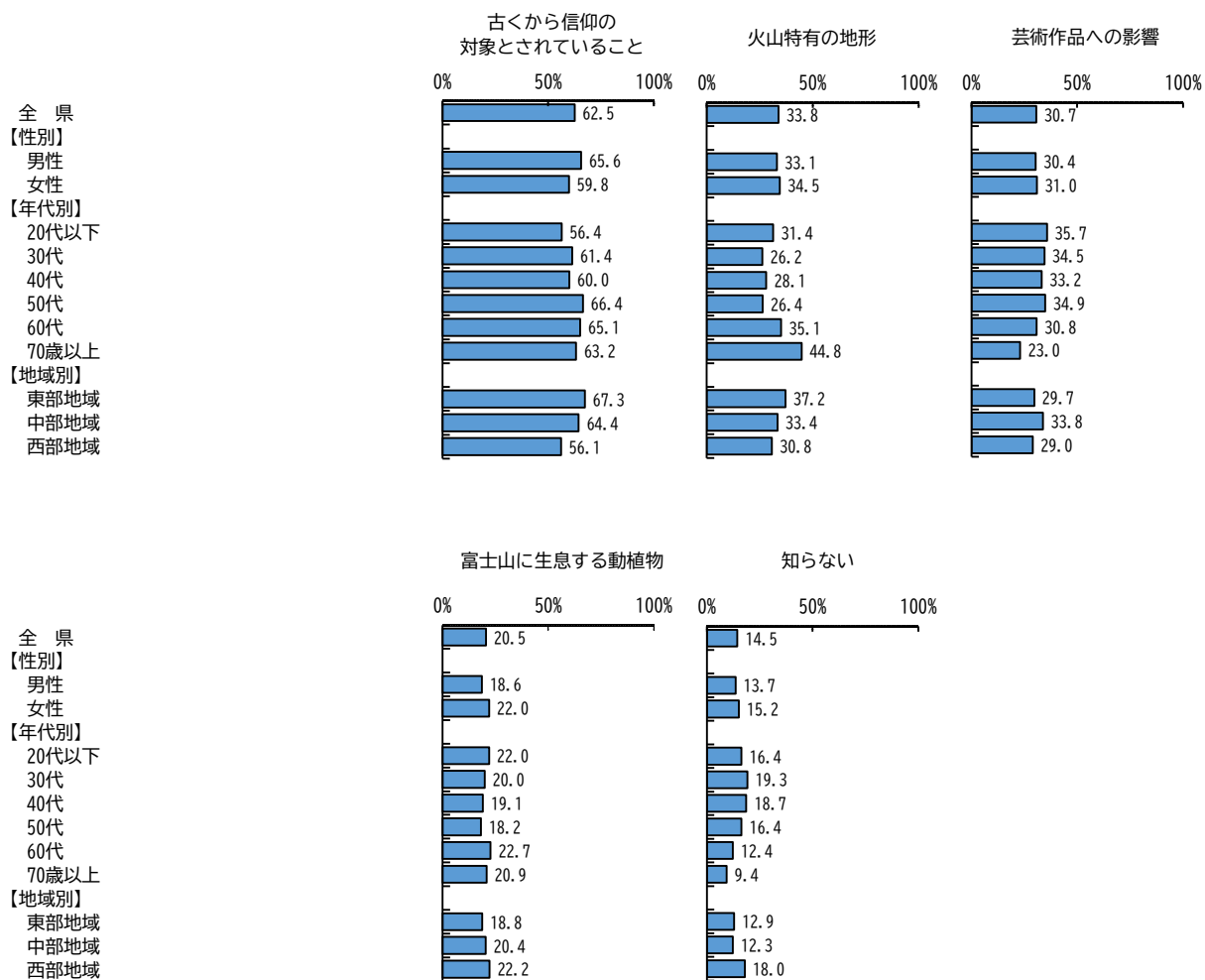
【属性による比較】（図2-36）

性別、地域別で見ると、大きな差はみられない。

年代別で見ると、『20代以下』は、「芸術作品への影響」（35.7%）が全体と比較して高くなっている。

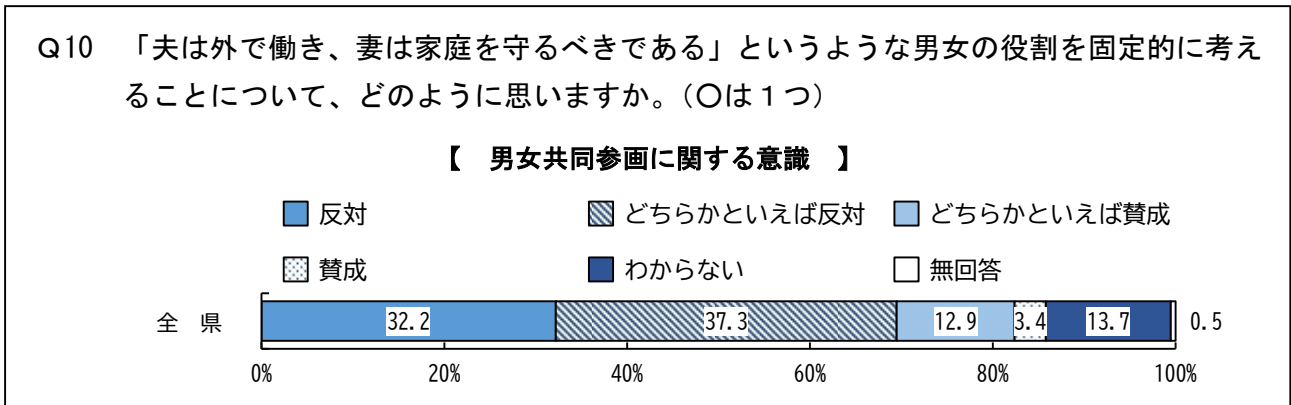
また、『70歳以上』は、「火山特有の地形」（44.8%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-36 富士山の世界文化遺産としての価値の理解 性別、年代別、地域別 】



(4) 男女共同参画に関する意識

— 男女の役割を固定的に考えることに「反対」は69.5% 「賛成」は16.3% —

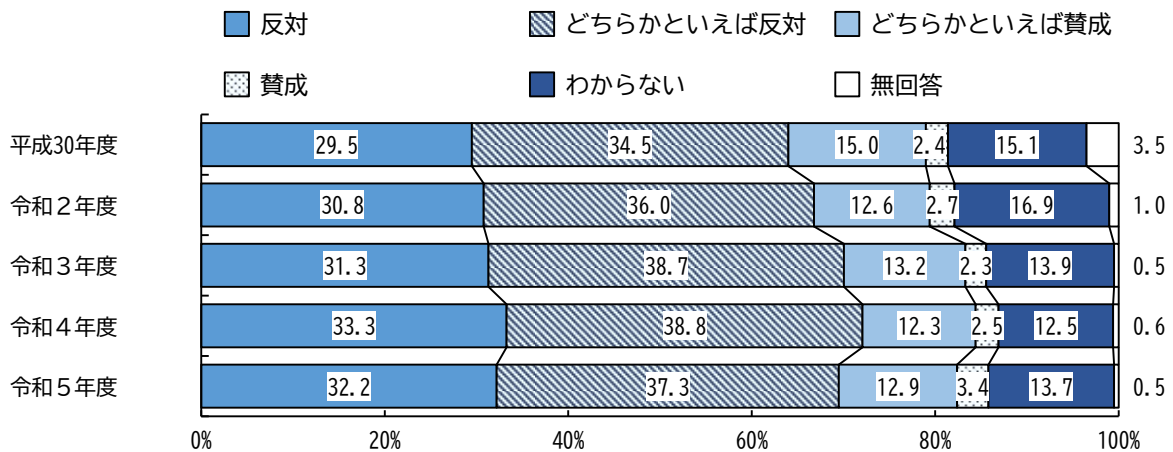


男女の役割を固定的に考えることについては、「どちらかといえば反対」(37.3%)が最も多く、以下「反対」(32.2%)、「わからない」(13.7%)、「どちらかといえば賛成」(12.9%)、「賛成」(3.4%)となっている。「反対」(32.2%)と「どちらかといえば反対」(37.3%)を合わせた69.5%が、男女の役割を固定的に考えることに“反対”と回答し、「どちらかといえば賛成」(12.9%)と「賛成」(3.4%)を合わせた16.3%が、男女の役割を固定的に考えることに“賛成”と回答している。

【過去の調査との比較】(図2-37)

男女の役割を固定的に考えることについて、「反対」または「どちらかといえば反対」と思う人の割合は、今年度(69.5%)は前年度(72.1%)を2.6ポイント下回っている。

【 図2-37 男女共同参画に関する意識 経年比較 】



【属性による比較】（図2-38）

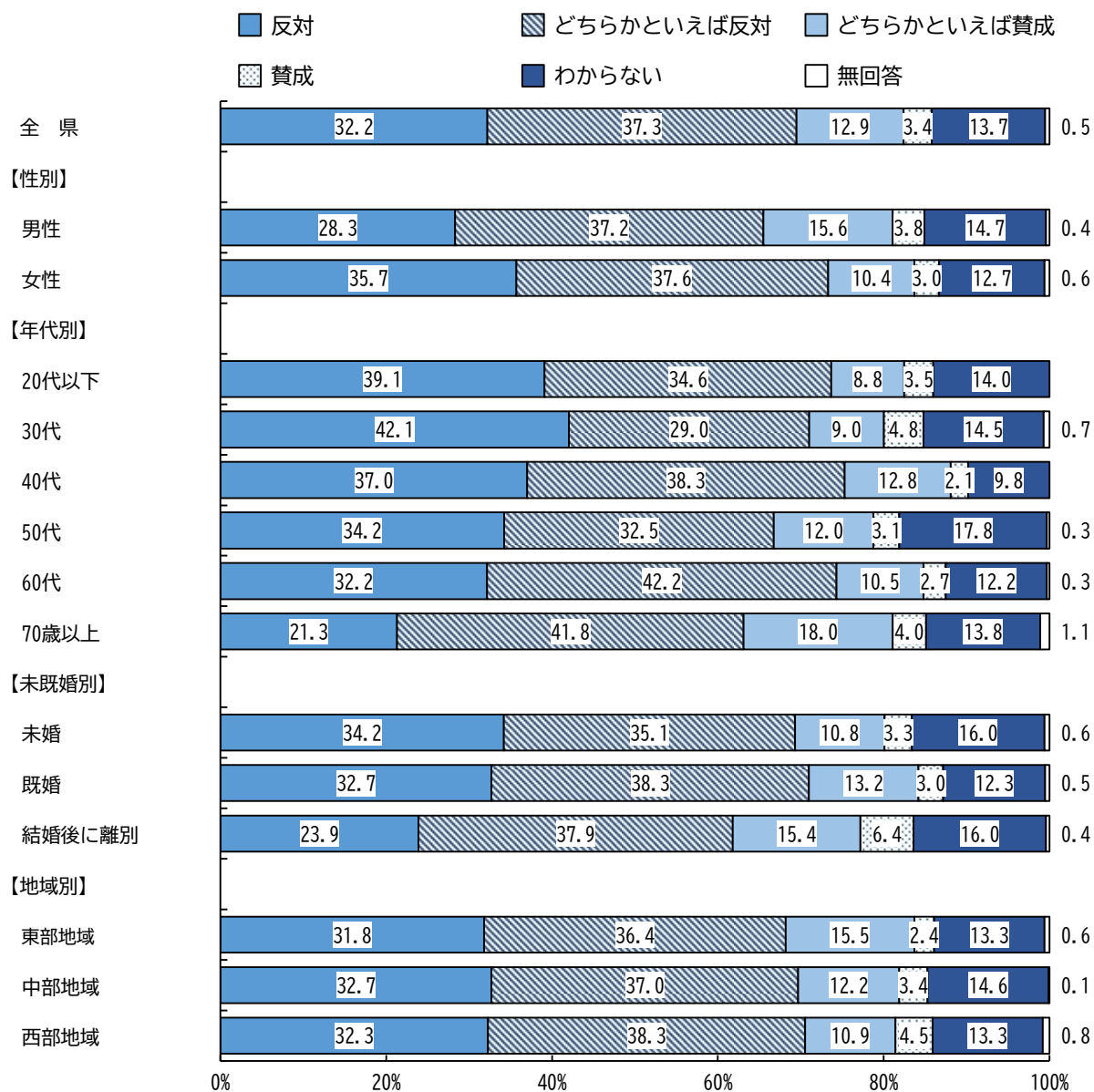
性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『40代』は、“反対”（75.3%）が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、“賛成”（22.0%）が全体と比較して高くなっている。

未既婚別でみると、『結婚後に離別』は、“賛成”（21.8%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-38 男女共同参画に関する意識 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



(5) 子どもをはぐくむ活動

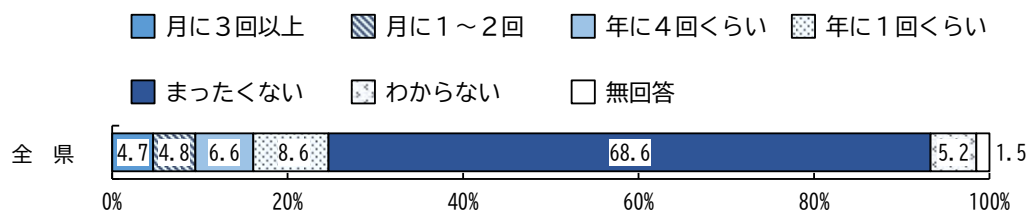
— 子どもをはぐくむ活動を「している」人は24.7% 「していない」人は68.6% —

Q11 あなたは、この1年でどのくらい、次にあげるような「子どもをはぐくむ活動」に参加しましたか。(〇は1つ)

※「子どもをはぐくむ活動」の例

- ・ PTAや健全育成会、子ども会、ボーイスカウト、スポーツ少年団、子育てサークル等の活動（役員活動だけではなく、保護者やボランティア等としての参加や活動の手伝いも含む）
- ・ 学校支援活動や地域における活動（授業や学校行事への協力、部活動支援、放課後の学習支援、放課後子供教室、体験学習、郷土学習、花壇整備、登下校見守り、本の読み聞かせ など）

【 子どもをはぐくむ活動 】

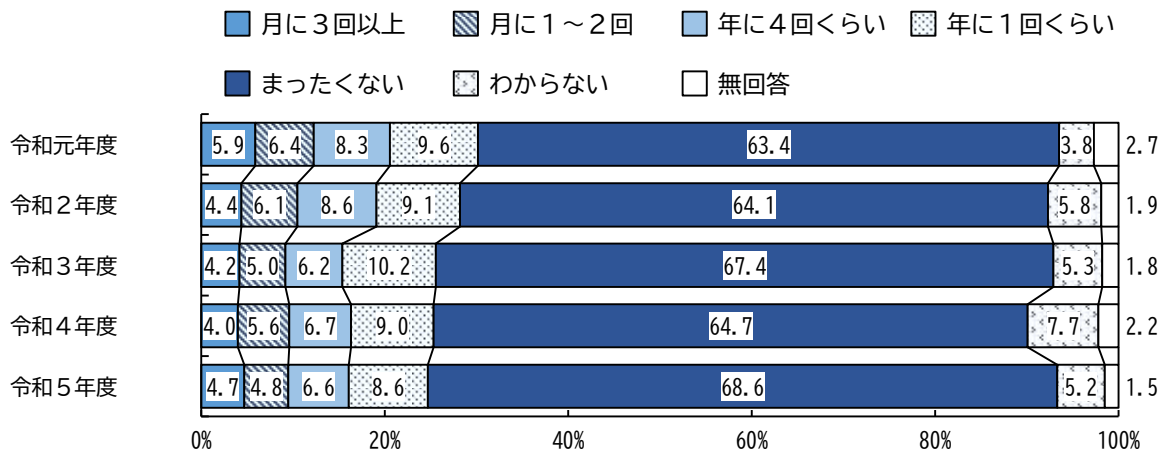


子どもをはぐくむ活動については、「まったくしない」(68.6%)が最も多く、以下「年に1回くらい」(8.6%)、「年に4回くらい」(6.6%)、「わからない」(5.2%)、「月に1~2回」(4.8%)となっている。「月に3回以上」(4.7%)、「月に1~2回」(4.8%)、「年に4回くらい」(6.6%)、「年に1回くらい」(8.6%)を合わせた24.7%が子どもをはぐくむ活動を“している”と回答しており、「まったくしない」(68.6%)の半数以下となっている。

【過去の調査との比較】(図2-39)

令和元年度以降の推移で見ると、子どもをはぐくむ活動を“している”人の割合は、減少傾向にあり、今年度(24.7%)は前年度(25.3%)を0.6ポイント下回っている。

【 図2-39 子どもをはぐくむ活動 経年比較 】



【属性による比較】（図2-40）

性別、地域別では、大きな差はみられない。

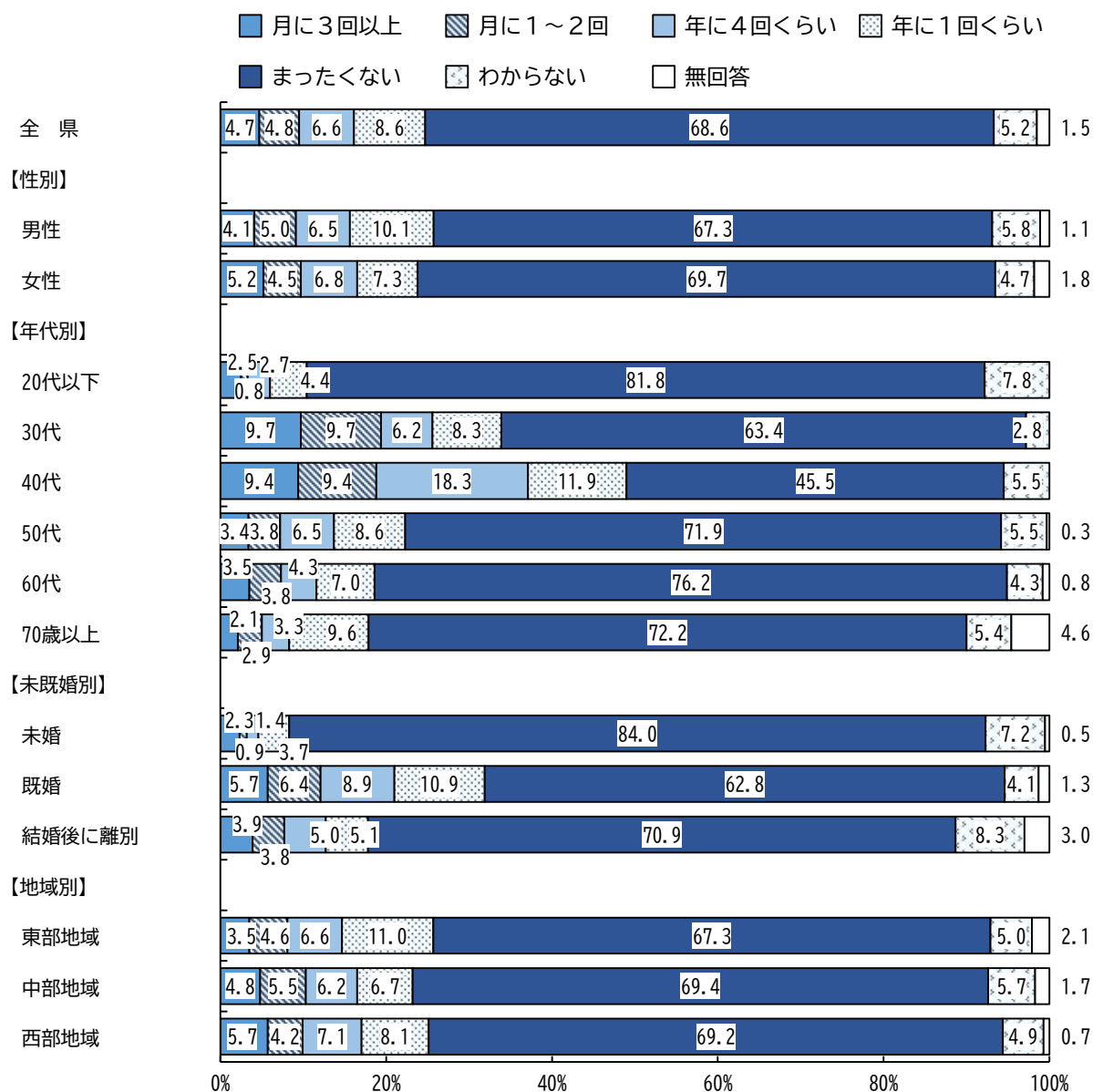
年代別でみると、『30代』、『40代』は、子どもをはぐくむ活動を“している”が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』、『60代』は、「まったくない」が全体と比較して高くなっている。

未既婚別でみると、『既婚』は、子どもをはぐくむ活動を“している”（31.9%）が全体と比較して高くなっている。

また、『未婚』は、「まったくない」（84.0%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-40 子どもをはぐくむ活動 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



(6) 住宅・住環境の満足度

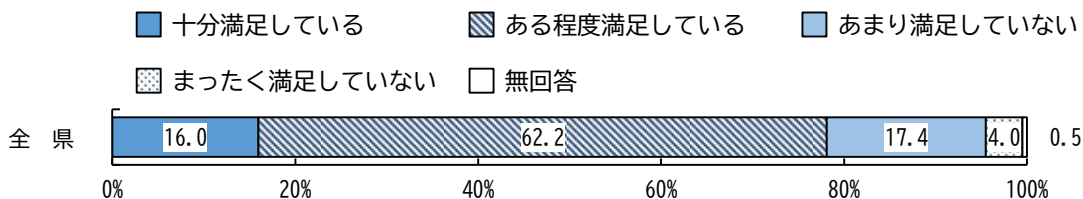
—— 住宅と住宅のまわりの環境に、「満足している」人は78.2%

「満足していない」人は21.4% ——

Q12 あなたは、現在お住まいの住宅と、住宅のまわりの環境について、どの程度満足していますか。(〇は1つ)

※「住宅のまわりの環境」…敷地や近隣だけでなく、歩いて回れる程度の地域の居住環境を含みます。

【 住宅・住環境の満足度 】

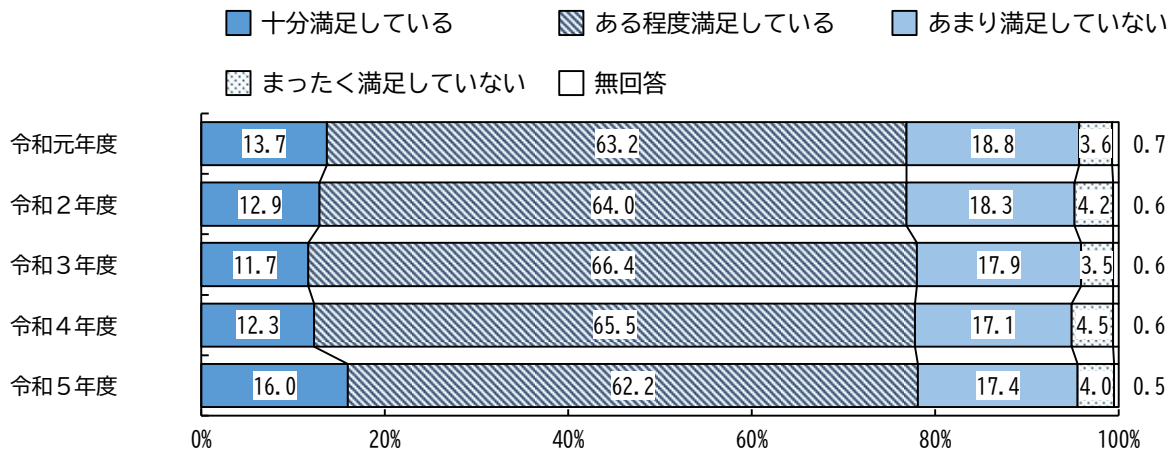


住宅と住宅のまわりの環境に対する満足度は、「ある程度満足している」(62.2%)が最も多く、以下「あまり満足していない」(17.4%)、「十分満足している」(16.0%)、「まったく満足していない」(4.0%)となっている。「十分満足している」(16.0%)と「ある程度満足している」(62.2%)を合わせた78.2%が“満足している”と回答している。

【過去の調査との比較】(図2-41)

令和元年度以降の推移でみると、“満足している”人の割合は7割台で推移している。

【 図2-41 住宅・住環境の満足度 経年比較 】



【属性による比較】（図2-42、図2-43）

性別、年代別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。

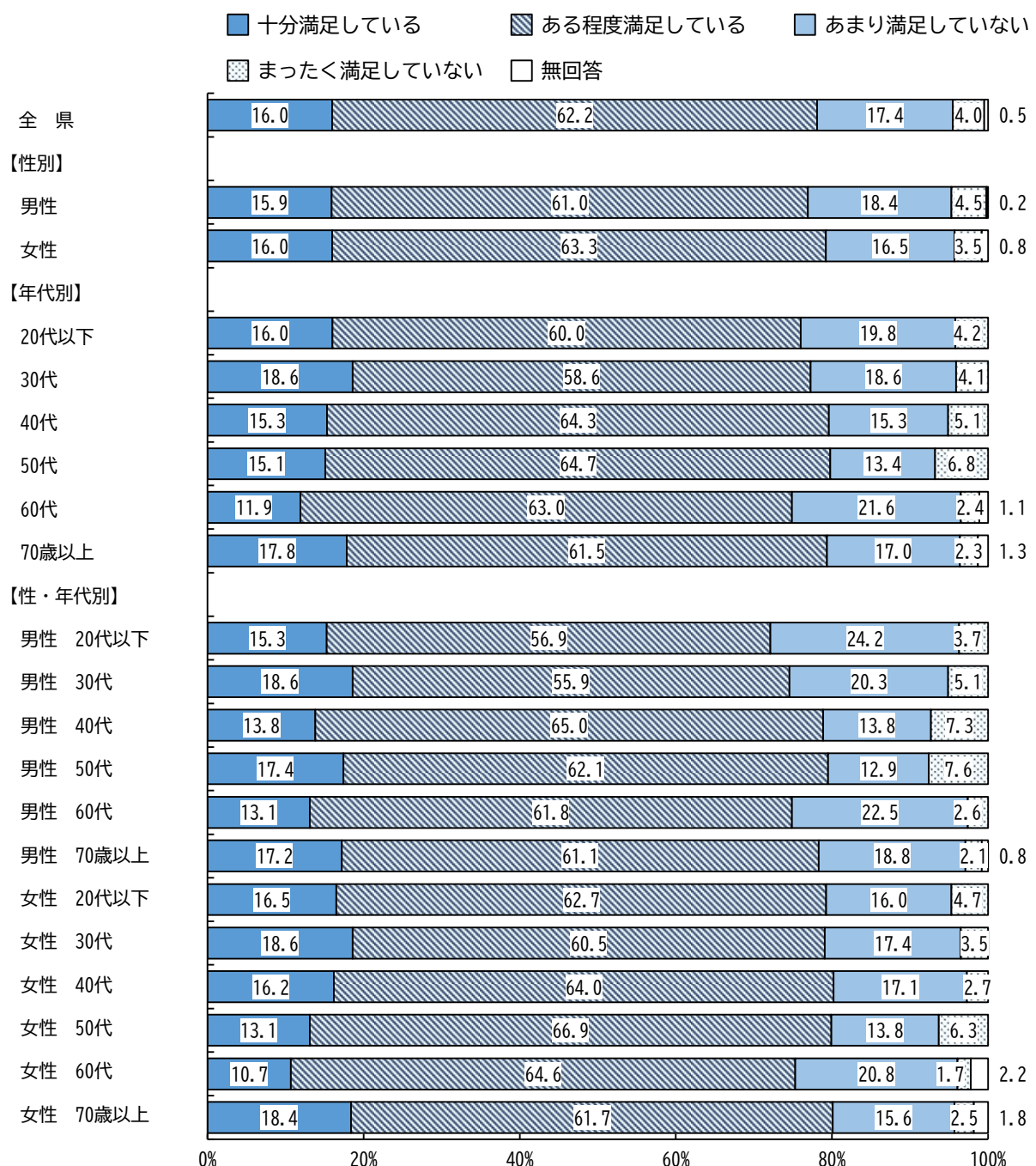
性・年代別でみると、『男性20代以下』は、“満足していない”（27.9%）が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『未就学児』、『中学生』は、“満足している”が全体と比較して高くなっている。

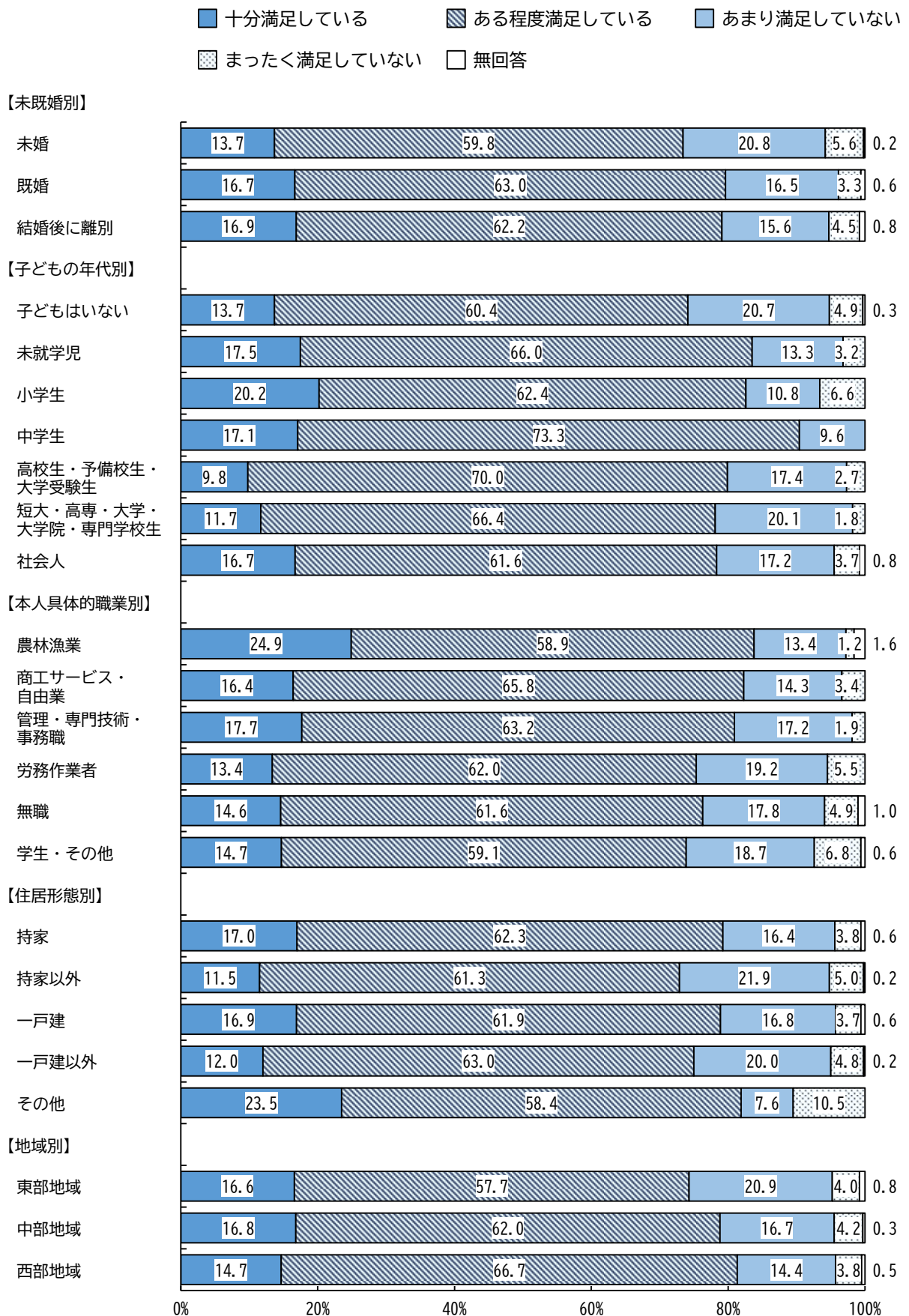
本人具体的職業別でみると、『農林漁業』は、“満足している”（83.8%）が全体と比較して高くなっている。

住居形態別でみると、『持家以外』は、“満足していない”（26.9%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-42 住宅・住環境の満足度 性別、年代別、性・年代別 】



【 図 2-43 住宅・住環境の満足度 未既婚別、子どもの年代別、本人具体的職業別、住居形態別、地域別 】

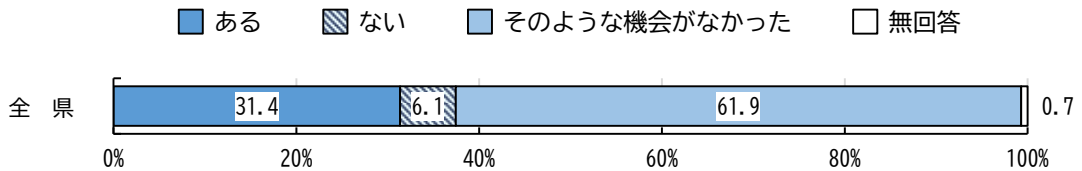


(7) 心のユニバーサルデザインの実践

— 困っている人に声をかけたことが「ある」人は31.4% 「ない」人は6.1% —

Q13 あなたは、この1年間に、困っている人を見かけた際に声をかけたことがありますか。困っている人を見かけなかった方は「3 そのような機会がなかった」を選んでください。(〇は1つ)

【 心のユニバーサルデザインの実践 】

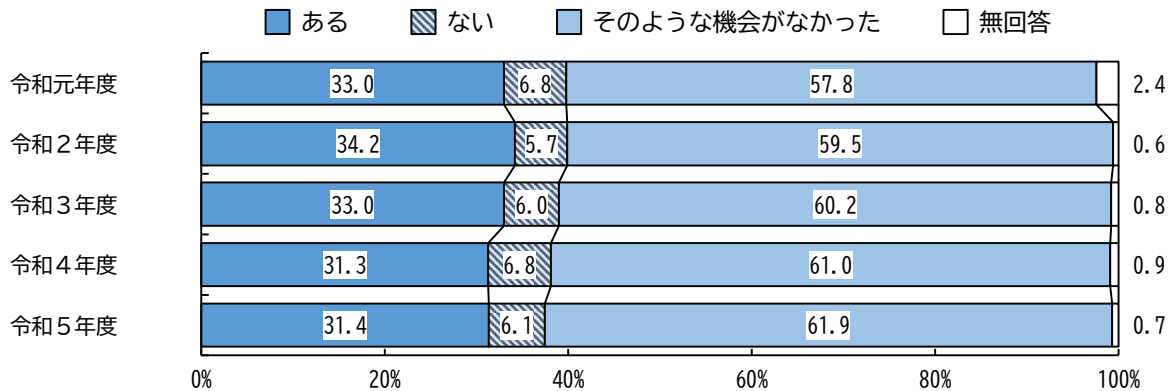


心のユニバーサルデザインの実践については、困っている人に声をかけたことが「ある」と回答した割合は31.4%で、「ない」と回答した割合は6.1%となっている。なお、「そのような機会がなかった」は61.9%となっている。

【過去の調査との比較】(図2-44)

令和元年度以降の推移でみると、心のユニバーサルデザインを実践している人の割合は3割台で推移している。

【 図2-44 心のユニバーサルデザインの実践 経年比較 】



【属性による比較】（図2-45）

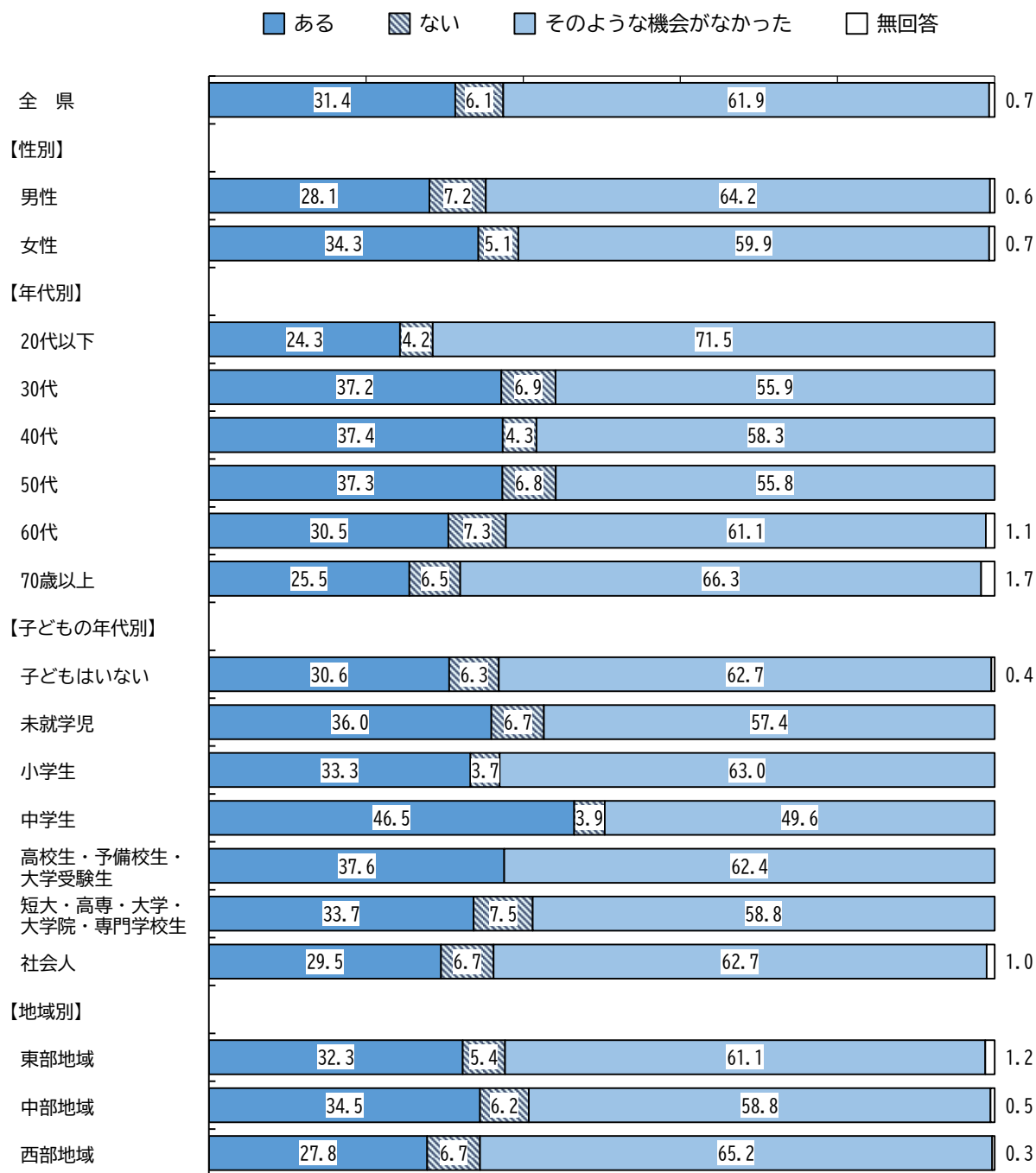
性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』は、「そのような機会がなかった」（71.5%）が全体と比較して高くなっている。

また、『30代』、『40代』、『50代』は、「ある」が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』は、「ある」が全体と比較して高くなっている。

【 図2-45 心のユニバーサルデザインの実践 性別、年代別、子どもの年代別、地域別 】



(8) 食品の安全性

—— 県内で購入する食品の安全性を「信頼できる」人は74.0%

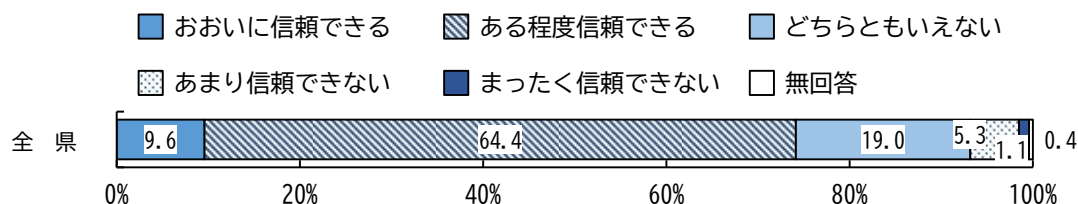
「信頼できない」人は6.4%

Q14 あなたは、県内で購入する食品の安全性について、どの程度信頼できると思いますか。

(○は1つ)

※「食品の安全性」…農産物など輸入食品の安全性や、遺伝子組換え食品・食品添加物・農薬などの安全性、食品表示自体の信頼性などをいいます。

【 食品の安全性 】

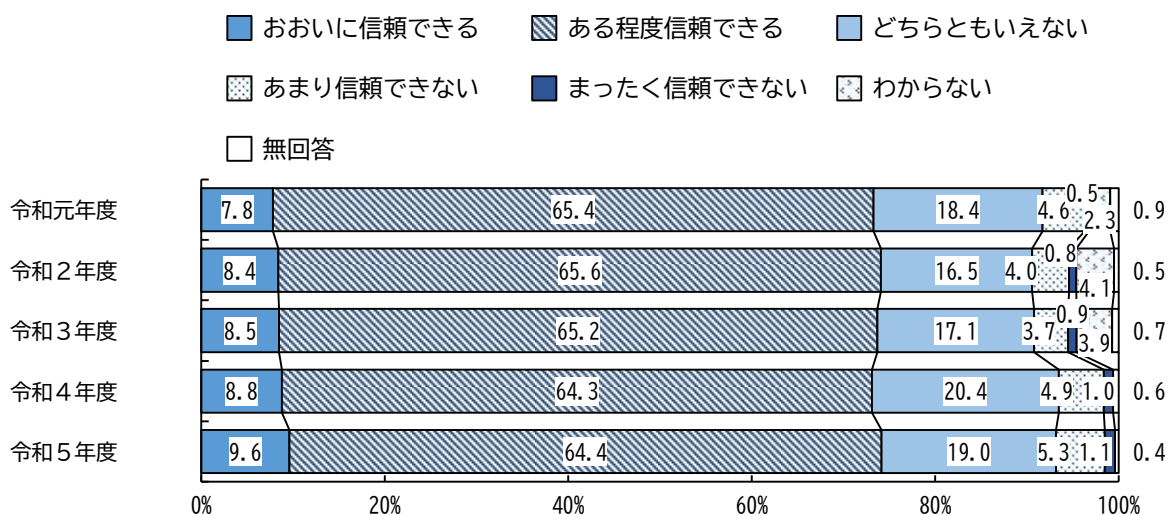


県内で購入する食品の安全性の信頼については、「ある程度信頼できる」(64.4%)が最も多く、以下「どちらともいえない」(19.0%)、「おおいに信頼できる」(9.6%)、「あまり信頼できない」(5.3%)、「まったく信頼できない」(1.1%)となっている。「おおいに信頼できる」(9.6%)と「ある程度信頼できる」(64.4%)を合わせた74.0%が県内で購入する食品の安全性を“信頼できる”と回答し、「あまり信頼できない」(5.3%)と「まったく信頼できない」(1.1%)を合わせた6.4%が県内で購入する食品の安全性を“信頼できない”と回答している。

【過去の調査との比較】(図2-46)

令和元年度以降の推移でみると、県内で購入する食品の安全性を“信頼できる”人の割合は、7割台で推移している。

【 図2-46 食品の安全性 経年比較 】

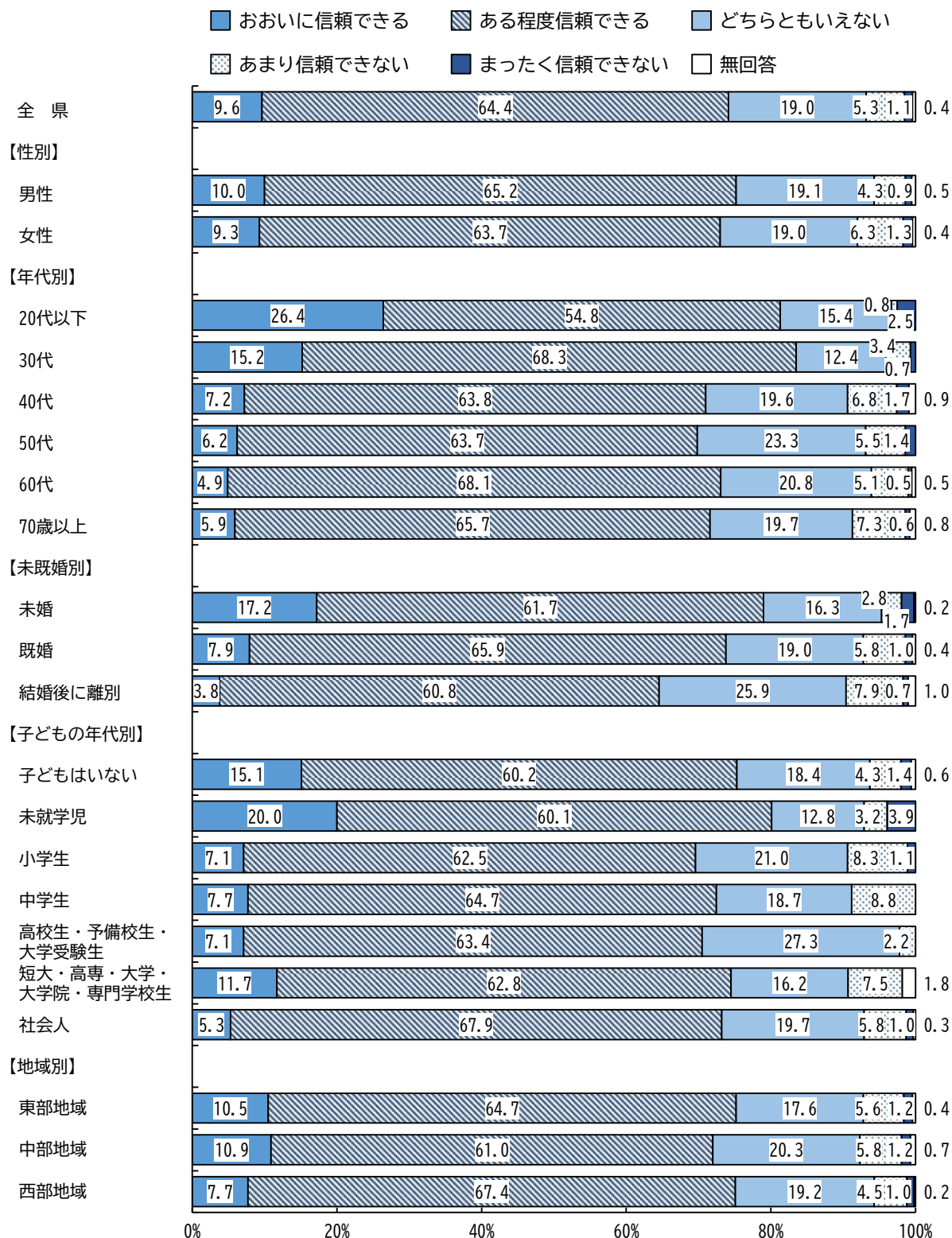


※令和4年度より選択肢から「わからない」を削除。

【属性による比較】（図2-47）

性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。
 年代別でみると、『20代以下』、『30代』は、“信頼できる”が全体と比較して高くなっている。
 子どもの年代別でみると、『未就学児』は、“信頼できる”（80.1%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-47 食品の安全性 性別、年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域別 】



(9) 環境保全活動の実践

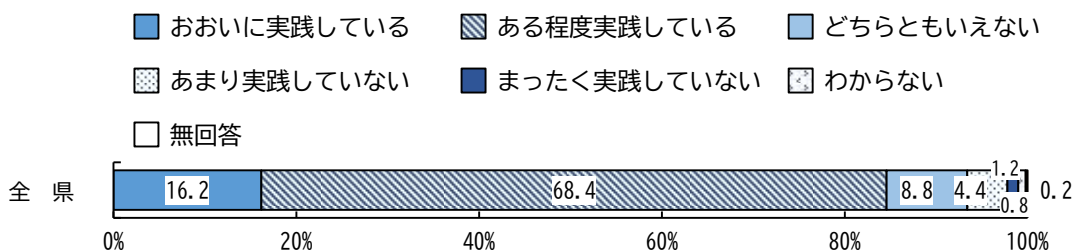
— 環境への配慮を「実践している」人は84.6% 「実践していない」人は5.6% —

Q15 あなたは、環境への配慮を実践していますか。(○は1つ)

※「環境への配慮」の例

- ・節電や節水、家庭ごみの分別、マイバッグの持参、
- 低燃費車や省エネ家電への切り替え、エコドライブ、清掃活動への参加、緑化など

【 環境保全活動の実践 】

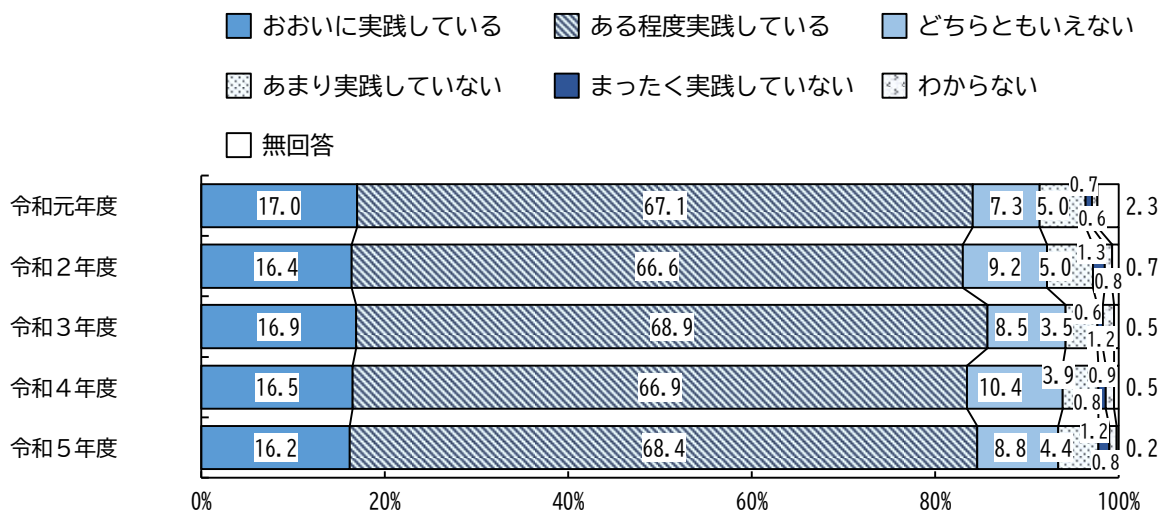


環境保全活動の実践については、「ある程度実践している」(68.4%)が最も多く、以下「おおいに実践している」(16.2%)、「どちらともいえない」(8.8%)、「あまり実践していない」(4.4%)、「まったく実践していない」(1.2%)となっている。「おおいに実践している」(16.2%)と「ある程度実践している」(68.4%)を合わせた84.6%が環境への配慮を“実践している”と回答し、「あまり実践していない」(4.4%)と「まったく実践していない」(1.2%)を合わせた5.6%は環境への配慮を“実践していない”と回答している。

【過去の調査との比較】(図2-48)

令和元年度以降の推移でみると、環境への配慮を“実践している”人の割合は毎年度8割台で推移している。

【 図2-48 環境保全活動の実践 経年比較 】



【属性による比較】（図2-49）

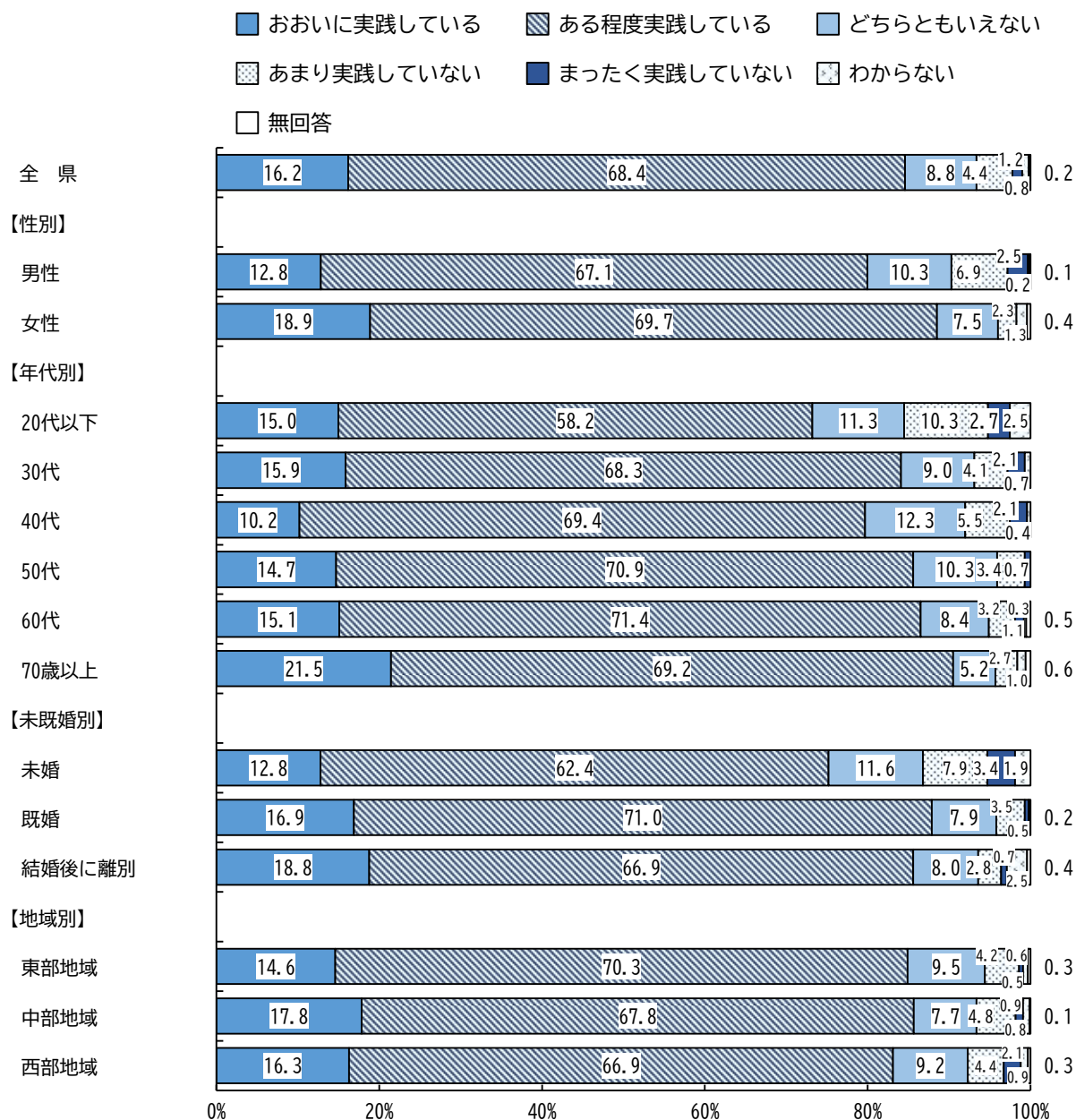
性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『70歳以上』は、環境への配慮を“実践している”（90.7%）が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』は、環境への配慮を“実践していない”（13.0%）が全体と比較して高くなっている。

未既婚別でみると、『未婚』は、環境への配慮を“実践していない”（11.3%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-49 環境保全活動の実践 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



(10) 県民の地域活動への参加

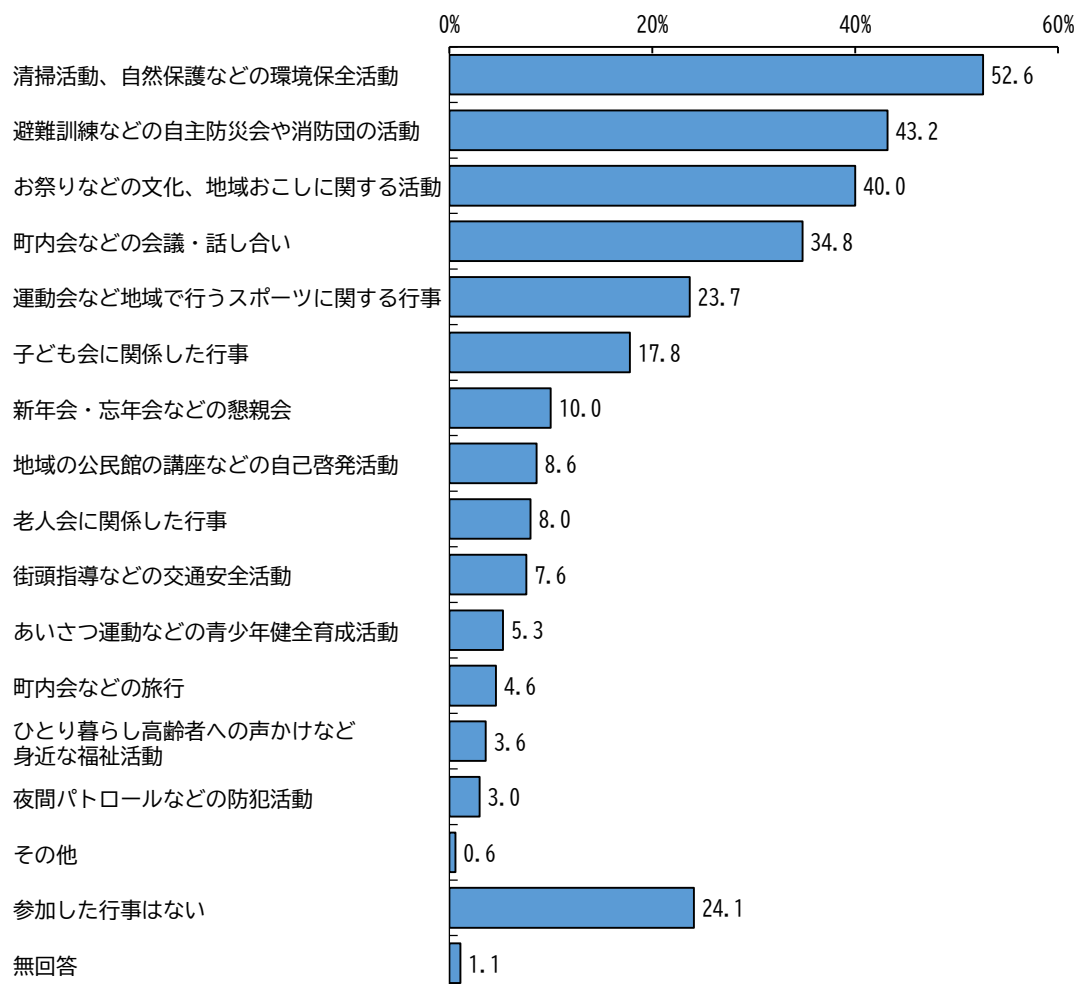
—— 「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」への参加が52.6%

「参加した行事はない」は24.1% ——

Q16 あなたは、地域のどのような行事や活動に参加したことがありますか。

(○はいくつでも)

【 県民の地域活動への参加 】

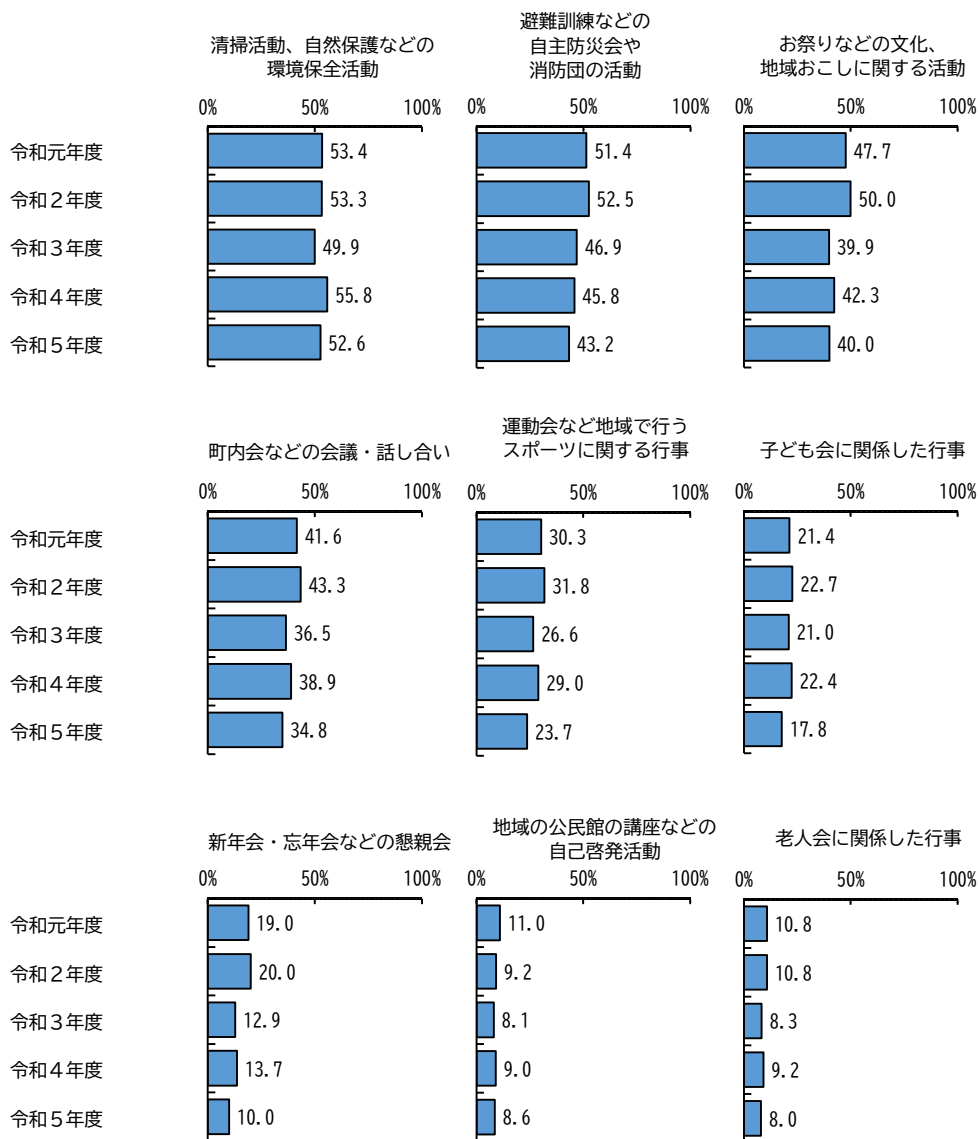


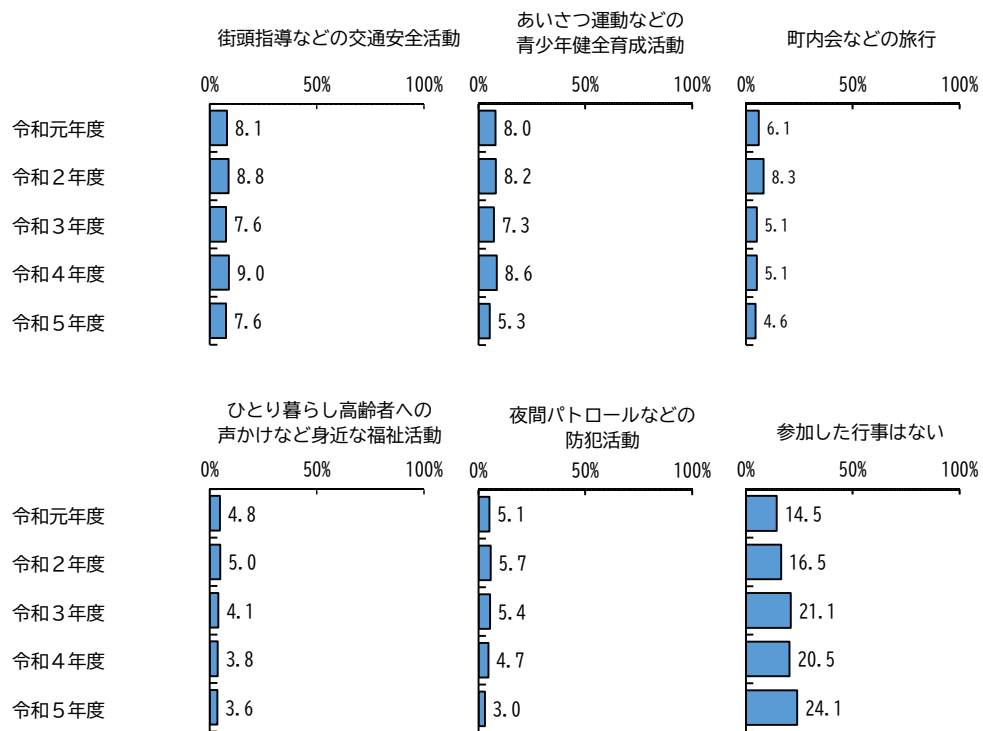
参加している地域の行事や活動については、「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」(52.6%)が最も多く、以下「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」(43.2%)、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」(40.0%)、「町内会などの会議・話し合い」(34.8%)、「運動会など地域で行うスポーツに関する行事」(23.7%)となっている。「参加した行事はない」は24.1%となっている。

【過去の調査との比較】（図2-50）

令和元年度以降の推移でみると、大きな差はみられなかった。

【 図2-50 県民の地域活動への参加 経年比較 】





【属性による比較】（図2-51）

性別でみると、『男性』は、「町内会などの会議・話し合い」（40.2%）が全体と比較して高くなっている。

年代別でみると、『20代以下』、『30代』は、「参加した行事はない」が全体と比較して高くなっている。

また、『40代』は、「子ども会に関係した行事」（36.2%）が全体と比較して高くなっている。

また、『50代』、『60代』は、「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」、「町内会などの会議・話し合い」が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」（51.1%）、「地域の公民館の講座などの自己啓発活動」（15.5%）、「老人会に関係した行事」（20.9%）が全体と比較して高くなっている。

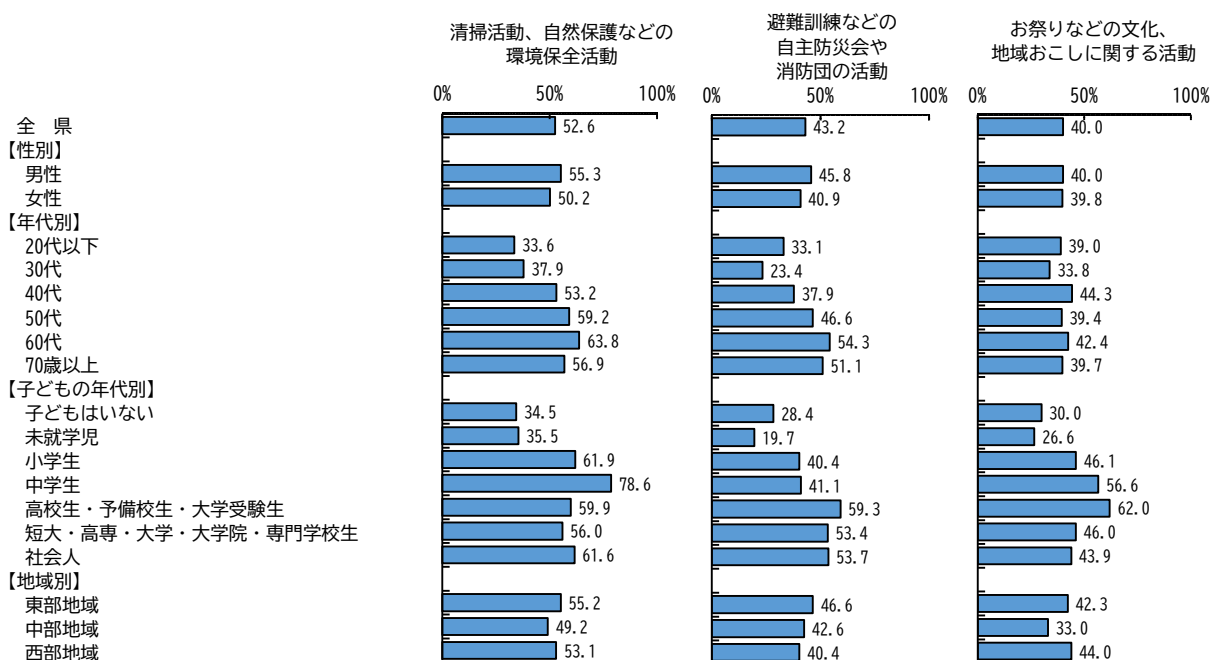
子どもの年代別でみると、『子どもはいない』、『未就学児』は、「参加した行事はない」が全体と比較して高くなっている。

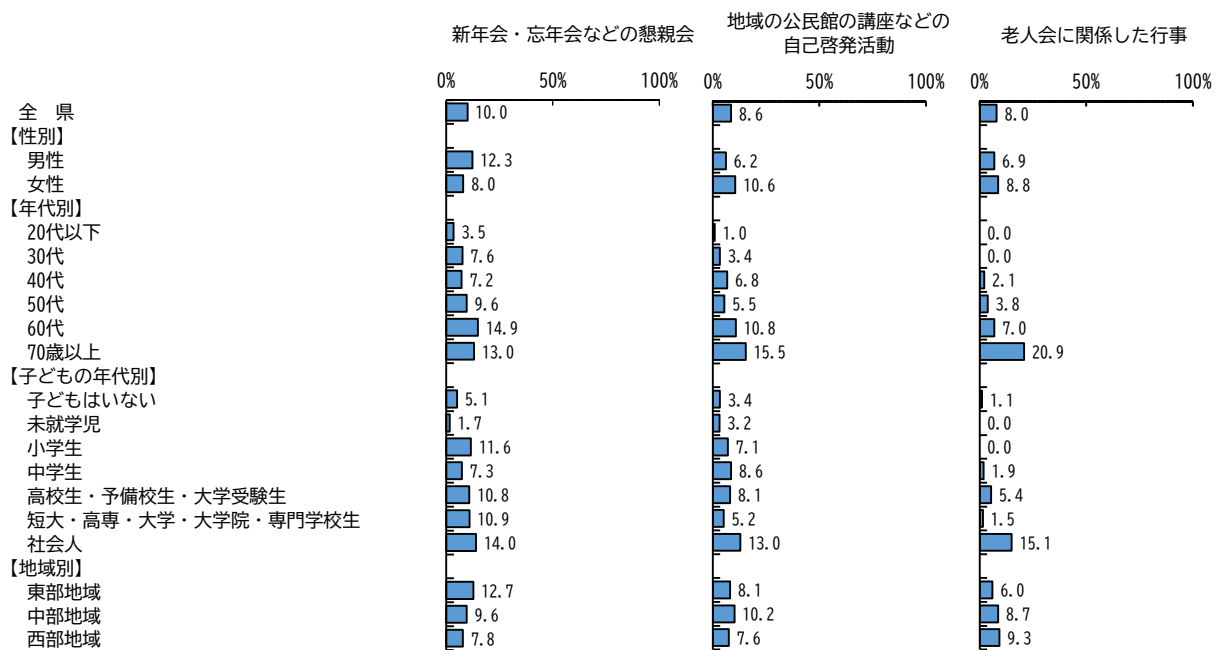
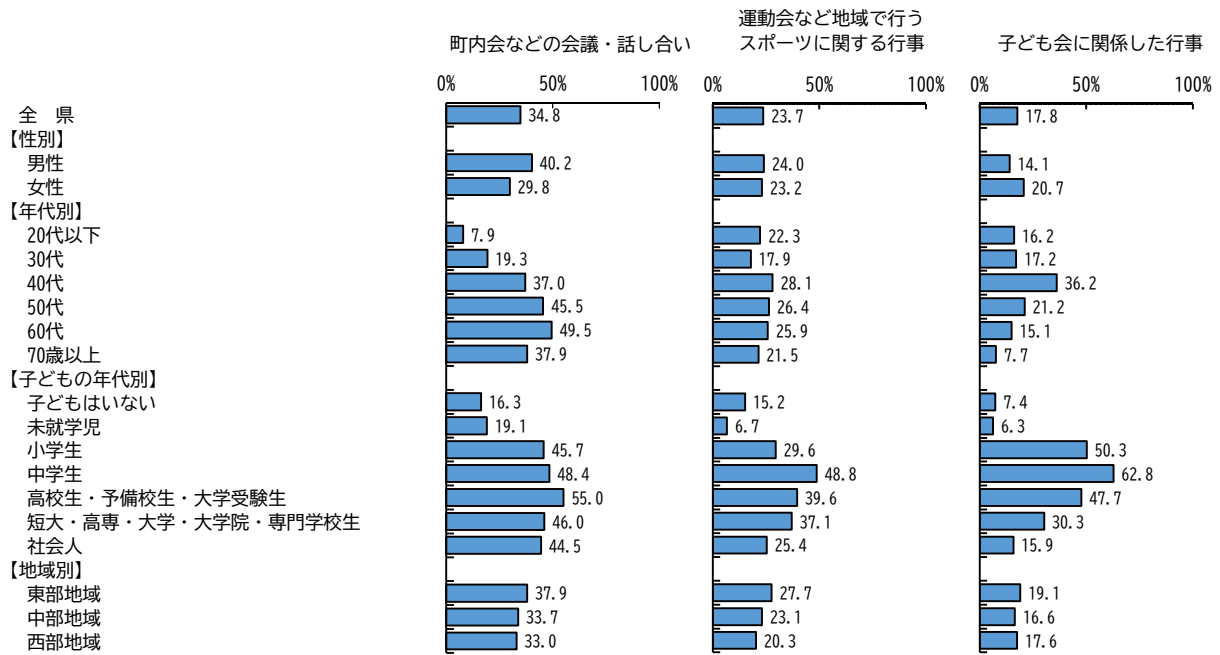
また、『小学生』は、「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」（61.9%）、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」（46.1%）、「町内会などの会議・話し合い」（45.7%）、「運動会など地域で行うスポーツに関する行事」（29.6%）、「子ども会に関係した行事」（50.3%）が全体と比較して高くなっている。

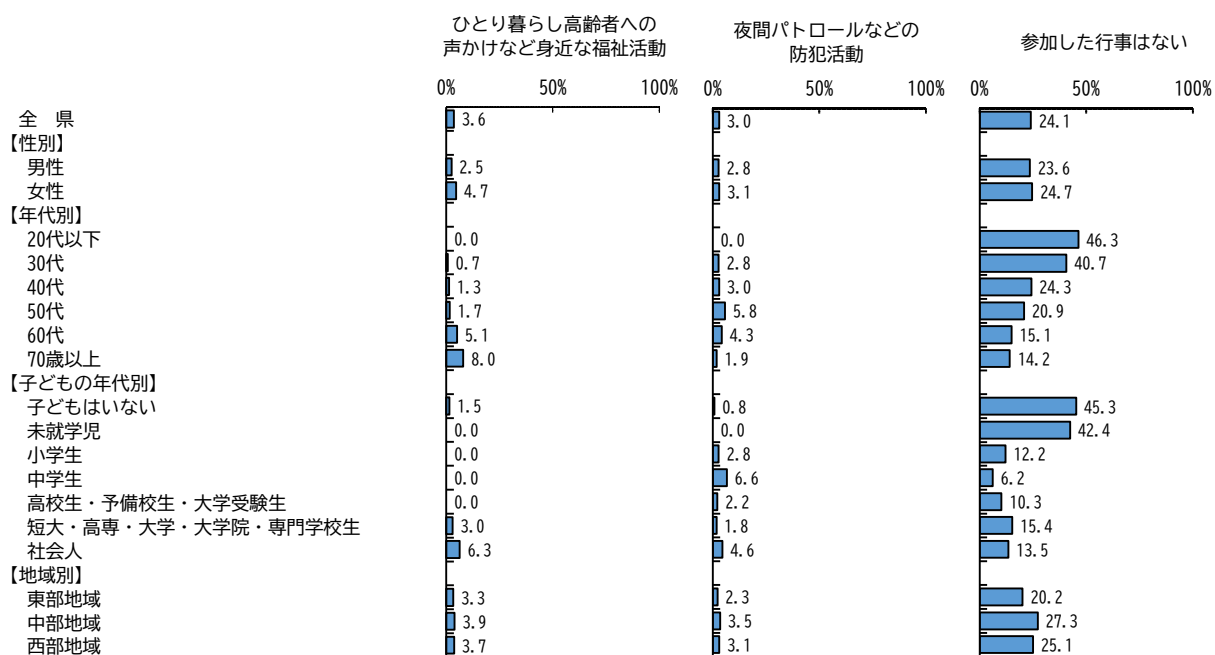
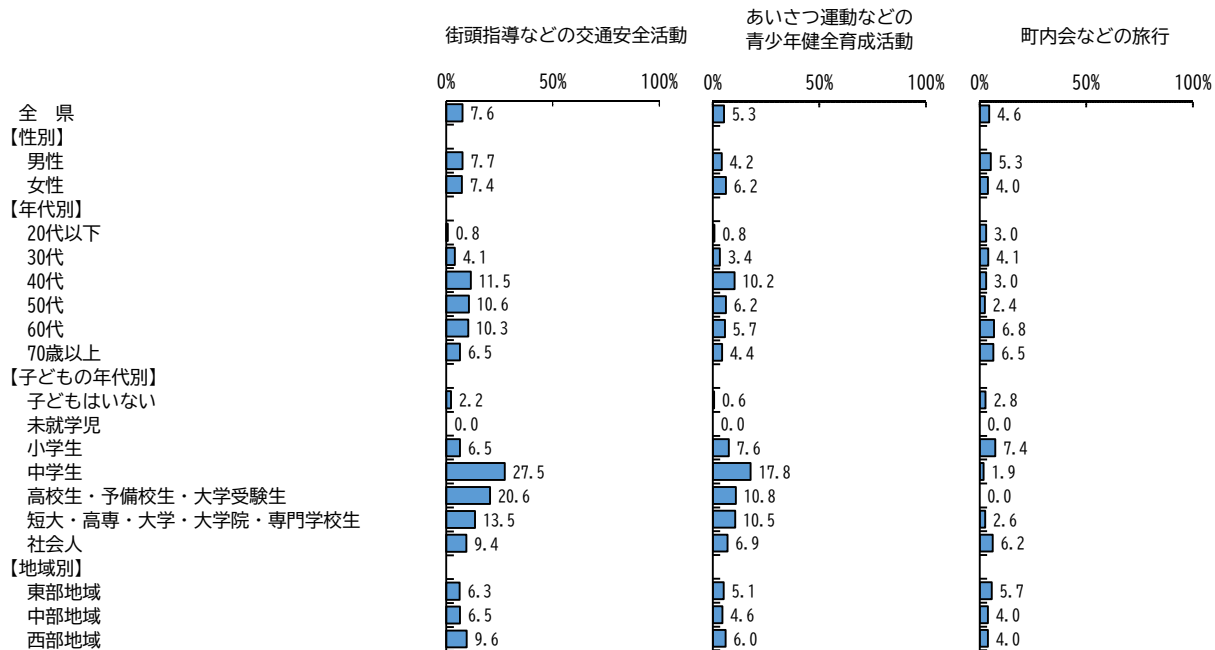
また、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」、「町内会などの会議・話し合い」、「運動会など地域で行うスポーツに関する行事」、「子ども会に関係した行事」、「街頭指導などの交通安全活動」、「あいさつ運動などの青少年健全育成活動」が全体と比較して高くなっている。

また、『社会人』は、「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」（61.6%）、「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」（53.7%）、「町内会などの会議・話し合い」（44.5%）、「老人会に関係した行事」（15.1%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-51 県民の地域活動への参加 性別、年代別、子どもの年代別、地域別 】







(11) 文化・芸術の鑑賞又は活動

— この1年で文化・芸術の鑑賞又は活動をした人は54.7%、過去3年に遡ると67.3% —

Q17 あなたは、この1年でどのくらい、文化・芸術に関する鑑賞又は活動をしましたか。

(〇は1つ)

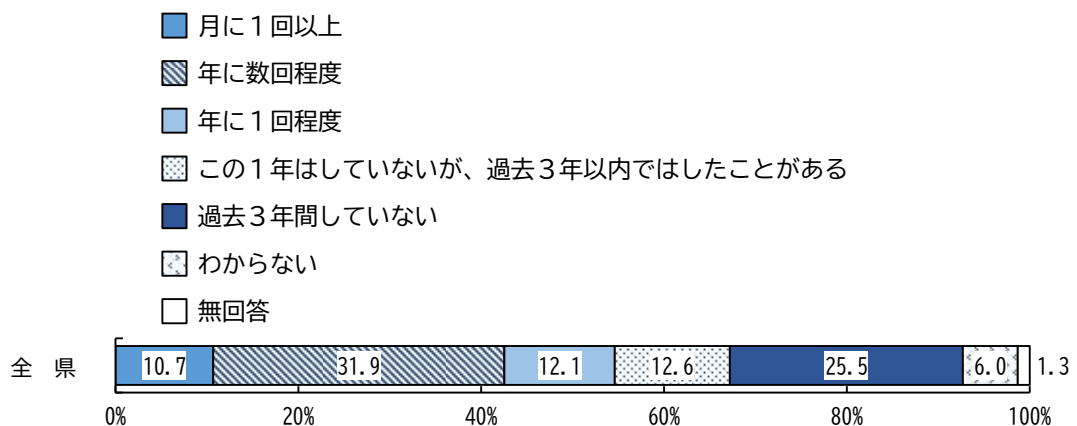
※「文化・芸術」…芸術(音楽、映画、美術、演劇、舞踊等)、芸能(漫才、落語、歌唱、歌舞伎、能、講談、浪曲等)、文芸(短歌、俳句、詩、小説等)、生活文化(囲碁、将棋、お茶、生け花、手芸等)、お祭りへの参加や見物、文化財(建造物、遺跡、古文書等)を意味しています。

※「鑑賞」…映画館や美術館、博物館、またホールや劇場などの会場で、作品やコンサートを見たり聞いたりした経験を意味しています。

※「活動」…個人又はグループで、文化・芸術を継続して行う経験を意味しています。単発の活動やお試しの体験講座等は含みません。

※「鑑賞」と「活動」のどちらか一方でも行えば、「経験した」とします。

【 文化・芸術の鑑賞又は活動 】



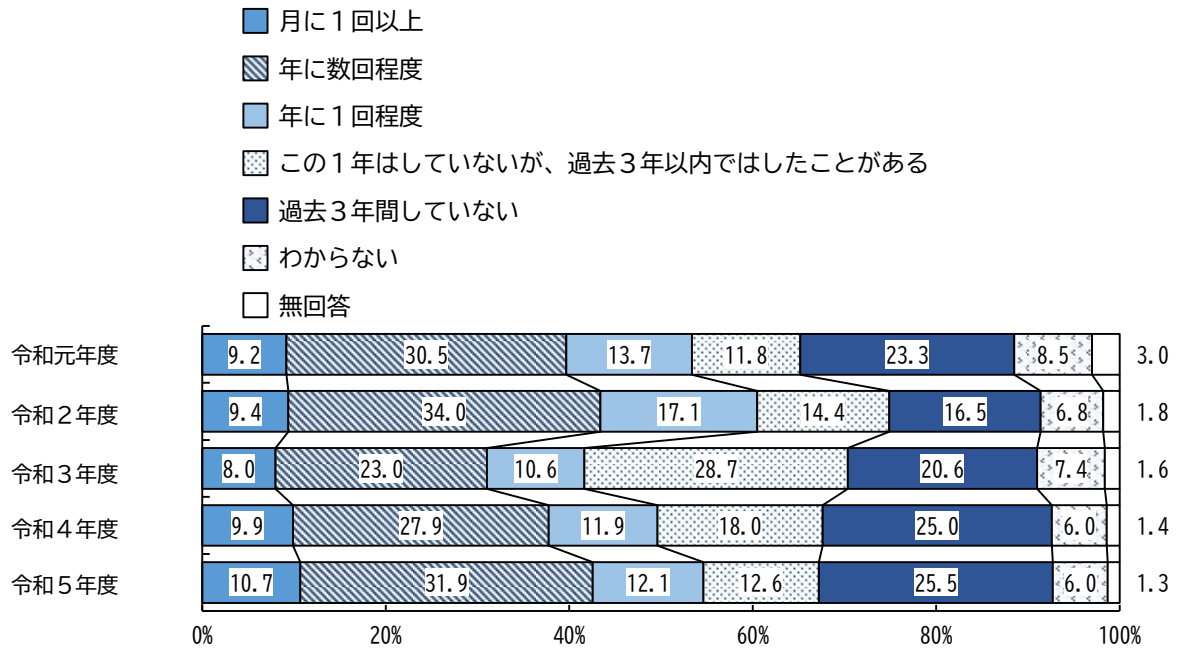
この1年で、文化・芸術に関する鑑賞又は活動をした回数については、「年に数回程度」(31.9%)が最も多く、以下「過去3年間していない」(25.5%)、「この1年はしていないが、過去3年以内ではしたことがある」(12.6%)、「年に1回程度」(12.1%)、「月に1回以上」(10.7%)となっている。

「月に1回以上」(10.7%)、「年に数回程度」(31.9%)、「年に1回程度」(12.1%)を合わせた54.7%がこの1年で文化・芸術の鑑賞又は活動をしており、それに、「この1年はしていないが、過去3年以内ではしたことがある」(12.6%)を合わせた67.3%がこの3年以内に文化・芸術の鑑賞又は活動をしている。

【過去の調査との比較】（図2-52）

令和元年度以降の推移で見ると、この1年で文化・芸術の鑑賞又は活動をした人の割合は、令和3年度以降では増加傾向となっている。

【 図2-52 文化・芸術の鑑賞又は活動 経年比較 】



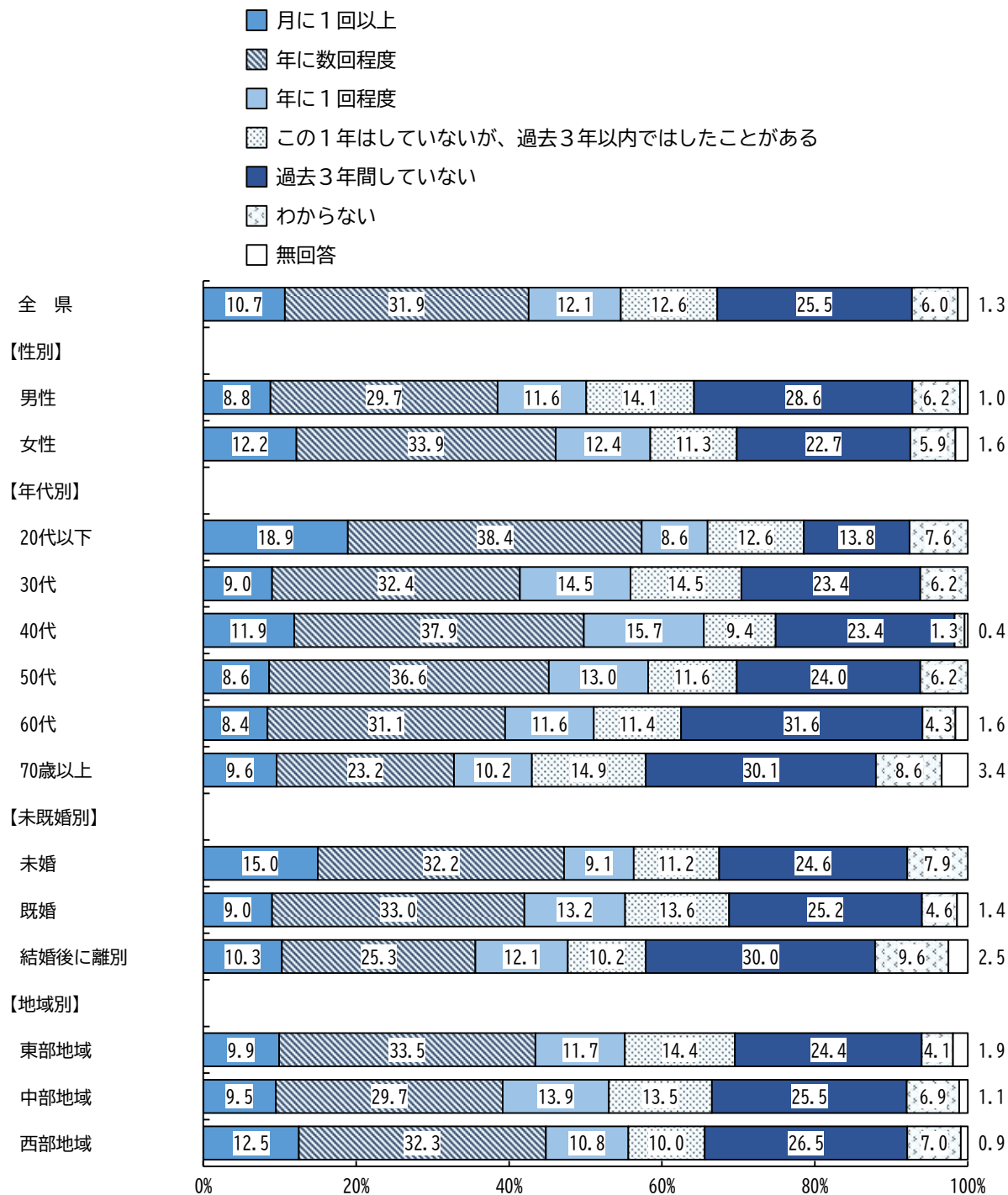
【属性による比較】（図2-53）

性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』、『40代』は、“1年以内に活動した”が全体と比較して高くなっている。

また、『60代』は、「過去3年間していない」（31.6%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-53 文化・芸術の鑑賞又は活動 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



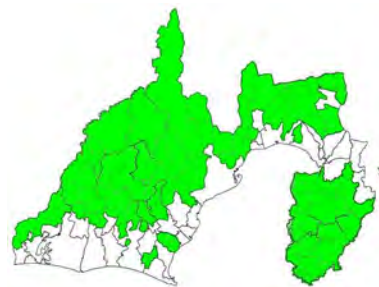
(12) 中山間地域での生活意向

—— 中山間地域に住みたいと「思う」人は20.4% 「思わない」人は70.9% ——

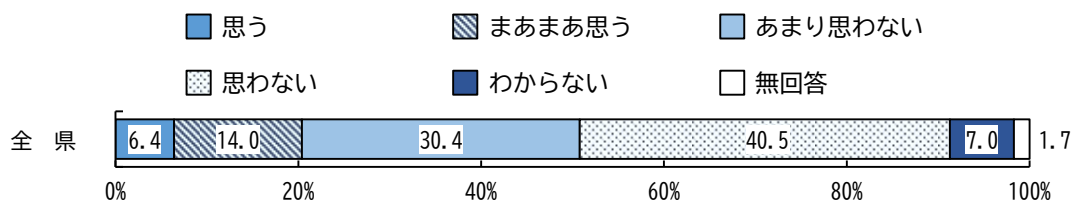
Q18 あなたは、中山間地域に住みたいと思いますか。(中山間地域にお住まいの方は、住み続けたいと思いますか。)(○は1つ)

※「中山間地域」…「平野の周辺部から山間部に至る地域」で、農林業を主な産業としている地域のことをいいます。

※県内の中山間地域のイメージは、右図の網掛け部分です。



【 中山間地域での生活意向 】

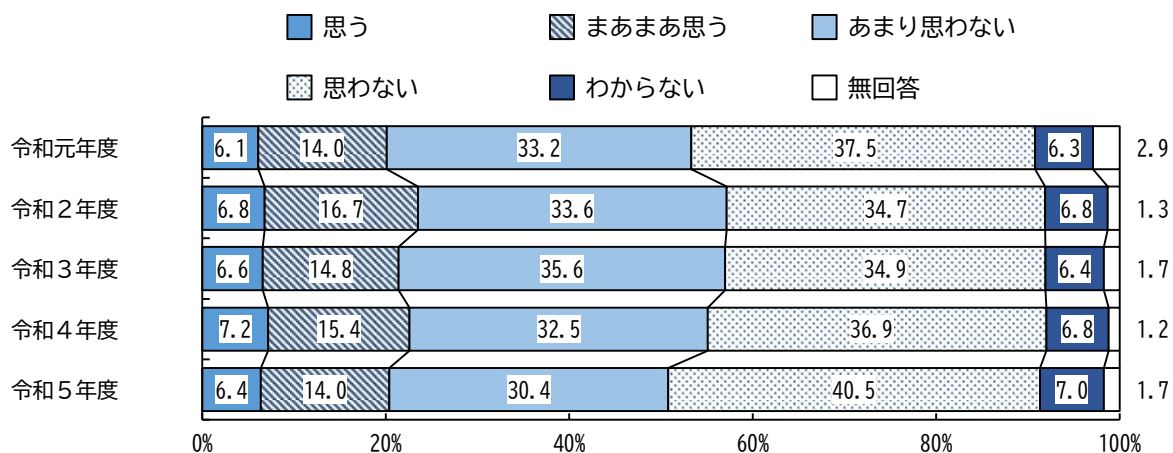


中山間地域に住みたいと思うかについては、「思わない」(40.5%)が最も多く、以下「あまり思わない」(30.4%)、「まあまあ思う」(14.0%)、「わからない」(7.0%)、「思う」(6.4%)となっている。「思う」(6.4%)と「まあまあ思う」(14.0%)を合わせた20.4%が、中山間地域に住みたいと“思う”と回答し、「あまり思わない」(30.4%)と「思わない」(40.5%)を合わせた70.9%は、中山間地域に住みたいと“思わない”と回答している。

[過去の調査との比較] (図2-54)

令和元年度以降の推移でみると、中山間地域に住みたいと“思う”人の割合は、毎年度2割台で推移している。

【 図2-54 中山間地域での生活意向 経年比較 】



【属性による比較】（図2-55）

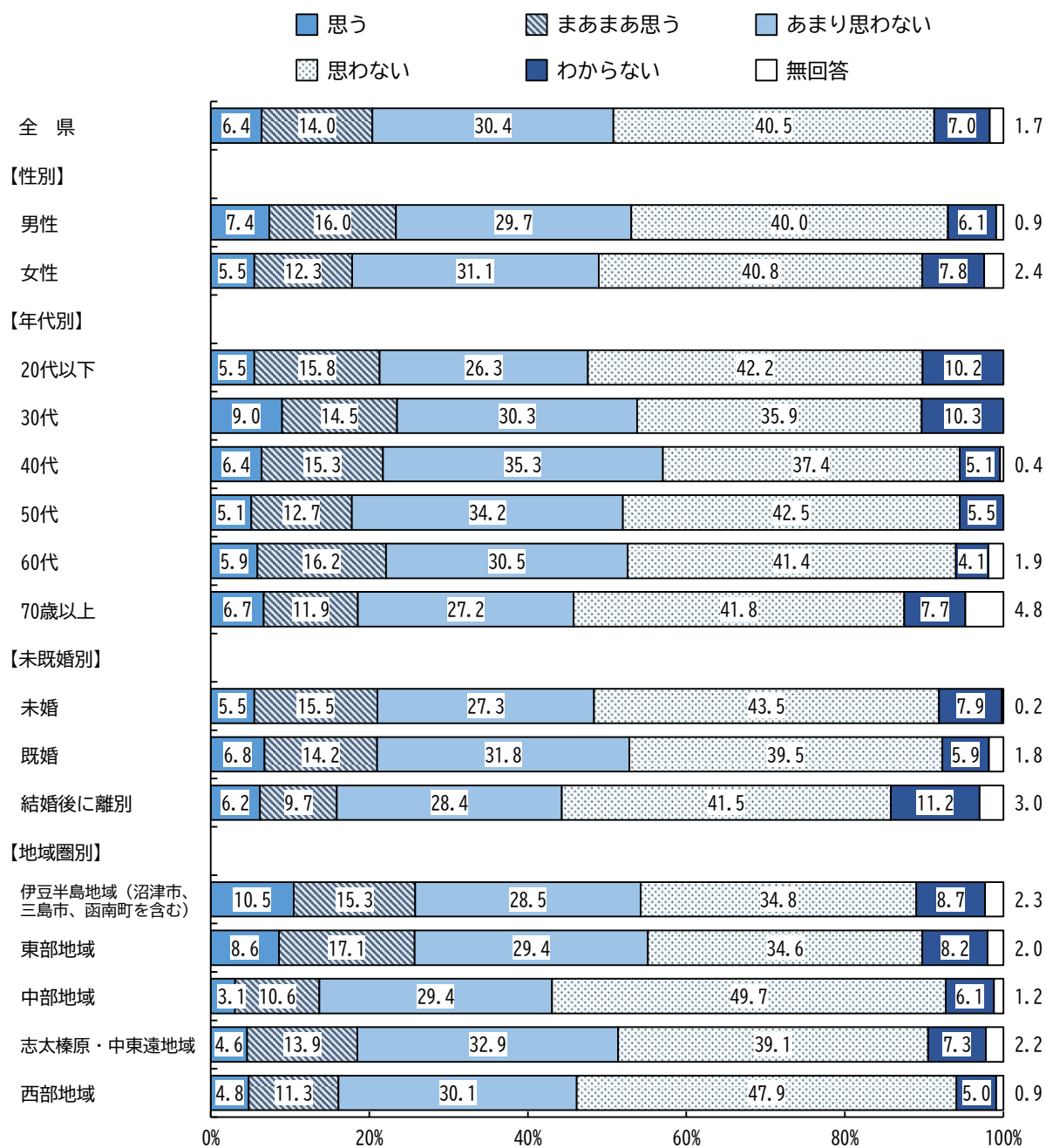
性別、未既婚別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『50代』は、“住みたいと思わない”（76.7%）が全体と比較して高くなっている。

地域圏別でみると、『伊豆半島地域（沼津市、三島市、函南町を含む）』、『東部地域』は、“住みたいと思う”が全体と比較して高くなっている。

また、『中部地域』、『西部地域』は、“住みたいと思わない”が全体と比較して高くなっている。

【 図2-55 中山間地域での生活意向 性別、年代別、未既婚別、地域圏別 】



(13) 人権尊重の意識

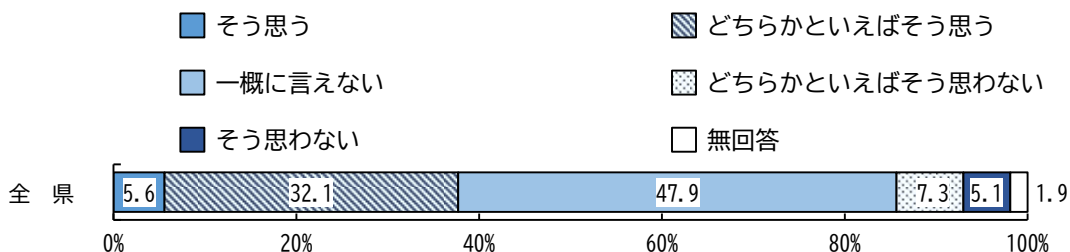
— 人権尊重の意識が生活の中に定着した県だと

「思う」人は37.7% 「思わない」人は12.4% —

Q19 あなたは、今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した県」であると感じますか。(○は1つ)

※「人権尊重の意識」…人権は、私たち一人ひとりの生命や自由・平等を保障し、日常生活を支えている大切な権利で、日本国憲法にも保障されています。この権利を尊重し、私たち一人ひとりが自分や他者を大切にしようとする意識のことをいいます。

【 人権尊重の意識 】

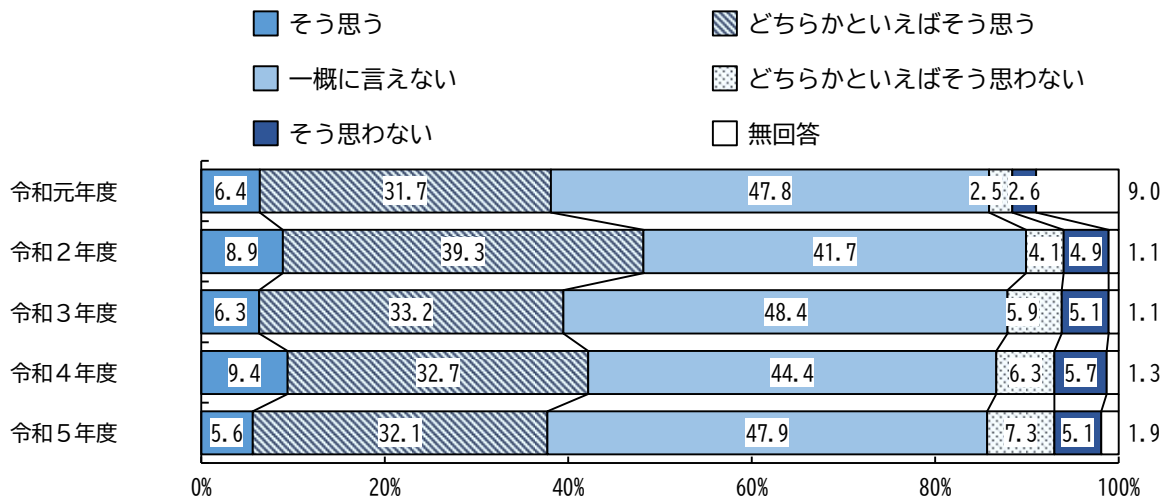


今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した県」になっていると感じるかについては、「一概に言えない」(47.9%)が最も多く、以下「どちらかといえばそう思う」(32.1%)、「どちらかといえばそう思わない」(7.3%)、「そう思う」(5.6%)、「そう思わない」(5.1%)となっている。「そう思う」(5.6%)と「どちらかといえばそう思う」(32.1%)を合わせた37.7%が、「人権尊重の意識が生活の中に定着した県」だと“思う”と回答し、「どちらかといえばそう思わない」(7.3%)と「そう思わない」(5.1%)を合わせた12.4%は、「人権尊重の意識が生活の中に定着した県」だと“思わない”と回答している。

【過去の調査との比較】（図2-56）

令和元年度以降の推移で見ると、「人権尊重の意識が生活の中に定着した県」だと思える人の割合が、今年度（37.7%）は前年度（42.1%）を4.4ポイント下回っている。

【 図2-56 人権尊重の意識 経年比較 】



※令和元年度は、人権問題に関する県民意識調査（地域福祉課人権同和室実施）の結果を、参考値としてグラフに掲載している。

※令和2年度以前については、『今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県」になっていると感じますか』という設問に対する結果を、グラフに掲載している。

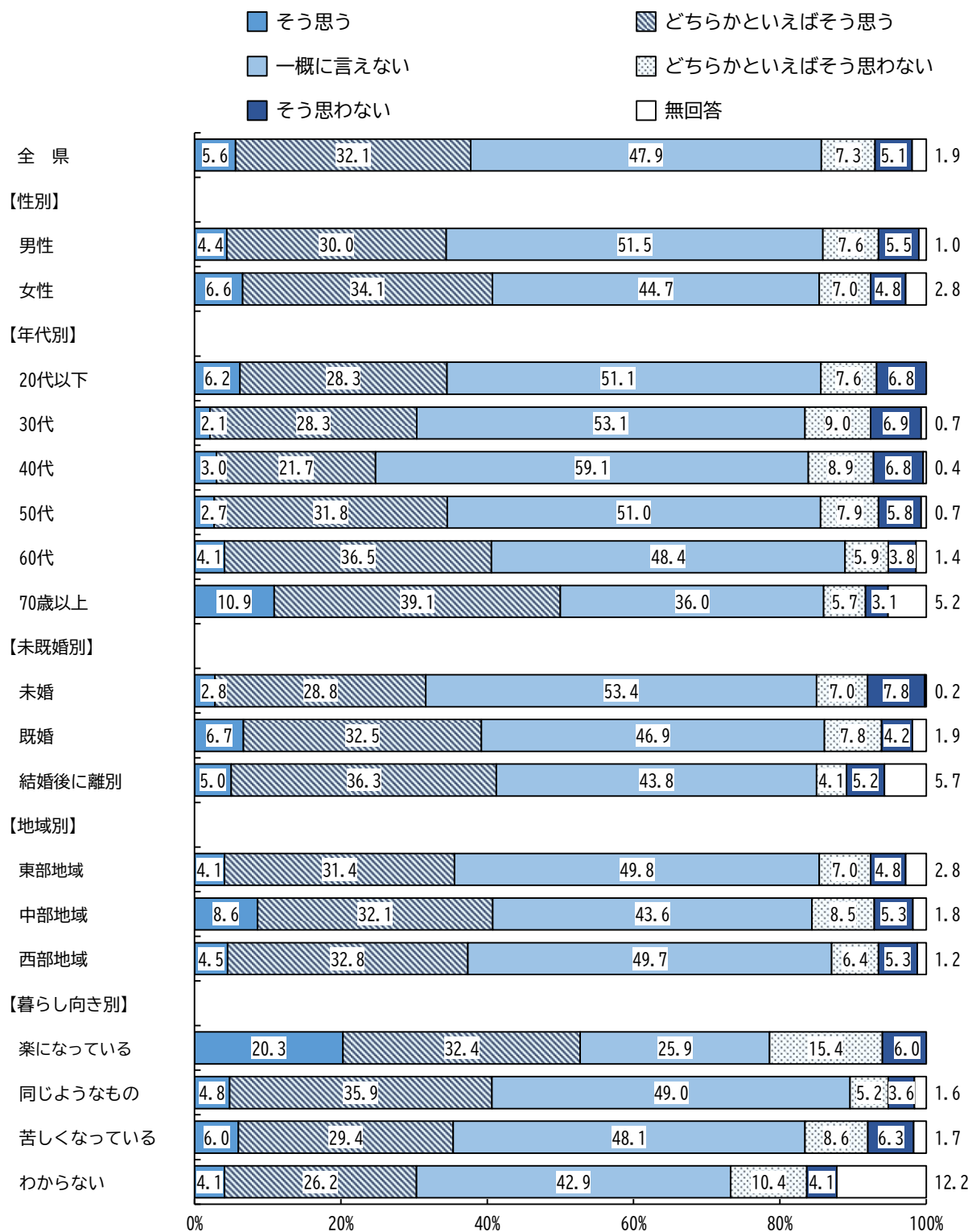
【属性による比較】（図2-57）

性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『70歳以上』は、“思う”（50.0%）が全体と比較して高くなっている。

暮らし向き別でみると、『楽になっている』は、“思う”（52.7%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-57 人権尊重の意識 性別、年代別、未既婚別、地域別、暮らし向き別 】



(14) 生物多様性への理解

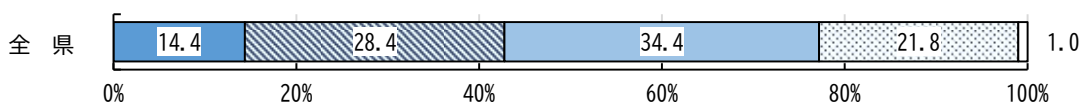
「生物多様性」という言葉や意味を「知っている」人は42.8% 認知は77.2%

Q20 「生物多様性」という言葉や意味について、どの程度知っていますか。(○は1つ)

※「生物多様性」…地域ごとに固有の自然や特有の生物が存在し、その生物が“食べる－食べられる”といった食物連鎖などの関係でつながっていることをいいます。人類は、生物多様性からもたらされる様々な恵みに支えられており、この恵みを今後も享受していくためには、生物多様性を維持し後世へ継承していくことが必要不可欠です。

【 生物多様性への理解 】

- 知っている
- 聞いたことがあるが、意味は知らない
- 無回答
- 聞いたことがあり、意味もある程度知っている
- 聞いたことがない



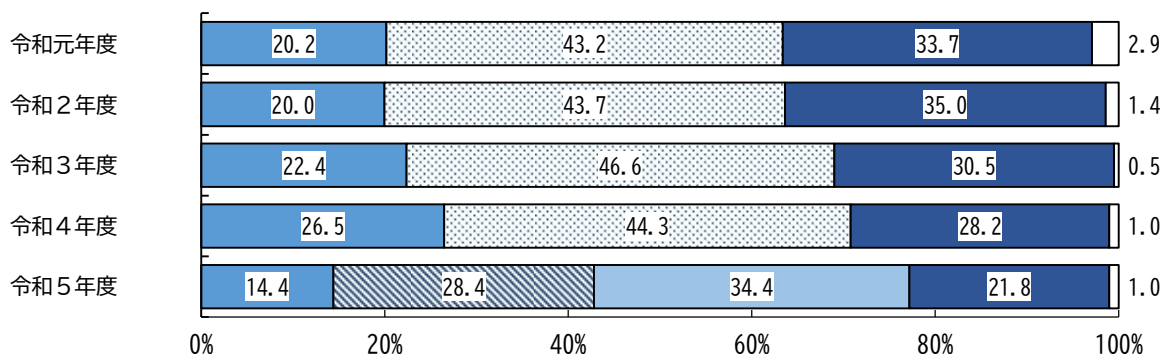
「生物多様性」という言葉や意味については、「聞いたことがあるが、意味は知らない」(34.4%)が最も多く、以下、「聞いたことがあり、意味もある程度知っている」(28.4%)、「聞いたことがない」(21.8%)、「知っている」(14.4%)となっている。「知っている」(14.4%)と「聞いたことがあり、意味もある程度知っている」(28.4%)を合わせた42.8%が「生物多様性」という言葉や意味を知っており、それに「聞いたことがあるが、意味は知らない」(34.4%)を合わせた77.2%が生物多様性について認知していると考えられる。

【過去の調査との比較】(図2-58)

令和5年度より選択肢が変更されたので、令和元年度からの数値は参考として掲載している。

【 図2-58 生物多様性への理解 経年比較 】

- 知っている
- 聞いたことがあり、意味もある程度知っている
- 聞いたことがあるが、意味は知らない
- 聞いたことがある
- 聞いたことがない
- 無回答



※令和5年度より選択肢から「聞いたことがある」を削除し、選択肢に「聞いたことがあり、意味もある程度知っている」、「聞いたことがあるが、意味は知らない」を新設。

【属性による比較】（図2-59）

性別では、『男性』は、「知っている」（16.6%）、「聞いたことがあり、意味もある程度知っている」（30.3%）が全体と比較して高くなっている。

年代別でみると、『20代以下』は、「知っている」（29.2%）が全体と比較して高くなっている。

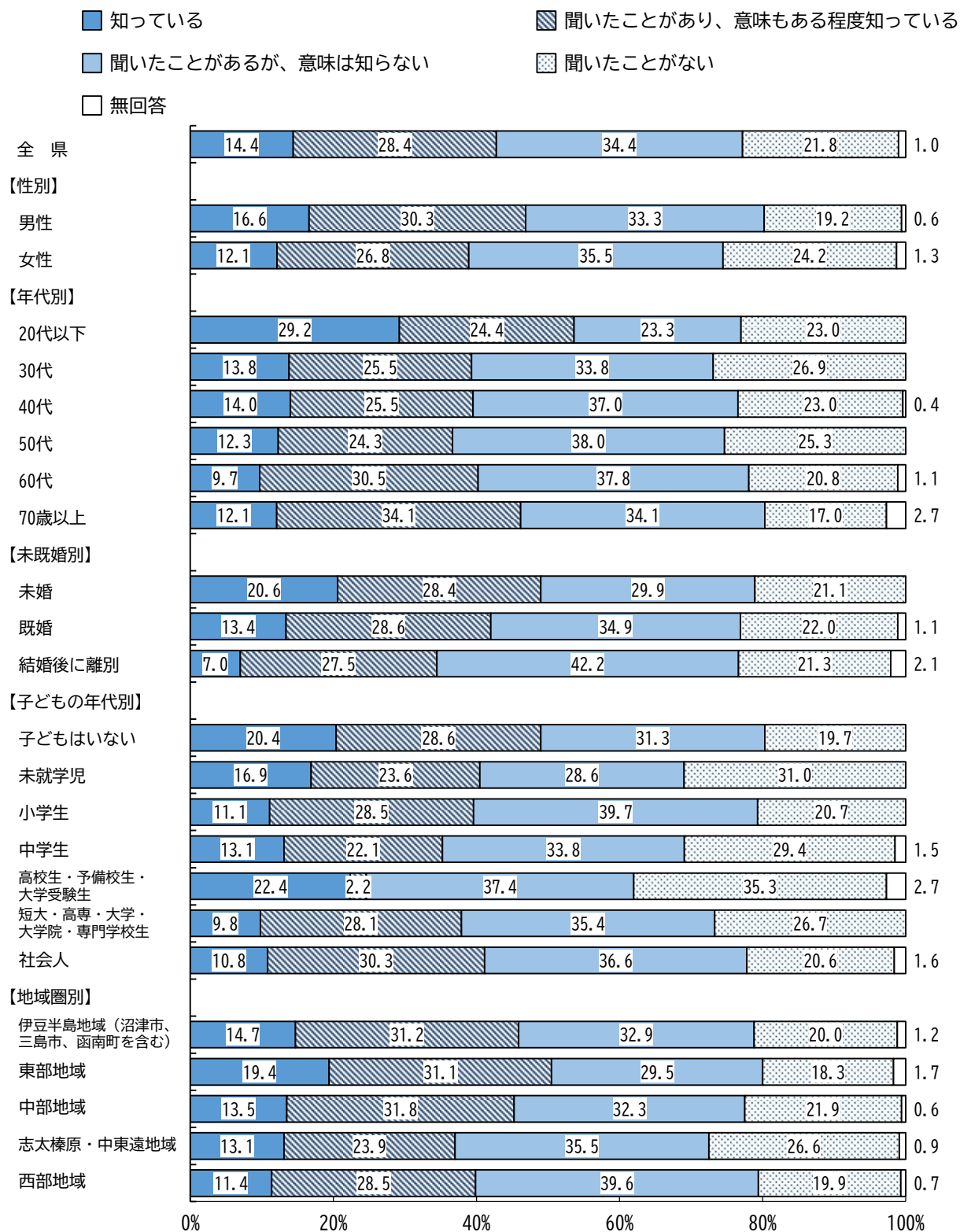
未婚別でみると、『未婚』は、「知っている」（20.6%）が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『子どもはいない』、『高校生・予備校生・大学受験生』は、「知っている」が全体と比較して高くなっている。

地域圏別でみると、『東部地域』は、「知っている」（19.4%）が全体と比較して高くなっている。

また、『西部地域』は、「聞いたことがあるが、意味は知らない」（39.6%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-59 生物多様性への理解 性別、年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域圏別 】



第3章 静岡県の魅力に対する意識

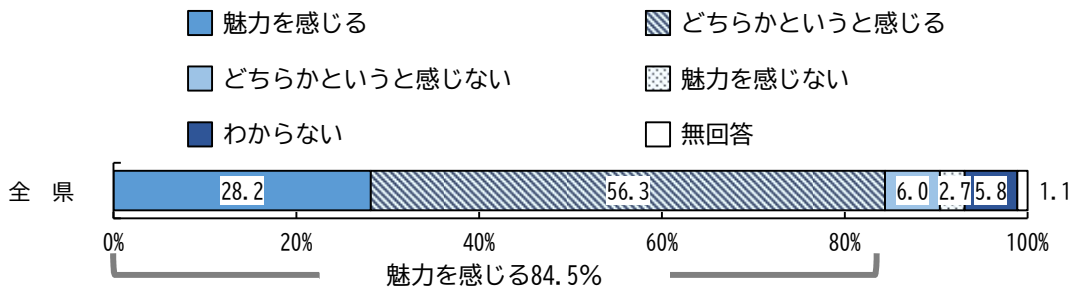
1 静岡県の魅力に対する意識

— 静岡県に魅力を“感じている”人は84.5%

魅力を感じている理由は「気候が温暖である」が86.2% —

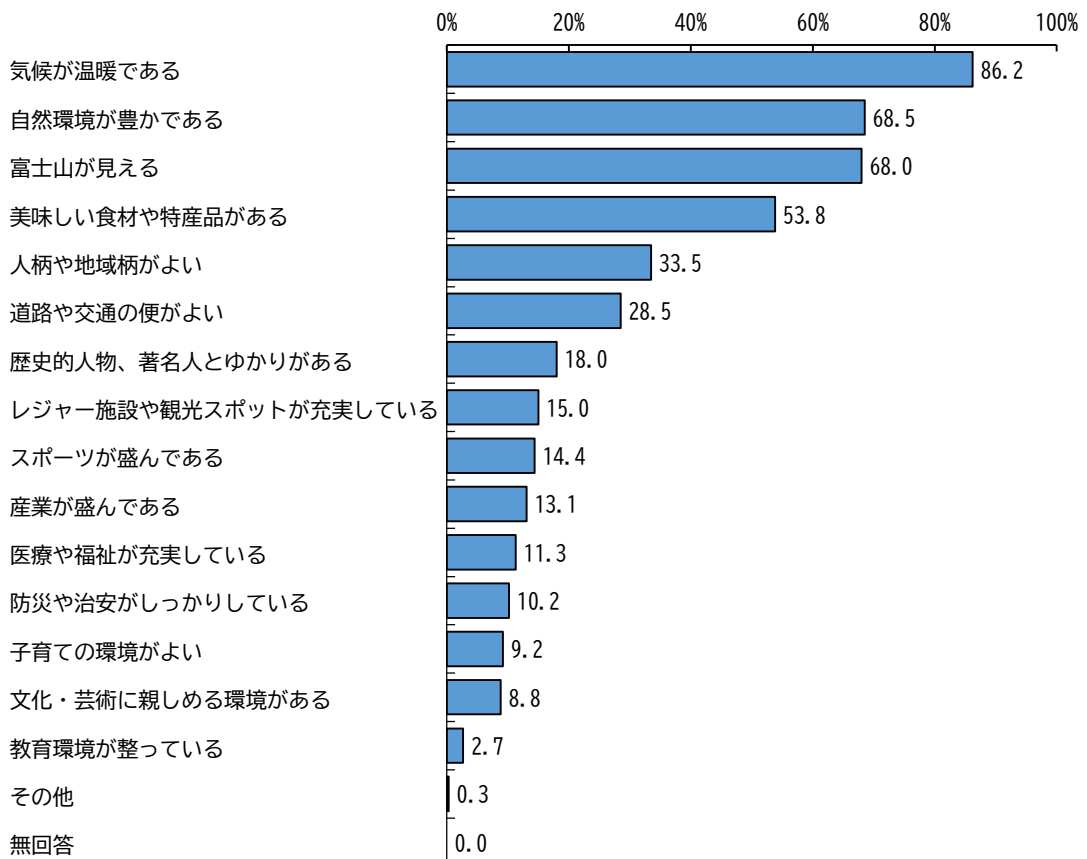
Q21 あなたは、静岡県に魅力を感じますか。(○は1つ)

【 静岡県の魅力の有無 】



SQ 静岡県のどのようなところに魅力を感じていますか。(○はいくつでも)

【 静岡県で魅力を感じるもの 】



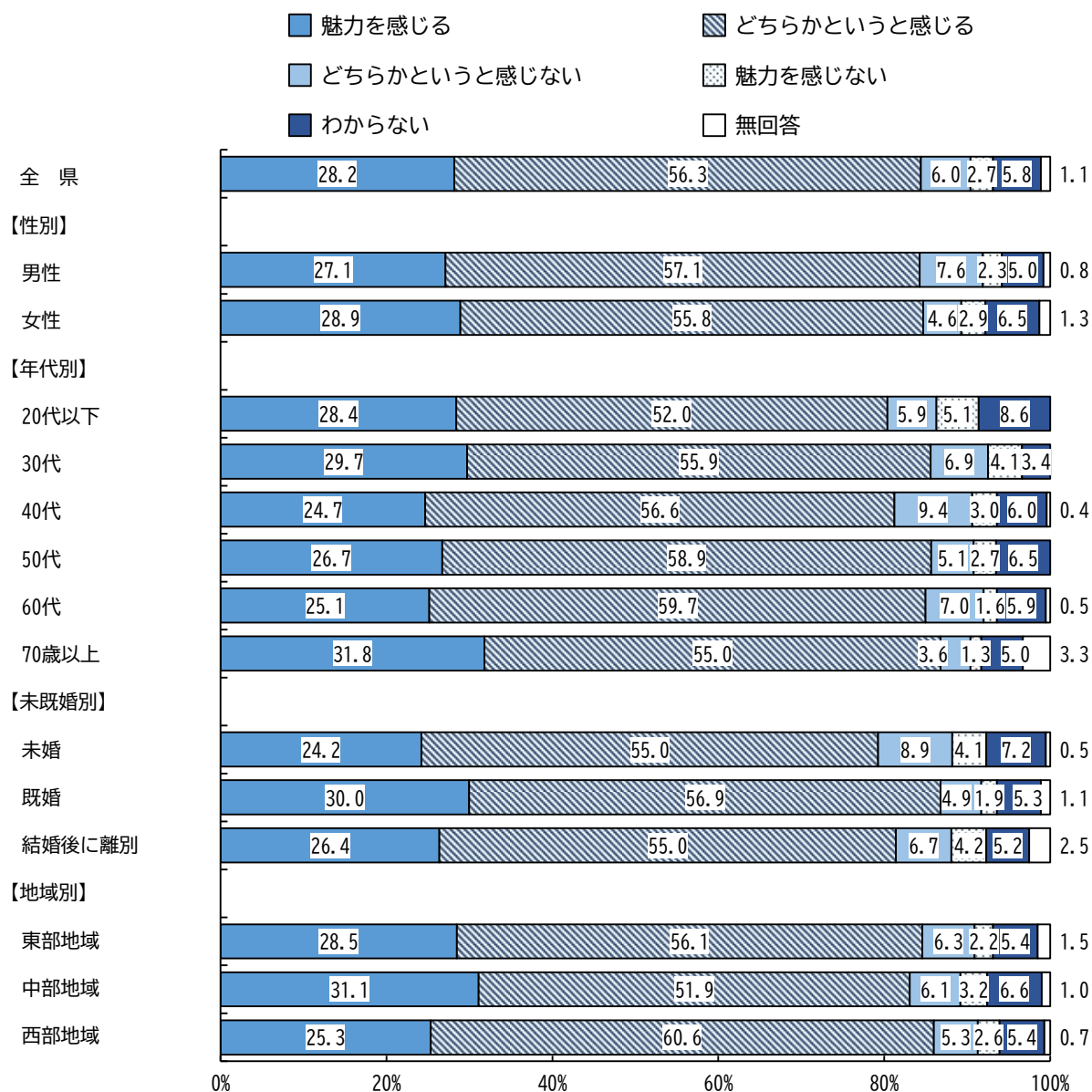
(1) 静岡県の魅力の有無

静岡県の魅力の有無については、「どちらかというと感じる」(56.3%)が最も多く、以下「魅力を感じる」(28.2%)、「どちらかというと感じない」(6.0%)、「わからない」(5.8%)、「魅力を感じない」(2.7%)となっている。「魅力を感じる」(28.2%)と「どちらかというと感じる」(56.3%)を合わせた84.5%が静岡県に魅力を“感じている”と回答し、「どちらかというと感じない」(6.0%)と「魅力を感じない」(2.7%)を合わせた8.7%が静岡県に魅力を“感じない”と回答している。

【属性による比較】(図3-1)

性別、年代別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。

【 図3-1 静岡県の魅力の有無 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



(2) 静岡県で魅力を感じるもの

静岡県で魅力を感じるものについては、「気候が温暖である」(86.2%)が最も多く、以下「自然環境が豊かである」(68.5%)、「富士山が見える」(68.0%)、「美味しい食材や特産品がある」(53.8%)、「人柄や地域柄がよい」(33.5%)となっている。

【属性による比較】(図3-2)

性別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』は、「文化・芸術に親しめる環境がある」(13.9%)が全体と比較して高くなっている。

また、『40代』は、「子育ての環境がよい」(15.7%)が全体と比較して高くなっている。

また、『50代』は、「富士山が見える」(74.0%)、「歴史的人物、著名人とゆかりがある」(24.4%)が全体と比較して高くなっている。

また、『60代』は、「気候が温暖である」(91.4%)が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「気候が温暖である」(92.1%)、「医療や福祉が充実している」(18.8%)が全体と比較して高くなっている。

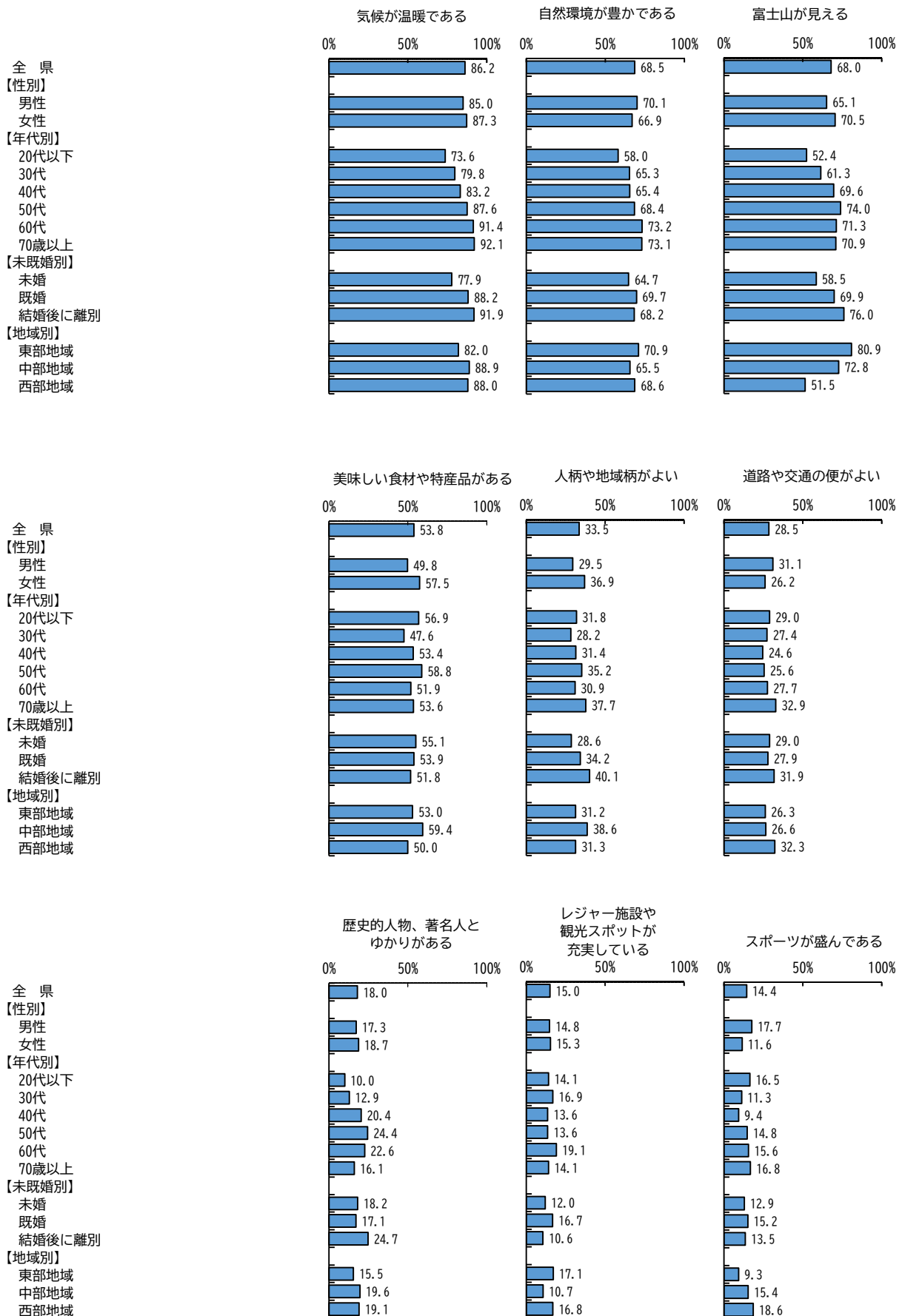
未婚別でみると、『結婚後に離別』は、「気候が温暖である」(91.9%)、「富士山が見える」(76.0%)、「人柄や地域柄がよい」(40.1%)、「歴史的人物、著名人とゆかりがある」(24.7%)が全体と比較して高くなっている。

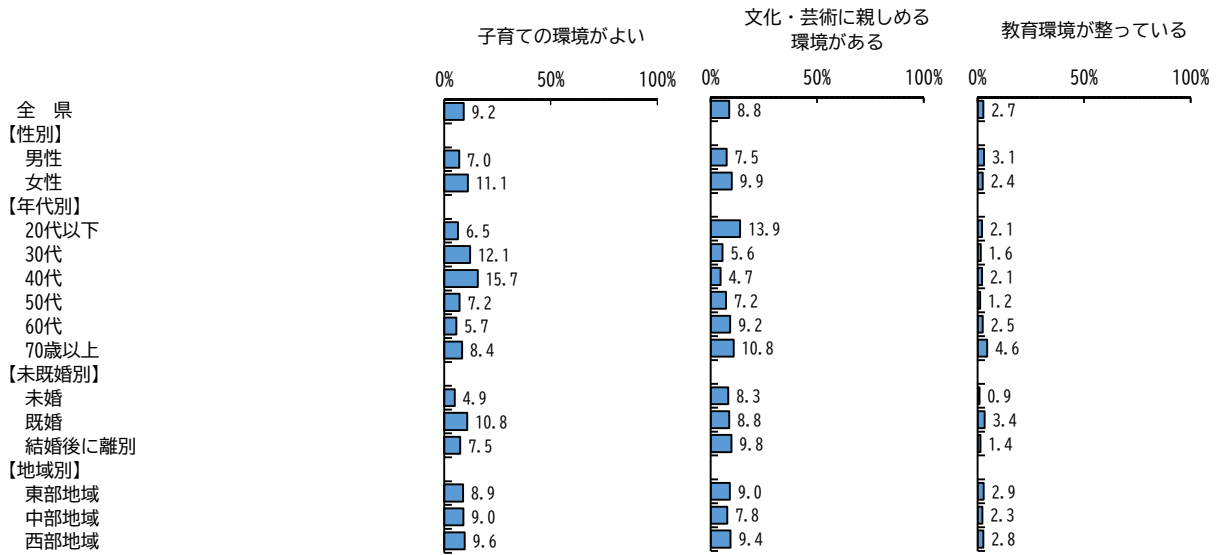
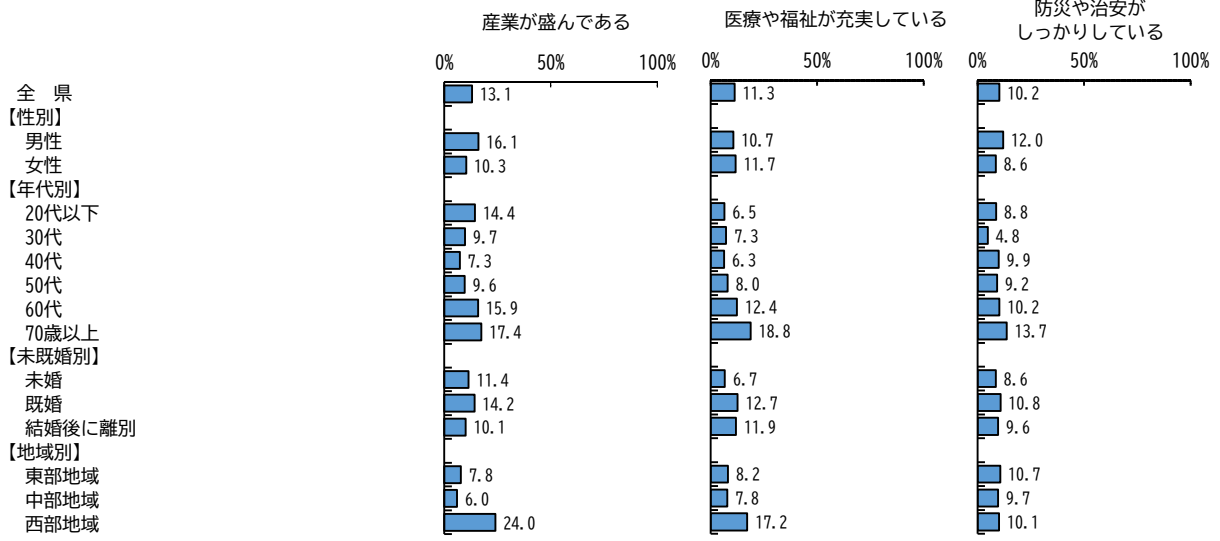
地域別でみると、『東部地域』は、「富士山が見える」(80.9%)が全体と比較して高くなっている。

また、『中部地域』は、「人柄や地域柄がよい」(38.6%)、「美味しい食材や特産品がある」(59.4%)が全体と比較して高くなっている。

また、『西部地域』は、「医療や福祉が充実している」(17.2%)、「産業が盛んである」(24.0%)が全体と比較して高くなっている。

【 図3-2 静岡県で魅力を感じるもの 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



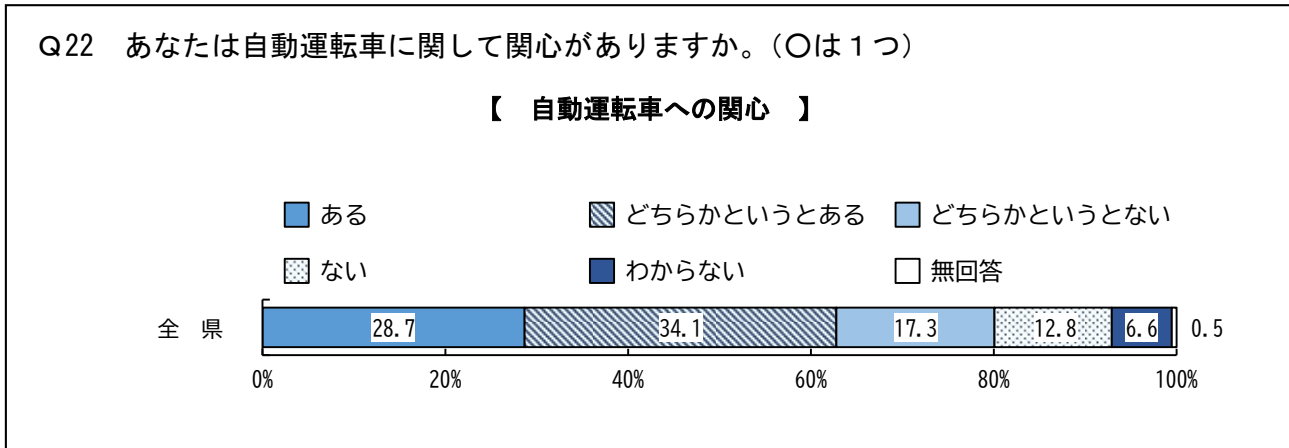


第4章 自動運転に関する意識

1 自動運転に関する意識

(1) 自動運転車への関心

—— 自動運転車への関心が「ある」人は62.8% 「ない」人は30.1% ——



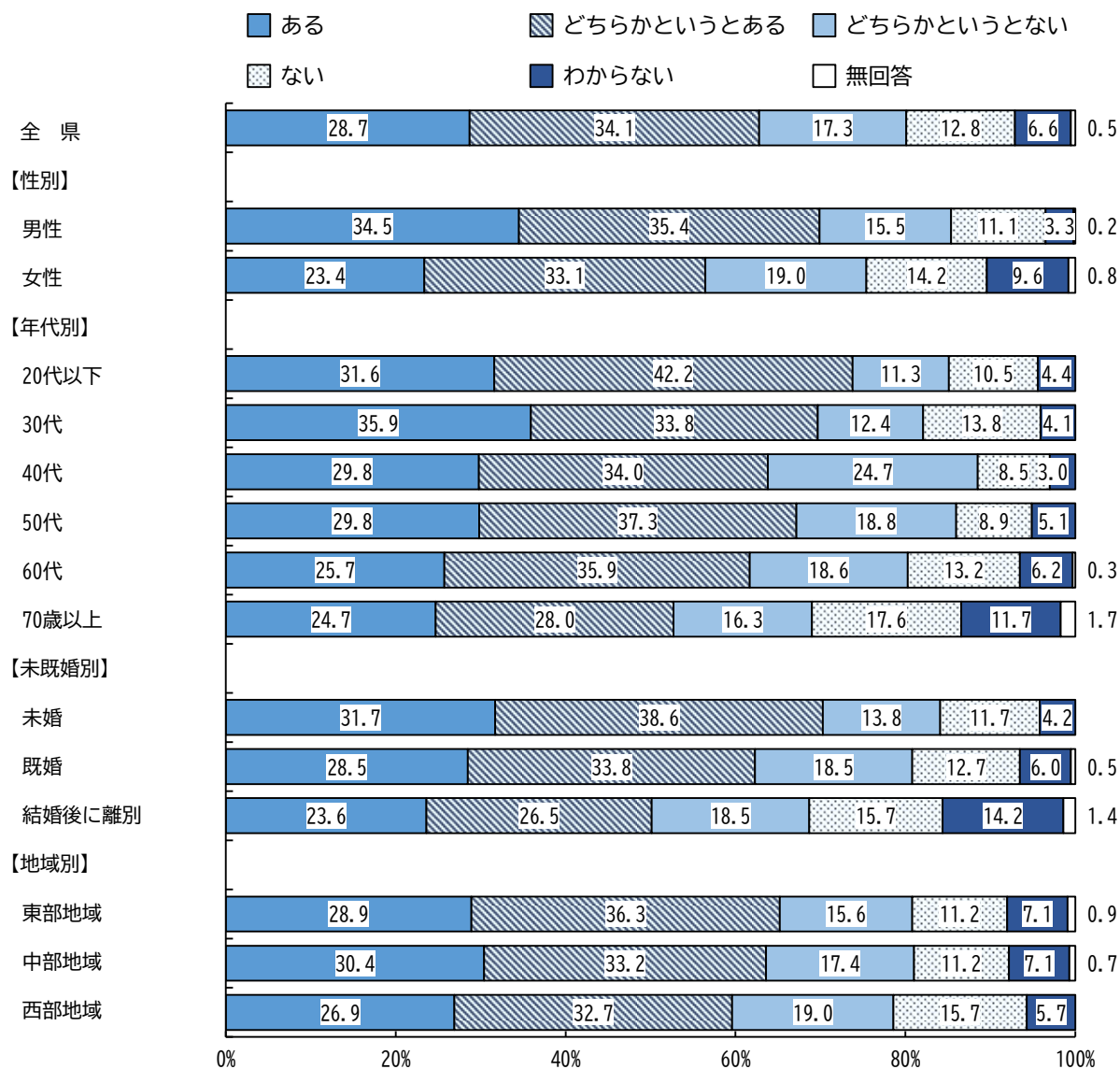
自動運転車への関心については、「どちらかというところ」(34.1%)が最も多く、以下「ある」(28.7%)、「どちらかというところない」(17.3%)、「ない」(12.8%)、「わからない」(6.6%)となっている。

「ある」(28.7%)と「どちらかというところ」(34.1%)を合わせた62.8%が、自動運転車への関心が“ある”と回答し、「どちらかというところない」(17.3%)と「ない」(12.8%)を合わせた30.1%は、自動運転車への関心が“ない”と回答している。

【属性による比較】（図4-1）

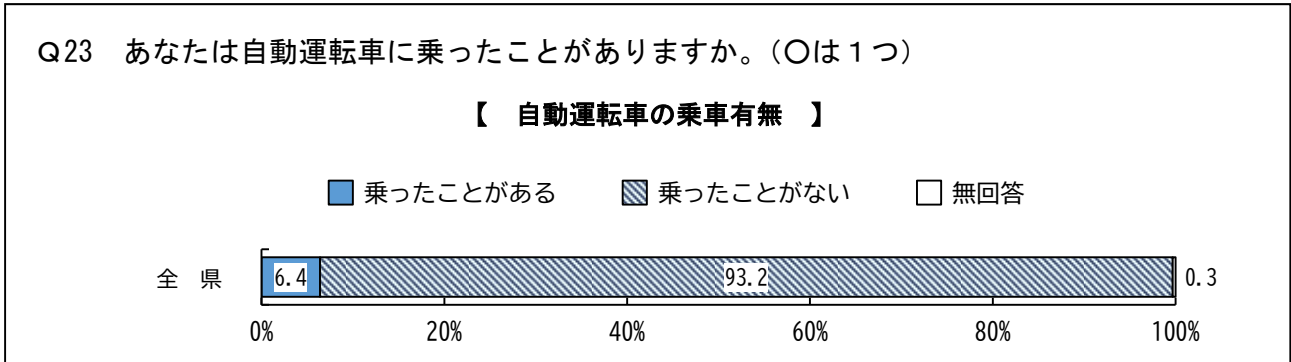
性別でみると、『男性』は、“ある”（69.9%）が全体と比較して高くなっている。
 年代別でみると、『20代以下』、『30代』は、“ある”が全体と比較して高くなっている。
 未既婚別でみると、『未婚』は、“ある”（70.3%）が全体と比較して高くなっている。
 地域別では、大きな差はみられない。

【 図4-1 自動運転車への関心 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



(2) 自動運転車の乗車有無

— 自動運転車に「乗ったことがある」人は6.4% 「乗ったことがない」人は93.2% —



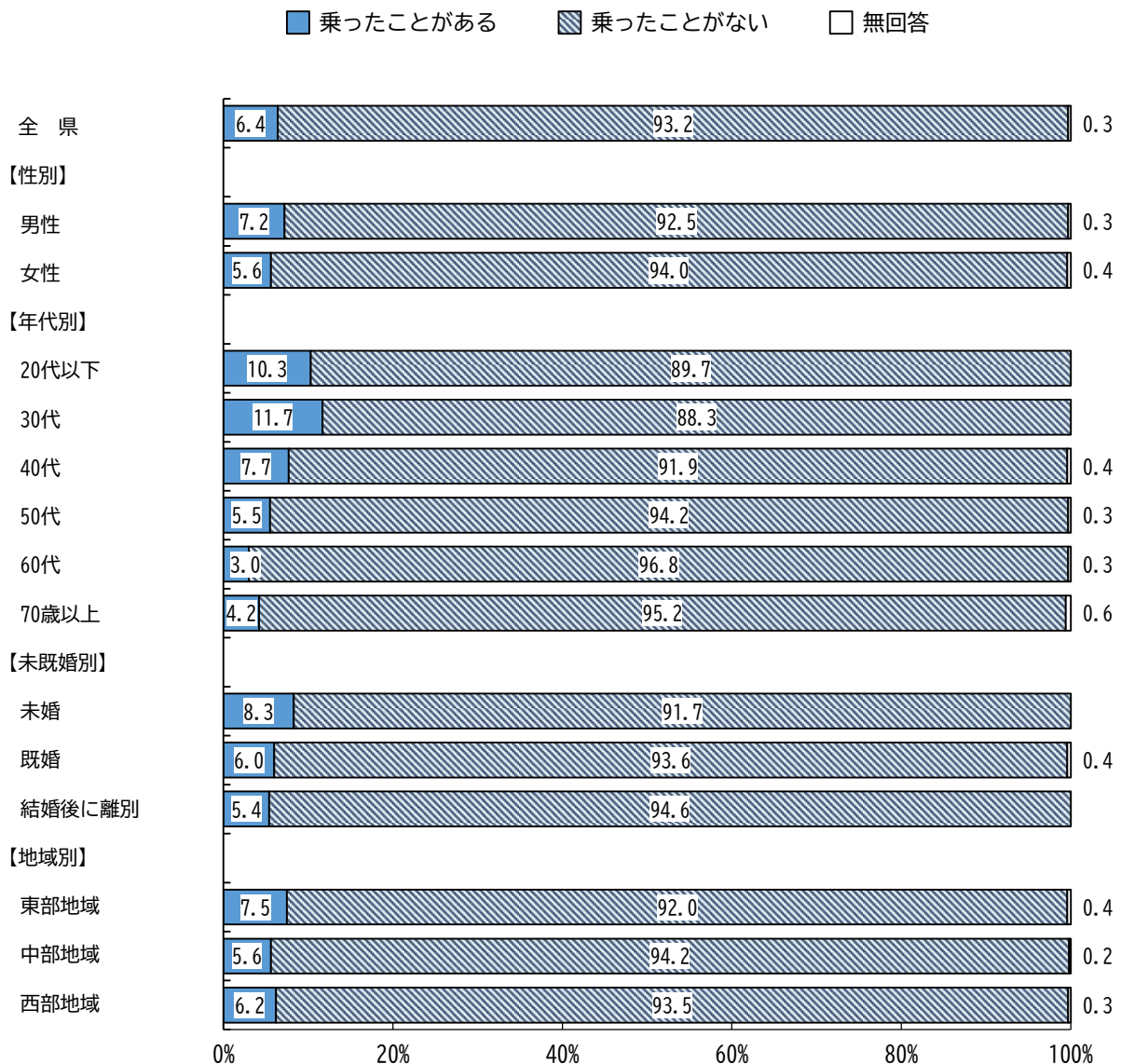
自動運転車の乗車有無については、「乗ったことがある」が6.4%、「乗ったことがない」が93.2%となっている。

【属性による比較】(図4-2)

性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。

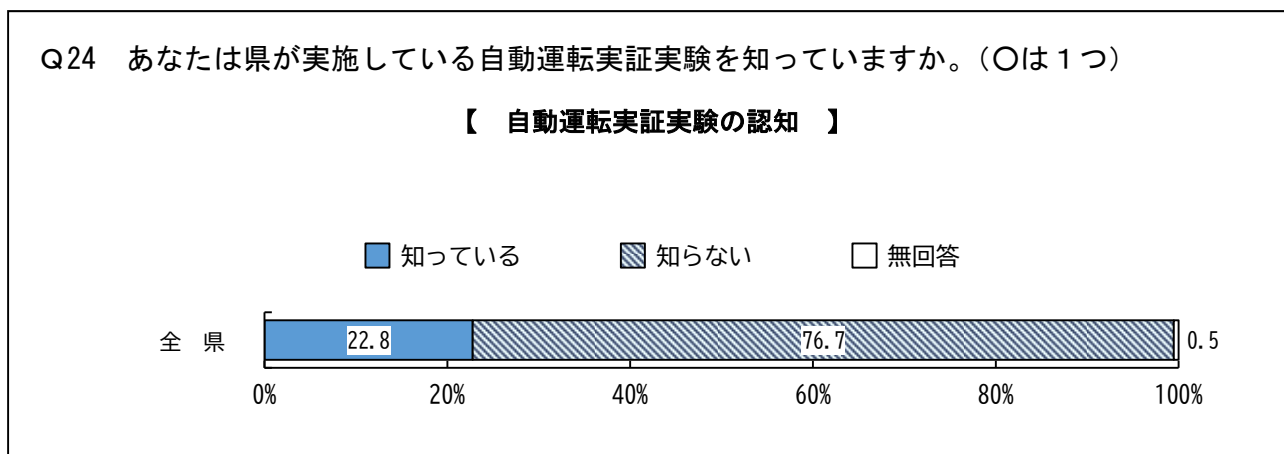
年代別でみると、『30代』は、「乗ったことがある」(11.7%)が全体と比較して高くなっている。

【 図4-2 自動運転車の乗車有無 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



(3) 自動運転実証実験の認知

—— 自動運転実証実験を「知っている」人は22.8% 「知らない」人は76.7% ——



自動運転実証実験の認知については、「知っている」(22.8%)、「知らない」(76.7%)となっている。

【属性による比較】（図4-3）

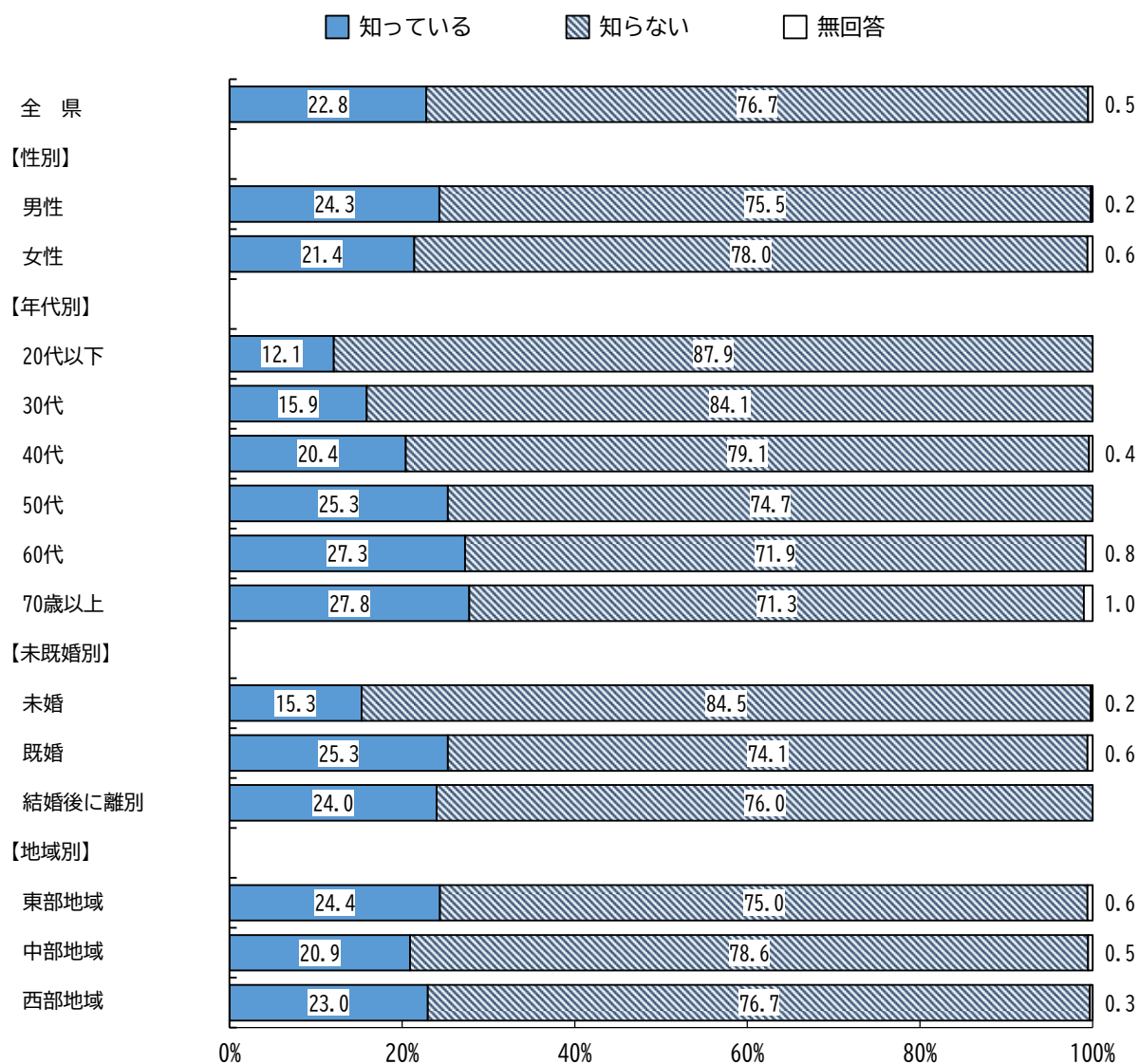
性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『70歳以上』は、「知っている」（27.8%）が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』、『30代』は、「知らない」が全体と比較して高くなっている。

未既婚別でみると、『未婚』は、「知らない」（84.5%）が全体と比較して高くなっている。

【 図4-3 自動運転実証実験の認知 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



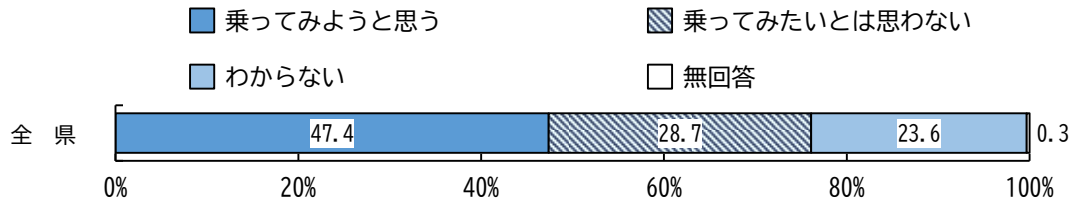
(4) 自動運転車の乗車意向

—— 自動運転車が走ったら「乗ってみようと思う」人は47.4%

「乗ってみたいと思わない」人は28.7% ——

Q25 あなたの住んでいる地区で自動運転車が走ったら乗ってみたいと思いますか。
(○は1つ)

【 自動運転車の乗車意向 】



自動運転車の乗車意向については、「乗ってみようと思う」(47.4%)、「乗ってみたいと思わない」(28.7%)、「わからない」(23.6%) となっている。

【属性による比較】（図4-4）

性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』、『40代』は、「乗ってみようと思う」が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「乗ってみたいとは思わない」（37.7%）が全体と比較して高くなっている。

【 図4-4 自動運転車の乗車意向 性別、年代別、未既婚別、地域別 】

